学芸学部

履修要項

学芸学部
Faculty of Liberal Arts

音楽学科
Department of Music

メディア創造学科 / 情報メディア学科
Department of Media / *Department of Information and Media*

国際教養学科
Department of International Studies

音楽専攻科
Postgraduate Certificate Program in Music

同志社女子大学
Doshisha Women's College of Liberal Arts

2021

学芸学部履修要項

2021年度

情報メディア学科は，2018年 4 月より学科名称を「メディア創造学科」に変更しました。新学科名称は2018年度入学生から適用され，2017年度以前入学生については情報メディア学科から変更ありません。
本冊子においては，原則，新学科名称で記載しますが，入学年度により記載内容が異なる場合はそれぞれの学科名称で記載します。

同志社女子大学

主　要　目　次

修学上の基本事項

カリキュラム（音楽学科2021～）

カリキュラム（音楽学科2016～2020）

カリキュラム（メディア創造学科2018～）

カリキュラム（情報メディア学科2009～2017）

カリキュラム（国際教養学科2021～）

カリキュラム（国際教養学科2017～2020）

カリキュラム（国際教養学科2014～2016）

他学科科目一覧表

カリキュラム（音楽専攻科）

研究教育活動

諸規程

その他

目次

学年暦……7
専任教員名簿……8

授業

学期……12
授業時間……12
組……12
教室……12
学科略号……12
授業科目の種別……13
授業計画（シラバス）……13
年次配当……14
科目の属性表示……14
単位と学習時間……14
他キャンパス開講授業……14
校外授業……14
ゼミ合宿……14
休講……14
補講……14
欠席……15
教科書……15
学内の周知方法……15
授業支援システム……15
FLT ナンバー……16
ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー……17
カリキュラム・マップ……17
授業に関するアンケート……17

学籍

修業年限……19
学位……19
学籍番号……19
学生証……20
休学……20
留学……20
復学……20
退学……21
再入学……21
除籍……21
転学部・転学科・転専攻……22
卒業査定……22

単位認定

1．本学の授業科目の単位……23
2．入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定……23
3．本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定……23
　a．同志社大学との単位互換協定に基づく認定……23
　b．金城学院大学との単位互換協定に基づく認定……23
　c．奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定……23
　d．大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定……23
　e．放送大学との単位互換協定に基づく認定……23
　f．文部科学大臣が定める学修等による単位認定……24
　g．海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定……26
4．本学入学前に本学で修得した単位について……26

履修登録［登録制度・登録ルール］

登録単位数の上限……27
履修可能科目・履修年次……27
クラス指定……27
予備登録……27
セット登録……27
他キャンパス科目……28
複数クラス登録……28
再登録……28
二重登録……28
他大学単位互換科目……28
登録の許可・不許可……28
登録修正期間終了後の登録取消……28
卒業年次生の履修登録について……28

試験・レポート

平常試験……29
定期試験……29

追試験…… 30
レポート…… 30
レジュメの印刷…… 30

成績

成績…… 31
GPA 制度について …… 31
証明書…… 33

カリキュラム

同志社女子大学 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針），
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）… 36
同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい
10の力…… 47
学芸学部　音楽学科（2021～）…… 49
学芸学部　音楽学科（2016～2020）…… 77
学芸学部　メディア創造学科（2018～）……105
学芸学部　情報メディア学科（2009～2017）……117
学芸学部　国際教養学科（2021～）……129
学芸学部　国際教養学科（2017～2020）……139
学芸学部　国際教養学科（2014～2016）……149
他学科科目一覧表……159
音楽専攻科……171

研究教育活動

教職課程センター……178
学会……178

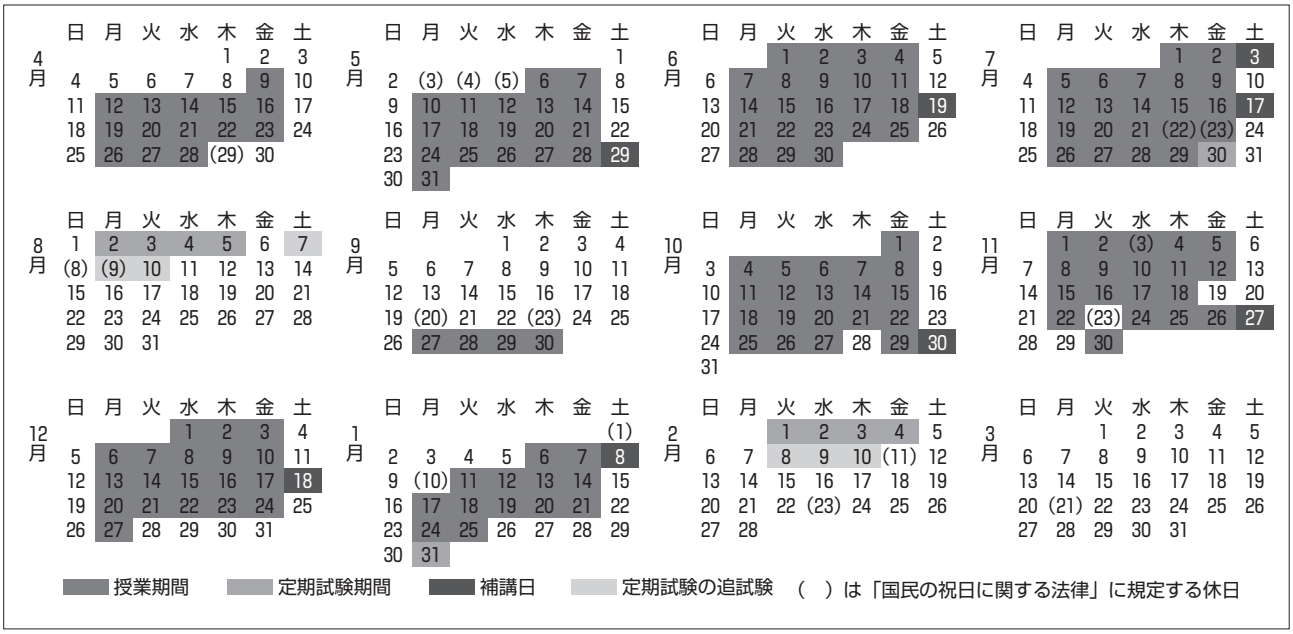
諸規程

同志社女子大学学則……180
同志社女子大学学位規則……191

その他

同志社女子大学組織……196
事務室一覧……197
キャンパスマップ……198
交通機関不通･気象警報等発令による全学一斉休講について
……200

2021年度 同志社女子大学学年暦



授業日程関係

春学期

2021年

4月2日㈮	入学式
4月3日㈯～8日㈭	新入生オリエンテーション期間
4月9日㈮	春学期授業開始
4月19日㈪～23日㈮	春の宗教教育強調週間（I･II講時のみ短縮授業）
4月30日㈮	休日
5月29日㈯	補講日
6月19日㈯	補講日
7月3日㈯,17日㈯	補講日
7月22日㈭,23日㈮休日	授業日
7月29日㈭	春学期授業最終日
7月31日㈯	定期試験予備日
7月30日㈮～8月5日㈭	春学期定期試験期間
8月7日㈯,9日㈪休日,10日㈫	追試験
9月25日㈯	春学期卒業式･学位授与式

秋学期

9月27日㈪	秋学期授業開始
10月4日㈪～8日㈮	秋の宗教教育強調週間（I･II講時のみ短縮授業）
10月28日㈭	スポーツフェスティバル（全日休講）
10月30日㈯	補講日
11月3日㈬休日	授業日
11月19日㈮～21日㈰	創立記念週間（全日休講）
11月27日㈯	補講日
11月29日㈪	創立記念日（全日休講）
12月7日㈫	クリスマス礼拝（今出川キャンパスのみII講時のみ休講）
12月9日㈭	クリスマス礼拝（京田辺キャンパスのみII講時のみ休講）
12月18日㈯	補講日
12月28日㈫	冬期休暇開始

2022年

1月6日㈭	授業再開
1月8日㈯	補講日
1月22日㈯	定期試験予備日
1月25日㈫	秋学期授業最終日
1月31日㈪～2月4日㈮	秋学期定期試験期間
2月5日㈯	定期試験予備日
2月8日㈫-10日㈭	追試験
3月18日㈮	卒業式･修了式･学位授与式

行事日程関係

春学期

2021年

4月6日㈫	定期健康診断（今出川キャンパス）
4月7日㈬～8日㈭	定期健康診断（京田辺キャンパス）
4月23日㈮	春学期学生納付金納入最終日
5月22日㈯～23日㈰	春季リトリート
6月中旬	医療薬学科　薬学研究発表会
7月中旬	英語英文学科　ポスターセッション
7月18日㈰	音楽学科　オーケストラコンサート
9月上旬	会津若松･安中･函館ツアー

秋学期

10月23日㈯～24日㈰	秋季リトリート
10月25日㈪	秋学期学生納付金納入最終日
11月5日㈮、6日㈯	シェイクスピア･プロダクション
11月19日㈮	創立記念礼拝
12月5日㈰	薬学共用試験（OSCE）
12月15日㈬	音楽学科　定期演奏会
12月22日㈬	食物栄養科学科　卒業論文発表会
12月下旬	医療薬学科　白衣授与式

2022年

1月9日㈰	薬学共用試験（CBT）
1月上旬	英語英文学科　卒業研究発表会
1月中旬	国際教養学科　卒業研究発表会
1月23日㈰	創立者永眠記念日
2月7日㈪	メディア創造学科　卒業演習･制作発表会 社会システム学科 卒業研究発表会 現代こども学科 卒業研究発表会 人間生活学科　卒業論文発表会
2月8日㈫	日本語日本文学科　卒業論文発表会
2月19日㈯	音楽学科　オペラ公演
3月10日㈭	音楽学科　卒業演奏会 音楽専攻科　修了演奏会
3月17日㈭	卒業礼拝

同志社女子大学　専任教員　名簿

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
学芸学部			
音楽学科			
教授	井原　秀人	K405	8518
教授	井上　敏典	K407	8517
教授	河江　優	K406	8713
教授	松下　悦子	K408	8705
教授	中野　慶理	K403	8706
教授	成田　和子	K347	8524
教授	椎名　亮輔	K349	8515
教授	牛渡　克之	K402	8527
教授	山本　裕樹	K404	8511
准教授	北脇　歩	K353	8526
准教授	筒井　はる香	K352	8704
特任教授	葛西　聖憲	K303	8514
メディア創造学科			
教授	影山　貴彦	C250	8668
教授	川田　隆雄	C248	8682
教授	森　公一	C244	8686
教授	関口　英里	C247	8662
教授	和氣　早苗	C241	8683
教授	余田　義彦	C245	8684
准教授	村木　美紀	C255	8732
准教授	髙木　毬子	C251	8698
助教（有期）	梅田　拓也	C253	8558
特任教授	有賀　妙子	C252	8674
特任教授	三根　浩	C246	8667
特任教授	中村　信博	C249	8569
国際教養学科			
教授	潟山　健一	T507	8551
教授	飯田　毅	T602	8578
教授	佐伯　林規江	T508	8718
准教授	M. L. Correa	T604	8567
准教授	A. C. Elliott	T504	8605
助教（有期）	I. Fassbender	T606	8606
助教（有期）	沖　キャサリン	T610	8603
教授（特別契約教員）	J. Cross	T612	8731
助教（特別契約教員）	F. H. Graham Ⅲ	T608	8725
助教（特別契約教員）	E. A. Williams	T614	8617

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
現代社会学部			
社会システム学科			
教授	天野　太郎	C354	8580
教授	福岡　久美子	C352	8624
教授	加藤　敦	C344	8767
教授	記虎　優子	C303	8572
教授	倉持　史朗	C347	8573
教授	日下　菜穂子	C353	8659
教授	長岡　延孝	C356	8769
教授	大倉　真人	C301	8562
教授	大西　秀之	T502	8598
教授	大津　正和	C345	8566
教授	朱　捷	C305	8661
教授	谷　直之	C346	8773
教授	山田　邦和	C359	8717
准教授	L. Rogers	T506	8560
准教授	鳥潟　優子	C349	8553
准教授	山下　智子	C357	8574
助教（有期）	張　瑋容	C348	8765
助教（有期）	福本　俊樹	C307	8660
助教（有期）	金子　雄太	C341	8766
助教（有期）	K. Mattison	T503	8719
助教（有期）	竹治　ふみ香	C350	8647
准教授（特別契約教員）	王　秀梅	C304	8570
特任教授	服部　尚己	C343	8556
特任教授	加賀　裕郎	C351	8665
特任教授	三宅　えり子	C355	8681
現代こども学科			
教授	笠間　浩幸	C452	8708
教授	松崎　正治	C441	8557
教授	竹井　史	C445	8613
教授	塘　利枝子	C449	8710
教授	梅垣　明美	C453	8657
准教授	真宮　美奈子	C451	8664
准教授	吉永　紀子	C457	8568
助教（有期）	小宅　理沙	C455	8774
助教（有期）	山田　寛邦	C456	8729
特任教授	藤原　孝章	C459	8596
特任教授	今井　敏博	C443	8707
特任教授	中山　まき子	C447	8709

建物名　C: 知徳館　K: 頌啓館　T: 聡恵館

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
薬学部			
医療薬学科			
教授	藤井　健志	W602	8672
教授	川崎　清史	W402	8588
教授	桑原　淳	W501	8648
教授	前川　京子	W504	8653
教授	松野　浩之	W610c	8620
教授	尾﨑　惠一	W406	8611
教授	芝田　信人	W204	8497
教授	白井　隆一	W302	8510
教授	杉浦　伸一	H108	8627
教授	内田　まやこ	H105	8593
教授	和田　戈虹	W404	8612
教授	吉川　清次	W604	8579
准教授	喜里山　暁子	W206	8505
准教授	松元　加奈	C426a	8623
准教授	中村　憲夫	W304	8545
准教授	成橋　和正	H112	8495
准教授	根木　滋	W502	8650
准教授	山本　康友	W507	8658
准教授	山内　雄二	W508	8547
特任教授	木津　良一	W306	8536
特任教授	小谷　晶子	W611	8793
特任教授	森田　邦彦	W202	8494
特任教授	関本　裕美	H109	8768
特任教授	髙橋　玲	W608	8687
特任教授	漆谷　徹郎	W606	8689
《特別任用助教（有期）》			
	羽森　真美	W205	8618
	菅野　陽介	W407	8629
	木村　峻輔	W207	8506
	間下　雅士	W603	8619
	松岡　純平	W506	8663
	宮脇　あかり	W506	8654
	水川　裕美子	W607	8693
	西村　亜佐子	W205	8498
	眞田　法子	W307	8538
	髙鳥　悠記	W407	8675
	山下　直哉	W307	8537
	山下　修吾	W207	8559
	安川　淳一朗	W405	8616
	八塚　研治	W303	8513
《特別任用助手》			
	浅沼　舞	W305	8534
	井上　沙奈	W605	8688
	馬渕　賢幸	W203	8496
	西原　冴佳	W403	8590
	野村　篤生	W603	8716
	髙橋　知里	W505	8655

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
看護学部			
看護学科			
教授	小松　光代	H504	8850
教授	眞鍋　えみ子	H511	8563
教授	南　妙子	H515	8591
教授	三橋　美和	H507	8853
教授	光木　幸子	H519	8840
教授	當目　雅代	H520	8841
准教授	萩本　明子	H524	8845
准教授	橋本　秀実	H506	8852
准教授	葉山　有香	H517	8838
准教授	和泉　美枝	H510	8856
准教授	片山　由加里	H516	8837
准教授	木村　静	H525	8836
准教授	木村　洋子	H522	8843
准教授	宮川　幸代	H509	8857
准教授	小笠　美春	H518	8839
准教授	杉原　百合子	H503	8849
准教授	山縣　恵美	H502	8848
専任講師	川崎　友絵	H523	8844
特任教授	長谷川　昇	H512	8855
特任教授	細井　創	H521	8670
特任教授	木村　みさか	H513	8711
特任教授	桝本　妙子	H508	8854
特任教授	岡山　寧子	H505	8564
《実習助教（有期）》			
	天野　功士	H407	8828
	原口　梨那	H407	8828
	神原　祐美	H407	8828
	假谷　ゆかり	H407	8828
	森島　千都子	H407	8828
	村田　尚子	H407	8828
	小川　京子	H407	8828
	鈴木　佑典	H407	8828
《実習助手（有期）》			
	二木　未侑	H407	8828

建物名　C: 知徳館　W: 憩水館　H: 蒼苑館

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
表象文化学部			
英語英文学科			
教授	秦　由美子	D316	4213
教授	今井　由美子	D308	4197
教授	鈴木　健司	D302	4189
教授	若本　夏美	D311	4205
准教授	T. L. Medlock	D306	4242
准教授	﨑　ミチ・アン	D305	4180
准教授	辻　英子	D301	4163
助教（有期）	D. Clayton	D307	4189
助教（有期）	福島　祥一郎	D303	4930
准教授（特別契約教員）	J. C. Grote	D312	4229
特任教授	風間　末起子	D317	4269
特任教授	小山　薫	D315	4246
特任教授	松村　延昭	D313	4239
日本語日本文学科			
教授	森山　由紀子	D206	4298
教授	中井　精一	D204	4233
教授	生井　知子	D217	4937
教授	大島　中正	D205	4934
准教授	宮腰　直人	D215	4933
准教授	宮本　明子	D208	4932
准教授	大津　直子	D207	4172
准教授	高橋　幸平	D213	4283
准教授	山本　由紀子	D210	4936
特任教授	丸山　敬介	D202	4279
特任教授	吉海　直人	D209	4293

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
生活科学部			
人間生活学科			
教授	平光　睦子	R332	4282
教授	小﨑　眞	R333	4223
教授	奥田　紫乃	R331	4254
准教授	麻生　美希	R335	4273
准教授	藤本　純子	R338	4232
准教授	齋藤　朱未	R336	4244
准教授	塚田　由佳里	R334	4221
特任教授	宮本　義信	R337	4220
特任教授	諸井　克英	R339	4234
食物栄養科学科			
教授	今井　具子	U114b	4266
教授	片井　加奈子	U216a	4235
教授	川﨑　祐子	U312b	4231
教授	神田　知子	U115b	4258
教授	小切間　美保	U115a	4227
教授	真部　真里子	U314b	4226
教授	村上　恵	U116b	4217
教授	杉浦　実	U316b	4228
教授	田中　雅彰	U215a	4271
教授	山本　寿	U315b	4215
准教授	倉橋　優子	U311b	4173
准教授	森　紀之	U213b	4287
准教授	鈴木　拓史	U212b	4164
准教授	米田　祐子	U216b	4256
特任教授	小松　龍史	U215b	4236
特任教授	西村　公雄	U211b	4214
特任教授	吉田　香	U313b	4224

職名	氏名	研究室	研究室 TEL
教務部			
教職課程センター			
特任教授	大黒　孝文	C448	8429
特任教授	水本　徳明	C446	8419
特任教授	中川　美保子	C444	8626
特任教授	佐藤　光友	C454	8594

建物名　D: デントン館　R: 楽真館　U: 新心館　C: 知徳館

修学上の基本事項

授業

学籍

単位認定

履修登録

試験・レポート

成績

授　業

学　期

授業は学年暦に従って実施されます。

授業時間

授業は次の表の講時に従って行われます。春と秋の宗教教育強調週間（学年暦参照）のときはⅠ，Ⅱ講時が短縮授業となります。

講　時	平　常　授　業	短　縮　授　業
Ⅰ	9：00〜10：30	9：00〜10：25
礼拝	10：35〜10：55	10：30〜11：00
Ⅱ	11：00〜12：30	11：05〜12：30
Ⅲ	13：15〜14：45	平常授業と同じ
Ⅳ	15：00〜16：30	〃
Ⅴ	16：45〜18：15	〃

１回あたりの授業時間は90分を基本としています。各科目の授業時間は45分を１時間として計算しますので，週１回90分行われる授業科目の週当たりの時間数は２時間となります。カリキュラム表などで，期間・時間が「春２」と表示されている科目は，春学期に毎週，週２時間（90分）の授業が行われる科目であることを示します。

注１）便宜上，１講時（90分間）を１コマと呼ぶことがあります。

注２）特別な場合を除いて，土曜日には正規科目は開講していません。

＊授業開始のチャイムはDOSHISHA COLLEGE SONG，授業終了のチャイムは同志社女子大学大学歌です。

組

各学科は，20〜50人程度の組に分けられています。この組は必修科目履修時の基本単位となります。各自の組は「組分け表」で確認してください。３，４年次では，組は実質的な意味を持たなくなります。また，音楽学科には組はありません。

教　室

授業が実施される教室，実験室等は，略号で表示されます。

（例：C131，S013）アルファベットが校舎名，３桁の数字が教室番号を示します。

京田辺キャンパス

A……恵　愛　館　　**C**……知　徳　館　　**G**……恵　真　館
H……蒼　苑　館　　**K**……頌　啓　館　　**M**……新島記念講堂
T……聡　恵　館　　**V**……オリーブ館　　**W**……憩　水　館
Y……友　和　館

今出川キャンパス

B……頌　美　館　　**D**……デントン館　　**E**……栄　光　館
J……ジェームズ館　　**N**……心　和　館　　**R**……楽　真　館
S……純　正　館　　**U**……新　心　館

※遠隔授業として実施される場合は，**OL** と表示されます。

学科略号

掲示その他で学科略号・略称が使用されることがあります。

学　部	学 科 等	略号	略称	学　部	学 科 等	略号	略称
学 芸 学 部	音楽学科演奏専攻	OE	音演	薬　学　部	医療薬学科	Y	薬学
	音楽学科音楽文化専攻	OB	音文	看 護 学 部	看護学科	KG	看護
	メディア創造学科	MS	メディア	表象文化学部	英語英文学科	E	英文
	情報メディア学科	J	情報		日本語日本文学科	N	日学
	国際教養学科	K	国際	生 活 科 学 部	人間生活学科	L	生活
現代社会学部	社会システム学科	GS	社会		食物栄養科学科食物科学専攻	S	食物
	現代こども学科	GK	子供		食物栄養科学科管理栄養士専攻	SK	食管

授業科目の種別

本学の授業科目には，次のような種別があります。

1．履修方法によるもの

必 修 科 目……必ず単位を修得しなければならない科目。必修科目はクラス指定がされていて，履修しなければならない年次，曜日，講時等が指定されています。

選択必修科目……一定の科目群の中から自由に選択できるが，必ず指定された方法で選択して履修しなければならない科目。一定の科目群から一定の単位を修得する必要があります。

選 択 科 目……一定の科目群の中から自由に選択して履修する科目。

自由選択科目……卒業必要単位に含まれない科目。

2．授業実施時期によるもの

春学期科目……春学期に授業が行われる科目。

秋学期科目……秋学期に授業が行われる科目。

半 期 科 目……春学期又は秋学期に授業が行われる科目。

通 年 科 目……一年を通じて授業が行われる科目。

集 中 科 目……半期又は通年のいずれかの科目ではあるが，特別に一定の時期に集中して授業が行われる科目。実施時期は科目により異なります。
（過年度生で，９月卒業予定者は，９月に実施される集中科目を履修することはできません。）

3．授業実施形態によるもの

対面授業科目……キャンパス内の教室において対面形式で授業が行われる科目。

遠隔授業科目……オンラインにてオンデマンド（動画配信）型の授業が行われる科目。遠隔授業科目は，授業計画（シラバス）に明記されていますので，確認してください。

4．その他の種別

自学科科目……在籍する学科・専攻に設置されている科目。

他学科科目……他学部，他学科又は他専攻に設置されている科目の内，履修が可能な科目。

単位互換科目

a．同志社大学互換科目……履修可能な同志社大学科目。

b．金城学院大学互換科目……履修可能な金城学院大学科目。

c．奈良県立医科大学互換科目……履修可能な奈良県立医科大学科目。

d．大学コンソーシアム京都互換科目……大学コンソーシアム京都加盟各大学・短大から提供されている科目。大学コンソーシアム京都単位互換協定により，本学の学生はこれらの科目を履修することができます。

e．放送大学科目……履修可能な放送大学科目。

授業計画（シラバス）

「授業計画（シラバス）」は，本年度に開講される科目の次の項目について要点をまとめたものです。

授業テーマ／授業の概要／到達目標／授業方法／各回の授業内容及び準備学習等の内容とそれに必要な目安の時間／受講者へのメッセージやアドバイス／フィードバックの方法／成績評価方法・成績評価基準／教科書／参考文献等／獲得が期待される基礎的・汎用的能力（DWCLA 10）／教員との連絡方法／ FLTナンバー

原則として各科目につき担当教員ごとに掲載されていますが，外国語科目や体育実技科目，音楽実技科目等は，科目ごとの統一内容として掲載されている場合もあります。また，英語で表記された授業計画（シラバス）は原則，英語のみで授業が行われます。（その他，使用言語に関する特記事項がある場合は，「授業方法」の項目に記載されます。）

履修科目登録前に熟読する必要があることはいうまでもありませんが，授業開始以降も必要に応じて参照してください。「授業計画（シラバス）」は，Web教務システムから確認できます。

年次配当

すべての科目には，履修可能最低年次が定められています。例えば，履修可能最低年次が２年次とされている科目は，２年次にならなければ履修登録できませんが，２年次以降であれば，いつでも履修登録可能です。

科目の属性表示

科目名の最後につく英数字は，以下の内容を表します。英数字までが科目名称です。

・Ａ，Ｂ，Ｃ，……は種類の違いを表します。
・Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，……はグレードの別を表します。

単位と学習時間

１単位に必要な「授業内外での学習時間」は45時間と定められています。

更に，１単位に必要な「授業時間」は，原則として講義・演習科目では15時間，実験・実習・実技科目では30時間となっています。

そのため例えば，２単位の講義・演習科目については，授業30時間（１コマ２時間の授業を１学期15週）と授業外の事前準備・事後学習60時間が必要となります。また，２単位の実験・実習・実技科目については，授業60時間（２コマ４時間の授業を１学期15週）と授業外の事前準備・事後学習30時間で２単位となります。なお，薬学部の講義演習科目と管理栄養士課程の実験・実習科目は別基準となります。

他キャンパス開講授業

他キャンパスで開講されている授業科目を履修することができます。ただし，他キャンパス開講科目で履修できるのは，他学科科目のほかは，自学科の「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」区分の科目を，選択科目として履修する場合及び再履修する場合に限ります。クラス指定のある場合はできません。（「教職に関する科目」で他キャンパスで再履修することができる科目はカリキュラム表に表示。）

キャンパス間の移動は，片道約１時間30分程度を要しますので，各自の時間割を十分考慮に入れて，無理のない科目を履修してください。同一曜日に両キャンパスの授業科目を履修する場合は，最低１コマ（90分）相当の移動時間を取っておかないと，定期試験を受験できなくなる場合があります。キャンパス間の移動には，無料のシャトルバスが利用できます。利用方法，スケジュール等は本学ホームページにて確認してください。

また，遠隔授業として行われる科目についても同様です。ただし，遠隔授業でも定期試験は対面形式にて行われる場合があります。定期試験の実施形態を十分確認したうえで履修してください。

校外授業

科目によっては，ときどき授業中にキャンパス外の施設等を見学することがあります。これを校外授業と呼びます。校外授業については，その都度担当教員の指示に従ってください。交通費等が必要な場合は，個人負担となります。

ゼミ合宿

卒業研究・卒業論文・演習等のクラスでは，ゼミ合宿が行われることがあります。担当専任教員からの申請が認められたゼミ合宿には，宿泊費等の一部を補助する制度があります。学生のみの合宿や，いわゆるゼミ旅行は対象となりません。

休　　講

大学又は授業担当教員にやむを得ない事情が発生した場合は，授業が休講になることがあります。

①予め判明している休講は，事前にポータルサイト（Web教務システム）で発表します。また，大学が付与しているメールアドレス（以下，Microsoft365メール）へメール配信するとともに学内の電子掲示板（以下デジタルサイネージ）によって周知します。
②休講の発表がない場合で，授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員から教室に連絡がない場合は，教務課に連絡し，指示を受けてください。
③交通機関不通・気象警報等発令により全学一斉休講となる場合があります。詳細については，この「履修要項」最終ページを参照してください。

補　　講

休講があった場合，原則として補講が実施されることになっています。補講は補講日に行われるほか，他の授業に支障がなければ授業期間中の平日（補講日以外）にも行われます。

補講情報は，Web教務システムで発表します。また，Microsoft365メールへ配信するとともに学内のデジタルサイネージによって周知します。詳細は担当教員の指示に従ってください。

欠　席

授業には毎回出席することが原則ですが，出欠の取扱いは各科目担当教員に任されています。具体的には授業計画（シラバス）や教室での指示が，科目ごとの出欠に関する取扱いとなります。

本学で公欠としているものは，具体的には以下のとおりです。

公欠事由

1．以下の免許・資格課程正規科目の学外実習による欠席

⑴　教育実習　⑵　管理栄養士校外実習及び臨地実習　⑶「博物館実習」
⑷「図書館実習」　⑸　音楽療法学外実習　⑹「保育学実習」
⑺　保育士学外実習　⑻　看護師学外実習　⑼　保健師学外実習

2．介護等体験による欠席

3．裁判員制度による欠席

手　　続　上記1，2については免許・資格課で，3については教務課で「公欠届」を記入して確認を受けた上で，科目担当教員に事前に提出してください。（上記1.の学外実習に関する事前オリエンテーションも公欠事由に含みます。）

なお，上記1.～3.以外の場合は，いかなる理由による欠席も原則として同じ取扱いとなりますが，病気，その他やむを得ない事情により授業を欠席した場合は，担当教員に届け出てください。（届出用紙はありません。）

欠席が長期にわたる場合は，各学部・研究科事務室で相談してください。

なお，3については，裁判所が発行する証明書を持って，教務課窓口へ来てください。また，公欠の対象となるのは次の事由の該当日となります。

⑴　裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加
⑵　裁判員又は補充裁判員としての職務に従事

なお，インフルエンザ等，学校保健安全法施行規則第18条の感染症による授業欠席の取扱いについては，本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ 在学生の方へ → 授業情報 → 授業・定期試験の取り扱い

教 科 書

年度始めには，一定期間教科書特設販売会場を設けます。会場や販売日時に関しては，登録書類交付時に案内を同封します。科目，担当者，クラス，学期等を確認の上，間違いのないように購入してください。参考文献と表示されている場合は，購入は自由です。

任意の登録変更の場合だけでなく，登録者多数により登録が認められなくなった場合でも，返品はできません。選択科目の教科書を購入する場合は特に注意してください。

学内の周知方法

履修登録・予備登録・各種説明会・提出物などの授業全般及び試験等に関する重要な連絡や，各学部学科・各事務室からの伝達・呼び出しなどは，Web教務システムや学内の掲示，大学が付与しているメールアドレス（以下，Microsoft365メール）によって行われます。

休講・補講・時間割変更・教室変更については，Web教務システムで発表します。また，Microsoft365メールへ配信するとともにデジタルサイネージによって周知します。

また，緊急の連絡においては，大学公式サイトやTwitter（最終ページ参照）にて周知する場合があります。

各種学内での周知等の見落しによる不利益は本人の責任となります。Web教務システム，学内掲示，Microsoft365メールを確認する習慣をつけてください。

授業支援システム

本学では，授業支援システム（愛称 マナビー）を導入しています。主な機能については以下のとおりです。

1．授業に関するクラス全員へのお知らせ
2．授業や事前・事後指導学習のための資料配信
3．クラス単位でのディスカッション等のための掲示板
4．レポート課題の出題，回収，返却，指導
5．小テストの実施
6．提出物等の保存
7．授業アンケートの実施　　など

マナビーは，授業に関する重要なお知らせや，資料の配信，レポートや小テストの実施など，授業を受けるうえで欠かせないものです。定期的に確認してください。

FLTナンバー

本学では2016年度から，体系的な教育プログラムを理解するために，授業科目に内容・レベル等に応じた特定のナンバーを付与する科目ナンバリング制度が設けられました。分野（Field）・水準（Level）・授業方法（Type）等を表すアルファベットと数字の組合せで構成されていることから「FLTナンバー」と呼びます。学修したい分野について，どのように学修を進めていけば良いか判断するための参考として活用してください。

各科目のFLTナンバーは授業計画（シラバス）で確認することができます。（一部演習科目や実技科目にはFLTナンバーが定められていないものもあります。）

（例）日本の歴史Ⅰ：HSTb31-GS

分野	分野細目	水準	授業形態	開設学科等
HST （歴史学）	b （日本史）	3 （3年次）	1 （講義）	GS （社会システム学科）
・下記一覧表のとおり	・下記一覧表のとおり	1：学部1年 2：学部2年 3：学部3年 4：学部4年 5：学部5年 6：学部6年	1：講義科目 2：演習科目 3：実験実習実技科目(主として学内) 4：実験実習実技科目(主として学外) 5：講義と演習の混合科目 6：講義/演習/実験の混合科目 7：その他	GE：共通学芸科目 CD：キリスト教・同志社関係科目 FL：外国語科目 SH：スポーツ・健康科目 学科科目については、学科略号を使用します。（P18.学科略号参照）

分野一覧

分野		分野細目													
ARS	地域研究	a	地域研究 総合・複合	b	京都	c	日本	d	アジア	e	アメリカ	f	ヨーロッパ	z	その他
ART	美術・芸術	a	美術・芸術 総合・複合	b	美術	c	芸術	z	その他						
BIO	生物学	a	生物 総合・複合	b	基礎生物学	c	人類学	z	その他						
BUS	経営学	a	経営学 総合・複合	b	商学	c	会計学	z	その他						
CHM	化学	a	化学 総合・複合	b	物理化学	c	有機化学	d	無機化学	e	機能物性化学	f	合成化学	g	高分子化学
		z	その他												
CLD	こども学・児童学	a	こども学・児童学 総合・複合	b	こども文化	c	こどもの発達	d	こどもと社会	e	こどもと世界	f	保育学	g	こどもと福祉・養護
		h	こどもの保健・栄養	z	その他										
CRE	キャリア	a	キャリアデザイン 総合・複合	b	キャリア意識形成	c	インターンシップ	d	リーダーシップ	z	その他				
CRT	文化	a	文化 総合・複合	b	日本文化	c	東洋文化	d	英米文化	e	その他の文化	f	文化人類学・民俗学	g	比較文化
		z	その他												
DSN	デザイン学	a	デザイン学 総合・複合	b	視覚デザイン	c	サウンドデザイン	d	空間デザイン	e	プロダクトデザイン	z	その他		
ECN	経済学	a	経済学 総合・複合	b	財政・公共経済	c	金融・ファイナンス	d	国際経済・金融	z	その他				
EDU	教育学	a	教育学 総合・複合	b	学校教育	c	教育社会学	d	特別支援教育	e	博物館学	z	その他		
EGN	工学	a	工学 総合・複合	b	機械工学	c	電気・電子工学	d	土木工学	e	建築学	z	その他		
ELG	英語学・英語教育	a	英語学・英語教育 総合・複合	b	言語学	c	応用言語学	d	音声学	e	英語教育	z	その他		
ELT	英米文学・外国文学	a	英文学 総合・複合	b	英文学	c	米文学	d	ヨーロッパ文学	e	東洋文学	f	比較文学	z	その他
ENV	環境学	a	環境学 総合・複合	b	環境保全学	c	環境創成学	z	その他						
FDS	食物学	a	食物学 総合・複合	b	食品学	c	調理学	d	食文化	z	その他				
GND	ジェンダー	a	ジェンダー 総合・複合	b	女性学	z	その他								
GOG	地理学・地誌学	a	地理学 総合・複合	b	人文地理学	c	自然地理学	d	地誌	z	その他				
HST	歴史学	a	歴史学 総合・複合	b	日本史	c	アジア史	d	ヨーロッパ史・アメリカ史	e	考古学	z	その他		
HTH	健康・スポーツ科学	a	健康科学 総合・複合	b	スポーツ科学	z	その他								
INF	情報学	a	情報学 総合・複合	b	コンピュータ工学	c	情報システム	d	情報デザイン	e	Webデザイン	f	メディア処理	g	プログラミング
		z	その他												
ITR	国際関係学	a	国際関係 総合・複合	b	地域研究	c	国際協力	z	その他						
JLG	日本語学・日本語教育	a	日本語学・日本語教育 総合・複合	b	古典語学	c	現代日本語学	d	日本語教育	z	その他				
JLT	日本文学	a	日本文学 総合・複合	b	古典文学	c	近代文学	z	その他						
LAW	法学	a	法学 総合・複合	b	公法学	c	私法学	d	国際法学	z	その他				
LFS	生活科学	a	生活科学 総合・複合	b	衣文化	c	衣環境	d	被服デザイン	e	住文化	f	住環境住環境	g	住居デザイン
		h	生活経営	i	家族・生活福祉	z	その他								
LNG	言語教育	a	言語教育 総合・複合	b	日本語	c	英語	d	ドイツ語	e	フランス語	f	中国語	g	イタリア語
		h	スペイン語	i	ハングル	j	その他の言語	z	その他						
MDA	メディア学	a	メディア学 総合・複合	b	マスメディア	c	広告	d	コミュニケーション	e	メディア教育	f	図書館情報学	z	その他
MDS	医学	a	医学 総合・複合	b	内科系臨床医学	c	外科系臨床医学	d	病理学	z	その他				
MSC	音楽	a	音楽 総合・複合	b	声楽	c	鍵盤	d	器楽	e	音楽理論	f	作曲	g	コンピュータ音楽
		h	音楽療法	i	音楽文化	j	音楽教育	z	その他						
MTH	数学	a	数学 総合・複合	b	統計学	z	その他								
NSC	科学史	a	科学史 総合・複合	z	その他										
NTR	栄養学	a	栄養学 総合・複合	b	基礎栄養学	c	応用栄養学	d	栄養教育論	e	臨床栄養学	f	公衆栄養学	g	給食経営管理論
		h	総合演習	i	臨地実習	z	その他								
NUS	看護学	a	看護学 総合・複合	b	医学系基礎	c	疫学・社会保障	d	基礎看護学	e	成人看護学	f	精神看護学	g	母子看護学
		h	高齢者看護学	i	在宅看護学	j	公衆衛生看護学	k	学校保健	l	看護の統合・発展	z	その他		
PHL	哲学	a	哲学 総合・複合	b	日本哲学・思想史	c	東洋哲学・思想史	d	西洋哲学・思想史	e	倫理学	z	その他		
PHM	薬学	a	薬学 総合・複合	b	化学系薬学	c	物理系薬学	d	生物系薬学	e	薬理系薬学	f	天然資源系薬学	g	創薬化学
		h	環境・衛生系薬学	i	臨床薬学	z	その他								
PHY	物理学	a	物理学 総合・複合	b	物性学	c	天文学	d	地球科学	z	その他				
POL	政治学	a	政治学 総合・複合	z	その他										
PSY	心理学	a	心理学 総合・複合	b	社会心理学	c	教育心理学	d	臨床心理学	e	実験心理学	f	発達心理学	z	その他
REL	宗教学	a	宗教学 総合・複合	b	キリスト教	c	その他の宗教	d	同志社関係	z	その他				
SOC	社会学	a	社会学 総合・複合	b	社会福祉学	c	社会保障	z	その他						
TRM	観光学	a	観光学 総合・複合	b	地域観光学	c	国際観光学	d	ホスピタリティー	z	その他				

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

本学においてもディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが定められています。ディプロマ・ポリシーは，本学の教育理念に基づいて，どのような力を身に付けた学生に卒業を認定し学位を授与するのかを定めた基本方針です。すなわち学生の学修上の到達目標を示したものと言うことができます。これは単位数などの卒業要件とは異なります。カリキュラム･ポリシーは，どのような教育課程を編成して，どのような教育内容・教育方法でディプロマ・ポリシーに掲げられた到達目標を達成していくかを定めた基本方針です。本学では，ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーともに，本学全体としてのポリシーと各学部学科のポリシーとで構成されています。

特に重要となるのは，ディプロマ・ポリシーの到達目標です。それぞれの到達目標は，「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」に分けて掲げられています。「知識･理解」は，基礎的知識や専門的知識あるいは技能を深く理解した上で身に付けているか，「関心･意欲・態度」はこれらの知識や技能を更に身に付けていこうとする意欲や，身に付けた知識や技能を社会で生かしていこうとする態度が身に付いているか，「表現・技能・能力」は，知識や技能を創造的に活用し発揮していく力が身に付いているか，についての学修者側に焦点を当てた到達目標として理解してください。これらの到達目標は，各授業科目のシラバスに記載されている到達目標とも直接，間接に関係するものです。到達目標はその達成度を測定して評価される必要があります。各授業科目で成績評価が行われるのはその直接的な例ですが，「授業に関するアンケート」やその他のアンケートでの到達目標に関する自己評価などもそのための測定方法の１つとなっています。多様な方法を用いて，本学の到達目標がどの程度達成されているかの測定や評価が行われます。ディプロマ･ポリシーとカリキュラム･ポリシーを是非参照し，到達目標の達成に向かって努力してください。

カリキュラム・マップ

全学及び学科等ごとの到達目標がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に定められており，どの到達目標をどの科目が担うかは，学科ごとのカリキュラム・マップに示されています。

カリキュラム・マップは本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ 在学生の方へ → 教務情報 → カリキュラムマップ

授業に関するアンケート

「授業に関するアンケート」を毎学期末に個別授業の中で授業支援システム「マナビー」を用いて実施します。このアンケート実施の目的は，「授業改善のための受講生の意識の把握」，「授業に関する受講生の学修行動の把握」，及び「授業の到達目標の達成度の受講生の自己評価等の把握」の３点です。アンケート結果は，個別授業の内容や方法の見直しに活用されるだけでなく，学部学科としての教育力のいっそうの向上のためにも活用されています。「授業に関するアンケート」は，このような役割を持った大切なものです。無記名での回答になっているため成績評価に影響するものではありません。受講生の皆さんの率直かつ責任ある回答をお願いします。

「授業に関するアンケート」の実施方法の案内や質問内容は学期当初から本学ホームページに掲載されていますので予め確認しておいてください。集計結果や分析結果も次学期の当初には本学ホームページに掲載され，学生も参照することができるようになっています。

本学ホームページ 在学生の方へ → 教務情報 → 授業情報 → 授業に関するアンケート
＊集計・分析結果については，学内からのみアクセスが可能です。

「授業に関するアンケート」の今年度の質問は次ページの表のとおり予定されています。各質問についての質問趣旨も掲載していますので参考にして，それぞれの質問の趣旨を正しく把握しておいてください。それぞれの授業に真剣に取り組んでいなければこのようなアンケートに正しく回答することは困難です。学期末にはこのようなアンケートが実施されるということを念頭に置いてしっかりと授業に臨んでください。大学での授業は「受ける」だけではなく，受講生と担当教員が「ともに作る」ということも重要になります。「授業に関するアンケート」に答えるということは，自らの授業に対する取り組み方がどうだったのかを振り返ることにもなります。これらのことを念頭に置いて学期末にはアンケートに向き合ってください。

なお，このアンケートはほとんどの科目で実施されますが，実施されない科目もあります。実施に関する基準等は，ホームページに掲載される「実施要項」で確認してください。

今年度の質問内容及び質問趣旨（予定）

質問	質問の趣旨
授業実施に関する質問	
1．授業内容はシラバスに合っていましたか。	正しく回答するためには，受講生も日常的にシラバスを参照していることが前提となります。授業進度などが若干でも修正されたかどうかということが問われているのではなく，シラバスに記載された重要な事項の実施についてどう感じたかを回答してください。
2．受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは，理解度を確かめる工夫は異なってきますが，例え受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。もちろん，受講生としてひとつひとつ理解しながら学習を進めるという心構えを持っていなければ正しい回答は困難になります。
3．授業レベルは自分に合っていましたか。	理解しようと最大限努力した上での率直な感想を回答してください。
4．教員からの一方向的な授業ではなく，教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	受講者が多数の場合と少数の場合とでは工夫内容はまったく異なってくると思われますが，例え受講生が多い場合でも何らかの工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点で回答してください。
5．提出物に対するフィードバック（採点，添削，マナビーでのコメント，チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。	受講生もフィードバックの重要性を認識し事後学習にも力を入れてほしいという願いが含まれています。そのような努力をした上で教員側からのフィードバックが効果的であったかどうかを回答してください。
6．言葉による説明だけではなく，受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。	図，表，写真，映像，模型などが効果的に使われていたかという観点から回答してください。受講者側の理解しようとする意欲が前提にあることは言うまでもありません。
7．自主学習を促す工夫がなされていましたか。	受講生の自主的な学習意欲を高める工夫やモチベーションを高める工夫がなされていたかどうかについてどう感じたかという観点から回答してください。
8．工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可，なしも可）。 1．分かりやすいパワーポイントや板書　2．聞き取りやすい話し方　3．教科書や配布資料の活用　4．マナビーの活用　5．トラブルへの対応	工夫してほしいと常に思っていたことがあれば回答してください。
この授業のための学修行動に関する質問	
9．この授業の予習，復習，自主学習に１週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。 ※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし，授業時間は除く。	自主学習には，この科目のために意図的に行ったすべての行動が含まれます。十分な授業外学修を行ってほしいという願いが込められています（下記の（注１）を参照のこと）。
10．あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。	授業中の発言だけではなく，授業（教室）外での質問や，マナビーを使って発言したことも含めて自己評価してください。
11．あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。	授業の分野の重要性や面白さが分かり，更に学習を深めようとしているかどうかを回答してください。
12．あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。 1．授業内容に興味・関心があった　2．授業方法に興味・関心があった　3．成績評価方法・基準に興味・関心があった　4．先輩や友人等の勧め　5．卒業又は免許・資格の取得に必要だから	
この授業の到達目標に関する質問	
13．到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。	回答の前提として，受講生も常に授業の到達目標を見失わないようにしてほしい，到達目標達成のために努力してほしいという願いが込められています。その上での感想を率直に回答してください。
14．あなたは到達目標を達成できたと思いますか。	到達目標が複数ある場合でも，全体としての達成度を率直に自己評価してください。
15．DWCLA10の内，この授業の履修を通してその獲得や向上に 16．役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可，なしも可）。 1．分析力　2．思考力　3．創造力　4．プレゼンテーション力　5．コミュニケーション力　6．リーダーシップ　7．思いやる力　8．変化対応力　9．自己管理力　10．自己実現力	DWCLA10の力の重要性を認識して，その獲得に向けた努力をしてほしいという願いが込められています。シラバスに記載されていた「力」と異なっても構いません。
遠隔授業に関する質問	
17．遠隔での授業は滞りなく行われましたか。 ※遠隔で授業が行われた場合のみ回答してください。	学生のみなさんが遠隔授業を受けるにあたり，スムーズに授業に参加できたかどうか，授業はスムーズに進んだかどうかを把握したいという願いが込められています。

（注１）「学修」という用語は一般的な「学習」とは異なり，科目を履修し単位を修得することを目的として行う学習を指す場合に使用しています。

学　籍

学籍は入学により発生し，卒業･退学･除籍によりなくなります。学籍がある状態のことを「在籍」，通常の学修状態にあることを「在学」といい，両者を区別しています。そのため，休学中は，「在籍」状態ですが「在学」していないことになります。

修業年限

修業年限とは，大学を卒業するために最低必要な在学年数のことです。本学を卒業するためには最低４年間（薬学部医療薬学科は最低６年間）在学することが必要です。ただし，８年（薬学部医療薬学科は12年）を超えて在学することはできません。

３年次編入学生の本学における在学すべき年数は２年です。ただし，４年を超えて在学することはできません。

２年次転入学生の本学における在学すべき年数は３年です。ただし，６年を超えて在学することはできません。

本学に在学することのできる最長の在学期間のことを，在学年限といいます。

学　位

所定の期間在学し，各学科所定の卒業に必要な単位を修得した学生は卒業となり，次の学位が与えられます。

学位の種類

学芸学部
- 音　楽　学　科……学士（音楽）
- メディア創造学科……学士（メディア創造）
- 情報メディア学科……学士（情報メディア）
- 国際教養学科……学士（国際教養学）

現代社会学部
- 社会システム学科……学士（社会システム）
- 現代こども学科……学士（現代社会）

薬学部……学士（薬学）

看護学部……学士（看護学）

表象文化学部
- 英語英文学科……学士（文学）
- 日本語日本文学科……学士（文学）

生活科学部……学士（生活科学）

※学位を授与された者は，学位の名称を用いるときは，「学士（文学・同志社女子大学）」のように明記することが必要です。

学籍番号

入学手続を完了した学生には，入学と同時に学籍が設けられ，学籍番号が与えられます。

学部　学科等　入学年度　個人別一連番号

学　籍　番　号	所　属
1521001～	学芸学部　音楽学科　演奏専攻
1621001～	学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻
1721001～	学芸学部　メディア創造学科
1821001～	学芸学部　国際教養学科
2121001～	現代社会学部　社会システム学科
2221001～	現代社会学部　現代こども学科
5321001～	薬学部　医療薬学科（６年制課程）
4121001～	看護学部　看護学科
6121001～	表象文化学部　英語英文学科
6221001～	表象文化学部　日本語日本文学科
3121001～	生活科学部　人間生活学科
3221001～	生活科学部　食物栄養科学科　食物科学専攻
3321001～	生活科学部　食物栄養科学科　管理栄養士専攻

学生証

学生証は，本学の学生であるという身分を証明するものです。学内では，定期試験を受けるときなどに必要です。常に携帯し，他人に貸与や譲渡をしてはいけません。

万一，学生証の紛失・盗難にあった場合は，学生支援課に届け出るとともに，近くの警察署へも届け出るようにしてください。

なお，学生証を忘れた場合は，学内の使用に限り，「仮学生証」を各年度最大５回まで発行することができます。（証明書発行機にて発行可能。有料。）

休　学

病気などのやむを得ない理由によって修学することができない場合は，学長の許可を得て休学することができます。

休学が認められる期間は１学期又は１年の単位で，通算２年間までです。休学期間は学則に定める修業年限及び在学年限に含まれません。休学期間中の科目の履修や単位の修得は認められません。

休学手続

１．学生支援課で休学理由を伝えた上で休学願を受け取り，教務課に提出してください。病気の場合は医師の診断書が必要です。

２．休学願の提出期限は次のとおりです。

春学期（又は春学期から１年間）休学する場合　４月25日（春学期学生納付金納入最終日）

秋学期（又は秋学期から１年間）休学する場合　10月25日（秋学期学生納付金納入最終日）

※ただし，上記期日が土曜日もしくは日曜日・祝日等の場合には，直前の平日となります。

※秋学期から休学する場合は，春学期学費が完納されていなければなりません。

学　費

所定の手続により休学を認められた場合，「休学在籍料」として年間120,000円（半期の場合は60,000円）を納入することになります。

留　学

本学の正規の留学プログラムで海外及び国内の協定大学等に留学する場合は，その留学期間が学則に定める修業年限及び在学年限に算入されます。また，海外の認定大学留学制度により留学する場合も，学籍上同様の取扱いとなります。

この場合，留学中に修得した単位や学修は，本学の単位として最大40単位（留学期間が１年未満の場合は30単位）まで認定することができます。ただし，本学の規定の適用を受けず留学した場合は，単位の認定はできません。

復　学

休学期間が過ぎると自動的に復学となります。この場合は，復学手続は必要ありません。休学期間の延長を希望する場合は，再度休学手続を行わなければなりません。

１年間の休学期間の途中で休学の事情が解消した場合は，学期単位で復学することができます。この場合は復学願を教務課で受け取り，病気が理由であった場合は診断書を添えて，各学期の授業開始日までに教務課に提出してください。

秋学期から復学する場合は，秋学期科目のみ履修登録が可能となります。復学した学生は所定の期日までに，所定の学費を納入しなければなりません。

退　学

事情により退学を希望する場合の手続は次のとおりです。

退学手続　1．学生支援課で退学理由を伝えた上で退学願を受け取り，教務課に提出してください。
2．退学願提出と同時に学生証を返還してください。

学　費　学費を年額一括納入している場合で，春学期末で退学するとき（秋学期授業開始日までに退学手続きをした場合）は，秋学期学費は返還します。

退学年月日　退学年月日は，学費が全額納入されている最終学期末日付となります。

再入学

同一の学科・専攻（改組，学科名称変更等が行われた場合は，同一の学科・専攻と認められるもの）に再入学を希望する者は，選考の上，教授会の議を経て，入学を許可することがあります。

学期途中の再入学はできません。再入学を許可された学生の在学すべき年数及び在学年限は，学生ごとに決定されます。ただし，従前の学籍記録が継承されますので，通算して所定の在学年限を超える場合は，再入学を出願することができません。

また，2008年３月31日以降学費未納により除籍となり，仮保存されている単位を有効な単位とすることを希望する者は，未納学費を全額一括納入しいったん退学しなければ再入学を出願することはできません。

再入学手続　1．教務課で再入学願を受け取り，教務課に提出してください。
2．再入学願の提出時期は次のとおりとします。

春学期からの再入学の場合	前年度の１月中
秋学期からの再入学の場合	当該年度の７月中

学　費　1．再入学が許可された場合，再入学した当該年次の学費が適用されます。
2．再入学手続金として，再入学する年度の入学金の半額及び当該学期の学費を所定の期日までに一括納入しなければ，再入学資格を失います。
3．再入学手続金の納入にあたって，延納・分納は認めません。
4．所定の期日以後の納入は，理由の如何に関わらず受け付けません。

除　籍

学生が次のいずれかに該当する場合は，教授会の議を経て，除籍となります。

除籍事由　1．在学年限内に卒業できない場合。
2．休学期間２ヵ年を超えても復学できない場合。
3．学費の納入を怠り，督促を受けても納入しない場合。
注）学費納入の督促を受けても納入しない場合は，その年度末に教授会の議を経て除籍となります。
ただし，学費未納により除籍通知を受けた学生が除籍取消を願い出た場合，除籍の次年度の春学期学費納入期限内に次の手続を完了した場合は，教授会の議を経て除籍を取り消します。

学費未納による除籍の取消手続　a．教務課備付の除籍取消願に事情を詳細に記入して教務課に提出。
b．未納の学費を全額納入。
c．除籍取消手数料5,000円納入。

卒業年次生で，卒業査定に関係する場合は，別の規定が適用されます。

［修得単位の仮保存］

2008年３月31日以降に学費未納により除籍となった者が学費未納期間中に修得した単位は仮保存されています。未納学費を完納して「除籍」が「退学」に変更された場合は，仮保存されている成績は有効となります。なお，仮保存中の修得単位は成績証明書には記載されません。

転学部・転学科・転専攻

１年次から２年次，又は２年次から３年次に進むときに限り，転学部・転学科・転専攻を願い出ることができます。受入学部，学科，専攻で学力試験を行った上，教授会の議を経て転学科等を許可することがあります。

試験科目・試験日　７月に公表します（教務課窓口）。過去の試験問題は公表していません。
試験日程等の詳細は，本人宛郵送にて通知します。
音楽学科への転学部，転学科には実技試験等が課され，試験課題が５月下旬に公表されます。希望者は学芸学部事務室（音楽学科）へお問い合わせください。

出願手続　教務課備付の転学部・転学科・転専攻願に，当該年度の一般入学試験入学検定料と同額の受験料を添えて，教務課に提出してください。教務課窓口持参に限ります（郵送不可）。

出願期間　１月上旬（７月に公表）

合否通知　教授会決定に基づき，本人宛郵送にて通知します（３月上旬）。

在籍する年次　転入を許可された学生の入学年度により定めます。
ただし，生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転入の場合には２年次となります。

既修得単位の取扱い　転出学科・専攻における既修得単位を転入学科・専攻のカリキュラムに適用し，有効性を持つ科目・単位のみを転入後の成績原簿に記載します。転入後は，転入学科・専攻のカリキュラムにおいて不足の科目を履修することになります。

１．有効性を持つ科目・単位
既修得単位の内，転入後のカリキュラムに同一科目名かつ同単位数の授業科目が存在する場合のみ，有効性を持ちます。
このほか，修得済の授業内容が転入後の授業科目における教育内容に該当し，当該科目の単位を認定することが教育上有益であると特に認められる場合は，転入後の授業科目名において単位認定することがあります。

２．教職に関する科目について
⑴ 中等教育教員養成課程間の転学科等の場合は，同一科目名かつ同単位数の授業科目についてのみ有効性を持ちます。
⑵ 現代社会学部現代こども学科への転入及び現代こども学科からの転出の場合については，単位修得済の教職に関する科目は，初等教育／中等教育教員養成課程の関係において相互に有効性を持ちません。同一科目名かつ同単位数の場合でも単位認定はできません。教職に関する科目のすべてを，転入後にあらためて履修する必要があります。

３．転入後の成績原簿に記載されなかった既修得単位の取扱い
単位を修得した事実が消えることはありません。転出前の履修記録は別途管理していますので，必要な場合，転出前の内容で証明書を発行することが可能です。（教務課へお問い合わせください。）

学　　費　転入学後の学部・学科・専攻の当該年次の学費が適用されます。

そ の 他

１．秋学期からの転学科等はできません。
２．転学科等を認められた学生の，再転学科等は認められません。
３．学芸学部国際教養学科，薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科への転入は行っていません。
生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻への転学科試験については，新入生の在籍者数が入学定員の 1.1 倍未満の場合に限り行います。転学科試験を行わない場合は，５月頃に掲示により連絡します。
４．音楽学科演奏専攻への転学科・転専攻の場合は，実技関係科目の履修に４ヵ年を必要とするため，転入の年次にかかわらず，転入後最低４ヵ年在学して，科目を履修しなければなりません。
５．３年次に転入が認められた場合，更に３年間の在学が必要となることがあります。
３年次への転入の出願を考えている学生は，必ず出願前に早めに教務課に相談してください。

卒業査定

卒業見込生に対しては，卒業の可否を３月上旬（９月卒業の場合は９月下旬）に，保証人住所に保証人名と連名で，郵送にて通知します。具体的な日程については，３月卒業の場合は１月下旬に掲示にて連絡します。

単位認定

本学では，本学における授業科目の履修のほか，学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から，様々なかたちで単位認定を実施しています。また，より一層幅広い分野の科目選択の機会を学生に与えられるよう，他大学との単位互換にも積極的に取り組んでいます。

1．本学の授業科目の単位

履修登録を行った授業科目に合格すれば，単位が与えられます。

2．入学前に本学以外の大学等で修得した単位等の認定

新入学生　本学への入学前に他の大学・短期大学等で修得した単位等は，最大で30単位まで認定することができます。認定希望者は，合格者に発送された書類に従って手続を行ってください。

3．本学在学中に他大学等で修得した単位等の認定

本学在学中に他の大学・短期大学等で修得した単位を本学で認定することができます。認定できる単位及び学修は以下のとおりですが，次の点に留意しながら積極的に単位認定制度を利用してください。

留意点

1．海外及び国内協定大学等への留学の場合を除き，卒業に必要な単位として認定できる単位数の上限は30単位です。ここで修得した単位は，区分外領域として卒業必要単位に算入します。ただし，区分外領域の卒業必要最低単位数は各学科・専攻・学年ごとに異なりますので注意してください。
2．他大学は学年暦が異なり定期試験を受験できないことや成績通知が遅れることがあります。
3．卒業年次で履修する他大学の「単位互換科目」の単位は，卒業見込の単位としてはカウントすることはできないため，卒業年次生は履修計画を立てる際，他大学の「単位互換科目」を卒業に必要な単位としてカウントしないでください。（ただし，最終的に卒業の時点においては卒業に必要な単位の一部となります。）
4．いったん認定された単位の取消・変更はできません。
5．以下ａ.～ｇ.の方法以外で修得した単位等の認定は行いません。
6．認定された科目の成績は，「認定」となります。
7．休学期間中は単位等の認定を受けることはできません。

a. 同志社大学との単位互換協定に基づく認定

1997年度から同志社大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「同志社大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位は認定されます。詳しくは別冊「同志社大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。２年次生から履修が可能になります。

b. 金城学院大学との単位互換協定に基づく認定

2010年度から単位互換協定に基づき，金城学院大学の一部の科目を履修することができるようになっています。「金城学院大学互換科目」として指定されている科目の履修により修得した単位が認定されます。詳しくは別冊「金城学院大学単位互換科目履修ガイド」を参照してください。

c. 奈良県立医科大学との単位互換協定に基づく認定

2012年度から単位互換協定に基づき，奈良県立医科大学の一部の科目を履修することができるようになっています。
※2021年度は実施しません。

d. 大学コンソーシアム京都単位互換協定に基づく認定

1994年度から京都地区の大学・短期大学が相互に協定を結び，大学コンソーシアム京都単位互換制度を発足させました。現在加盟大学・短期大学は約50校で，それぞれ科目を定めて加盟大学の学生を受け入れています。履修可能科目や受講方法は，大学コンソーシアム京都ホームページを参照してください。

e. 放送大学との単位互換協定に基づく認定

放送大学の科目を履修し，単位を修得した場合は，その単位を卒業に必要な単位として認定することができます。ただし，単位認定できる科目や認定上限等が学科ごとに異なります。また，本学の所定の手続を経て履修した場合のみ単位認定を行います。詳細は教務課でお問い合わせください。

f. 文部科学大臣が定める学修等による単位認定

学生の主体的学習意欲の喚起及びその学習成果の積極的評価の観点から，文部科学大臣が定める学修の内，下記の学修について在学中（入学日以降の受験分）の学修につき，各々以下の授業科目の履修とみなし，単位を認定します。単位認定の申請は学期ごとに期間を設けて受け付けます。

1）英語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準			認定可能単位数	認定可能科目名	備考
TOEFL®	Educational Testing Service	iBT 61点	CBT 173点	PBT 500点	2	TOEFL Ⅰ	ETS主催のみ対象。 ITP（団体受験）は認定対象外。
		iBT 79点	CBT 213点	PBT 550点	4	TOEFL Ⅰ TOEFL Ⅱ	
		iBT 100点以上	CBT 250点以上	PBT 600点以上	6	TOEFL Ⅰ TOEFL Ⅱ TOEFL Ⅲ	
TOEIC® Listening & Reading Test	Educational Testing Service	600点			2	TOEIC Ⅰ	ETS主催を対象とする。 IP（団体受験）に関しては，学内実施分のみ有効。
		730点			4	TOEIC Ⅰ TOEIC Ⅱ	
		860点以上			6	TOEIC Ⅰ TOEIC Ⅱ TOEIC Ⅲ	
IELTS	British Council, IDP IELTS Australia, Cambridge English Language Assessment による共同運営	6.0			2	IELTS Ⅰ	Academic Moduleのみ対象。
		6.5			4	IELTS Ⅰ IELTS Ⅱ	
		7.0以上			6	IELTS Ⅰ IELTS Ⅱ IELTS Ⅲ	
国連英検	日本国際連合協会	B級合格			2	英語検定 Ⅰ	
		A級以上合格			6	英語検定 Ⅰ 英語検定 Ⅱ	
実用英語技能検定（英検）	日本英語検定協会	準 1 級合格			2	英語検定 Ⅰ	
		1 級合格			6	英語検定 Ⅰ 英語検定 Ⅱ	

認定単位数上限　6 単位（入学時に単位認定を受けていた場合でも，入学後は別に 6 単位まで単位認定を受けることができます。）
次頁の「3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例①　TOEFL® iBT 100点取得の場合，認定科目及び認定単位数は 2， 4， 6 単位の範囲で学生が選択できる。

認定例②　入学後のTOEIC® Listening & Reading Testで730点を取得し，「TOEIC Ⅰ， Ⅱ」で 4 単位認定を受けていた学生が，その後TOEFL® iBTで100点を取得した場合，認定を受けられるのは「TOEFL Ⅲ」 2 単位のみ。

2）日本語教育能力の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	主催団体	単位認定基準	認定可能単位数	認定可能科目名
日本語教育能力検定試験	日本国際教育支援協会	合格	2	日本語教育能力検定

「1）英語の学修に対する単位認定」「3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定」の認定単位数上限には含まれません。

3）英語以外の 6 言語の学修に対する単位認定

認定基準は下記の表を参照すること。

試験名称	単位認定基準	認定可能単位数	認定可能科目名（いずれの科目でも認定可能）	
ドイツ語技能検定試験（独検）	4 級	2	初級ドイツ語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ドイツ語演習Ⅰ，Ⅱ	ドイツ語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ
	2 級以上	6	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ ドイツ語学修Ⅲ
Goethe-Zertifikat	A 1	4	初級ドイツ語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ドイツ語演習Ⅰ，Ⅱ	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ
	A 2 以上	6	〃	ドイツ語学修Ⅰ ドイツ語学修Ⅱ ドイツ語学修Ⅲ
中国語検定試験（中検）	4 級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ
	2 級以上	6	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ 中国語学修Ⅲ
漢語水平考試（HSK）※	筆記 3 級 又は口試中級	2	初級中国語基礎 初級中国語演習	中国語学修Ⅰ
	筆記 4 級	4	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ
	筆記 5 級以上 又は口試高級	6	〃	中国語学修Ⅰ 中国語学修Ⅱ 中国語学修Ⅲ
実用フランス語技能検定試験 （仏検/DAPF）	4 級	2	初級フランス語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級フランス語演習Ⅰ，Ⅱ	フランス語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ フランス語学修Ⅲ
フランス語資格試験（DELF・DALF）	A 1	4	初級フランス語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級フランス語演習Ⅰ，Ⅱ	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ
	A 2 以上	6	〃	フランス語学修Ⅰ フランス語学修Ⅱ フランス語学修Ⅲ
「ハングル」能力検定試験（ハン検）	4 級	2	初級ハングル基礎Ⅰ，Ⅱ 初級ハングル演習Ⅰ，Ⅱ	ハングル学修Ⅰ
	3 級	4	〃	ハングル学修Ⅰ ハングル学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	ハングル学修Ⅰ ハングル学修Ⅱ ハングル学修Ⅲ
実用イタリア語検定（伊検）	4 級	2	初級イタリア語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級イタリア語演習Ⅰ，Ⅱ	イタリア語学修Ⅰ
	3 級	4	〃	イタリア語学修Ⅰ イタリア語学修Ⅱ
	準 2 級以上	6	〃	イタリア語学修Ⅰ イタリア語学修Ⅱ イタリア語学修Ⅲ
スペイン語技能検定（西検）	5 級	2	初級スペイン語基礎Ⅰ，Ⅱ 初級スペイン語演習Ⅰ，Ⅱ	スペイン語学修Ⅰ
	4 級	4	〃	スペイン語学修Ⅰ スペイン語学修Ⅱ
	3 級以上	6	〃	スペイン語学修Ⅰ スペイン語学修Ⅱ スペイン語学修Ⅲ

※漢語水平考試（HSK）の筆記 5 級以上，口試中級，口試高級は 6 割以上のスコアが単位認定対象となります。

認定単位数上限　6 単位（入学時に単位認定を受けていた場合でも，入学後は別に 6 単位まで単位認定を受けることができます。）
前頁「1）英語の学修に対する単位認定」の上限とは重複しません。

認定例　「独検」4 級に合格した場合は，「初級ドイツ語基礎Ⅰ」「初級ドイツ語基礎Ⅱ」「初級ドイツ語演習Ⅰ」「初級ドイツ語演習Ⅱ」（各 1 単位）及び「ドイツ語学修Ⅰ」（2 単位）から，2 単位の認定を申請することができます。
※履修中の科目の単位認定を希望する場合は，教務課窓口で相談すること。なお，単位修得済の科目は申請できません。

４）認定申請期限　春学期の学修　春学期授業最終日
秋学期の学修　秋学期授業最終日

５）申請手続　申請希望者は，教務課で単位認定申請書に必要事項を記入し，合格証明書又は成績証明書原本を教務課に提出してください。入学後に受験したものであれば申請が可能です。（有効期限がある場合は，期限内のものに限ります。）所定の期間に本人からの申請がなければ単位認定ができませんので注意してください。証明書原本の入手が遅れる場合でも必ず所定期間に教務課で指示を受けてください（特に卒業年次生は注意すること）。

g．海外及び国内協定大学等で修得した単位等の認定

・海外及び国内協定大学又は認定大学で修得した単位
留学期間が１年間の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて40単位を上限として，卒業に必要な単位として認定しています。
留学期間が１年未満の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて30単位を上限とします。
・国際教養留学で修得した単位（国際教養学科のみ）
国際教養留学の場合は，ａ～ｇの項目を合わせて40単位を上限として，卒業に必要な単位として認定しています。ただし，ｇの項目は30単位までとなります。

国際教養留学を除き，認定方法は科目ごとの対応により審査しますので，必修や選択必修科目に認定を受けることもできます。

４．本学入学前に本学で修得した単位について

本学入学前に，科目等履修生又は単位互換履修生として修得した本学の単位は，本学入学後も有効な単位として取り扱い，原則としてその取扱単位数に上限はありません。

ただし，カリキュラム変更等により単位修得済の科目が廃止され，入学後の学科年次等において，当該科目がカリキュラムから除外されている場合は，当該科目の単位を卒業に必要な単位に算入することはできません。

履修登録 登録制度・登録ルール

履修登録とは，指定された期日までに，その年度において履修する授業科目を届け出る手続のことです。履修登録をして，履修を許可された科目でなければ，例え毎回授業に出席していたとしても定期試験を受験できず，単位を修得することができません。登録手続の不備による不利益は，本人の責任となりますから十分注意してください。

登録にあたっては，その年度だけでなく次年度以降に履修する科目も考慮して，計画的に適切な科目を選択することが大切です。

履修登録のルールとして最も重要なものは，各学科カリキュラムの履修上の注意や履修指導ですが，全学生に一般的に適用されるルールは次のとおりとなっています。正しく理解して，間違いのないようにしてください。

登録単位数の上限

本学では，登録単位数に上限を設定しています。学科ごとに，年間又は１学期間に履修登録できる単位数の上限が示されており，上限を超える登録は認められません。これは，各科目の予習・復習に充てられる時間や学習効果の観点から，無理な履修計画を避けて充実した学習環境を保つために設けられました。2004年度より導入されたGPA制度においては，不合格科目もGPAの算出対象になりますので，留意して履修計画をたて，慎重に履修登録をする必要があります。ただし，自由選択科目，他大学の単位互換科目は上限対象外となっています。各学科のカリキュラムのページ及び成績制度を参照してください。

＊最終年次に限り，登録単位数の上限を超えて履修登録することができ，修得単位は有効とします。

履修可能科目・履修年次

履修登録できる科目は，自学科の科目，他学科科目（所属している学科に提供されている科目に限る），共通学芸科目及び履修可能な免許・資格課程等の科目です。上級年次配当科目は履修登録できません。必修科目や選択必修の外国語科目は，決められた年次で履修しなければなりません。

クラス指定

同一科目で複数のクラスが開講されている場合，クラスの指定がされている場合があります。クラスの指定とは，各学生個人ごと（通常は学科内の組ごと）に「○曜日○講時の○○先生のクラスを登録してください」と指定されていることをいいます。クラス指定の有無は開講科目表や学科ごとの配布資料で確認してください。クラスが指定されている場合は，次の場合を除いて，指定クラス以外のクラスに登録することはできません。

１．下級年次に置かれた必修科目を（再）履修する場合。

２．（再）履修すべき下級年次の必修科目と在籍する学年の必修科目が同一曜日講時におかれていて，下級年次の必修科目が１クラスしか開講されていないが在籍する学年の必修科目は複数クラス開講されている場合。

＊同一科目が，春学期，秋学期ともに開講されていて，それぞれにクラス指定がされている場合，春学期にクラス指定をされている学生は，春学期に当該科目が不合格であっても，秋学期の登録修正時に，秋学期に開講されているクラスで再履修することはできません。次年度に再履修することになります。

（クラスの指定がされていない科目の場合や再履修生用のクラスがある場合は，秋学期での再履修は可能です。）

予 備 登 録

２年次以上に設置されている一部の科目には，履修前年度に，予備登録をしておかなければならないものがあります。

予備登録の必要な科目にもかかわらず予備登録しなかった場合は，年度始めの登録（本登録）ができません。予備登録が必要な科目は掲示等によりお知らせします。本登録時には，予備登録の結果通りに正しく登録できているか確認してください。予備登録後の変更はできません。ただし，再履修科目登録などの理由で変更が必要な場合は各学科で許可を得て登録の手続をしてください。

セット登録

学科により，春学期科目と秋学期科目等をセットで同時に登録しなければならないとしている科目があります。この場合は学科の指示によりセット登録してください。セット登録科目の履修で，１科目のみ合格した場合，その単位は有効です。合格科目を含めて次年度に再度セット登録することはできません。

他キャンパス科目

両キャンパスの科目を同一曜日に履修希望する場合は，必ず移動時間として１コマ分を空けてください。遠隔授業として行われる科目についても同様です。

複数クラス登録

同一名称の科目は，担当者等が異なっていても同一年度に複数クラス登録することはできません。

再 登 録

過年度に単位を修得した同一名称の科目は，担当者等が異なっていても再度登録することはできません。

二重登録

同一学期の同一曜日講時に２科目以上を登録することはできません。登録修正により，二重登録状態を解消しなければ両科目とも無効になります。

他大学単位互換科目

「同志社大学互換科目」「金城学院大学互換科目」「奈良県立医科大学互換科目」「大学コンソーシアム京都互換科目」「放送大学科目」の履修登録手続は，本学の科目の履修登録手続と異なります。他大学単位互換科目の出願票は別紙又は別途Web出願となっており，本学のWeb教務システムからは登録できません。

また，他大学の学年暦により，成績の報告が遅れる場合もあるので，卒業年次生はこれらの科目を卒業に必要な科目としては履修しないでください。（必ずオーバー単位として履修してください。単位互換科目を卒業見込単位に含めることはできません。また，春学期卒業予定者の場合は，夏期集中講議の履修についても注意してください。）

登録の許可・不許可

登録の許可の通知は行いません。不許可の科目のみ掲示等により連絡します。

次の場合は不許可となります。

１．履修登録のルールに違反している場合。

２．開講予定科目がやむを得ない理由で，欠講となる場合。（履修希望者が10名以内の場合は欠講となることがあります。）

３．選択科目では，特定の科目に履修希望者が集中した場合，卒業年次生・上級年次生の優先，教室配当の調整，担当教員の手配等の措置の結果，次のことが生じることがあります。予めご了承ください。

　ａ．担当教員が当初の予定と変更になる場合。

　ｂ．曜日，講時が変更になる場合。

　ｃ．希望科目の登録ができなくなる場合。

４．「他学科科目」では，自学科の学生が優先されるため，履修希望者が多数の場合は，他学科生は登録を許可されないことがあります。掲示で確認してください。

登録修正期間終了後の登録取消

登録修正期間終了後，病気・怪我等やむを得ない事由により履修の継続が困難と判断され，登録の取消を希望するときは，学科主任の承認を得て登録取消を認めることがあります。登録の取消を希望する場合は，教務課に申し出て許可を得てください。ただし，定期試験受験後に取り消すことはできません。

卒業年次生の履修登録について

卒業年次生については，年度開始時の履修登録期間中に，必ず春学期・秋学期を通して卒業に必要な単位をすべて満たすよう履修登録をしてください。春学期科目のみを登録する等，卒業要件を満たさない登録をした場合，「卒業見込証明書」等の証明書作成ができません。

試験・レポート

試験には，平常試験・定期試験・追試験があります。また，試験に代わるものとして，レポートが課される場合があります。

平常試験

授業中に行われる試験です。平常試験に関する必要事項は授業中に担当教員から直接連絡がある場合と，掲示により連絡される場合がありますので注意してください。また，平常試験に関しては，後述の追試験はありません。

定期試験

定期試験は，各学期末の定められた期間に行われます。試験は以下の表の時間割に従って行われます。試験の時間割は，授業時間割と原則として同じですが，科目ごとの共通試験問題による実施の場合等で授業時間割と異なることもありますので，十分注意してください。なお，同一科目で複数クラスがある場合，履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

（注１）各学期の授業最終週（第15週）に実施される試験については，定期試験と同様に取り扱われます。

（注２）定期試験については，各学期の授業第13週目に発表される，個々の科目の試験日・時間等を一覧にした「定期試験時間割」でお知らせします。

定期試験時間

Ⅰ	9：10～10：10
Ⅱ	11：00～12：00
Ⅲ	13：15～14：15
Ⅳ	15：00～16：00
Ⅴ	16：45～17：45

※試験時間は通常60分間ですが，90分間以内で試験が行われる場合もあります。いずれの場合も試験開始時刻は同じです。

※各学期，定期試験予備日が設けられています（学年暦を参照）。定期試験期間中に，交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講措置が適用された場合，当該試験を予備日に振り替えて実施される場合があります。詳細は，この「履修要項」最終ページを参照してください。

受験資格

次の場合は，定期試験を受験することができません。

1．履修登録をしていない場合。

2．学費未納の場合。

受験上の注意

1．学生証を持参していない場合は，定期試験を受験できません。受験中は学生証を監督者が見やすいように机の上に置いてください。科目等履修生，単位互換履修生，聴講生，履修証明プログラム生は履修生証・聴講生証等が必要です。
（試験当日学生証を忘れた場合は，証明書発行機で仮学生証を発行してください。）

2．試験時の座席は指定されています。試験場入口に掲示してある座席表で確認し，指定の座席で受験してください。

3．試験開始時刻から15分以上遅刻した場合は受験できません。

4．試験開始後30分間は試験場を退出することはできません。試験開始30分後以降の退出については監督者の指示に従ってください。

5．遅刻した場合でも，試験時間の延長は認められません。

6．受験の際は，筆記用具及び特別に持込みを許可されたもの以外は机上に置いてはいけません。下敷の使用は原則として認めていません。携帯電話等を時計として使用することはできません。

7．「定期試験時間割」において，資料等の持込みが「一切可」となっている場合でも，次の機器を持ち込むことはできません。

・パソコン（モバイルPC等を含む），タブレット端末

・携帯電話（スマートフォン，PHS等を含む）

・腕時計型端末

・携帯音楽プレーヤー

・その他，外部との通信機能又は映像・音声収録再生機能のある機器
（電子辞書機能や計算機機能等を併せ持つ機器を含む）

前頁及び上記の機器の持込みが許可される場合の表記は，「授業時に指示」となりますので，授業中に確認してください。

8．解答に使用する言語について担当教員から指示がある場合は，その指示に従ってください。特に指示がない場合，授業実施に用いられていない言語での解答を希望する場合は，事前に担当教員の許可を得なければなりません。

9．不正行為をした場合にはその科目は 0 点となり，「同志社女子大学学生懲戒規程」により厳正に対処します。

10．その他試験中は，すべて監督者の指示に従ってください。

追 試 験

定期試験受験資格のある学生が，病気，事故，その他正当な理由で定期試験を受験できなかった場合，追試験を願い出ることができます。許可された学生は定期試験終了後に行われる追試験を受験することができます。（遅刻・時間の間違い等，本人の不注意によるもの等は対象となりません。）

追試験許可理由

1．病気（欠席した試験日当日の状況説明のある診断書が必要。コピー不可。）
2．公欠事由（P17参照。なお，試験期間中の実習は極力避けること。）
3．就職採用試験（企業側の証明書が必要。単なる会社訪問等は対象外。）
4．交通機関の延着（延着証明書必要。ただし，ホームページ上で発行されているWeb版延着証明書は不可。）
5．二親等までの危篤（家族の証明必要）
6．二親等までの葬儀（家族の証明・告別式案内等のコピー必要）
7．「同志社大学互換科目」,「大学コンソーシアム京都互換科目」,「放送大学科目」の定期試験受験。（「大学コンソーシアム京都互換科目」については，受験証明書が必要。また，移動時間に合理性がない場合は不可。）
8．その他教務部長が正当と認めた場合

追試験受験手続

1．欠席した試験日の翌日までに，追試験願を教務課に提出しなければなりません。電話による仮受付も対応します。
2．追試験願には，当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければなりません。証明書類を追試験願と同時に提出できないときは，当該試験実施日より 3 日以内（休日，祝日，休業日を除く）に提出してください。期日までに証明書類が提出されない場合は，当該追試験願を取り消します。

注　　意

1．追試験の時間割は定められた日時にホームページ上で発表します。
2．正当な理由（追試験許可理由と同じ）により，決められた追試験時間割で受験できない場合は，当該科目追試験実施日の事務取扱時間終了時までに教務課へ申し出てください（電話可）。

レポート

レポートは担当教員から随時課される場合や，定期試験に代わるものとして課される場合があります。課題に関する詳細や提出方法については，授業時に教員から直接指示される場合や，マナビーにて通知される場合がありますので，注意してください。

レジュメの印刷

授業で使用するレジュメの印刷を申し込む場合の申込先は，次の表のとおりです。レジュメが必要な日の 3 日前（休日・祝日・休業日を除く）までに申し込んでください。ただし，学部事務室に申し込む場合は，申込期限が異なる場合もあります。

教員区分	科目区分	取扱先
嘱託講師担当科目	全科目	教務課
専任教員担当科目	「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」「教職に関する科目」「学校図書館司書教諭課程科目」	
	上記以外の科目	科目を設置する学科の学部事務室

成　績

成　績

学習の評価は原則として100点法で行います。成績と成績証明書における表示との関係は以下の表のとおりです。

	成績通知書の表示	成績証明書の表示	備　　考
合　　格	100点～ 90点	秀	特に優れた成績を示した。
	89点～ 80点	優	優れた成績を示した。
	79点～ 70点	良	妥当と認められる成績を示した。
	69点～ 60点	可	合格と認められる最低限度の成績を示した。
	S	合格	100点法では評価できない科目の合格。
他大学等の単位認定	N	認定	他大学等で修得した単位の認定。 協定大学等留学に関わる単位の認定。 転学部・転学科等での修得済単位の認定。
不　合　格	59点以下	―――	合格と認められるに足る成績を示さなかった。

注１）成績証明書では，不合格科目の表示はされません。

注２）「同志社大学互換科目」，「金城学院大学互換科目」，「奈良県立医科大学互換科目」，「大学コンソーシアム京都互換科目」，「放送大学科目」は，成績通知書にも合格科目のみNと表示されます。科目名には大学名を付記します。

注３）成績通知書において，教職の教科に関する科目の認定は「教認」，留学による認定の場合は「留認」と記載されます。

成　績　開　示　春学期の成績は９月下旬，秋学期の成績と通年科目の成績は３月下旬に学生に開示します。それ以前の成績に関する照会には応じません。在学生の保証人には翌学期の初旬に成績を通知します。
卒業査定合格者の成績は，学位授与式当日に通知します。

成績に関する質問　成績に関する質問は，成績開示日から一週間以内であれば教務課で文書にて受け付けます。それ以降の質問は受け付けません。

GPA制度について

本学では，2004年度入学生よりGPA（Grade Point Average）制度の導入を行いました。科目ごとの100点法による成績からそれぞれのポイント（GP）を求め，単位あたりの平均値を算出し，学期ごとのGPAと在籍期間中の累積GPAを成績通知書に記載します。修得単位数という“量”の学習成果に加え，成績評価にもとづく学習の“質”を総合的に評価できることになります。このGPA制度の導入により，学期ごとの学習成果と推移がより明確となり，より細やかな学習指導の活用と，学習意欲の向上，無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることなどを目的として導入されました。

●100点法による成績，評価，GP（Grade Point）との関係

成　績	評　価	GP
100点～ 90点	秀	4.5 ～ 3.5
89点～ 80点	優	3.4 ～ 2.5
79点～ 70点	良	2.4 ～ 1.5
69点～ 60点	可	1.4 ～ 0.5
59点以下	不合格	0.0
S	合格	―――
N	認定	―――

●GPAの算出方法

・GPの基本算出方法

GP　＝（100点法による成績　－　55）×1/10

・GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{\text{学期の［（登録科目の単位数）×（登録科目で得たGP）］の総和}}{\text{（学期登録科目の単位数）の総和}}$$

・累積GPAの算出方法

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{在籍期間中の［（登録科目の単位数）×（登録科目で得たGP）］の総和}}{\text{（在籍期間中の登録科目単位数の総和）}}$$

例えば，学期中の成績が以下の場合，GPAの算出は次のようになります。

授業科目名	単位数	成　績	評　価	GP
聖書A	2	83	優	(83－55) × 1 / 10＝2.8
哲学A	2	75	良	(75－55) × 1 / 10＝2.0
自然科学史	2	58	不合格	0
情報と社会	2	98	秀	(98－55) × 1 / 10＝4.3
SpeakingⅠ	1	82	優	(82－55) × 1 / 10＝2.7
SpeakingⅡ	1	79	良	(79－55) × 1 / 10＝2.4
国際文化交流史	2	65	可	(65－55) × 1 / 10＝1.0
日本文化論	2	0	不合格	0
憲法Ⅰ	2	N	認定	GPA算出対象外
公衆栄養学実習（臨地実習）	1	S	合格	GPA算出対象外

＊成績評価が「合格（S)」,「認定（N)」の科目はGPAの算出からは除外されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2.8\times 2+2.0\times 2+0\times 2+4.3\times 2+2.7\times 1+2.4\times 1+1.0\times 2+0\times 2)}{14} = 1.80$$

したがって，この学生のGPAは1.80となります。GPAの計算において計算式の分母は不合格科目を含め，履修登録をしたすべての科目の合計単位数であることに注意をしてください。

（自身で履修を放棄した科目についても100点法で成績評価されますので，GPAの算出に含まれます。）

○GPA算出除外科目

・原則として履修登録をしたすべての科目がGPA算出対象となります。ただし，成績評価が「合格（S)」,「認定（N)」で単位修得した科目や，卒業要件に算入されない科目はGPAの算出対象科目から除外されます。

○成績証明書・成績通知表への記載について

・成績証明書には，合格科目について評価（秀・優・良・可）のみが記載されます。ただし，海外留学等でGPAが必要な場合には，本人の申請によりGPAの記載が可能です。

・成績通知書には，履修科目すべての100点法による成績及び秀・優・良・可・不合格による評価とGPが記載されます。GPAは，学期ごとのGPAと各科目区分別の累積GPAが記載されます。

証明書

	種　　類	取　扱　い	自動発行機	窓口で申込み	
			日　本　文	日　本　文	英　　文
在学生	成績証明書	教務課	200円	―	1,000円
	在学証明書		100円	―	500円
	卒業見込証明書		100円	―	500円
	教職課程単位修得見込証明書	免許・資格課	100円	―	―
	管理栄養士課程単位修得見込証明書		100円	―	―
	仮学生証	学生支援課	100円	―	―
	上記以外の証明書	教務課もしくは免許・資格課の窓口にお問い合わせください。			
卒業生	成績証明書	教務課	―	300円	500円
	卒業証明書		―	300円	500円
	学力に関する証明書（教職課程）	免許・資格課	―	300円	―
	管理栄養士課程単位修得証明書		―	300円	―
	上記以外の証明書	教務課もしくは免許・資格課にお問い合わせください。			

【証明書自動発行機の利用について】

1．学生証，手数料を用意し，暗証番号（入学時に通知）等を発行機の指示により入力してください。
（仮学生証を発行する際は，学生証の提示は不要です。）

2．当該年度卒業見込者の成績証明書には，５月以降，自動的に卒業見込である旨の文言が入ります。

3．学割証，健康診断証明書も発行可能です。

4．卒業生は証明書自動発行機を利用することはできません。

5．利用時間は，教務課及び免許・資格課窓口の事務取扱時間内とします。土・日は一切稼働していません。祝日は授業日のみ稼働します。（事務室休憩中11：30 ～ 12：30も利用できます。）

6．発行機故障時には，窓口で申し込んでください。

【窓口で申し込む証明書について】

1．手数料は，収入証紙（同志社女子大学）を自動券売機で購入し，申込用紙に貼付してください。

2．日本文，英文以外の言語での発行はできません。英文では発行できない証明書もあります。詳細は窓口で確認してください。

3．交付日は原則として申込日中としますが，混雑時や閉室間際の申込みについては，その限りではありません。なお，卒業生の学力に関する証明書（教職課程）は申込日より１週間後，管理栄養士課程単位修得証明書は申込日より３日後の発行となります。
詳細については，随時窓口でお問い合わせください。

【卒業生の証明書申込方法】

本学ホームページの証明書申込フォーム，窓口で申込みできます。詳細については，本学ホームページで確認してください。

本学ホームページ 卒業生の方へ → 卒業生の証明書申込受付

学芸学部カリキュラム

同志社女子大学 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針），カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

同志社女子大学は，建学の精神に基づき，キリスト教主義教育，国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の３つの教育理念により，良心をもって知識，能力を運用し，社会の礎となって活躍する自立した女性を育成する。本学は，次に掲げる人物で，かつ各学部学科，専攻科，研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）又は修了証書授与の方針に定める基準に到達し所定の卒業又は修了要件を満たした者に学位又は修了証書を授与する。

・キリスト教主義教育により，隣人を愛し他者を思いやるこころを持ち，世の光・地の塩となって他者及び社会に奉仕することのできる人物。
・国際主義教育により，異文化を尊重するとともに，言語や民族の違いを越えてグローバルな視点に立って国際社会で主体的に行動できる人物。
・リベラル・アーツ教育により，深い学術的知識，専門的技能と幅広い教養を持ち，学士にふさわしい分析力，思考力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，リーダーシップ，変化対応力，自己管理力，自己実現力などの基礎的･汎用的能力を持った人物。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

同志社女子大学のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を涵養するとともに，学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し，それぞれの興味や関心に従って自己の進路を切り開く力をつけることができるよう編成されている。

【体系性】

幅広い教養と広い視野を拓くため，全学部学科共通に「共通学芸科目」「キリスト教・同志社関係科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」の各科目区分が設けられ，それぞれの区分に多様な科目が設置されているとともに，多くの他学部他学科科目や他大学科目の履修を認めている。

専門分野のカリキュラムは，「基礎教育科目」や「入門・概論科目」などから「応用・各論科目」「基幹科目」などへと段階的，発展的な科目区分が設けられ，最終的には「卒業研究」や「卒業論文」などにつながるように編成されている。

講義科目，演習科目，実験・実習・実技科目などの多様な授業形態の科目が，学部学科の特性に従ってバランスよく配置されている。

専攻科においては，３専攻固有の科目と各専攻共通科目に区分して科目が設置されている。

大学院においては，専攻及び課程ごとに適切な「類」や「分野」を設けて科目が設置されている。

【教育内容】

キリスト教主義教育，国際主義教育及びリベラル・アーツ教育の３つの教育理念を基本とし，学生の学習意欲を刺激し支援する学習者本位教育活動を展開している。また，どの分野の学問を専攻する場合にも社会のどの分野に進む場合にも必要とされる基礎的・汎用的能力の獲得も重視している。

・学部においては，幅広い教養と広い視野を拓くため，多様な分野の科目が「共通学芸科目区分」に設置されているほか，他学部他学科の科目や他大学の科目を履修する機会が豊富に用意され，国内外の協定大学等への留学の機会も設けられている。
・「キリスト教・同志社関係科目」区分では，キリスト教の歴史や文化を学ぶとともに，本学の建学の精神に触れる機会を共有している。
・「外国語科目」区分には，本学で伝統的に重視されている英語教育科目の他，多様な言語教育科目が設置され，異文化を理解し国際社会で活躍するための基礎的な力である外国語運用能力を身に付けられるようになっている。
・「スポーツ・健康科目」区分には，生涯にわたる健康について多様な側面から学ぶ科目が設置されている。
・専門分野の教育については，各学部学科において深い専門分野の教育が展開されている他，大学での学習方法などを学ぶ初年次教育や自らのキャリアデザインを描き学習のモチベーションを高めるキャリア教育も実践されている。
・免許･資格課程に関しては，原則として全学を対象とした学芸員課程，司書課程，司書教諭課程，日本語教員養成課程，社会福祉主事（任用資格）課程，ピアヘルパーの課程と特定の学科等を対象とした教職課程やその他の課程を設置している。
・専攻科においては，学部教育の基礎の上に，学問分野に関するより高度な技術や知識を備え，社会に貢献することができる女性を育成する教育が実践されている。
・大学院においては，学部教育の基礎の上に，学術の理論及び応用を教授研究し，精深な学識と研究能力を養い，文化の進展に寄与する女性を育成する教育が実践されている。

【教育方法】

・知識・技能を獲得することが主目的の科目，知識・技能を活用することが主目的の科目など，それぞれの科目の特性に適した多様な教育方法が実践されている。教える者と学ぶ者との双方向性や学ぶ者同士の相互性を重視するアクティブ・ラーニングが多様な形で実践されている。

・知識や技能を無批判に獲得するのではなく，「知識を得る」「体験する」「深く考える」「考えをまとめ，他者に伝える」「他者と議論しあるいは相互に評価し合う」「自らの考えを修正し鍛え直す」などの過程を通して，知識や技能を真に自分のものとするとともに，創造性に溢れた発想を涵養する教育が重視されている。

【学修成果の測定方法】

・学修成果の測定方法は科目により異なるが，本学では学修のプロセスで獲得できる多様な能力と学修の結果としての知識や技能などの双方を重視し，それぞれの観点から多様な方法での測定を行う。

・個々の科目の学修成果の測定結果を，学部学科，専攻科，研究科としての到達目標の達成度の測定に活用し，教育力のいっそうの向上に努める。

・本学の学生に卒業時までに身に付けてもらいたい10の力（本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Artsにちなんで DWCLA10：分析力，思考力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，リーダーシップ，思いやる力，変化対応力，自己管理力，自己実現力の10の力）の達成度の測定は，成績評価のほか，在学生アンケート，授業アンケートなどでも行う。

学芸学部 音楽学科

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

学芸学部音楽学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（音楽）の学位を授与する。

（学芸学部 音楽学科 演奏専攻）

【知識・理解】

（専門実技の知識）

・西洋音楽を基軸とした演奏技術向上のための実践的な演奏法を理解している。

・多様な音楽の演奏技術の知識を持っている。

（作品解釈の理解）

・作品解釈のための音楽理論の知識を持っている。

・音楽史の知識を持ち，作品の歴史的価値や時代背景を理解している。

（幅広い知識と教養）

・専門実技以外の幅広い音楽の知識を持ち，音楽が持つ魅力を理解している。

・専門分野以外の幅広い教養を持っている。

・専門領域に関連した英語を理解する知識を持ち，またフランス語，ドイツ語，イタリア語いずれかに関する知識を持っている。

【関心・意欲・態度】

（関心）

・体得した演奏技術及び知識を社会でどう生かすかに強い関心を持っている。

（意欲）

・演奏活動を実践する技術を体得し，音楽の価値観を高める意欲を持っている。

・共同して芸術を創り上げる主体性と意欲を持っている。

（態度）

・専門実技の技術と知識を探求する姿勢と幅広い分野にわたる知識を体得する姿勢を併せ持ち，多様な社会に対応する自立した個人を目指す態度を身に付けている。

・多人数で創り上げる音楽で培った協調することの重要性を認識し，社会の中で調和を保ち，意欲的に社会に貢献する態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
（専門実技の演奏技術）
・専門実技の演奏に必要な技術と表現力を体得し，実践的な活動ができる能力を持っている。
・オペラ・合唱・室内楽・管弦楽・吹奏楽等を含めた協調して創り上げる音楽の技能を体得している。
（音楽探求の基本技能）
・音楽を探求するための情報収集力，分析力を持っている。
・専門実技以外の演奏技術の基礎を体得し，音楽全般を探求できる技能を持っている。
（社会の課題への対処技術）
・社会を豊かにする音楽を発信できる表現力と演奏技術を持っている。
・技術探求，音楽と人との調和，また音楽の枠を越えた知識習得で培った広い視野と想像力を持ち，幅広く社会に働きかける能力を持っている。

（学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻）
【知識・理解】
（音楽理論の理解）
・西洋音楽の理論を理解している。
（幅広い音楽への知識）
・日本及び諸外国の音楽についての知識を幅広く持っている。
・音楽の歴史についての知識を持っている。
（音楽文化へのアプローチ法についての知識）
・音楽文化に対する学問的，療法的，創作的，教育的アプローチのいずれかの方法を理解している。
（幅広い知識と教養）
・専門分野以外の幅広い教養を持っている。
・専門領域に関連した英語を理解する知識を持ち，またフランス語，ドイツ語，イタリア語いずれかに関する知識を持っている。

【関心・意欲・態度】
（関心）
・音楽に関する社会の多様なニーズに対して強い関心を持っている。
・社会における様々な音楽文化の諸課題に強い関心を持っている。
（意欲）
・獲得した知識や能力を社会の様々な課題解決に生かしていこうとする意欲を持っている。
（態度）
・人と協調して社会に参画しようとする主体的な態度を身に付けている。
・自らのキャリアをデザインし，多様な社会に対応する自律した個人を目指す態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
（音楽に関する情報収集能力）
・様々な音楽に関して，それを研究するためのあらゆる情報を集める能力を持っている。
（論理的表現力）
・自らの主張を言葉や音あるいはその他の表現手段によって論理的に展開する力を持っている。
・自らの主張の論理的展開を説得力をもって表現する能力を持っている。
（音楽による表現力）
・音楽創作による表現能力を持っている。
（音楽実践の技能）
・音楽を演奏するための一定の技能を持っている。
・音楽を深く理解するための分析能力を持っている。
（社会の課題への対処技術）
・社会を豊かにする音楽を発信できる表現力を持っている。

・音楽文化研究，音楽と人との調和，また音楽の枠を越えた知識習得で培った広い視野と想像力を持ち，幅広く社会に働きかける能力を持っている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

（学芸学部 音楽学科 演奏専攻）

学芸学部音楽学科演奏専攻のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業時の到達目標を達成できる編成となっている。そのために個人レッスンによる専門実技を教育の軸として，音楽の基礎となる科目，音楽の専門家として身につけるべき教養に資する科目，キャリア形成のための科目など，音楽を媒体として社会のあらゆる場面で活躍できる人材を育成する科目を設置している。

【体系性】

・「基礎教育科目区分」，「入門・概論科目区分」から，「応用・各論科目区分」などの講義・演習・実技科目へと発展的に学習できるカリキュラムとなっている。
・「応用・各論科目区分」は，パフォーマンスに関する分野，音楽文化に関する分野，音楽理論に関する分野，音楽教育に関する分野，キャリアデザインに関する分野の５つの分野から構成され，音楽の多様な科目が分野ごとに適切に配置されている。
・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

・「基礎教育科目区分」では，西洋音楽の基礎知識を身につけるため，楽典・ソルフェージュ・和声法の講義・演習を通して音楽理論を学ぶ。
・「入門・概論科目区分」では，音楽を探求するために，音楽史の知識を修得し，作品の歴史的価値や時代背景を理解する。また，そのための情報収集力，分析力を身につける。
・初年次教育として，「音楽演奏基礎演習」を設置し，大学での学びとその技法について理解する。
・「応用・各論科目区分」では，以下の５つの分野において，発展的に学ぶ内容となっている。
・パフォーマンスに関する分野では，４年間の学びの中心となる専門実技の個人レッスンにより演奏技術向上のための実践的な演奏法を理解し，社会を豊かにする音楽を発信できる表現力と演奏技術を体得する。さらに，コース独自の特性を生かした「オペラ」「合唱」「室内楽」「管弦楽」「吹奏楽」などの，協調して創り上げる音楽の技能を体得し，社会の中で調和を保ち，主体性を持って社会に貢献する態度を身につける。
・音楽文化に関する分野では，入門・概論科目をもとに，過去から現代までの幅広い音楽分野について理解を深め，多様な社会に対応できる自立した個人としての態度を養う。
・音楽理論に関する分野では，基礎教育科目をもとに，さらに高度な講義・演習によって，より深い作品解釈力を身につける。
・音楽教育に関する分野では，学校教育の場で教えるための教職に関する科目だけでなく，地域に根ざした生涯教育としての音楽教育にも視野を広げ，ニーズに応じた具体的な指導法を，実践的な演習により体得する。
・キャリアデザインに関する分野では，より実践的で多様な演習により，音楽を通して社会に貢献できる能力・態度を身につける。
・オーケストラコンサート，定期演奏会，オペラ公演，アウトリーチ活動などに参加することにより，体得した演奏技術と表現力，専門知識などを用いて，社会を豊かにする音楽を発信する能力や，意欲的に社会に働きかける態度を養う。
・学部統合科目では，学芸学部の３学科がそれぞれの特徴を生かして開講する科目を置いている。
・全学共通科目では，専門分野以外の幅広い教養を身につけ，音楽の枠を超えた知識を習得し，広い視野と想像力を持ち，幅広く社会に対応できる能力を養う。特に外国語科目の区分では，専門領域に関連した英語を理解する知識と，フランス語，ドイツ語，イタリア語いずれかに関する知識を身につける。
・学部での教育・研究を基礎とし，より高度な演奏技術の体得と専門知識の修得をめざして，１年間の専門課程としての音楽専攻科を設置。
・教職課程の科目を履修することにより，中学校教諭一種免許状（音楽）及び高等学校教諭一種免許状（音楽）の取得を可能とする。

【教育方法】

・専門実技については，一貫した個人レッスンによる指導を行う。その他の科目については，それぞれの特質により，講義・演習・実技といった技術・知識の体得にふさわしい形態を取る。
・アクティブ・ラーニング等の主体的な学びの実践として，演奏発表や研究発表を目的とした科目を「応用・各論科目区分」に設置し，学生の主体的な意見を取り入れ，学生主導の発表の機会を設ける。

【学修成果の測定方法】

・個人実技科目については，実技試験を行い，複数の教員がその成果を測定する。

・その他の講義・演習・実技科目については，定期試験，レポートによる評価，授業での貢献度，発表内容等，それぞれの科目の到達度を各担当教員が評価する。

（学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻）

学芸学部音楽学科音楽文化専攻のカリキュラムは，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業時の到達目標を達成できる編成となっている。そのために基礎的な科目をもとに音楽に関する多彩な学問領域の知識を修得しつつ，音楽学，音楽療法，音楽創作の 3 つの科目群にわたって，体系的に専門性を深めることにより，音楽を媒体として社会のあらゆる場面で活躍できる人材を育成する科目を設置している。

【体系性】

・「基礎教育科目区分」，「入門・概論科目区分」から，「応用・各論科目区分」などの講義・演習・実技科目へと発展的に学習できるカリキュラムとなっている。

・「応用・各論科目区分」は，音楽文化に関する分野，パフォーマンスに関する分野，音楽理論に関する分野，音楽教育に関する分野，キャリアデザインに関する分野の 5 つの分野から構成され，多様な科目が分野ごとに適切に配置されている。

・音楽文化に関する分野の科目は，さらに音楽学，音楽療法，音楽創作の 3 つの科目群に分かれて段階的に配置されている。

・これらの学びの集大成として「ゼミナール科目区分」が置かれている。

・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】

・「基礎教育科目区分」では，西洋音楽の基礎知識を身につけるため，楽典・ソルフェージュ・和声法の講義・演習を通して音楽理論を学ぶ。

・「入門・概論科目区分」では，音楽を探求するために，音楽史の知識を修得し，作品の歴史的価値や時代背景を理解する。また，そのための情報収集力，分析力を身につける。

・初年次教育として，「音楽文献講読Ⅰ」「音楽文化基礎演習」を設置し，大学での学びとその技法について理解する。

・「応用・各論科目区分」では，以下の 5 つの分野において，発展的に学ぶ内容となっている。

・音楽文化に関する分野では，入門・概論科目をもとに，さらに音楽学，音楽療法，音楽創作の 3 つの科目群に置かれた，より専門性の高い科目を体系的に履修することで音楽分野についての理解を深め，多様な社会に対応できる自立した個人としての態度を養う。

・パフォーマンスに関する分野では，声楽及び様々な楽器の実技レッスンに加え，協調して創りあげる合唱や合奏などを通して，音楽の技能と表現力を体得する。

・音楽理論に関する分野では，基礎教育科目をもとに，さらに高度な講義・演習によって，より深い作品解釈力を身につける。

・音楽教育に関する分野では，学校教育の場で教えるための教職に関する科目だけでなく，地域に根ざした生涯教育としての音楽教育にも視野を広げ，ニーズに応じた具体的な指導法を，実践的な演習により体得する。

・キャリアデザインに関する分野では，より実践的で多様な演習により，音楽を通して社会に貢献できる能力・態度を身につける。

・「ゼミナール科目区分」では， 4 年間の学びの集大成として， 2 年間にわたり音楽学，音楽療法，音楽創作の 3 つのいずれかの分野の研究を行い，卒業研究あるいは卒業作品を完成させる。

・オーケストラコンサート，定期演奏会，オペラ公演，アウトリーチ活動などに参加することにより，体得した演奏技術と表現力，専門知識などを用いて，社会を豊かにする音楽を発信する能力や，意欲的に社会に働きかける態度を養う。

・学部統合科目では，学芸学部の 3 学科がそれぞれの特徴を生かして開講する科目を置いている。

・全学共通の幅広い分野の科目では，専門分野以外の幅広い教養を身につけ，音楽の枠を超えた知識を習得し，広い視野と想像力を持ち，幅広く社会に対応できる能力を養う。特に外国語科目の区分では，専門領域に関連した英語を理解する知識と，フランス語，ドイツ語，イタリア語いずれかに関する知識を身につける。

・教職課程の科目を履修することにより，中学校教諭一種免許状（音楽）及び高等学校教諭一種免許状（音楽）の取得を可能とする。また，これらの教員免許状の取得を条件として，現代こども学科の所定の科目を履修することにより，一定の人数に限り小学校教諭一種免許状の取得を可能とする。

・希望により，日本音楽療法学会認定の音楽療法士の受験資格，及び全国音楽療法士養成協議会認定の音楽療法士（１種）の取得を可能とする。

【教育方法】
・演習科目は少人数制により，一人一人にきめ細やかな配慮をしながら教育を行っている。
・実技科目については，一貫した個人レッスンによる指導を行う。その他の科目については，それぞれの特質により，講義・演習・実技といった知識・技術の体得にふさわしい形態を取る。
・アクティブ・ラーニング等の主体的な学びの実践として，演奏発表や研究発表を目的とした科目を「応用・各論科目区分」に設置し，学生の主体的な意見を取り入れ，学生主導の発表の機会を設ける。

【学修成果の測定方法】
・個人実技科目については，実技試験を行い，複数の教員がその成果を測定する。
・その他の講義・演習・実技科目については，定期試験，レポートによる評価，授業での貢献度，発表内容等，それぞれの科目の到達度を各担当教員が評価する。

学芸学部 メディア創造学科 （2018年度以降入学生適用）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
学芸学部メディア創造学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（メディア創造）の学位を授与する。

【知識・理解】
・メディア分野全般における基本的な知識や技術を修得している。
・専門分野における高度な知識や，関連した他の多様な学問・芸術分野を横断する知識を必要性に応じて修得している。
・情報技術及びメディアの発達が社会全般に与える影響を理解し，その変化を予見することができる。
・専門分野以外に幅広い分野の教養を持っているとともに，英語運用能力を有している。

【関心・意欲・態度】
・常に社会情勢に関心を持ちながら，自らの考えに基づき創造的な指針を持って生きていくことができる。
・社会の多様な問題に対して主体的に関わり，創造的な問題解決へと導こうとする意欲を持っている。
・他者と共生するための積極的かつ柔軟な態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
・メディア分野全般における基本的な技術とその活用方法を修得している。
・各人のキャリア志向に応じた先端・専門技術を必要性に応じて修得している。
・基礎的技術と専門的技術を組み合わせ，分野横断的な視点による独自の技術を生み出そうとする能力を獲得している。
・メディアを取り扱う者として，情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力を獲得している。
・メディアに関わる技術を用いてユニークな発想を生み出すこと，自己を表現すること，創造的に問題を解決することができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
【体系性】
・理論を学ぶ講義形式と，実技を中心とした演習形式をバランスよく設置し，相互に補完しあう体系を構築している。
・「アートとデザイン」「マスメディアとカルチャー」「エンターテインメントとビジネス」「メディアとテクノロジー」の主要な 4 つの分野に適切な科目を設置している。
・分野横断的に専門知識又は技術を修得し，複合的発想による独自技術を生み出す力を醸成するため，分野を固定しない幅広い履修を可能としている。
・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】
・初年次では，各分野の基礎科目を座学又は演習形式で横断的に学ぶことにより，メディア分野全般における基本的な知識及び技術を修得

する。
・初年次教育として，「基礎教育科目区分」及び「入門・概論科目区分」の科目により，授業への主体的参加，情報機器操作，自己表現といった基礎的能力を修得する。
・早期（2年次）からゼミ形式による授業を実施し，ディプロマ・ポリシーで示されたメディア創造学科生として必要な態度や能力を主体的に学ぶための基軸とする。
・「アートとデザイン」科目群においては，アートとデザインに関する技法・理論の修得及び理解を通して，自己表現力と創造的な問題解決ができる力を醸成する。
・「マスメディアとカルチャー」科目群においては，マスコミやジャーナリズムなど，マスメディアの仕組みやその文化的・社会的背景の学びを通し，社会情勢への関心，社会の多様な問題に主体的に関わる姿勢を醸成する。
・「エンターテインメントとビジネス」科目群においては，エンターテインメントやビジネス業界におけるプロデューサーの役割を理解し，プランニングやマネジメントに関する実践的な学習を通して，情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力を醸成する。
・「メディアとテクノロジー」科目群においては，多様な情報技術の理解と実践を通して，情報技術及びメディアの発達が社会全般に与える影響を理解し，その変化を予見する能力を醸成する。
・「グローバルメディア」科目群においては，メディアをテーマとした英語及び国際情勢に関する学習を行う。
・「学部統合科目区分」には，学芸学部の3学科がそれぞれの特徴を生かして開講する科目を置いている。
・初年次よりキャリアに関する基礎科目を設置し，卒業後を見据えたキャリア意識付けを行う。
・他者と共生するための積極的かつ柔軟な態度を学ぶため，外部（地域・企業・公的機関等）との協同形式による授業を設置する。
・全学共通科目により，専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け，広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
・外国語に関しては，英語運用能力を身に付ける。
・高等学校教諭一種免許状（情報），上級情報処理士，ウェブデザイン実務士の課程を設置している。

【教育方法】
・授業全般にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ，自らの考えに基づいた創造的な指針を生み出す力を醸成する。
・講義形式の授業においては，適宜グループワーク・調査・制作・発表等の課題を課し，知識の修得だけではなく，主体的に学びユニークな発想を生み出す力を醸成する。
・演習形式の授業においては，少人数制によるきめ細やかな指導と目標設定を行うことで，実践的な技術を身に付けると共に自己表現力と問題解決力を醸成する。
・最新情報機材を備えた演習室及び工作室を設置し，授業及び授業外学習に使用する。
・撮影，音響，展示，デザイン等の専門スタッフで組織されたメディアサポートセンターを設置し，授業及び授業外学習・制作等における技術サポートを行う。
・ゲスト講師によるワークショップ・講演会・展覧会などを随時実施し，多様な視点を持つきっかけとする。

【学修成果の測定方法】
・講義形式の授業においては，試験及びレポートを中心としつつ，グループワーク・調査・制作・発表などの課題に対する評価も重視する。
・演習形式の授業においては，原則として，授業内で学び修得した力の集大成である最終課題の制作をもって評価する。

学芸学部 情報メディア学科 （2017年度以前入学生適用）

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
学芸学部情報メディア学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（情報メディア）の学位を授与する。

【知識・理解】
・情報メディア分野全般における基本的な知識や技術を修得している。
・専門分野における高度な知識や，関連した他の多様な学問・芸術分野を横断する知識を必要性に応じて修得している。
・情報技術及びメディアの発達が社会全般に与える影響を理解し，その変化を予見することができる。
・専門分野以外に幅広い分野の教養を持っているとともに，英語運用能力を有している。

【関心・意欲・態度】
・常に社会情勢に関心を持ちながら，自らの考えに基づき創造的な指針を持って生きていくことができる。
・社会の多様な問題に対して主体的に関わり，創造的な問題解決へと導こうとする意欲を持っている。
・他者と共生するための積極的かつ柔軟な態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
・情報メディア分野全般における基本的な技術とその活用方法を修得している。
・各人のキャリア志向に応じた先端・専門技術を必要性に応じて修得している。
・基礎的技術と専門的技術を組み合わせ，分野横断的な視点による独自の技術を生み出そうとする能力を獲得している。
・メディアを取り扱う者として，情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力を獲得している。
・メディアに関わる技術を用いてユニークな発想を生み出すこと，自己を表現すること，創造的に問題を解決することができる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
【体系性】
・理論を学ぶ講義形式と，実技を中心とした演習形式をバランスよく設置し，相互に補完しあう体系を構築している。
・「メディアデザイン」「メディアコミュニケーション」「メディアテクノロジー」「メディアプロデュース」の 4 つの分野に適切な科目を設置している。
・分野横断的に専門知識又は技術を修得し，複合的発想による独自技術を生み出す力を醸成するため，分野を固定しない幅広い履修を可能としている。
・全学共通科目に関しては，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】
・初年次では，各分野の基礎科目を座学又は演習形式で横断的に学ぶことにより，情報メディア分野全般における基本的な知識及び技術を修得する。
・初年次教育として，「基礎教育科目区分」及び「入門・概論科目区分」の科目により，情報機器操作，自己表現における基礎的能力を修得する。
・早期（ 2 年次）からゼミ形式による授業を実施し，ディプロマ・ポリシーで示された情報メディア学科生として必要な態度や能力を主体的に学ぶための基軸とする。
・「メディアデザイン科目」群においては，デザイン技法・理論の修得及び理解を通して，自己表現力と創造的な問題解決ができる力を醸成する。
・「メディアコミュニケーション科目」群においては，マスコミやジャーナリズムの仕組みやその文化的・社会的背景の学びを通し，社会情勢への関心，社会の多様な問題に主体的に関わる姿勢を醸成する。
・「メディアプロデュース科目」群においては，プロデューサーという役割への理解・認識を深め，プランニングやマネジメントに関する実践的な学習を通し，情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力を醸成する。
・「メディアテクノロジー科目」群においては，多様な情報技術の理解と実践を通して，情報技術及びメディアの発達が社会全般に与える影響を理解し，その変化を予見する能力を醸成する。
・「メディアイングリッシュ科目」群においては，メディアをテーマとした英語学習を行う。
・「学部統合科目区分」には，学芸学部の 3 学科がそれぞれの特徴を生かして開講する科目を置いている。
・初年次よりキャリアに関する基礎科目を設置し，卒業後を見据えたキャリア意識付けを行う。
・他者と共生するための積極的かつ柔軟な態度を学ぶため，外部（地域・企業・公的機関等）との協同形式による授業を設置する。
・全学共通科目により，専門分野以外の幅広い知識と教養を身に付け，広い視野と想像力を養うとともに豊かな人間性を涵養する。
・外国語に関しては，英語運用能力を身に付ける。
・高等学校教諭一種免許状（情報），上級情報処理士，ウェブデザイン実務士の課程を設置している。

【教育方法】
・授業全般にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ，自らの考えに基づいた創造的な指針を生み出す力を醸成する。
・講義形式の授業においては，適宜グループワーク・調査・制作・発表等の課題を課し，知識の修得だけではなく，主体的に学びユニーク

な発想を生み出す力を醸成する。
・演習形式の授業においては，少人数制によるきめ細やかな指導と目標設定を行うことで，実践的な技術を身に付けるとともに自己表現力と問題解決力を醸成する。
・最新情報機材を備えた演習室及び工作室を設置し，授業及び授業外学習に使用する。
・撮影，音響，展示，デザイン等の専門スタッフで組織されたメディアサポートセンターを設置し，授業及び授業外学習・制作等における技術サポートを行う。
・ゲスト講師によるワークショップ・講演会・展覧会などを随時実施し，多様な視点を持つきっかけとする。

【学修成果の測定方法】
・講義形式の授業においては，試験及びレポートを中心としつつ，グループワーク・調査・制作・発表などの課題に対する評価も重視する。
・演習形式の授業においては，原則として，授業内で学び修得した力の集大成である最終課題の制作をもって評価する。

学芸学部 国際教養学科

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
学芸学部国際教養学科は，全学共通の学位授与の方針に基づき，知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に学士（国際教養学）の学位を授与する。

【知識・理解】
（日本に関する理解）
・日本の歴史や政治，社会，文化に関する幅広い知識と教養を持っている。
（留学する国に関する理解）
・留学する国の歴史や政治，社会，文化に関する幅広い知識と教養を持っている。
（国際関係に関する理解）
・国際関係学に関する幅広い知識と教養を持ち，現在の世界における基本的な諸課題について理解している。
・日本及び留学する国の歴史や政治，社会，文化の類似点や相違点について理解している。
（言語・言語教育に関する理解）
・英語及び日本語に関する言語学的知識と個人や社会における言語の役割に関する幅広い知識と教養を持っている。
（専門分野以外の幅広い知識と教養）
・専門分野以外の幅広い知識と教養を持っている。
・異文化間の相互理解のために必要な知識を持っている。
・フランス語，中国語，スペイン語のいずれかに関する基礎知識を持っている。

【関心・意欲・態度】
（グローバルな視点）
・日本や留学する国をはじめとする世界の事情について強い関心を持っている。
・異文化及び異文化理解について強い関心を持っている。
・コミュニケーションの手段としての言語について強い関心を持っている。
・グローバル市民として，相手の立場を尊重し，相手を積極的に理解しようとする柔軟な態度を身に付けている。
（主体性）
・自ら主体的に課題を発見し，また，自らの留学体験を様々な社会問題の解決に生かしていこうとする意欲を持っている。
・自らの置かれた立場でリーダーシップを発揮しようとする意欲を持っている。
・自らのキャリアをデザインし，実現しようとする意欲を持っている。

【表現・技能・能力】
（英語運用能力）
・留学先大学の授業での発表や議論に必要な高度かつ総合的な英語運用能力を持っている。
・日本及び留学する国の歴史や文化及び現在の社会について英語で説明できる力を持っている。

（情報収集力，情報処理力，分析力）
・日本語及び英語の二言語での情報収集力，情報処理力，分析力を持ち，英語による論文を作成する学識を身に付けている。
（批判的・論理的思考力）
・物事を批判的に捉え，様々な可能性を多角的な観点から検討し，筋道を立てて考える力を身に付けている。
（構想力・創造力）
・留学体験を生かして社会に貢献するための構想力や創造力を持っている。
（プレゼンテーション力）
・自らの意見や考えを口頭及び文章で論理的に展開し，相手を説得する力を持っている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
学芸学部国際教養学科のカリキュラムの最大の特徴は，英語圏の大学への１年間の留学を４年間の課程の中核に置いていることである。本学科では，ディプロマ・ポリシーに掲げた卒業時の到達目標を達成できるよう，この１年間の留学を軸としてカリキュラムを編成している。なお，グローバル社会で発表・議論できるレベルの高度な運用能力を身に付けるため，本学科の専門分野の科目は一部の科目を除き，英語で実施することを原則としている。

【体系性】
・本学科の専門分野の科目は「基礎教育科目区分」「国際教養科目区分」「キャリアデザイン科目区分」「演習科目区分」により段階的に配置されている。留学期間が２年次秋学期から３年次春学期に設定されているため，本学科のカリキュラムは，留学前の３学期，留学中の２学期，帰国後の３学期という３つの段階に区分される。
・「学部統合科目区分」には，学芸学部の３学科がそれぞれの特徴を生かして開講する科目を置いている。
・本学科の専門分野の科目は講義科目であっても，教員及び学生がコミュニケーションをとりながらインタラクティブに進められる。「基礎教育科目区分」「演習科目区分」の科目はすべて演習科目であり，「国際教養科目区分」「キャリアデザイン科目区分」の科目は講義と演習を合わせた形態で実施される。
・全学共通科目は，全学のカリキュラム・ポリシーに従って各科目区分に科目が設置されている。さらに，他学部他学科や他大学の多様な科目を履修する機会を提供している。

【教育内容】
１年間の留学を通して異文化を体得し，グローバル市民として相互理解のために必要な知識とグローバルな視点を獲得するとともに，国際理解を推進する態度及び信条を養う。グローバル社会で通用する論理的思考力及びコミュニケーション力を培うことは言うまでもなく，自ら課題を発見し問題を解決しようとする主体性を養い，留学を通して得た知識や態度を問題解決に生かせる構想力及び創造力を確立する。
(1) 基礎教育科目区分
・留学に必要な英語４技能に加え，アカデミック・スキルについて学ぶ。
・自分自身の見解を論理的かつ効果的に発信する力を訓練することを通して，留学先で必要となる，高度かつ総合的な英語運用能力を身に付ける。
・帰国後には，留学で培った英語運用能力を活用し，論理的思考力，分析力やコミュニケーション能力を伸ばすため，Readingを基盤としてディスカッション技法やディベート技法，通訳技法を訓練する。
(2) 国際教養科目区分
・本区分は「言語研究」「日本研究」「地域研究」「国際関係学」「留学科目」の５つの科目群で構成されている。このうちの「言語研究」「日本研究」「地域研究」「国際関係学」は，本学科が提供する専門分野の４本の柱であり，日本に関する理解，留学する国に関する理解，国際関係学に関する理解，言語・言語教育に関する理解を身に付ける。
・原則として，１年次ではそれぞれの分野の入門科目，２年次ではそれぞれの発展的内容を学び，留学に必要な基礎知識を身に付けるとともに，留学先大学において自らが深める研究テーマを探る。
・留学に関する留意事項や留学手続に関する理解を深め，留学先となる英語圏の国や大学の特徴等の調査研究を行う。留学を終えて帰国した学生の体験談なども参考にしながら留学準備を進める。これらの情報をもとにして自らの研究テーマや学習スタイルに適した留学先大学を選定する。
・１年間の留学期間は，留学先大学の科目を履修して知見を深めるとともに，各自の研究テーマに沿って個人研究・調査を実施する。 帰国後に本学で履修する「国際教養科目区分」の４分野のいずれかに関連した分野での学習を深めることが期待される。
・帰国後の３学期間は，留学を通して培われた知識と関心をもとに自らの卒業研究を進め，「国際教養科目区分」の４分野における専門的

知見を深める。

(3) キャリアデザイン科目区分

・留学前から将来を見据えたグローバル社会におけるキャリアについて考え，帰国後はキャリア科目やインターンシップ科目，グローバル・リーダーを育成するための科目を履修し，自らのキャリアについて具体的に考える。

(4) 演習科目区分

・日本語及び英語の二言語での情報収集力，情報処理力，分析力及び発信力を身に付ける。

・基礎ゼミ科目では，留学前の 3 学期間において，初年次教育の一環として批判的読解や論理的思考について学び，日本及び海外の大学で発表，議論する力となるアカデミック・スキルを身に付ける。

・目的意識を持った留学となるように，各々が研究テーマを深め，リサーチ内容や研究方法について検討する。留学を通して深めた専門的知見をもとに卒業研究を行い，最終成果として英語による卒業論文を作成する。

(5) 学部統合科目

・学芸学部の 3 学科がそれぞれの特徴を生かして開講する。

(6) 共通学芸科目区分等

・専門分野以外の幅広い知識と教養を持つとともに，キリスト教圏で学ぶことへの備えについての理解も深める。

・英語以外の外国語に関しては，留学先の英語圏において汎用性の高いフランス語，中国語，スペイン語の 3 言語から一言語を選択必修とする。

【教育方法】

・「基礎教育科目区分」「国際教養科目区分」の科目においては，全般的にプレゼンテーションやディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を多く取り入れて授業を行う。

・演習科目においては，グループ・ワーク，フィールド・ワーク，プレゼンテーション，ディスカッションを中心に進める。

・留学中に進める個人研究･調査に関する指導は，本学の担当教員が，学生から毎月オンラインで提出される研究報告（マンスリー･レポート）や電子メール等で適宜行う。また，他国及び他大学に留学中の学生数人と担当教員をオンライン・会議システムで結び，個人研究・調査の中間発表を行い，グループ間での公開ディスカッションと指導を行う。

・留学前後の発表会や学びの集大成である卒業論文発表会を公開プレゼンテーション形式で行うことにより，論理的思考力とプレゼンテーション力を学科の 4 年間の学びを通して実践的かつ体系的に磨く。そして，ゼミや学年を越えて質疑応答やフィードバックを行い，学び合うことによって経験の定着や学びの深化を図る。また，これらの運営を学生が主体的に担うことを通して，アクティブに学ぶ姿勢を育み，リーダーシップに対する意識を高める。

【学修成果の測定方法】

・平常試験，定期試験，レポート，グループワークでの貢献度，発表内容により学習成果を測定する。

・外部評価試験であるIELTS™，TOEFL®，TOEIC®を複数回受験し，客観的な英語力の推移を測定する。

・基礎ゼミは，評価の信頼性・公平性を向上させるため複数の教員で評価を行う。

・留学中の個人研究成果及び卒業論文については，ルーブリックやポートフォリオを活用して評価する。

・留学前後の発表会，卒業論文発表会は，学年を越えた公開プレゼンテーション形式で行い，各段階でのプレゼンテーション力と論理的思考力を評価する。

・卒業研究ゼミにおけるプロジェクトについてはルーブリックを用いて評価する。

同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

「DWCLA10」について

■ DWCLA10とは

本学が教育理念の１つとしている**リベラル・アーツ教育では**，幅広い学習を通して広い視野を拓く**教養教育と**深い知識や技能を体系的に身につける**専門教育に加え**，どの分野の学問を専攻する場合にも，また社会のどの分野に進む場合にも必要とされる，**学士としての基礎的・汎用的能力の獲得が重視されます**。

本学ではこれまでもリベラル・アーツ教育を実践しこのような基礎的・汎用的能力の涵養に力を注いできましたが，**学生の皆さんにこのことをよりよく理解してもらうために，基礎的･汎用的能力を，わかりやすい言葉で具体的に表現する**ことになりました。これが**「同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力」**（略して，本学の英語名称であるDoshisha Women's College of Liberal Arts にちなんで「DWCLA10」）です。

DWCLA10の個々の力は次ページのとおりで，それぞれの力についての説明は，定義ではなく例示となっています。**これらの力は学生の皆さんにとって卒業後の長い人生（キャリア）においてどの分野に進む場合にも共通して必要となるものであり，自立した社会人となるための基礎力となるものです。就職時にも重視される力でもあり，しっかりと身につけてもらいたい**と考えています。

■ DWCLA10のシラバス上での表示について

本学はこのような基礎的・汎用的能力の涵養にも力を注いでいる大学であることを学生の皆さんに知ってもらい，このような力の獲得にさらに自覚的に取り組んでもらいたいと考えています。しかし，これらの基礎的・汎用的能力には，それ自体を教えることやそれ自体を学ぶことが難しいものもあります。その多くは，学問体系を修得していく過程や，課外活動等に真剣に取り組む過程で結果として獲得できるものです。

そこで本学では，個々の授業科目の**シラバスの最後に表示される『獲得が期待される基礎的･汎用的能力DWCLA10』の欄に，その科目の履修を通して結果として身につけることが期待されるDWCLA10の力のいくつかを示すことになりました。**（この10の力以外の基礎的･汎用的能力の獲得が特に期待される授業では，その他の力が記載されている場合もあります。）これによって，**学生の皆さんに，知識や技能の修得のみではなくこのような基礎的・汎用的能力の獲得も重要であること，本学の教育ではそのことが重視されていることを理解してもらい，よりいっそう自覚的に授業に臨む契機としてもらいたいと考えています。これらの力は，各科目のテーマや課題に真剣に取り組み，壁にぶつかったときに考え工夫し行動しそれを１つ１つ乗り越えることによって身につくものだからです**。ただし，１つの科目でDWCLA10の内のいくつかの力が目に見えて身につくというものではありません。これらの力は卒業までに履修するすべての科目の積み重ねによって，あるいは課外活動等をも通して，少しずつ獲得していくことができるものであることを理解してください。授業期間終了後に「シラバスに記載のDWCLA10の能力が身につくような指導はしてもらえなかった」と考えるのは早計であり，そのように考える前に自分自身はその授業にどのように臨んだかを振り返ってもらいたいと考えています。

「この科目の勉強をしていてそれが何になるんだろう」と迷いが生じ興味を失っていくことがときにはあるかも知れません。そのようなときには，「獲得した知識は卒業後の人生に直接は役立たないものもあるかもわからないが，その科目の**真剣な学習過程（読書，調査，思考，議論，体験，発表，レポート作成など）を通して得られる基礎的･汎用的能力は，生きていく上での確実な力となる**」ことを理解して積極的な姿勢で授業に取り組んでほしいと考えています。

学生の皆さんが，このようなDWCLA10の取組みの趣旨をよく理解し，自らの将来を切り開く力をしっかりと身につけられることを期待します。

■ アクティブ・ラーニング（能動的学習）とDWCLA10

いかにしてDWCLA10の力を身につけるか。答えの１つはアクティブ・ラーニングにあります。アクティブ・ラーニングとは，知識・技能を無批判に獲得するのではなく，①深く考える，②考えをまとめる，③他者に伝える，④他者と議論しあるいは相互に評価し合う，⑤自らの考えを修正し鍛え直す，などの過程を通して知識・技能を真に自分のものとする能動的な学習のことです。課題に取り組む，調査する，体験する，制作するなどもアクティブ・ラーニングです。

これらのアクティブ・ラーニングは，大学での基本的な学習の方法であり，**DWCLA10の獲得に必要不可欠な学習方法です。**主として演習科目，実験・実習科目，ゼミ科目，インターンシップ科目などにおいて多く実践される学習方法ですが，講義科目でも様々な工夫により実践されています。いずれの場合にもアクティブ・ラーニングには，事前の準備学習が大前提になります。そのため，**全科目のシラバスに『準備学習等の内容』という項目が加わっています。**

学生の皆さんはその趣旨を理解し，授業外で十分な準備学習を行って授業に臨み，授業で実施されるアクティブ・ラーニングに積極的に参加するよう心がけてください。そのことにより，学生の皆さんが，深い専門知識・技能，広い教養に加え，基礎的・汎用的能力であるDWCLA10の力をしっかりと獲得されることを期待します。

DWCLA10：同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力

1．分析力
- 情報を収集し分析する力
- 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する情況把握力

2．思考力
- 自ら考える力
- 論理的に思考する能力

3．創造力
- 既存の概念に束縛されない自由な発想力
- 既存のものを組み合わせて新たな価値を生み出す力

4．プレゼンテーション力
- 自分の意見を分かりやすく伝える発信力
- 説得力

5．コミュニケーション力
- 世代，国籍，専門を越えた意思疎通・共感力
- 外国語能力
- 文字，言葉を越えた意思疎通
- 相手を尊重した聴く力
- 意見の違いや立場の違いを理解する力

6．リーダーシップ
- 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力
- 目的を設定し確実に実行する力
- 他人に働きかけ巻き込む力
- チームで問題解決できるコラボレーション力

7．思いやる力
- 違いを尊重する能力（個人レベル，社会・文化レベル）
- 相手の気持ちになって行動する力

8．変化対応力
- 複眼的な広い視野
- 社会的変化，自己を取り巻く環境変化への対応力
- 過去にとらわれない自由な発想力

9．自己管理力
- 社会のルールや人との約束を守る規律性
- ストレスコントロール力：ストレス発生源に対応する力
- 倫理観

10．自己実現力
- 自己の適性を把握し伸ばす力
- 社会の未来像と自己の将来像を見通す力
- 自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲
- 生涯学習力

カリキュラム

学芸学部　音楽学科

（2021年度以降入学生適用）

学芸学部　音楽学科　教育理念・目標

学芸学部音楽学科は「演奏専攻」〔声楽コース･鍵盤楽器コース･管弦打楽器コース〕と「音楽文化専攻」の 2 専攻 3 コースを置いている。

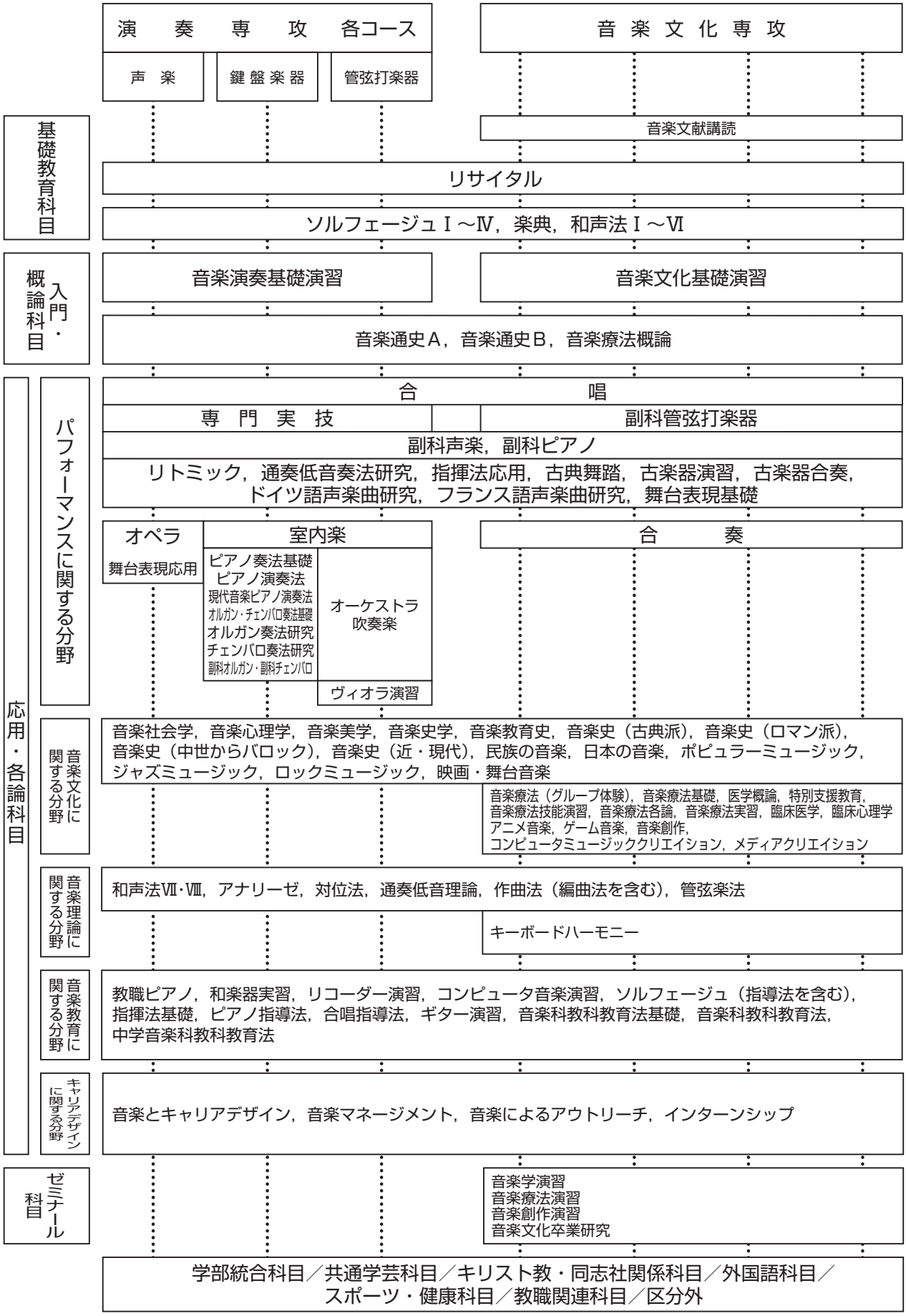
演奏専攻は実技の練磨と芸術作品の研究を主眼とし、音楽文化専攻は人間の文化に組み込まれた音楽文化についての専門的研究を目標とする。両専攻とも、西洋音楽を基軸として西洋の音楽史や和声理論に精通することを出発点としているが、西洋音楽に偏重することのない多様な芸術的価値観を養い、真の教養人を育成する理念を貫くカリキュラムを編成している。

演奏専攻のおもな特徴は、「専門実技」を通して演奏技術の向上を目指すとともに、合唱、オペラ、オーケストラ、室内楽の履修により、音を調和させる重要性を認識し、協働して芸術を創り上げる主体性を培う。また、声楽曲研究及びピアノ演奏法、オルガン・チェンバロ奏法研究において、演奏法及び作品解釈について議論しつつ芸術音楽に対する理解を深める。これらの学びのすべては、卒業後にプロフェッショナルな活動を実践するための礎石となる。

音楽文化専攻は、基礎的な科目をもとに音楽に関する多彩な学問領域の知識を修得しつつ、音楽学、音楽療法、音楽創作の 3 つの科目群にわたって、体系的に専門性を深めることにより、音楽を媒体として社会のあらゆる場面で活躍できる人材を育成する科目を設置している。ゼミナール科目では、 2 年間にわたり音楽学、音楽療法、音楽創作の 3 つのいずれかの分野の研究を行い、卒業研究あるいは卒業作品を完成させる。なお、声楽やピアノ、それ以外の楽器実技や合奏の選択履修も可能であり、演奏技術の向上の機会が多く設けられている。

演奏専攻と音楽文化専攻共通の特徴としては、「基礎教育科目」におけるソルフェージュと和声の徹底した訓練と、「入門･概論科目」「応用・各論科目」における各時代の音楽史の履修により、音楽の専門家としての基礎を磐石なものとする。また、日本音楽、民族音楽、音楽美学、音楽社会学など多様な学問領域に知識の幅を広げる機会は、各自の専門性をより高める手がかりを提供すると同時に、専門領域の狭隘な枠を超えた音楽の統合的理解を促進する。音楽教育においては、学校教育の場で教えるための教職に関する科目だけでなく、地域に根ざした生涯教育としての音楽教育にも視野を広げ、ニーズに応じた具体的な指導法を、実践的な演習により体得する。リサイタルや合唱は、学生たちが相互に演奏を評価し合う場として機能し、各々の音楽的技能や感性を活性化する。

学芸学部　音楽学科　カリキュラム概念図



2021～OE/OB

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次					
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位
基礎教育科目		◎ ◎ ● ●	楽典 和声法Ⅰ [和声法Ⅱ] 和声法Ⅲ ソルフェージュⅠ リサイタル	2 1 1 1 1	◎ ◎ ●	[和声法Ⅰ] 和声法Ⅱ [和声法Ⅲ] 和声法Ⅳ ソルフェージュⅡ	1 1 1		[和声法Ⅱ] [和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅴ ソルフェージュⅢ	 1 1		[和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅵ ソルフェージュⅣ	 1 1
入門・概論科目		● ●	音楽通史A 音楽演奏基礎演習	2 1	●	音楽通史B 音楽療法概論	2 2						
応用・各論科目	パフォーマンスに関する分野	● ● ● ●	専門実技Ⅰ 副科ピアノⅠ 合唱Ⅰ 舞台表現基礎Ⅰ リトミックⅠ	3 1 1 2 2	● ● ● ●	専門実技Ⅱ 副科ピアノⅡ 合唱Ⅱ 舞台表現基礎Ⅱ リトミックⅡ	3 1 1 2 2	● ● ● ●	専門実技Ⅲ 合唱Ⅲ 舞台表現応用Ⅰ ドイツ語声楽曲研究Ⅰ 古典舞踏Ⅰ	3 1 2 2 2	● ● ● ●	専門実技Ⅳ 合唱Ⅳ 舞台表現応用Ⅱ ドイツ語声楽曲研究Ⅱ 古典舞踏Ⅱ	3 1 2 2 2
	音楽文化に関する分野		音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽史（古典派） 音楽美学 民族の音楽 音楽教育史A ポピュラーミュージックA 映画・舞台音楽	2 2 2 2 2 2		音楽史（ロマン派） 音楽史学 日本の音楽 音楽教育史B ポピュラーミュージックB	2 2 2 2 2
	音楽理論に関する分野												
	音楽教育に関する分野								教職ピアノⅠ 和楽器実習 リコーダー演習 コンピュータ音楽演習	2 1 1 2		教職ピアノⅡ [リコーダー演習] [コンピュータ音楽演習]	2
	キャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2					音楽マネージメント	2
学部統合科目													
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]							
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書A キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書B [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2						
外国語科目		● ●	Comprehensive English Ⅰ Communication in English Ⅰ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅱ Communication in English Ⅱ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅲ Communication in English Ⅲ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅳ Communication in English Ⅳ	1 1
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語										
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]							
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等										
合計													

	3年次						4年次						卒業必要最低単位
	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		[和声法Ⅳ] [和声法Ⅴ]			[和声法Ⅵ]								5
入門・概論科目													5
応用・各論科目 パフォーマンスに関する分野	● ● ●	専門実技Ⅴ 合唱Ⅴ フランス語声楽曲研究Ⅰ オペラⅠ 古楽器演習（ブロックフレーテ）	3 1 2 1 1	● ● ●	専門実技Ⅵ 合唱Ⅵ フランス語声楽曲研究Ⅱ 通奏低音奏法研究 オペラⅡ 古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ） 指揮法応用	3 1 2 2 1 1 2	● ●	専門実技Ⅶ 合唱Ⅶ オペラⅢ 古楽器合奏Ⅰ	3 1 2 1	● ●	専門実技Ⅷ 合唱Ⅷ オペラⅣ 古楽器合奏Ⅱ	3 1 2 1	50
応用・各論科目 音楽文化に関する分野		音楽史（中世からバロック） ジャズミュージック	2 2		音楽史（近・現代） ロックミュージック	2 2							
応用・各論科目 音楽理論に関する分野		アナリーゼⅠ 和声法Ⅶ 対位法Ⅰ 通奏低音理論	2 1 1 2		アナリーゼⅡ 和声法Ⅷ 対位法Ⅱ	2 1 1		管弦楽法Ⅰ 対位法Ⅲ	1 1		管弦楽法Ⅱ 対位法Ⅳ 作曲法（編曲法を含む）	1 1 1	
応用・各論科目 音楽教育に関する分野		ソルフェージュⅤ（指導法を含む） 指揮法基礎 ピアノ指導法 ギター演習 音楽科教科教育法A 音楽科教科教育法基礎	1 2 2 1 2 2		ソルフェージュⅥ（指導法を含む） 合唱指導法 [ギター演習] 音楽科教科教育法B 中学音楽科教科教育法	1 2 2 2							
応用・各論科目 キャリアデザインに関する分野		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅠ	2 2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅡ	通年 2		音楽によるアウトリーチⅢ	2		音楽によるアウトリーチⅣ	2	
学部統合科目					学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目													12
キリスト教・同志社関係科目													6
外国語科目													12
スポーツ・健康科目													2
区分外													32
合計													124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．C．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　3単位 選択必修　2単位				5単位
入門・概論科目		必修　5単位				5単位
応用・各論科目		必修　16単位	必修　16単位	必修　12単位	必修　6単位	50単位
学部統合科目						0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						92単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						32単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低32単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
リサイタル	1	春1	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽演奏基礎演習	1	春1	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低50単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンスに関する分野	**必修**					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	必修	
	副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	必修	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	必修	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	必修	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	必修	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	必修	
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	必修	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	必修	
	舞台表現応用Ⅰ	2	春2	2	必修	
	舞台表現応用Ⅱ	2	秋2	2	必修	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	必修	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	必修	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	必修	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	必修	
	選択					
	リトミックⅠ	2	春2	1	選択	
	リトミックⅡ	2	秋2	1	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	オペラⅠ	1	春2	3	選択	
	オペラⅡ	1	秋2	3	選択	
	オペラⅢ	2	春4	4	選択	
	オペラⅣ	2	秋4	4	選択	
	通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	
	古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	春2	3	選択	
	古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	秋2	3	選択	
	古楽器合奏Ⅰ	1	春2	4	選択	
	古楽器合奏Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ⅰ	2	春2	2	選択	
	古典舞踏Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	指揮法応用	2	秋2	3	選択	
音楽文化に関する分野	**選択**					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	秋2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	1	選択	
	音楽心理学	2	秋2	1	選択	
	音楽美学	2	春2	2	選択	
	音楽史学	2	秋2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽理論に関する分野	**選択**					
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	管弦楽法Ⅰ	1	春2	4	選択	
	管弦楽法Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	通奏低音理論	2	春2	3	選択	
音楽教育に関する分野	**選択**					
	ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1	秋2	3	選択	
	指揮法基礎	2	春2	3	選択	
	合唱指導法	2	秋2	3	選択	
	リコーダー演習	1	半2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
キャリアデザインに関する分野	**必修**					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	音楽マネージメント	2	秋2	2	選択	
	音楽によるアウトリーチⅠ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅡ	2	秋2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅢ	2	春2	4	選択	
	音楽によるアウトリーチⅣ	2	秋2	4	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	専門実技Ⅰを修得済のこと。
専門実技Ⅲ	専門実技Ⅱを修得済のこと。
専門実技Ⅳ	専門実技Ⅲを修得済のこと。
専門実技Ⅴ	専門実技Ⅳを修得済のこと。
専門実技Ⅵ	専門実技Ⅴを修得済のこと。
専門実技Ⅶ	専門実技Ⅵを修得済のこと。
専門実技Ⅷ	専門実技Ⅶを修得済のこと。
副科ピアノⅡ	副科ピアノⅠを修得済のこと。
通奏低音奏法研究	通奏低音理論を修得済のこと。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		◎ ◎ ● ●	楽典 和声法Ⅰ [和声法Ⅱ] 和声法Ⅲ ソルフェージュⅠ リサイタル	2 1 1 1 1	◎ ◎ ●	[和声法Ⅰ] 和声法Ⅱ [和声法Ⅲ] 和声法Ⅳ ソルフェージュⅡ	 1 1 1		[和声法Ⅱ] [和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅴ ソルフェージュⅢ	 1 1		[和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅵ ソルフェージュⅣ	 1 1		[和声法Ⅳ] [和声法Ⅴ]	 		[和声法Ⅵ]							5
入門・概論科目		● ●	音楽通史Ａ 音楽演奏基礎演習	2 1	●	音楽通史Ｂ 音楽療法概論	2 2																			5
応用・各論科目	パフォーマンスに関する分野	● ● ●	専門実技Ⅰ 合唱Ⅰ 舞台表現基礎Ⅰ リトミックⅠ ピアノ奏法基礎Ⅰ	3 1 2 2 2	● ● ●	専門実技Ⅱ 合唱Ⅱ 舞台表現基礎Ⅱ リトミックⅡ ピアノ奏法基礎Ⅱ	3 1 2 2 2	● ●	専門実技Ⅲ 副科声楽Ⅰ 合唱Ⅲ 室内楽Ⅰ ドイツ語声楽曲研究Ⅰ ピアノ演奏法 古典舞踏Ⅰ	3 1 1 1 2 2 2	● ●	専門実技Ⅳ 副科声楽Ⅱ 合唱Ⅳ 室内楽Ⅱ ドイツ語声楽曲研究Ⅱ オルガン・チェンバロ奏法基礎 古典舞踏Ⅱ	3 1 1 1 2 2 2	● 古楽器演習（ブロックフレーテ）	専門実技Ⅴ 合唱Ⅵ 室内楽Ⅲ フランス語声楽曲研究Ⅰ 副科オルガン 副科チェンバロ 古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ） 現代音楽ピアノ演奏法 指揮法応用	3 1 1 2 1 1 1 2 2	● 	専門実技Ⅵ 合唱Ⅵ 室内楽Ⅳ フランス語声楽曲研究Ⅱ [副科オルガン] [副科チェンバロ] 通奏低音奏法研究 	3 1 1 2 2 	● 	専門実技Ⅶ 合唱Ⅶ 室内楽Ⅴ 古楽器合奏Ⅰ	3 1 1 1	● 	専門実技Ⅷ 合唱Ⅷ 室内楽Ⅵ 古楽器合奏Ⅱ	3 1 1 1	40
	音楽文化に関する分野		音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽史（古典派） 音楽美学 民族の音楽 音楽教育史Ａ ポピュラーミュージックＡ 映画・舞台音楽	2 2 2 2 2 2		音楽史（ロマン派） 音楽史学 日本の音楽 音楽教育史Ｂ ポピュラーミュージックＢ	2 2 2 2 2		音楽史（中世からバロック） ジャズミュージック	2 2		音楽史（近・現代） ロックミュージック	2 2							
	音楽理論に関する分野														アナリーゼⅠ 和声法Ⅶ 対位法Ⅰ 通奏低音理論	2 1 1 2		アナリーゼⅡ 和声法Ⅷ 対位法Ⅱ	2 1 1		管弦楽法Ⅰ 対位法Ⅲ	1 1		管弦楽法Ⅱ 対位法Ⅳ 作曲法（編曲法を含む）	1 1 1	
	音楽教育に関する分野								和楽器実習 リコーダー演習 コンピュータ音楽演習	1 1 2		[リコーダー演習] [コンピュータ音楽演習]			ソルフェージュⅤ（指導法を含む） 指揮法基礎 ピアノ指導法 ギター演習 音楽科教科教育法Ａ 音楽科教科教育法基礎	1 2 2 1 2 2		ソルフェージュⅥ（指導法を含む） 合唱指導法 [ギター演習] 音楽科教科教育法Ｂ 中学音楽科教科教育法	1 2 2 2							
	キャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2					音楽マネージメント	2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅠ	2 2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅡ	通年 2		音楽によるアウトリーチⅢ	2		音楽によるアウトリーチⅣ	2	
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				12
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目		● ●	Comprehensive English Ⅰ Communication in English Ⅰ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅱ Communication in English Ⅱ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅲ Communication in English Ⅲ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅳ Communication in English Ⅳ	1 1													12
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							42
合計																										124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　3単位 選択必修　2単位				5単位
入門・概論科目		必修　5単位				5単位
応用・各論科目		必修　14単位	必修　14単位	必修　6単位	必修　6単位	40単位
学部統合科目						0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						82単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						42単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低42単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
リサイタル	1	春1	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽演奏基礎演習	1	春1	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低40単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンスに関する分野	必修					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	ピアノ奏法基礎Ⅰ	2	春2	1	必修	
	ピアノ奏法基礎Ⅱ	2	秋2	1	必修	
	ピアノ演奏法	2	春2	2	必修	
	オルガン・チェンバロ奏法基礎	2	秋2	2	必修	
	古典舞踏Ⅰ	2	春2	2	必修	
	古典舞踏Ⅱ	2	秋2	2	必修	
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	リトミックⅠ	2	春2	1	選択	
	リトミックⅡ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	2	選択	
	副科声楽Ⅱ	1	半1/2	2	選択	
	副科オルガン	1	半1/2	3	選択	
	副科チェンバロ	1	半1/2	3	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	
	古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	春2	3	選択	
	古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	秋2	3	選択	
	古楽器合奏Ⅰ	1	春2	4	選択	
	古楽器合奏Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	現代音楽ピアノ演奏法	2	秋2	3	選択	
	指揮法応用	2	秋2	3	選択	
音楽文化に関する分野	選択					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	秋2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	1	選択	
	音楽心理学	2	秋2	1	選択	
	音楽美学	2	春2	2	選択	
	音楽史学	2	秋2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽理論に関する分野	選択					
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	管弦楽法Ⅰ	1	春2	4	選択	
	管弦楽法Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	通奏低音理論	2	春2	3	選択	
音楽教育に関する分野	選択					
	ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1	秋2	3	選択	
	指揮法基礎	2	春2	3	選択	
	合唱指導法	2	秋2	3	選択	
	リコーダー演習	1	半2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
キャリアデザインに関する分野	必修					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	音楽マネージメント	2	秋2	2	選択	
	音楽によるアウトリーチⅠ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅡ	2	秋2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅢ	2	春2	4	選択	
	音楽によるアウトリーチⅣ	2	秋2	4	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	専門実技Ⅰを修得済のこと。
専門実技Ⅲ	専門実技Ⅱを修得済のこと。
専門実技Ⅳ	専門実技Ⅲを修得済のこと。
専門実技Ⅴ	専門実技Ⅳを修得済のこと。
専門実技Ⅵ	専門実技Ⅴを修得済のこと。
専門実技Ⅶ	専門実技Ⅵを修得済のこと。
専門実技Ⅷ	専門実技Ⅶを修得済のこと。
副科声楽Ⅱ	副科声楽Ⅰを修得済のこと。
通奏低音奏法研究	通奏低音理論を修得済のこと。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		◎ ◎ ● ●	楽典 和声法Ⅰ [和声法Ⅱ] 和声法Ⅲ ソルフェージュⅠ リサイタル	2 1 1 1 1	◎ ◎ ●	[和声法Ⅰ] 和声法Ⅱ [和声法Ⅲ] 和声法Ⅳ ソルフェージュⅡ	1 1 1		[和声法Ⅱ] [和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅴ ソルフェージュⅢ	 1 1		[和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅵ ソルフェージュⅣ	 1 1		[和声法Ⅳ] [和声法Ⅴ]	 		[和声法Ⅵ]							5
入門・概論科目		● ●	音楽通史Ａ 音楽演奏基礎演習	2 1	●	音楽通史Ｂ 音楽療法概論	2 2																			5
応用・各論科目	パフォーマンスに関する分野	● ● ●	専門実技Ⅰ 副科ピアノⅠ 合唱Ⅰ 舞台表現基礎Ⅰ リトミックⅠ	3 1 1 2 2	● ● ●	専門実技Ⅱ 副科ピアノⅡ 合唱Ⅱ 舞台表現基礎Ⅱ リトミックⅡ	3 1 1 2 2	● ● ● ●	専門実技Ⅲ 副科声楽Ⅰ 合唱Ⅲ 室内楽Ⅰ ドイツ語声楽曲研究Ⅰ 古典舞踏Ⅰ	3 1 1 1 2 2	● ● ● ● ● ●	専門実技Ⅳ 副科声楽Ⅱ 合唱Ⅳ 室内楽Ⅱ ドイツ語声楽曲研究Ⅱ 古典舞踏Ⅱ	3 1 1 1 2 2	● ◎ ◎ ◎ ◎	専門実技Ⅴ 合唱Ⅴ 室内楽Ⅲ フランス語声楽曲研究Ⅰ 副科オルガン オルガン奏法研究 副科チェンバロ チェンバロ奏法研究 古楽器演習（ブロックフレーテ）	3 1 1 2 1 2 1 2 1	● ● ● ● ● ●	専門実技Ⅵ 合唱Ⅵ 室内楽Ⅳ フランス語声楽曲研究Ⅱ [副科オルガン] [副科チェンバロ] 通奏低音奏法研究 古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ） 現代音楽ピアノ演奏法 指揮法応用	3 1 1 2 2 1 2 2	● ● ●	専門実技Ⅶ 合唱Ⅶ 室内楽Ⅴ 古楽器合奏Ⅰ	3 1 1 1	● ● ●	専門実技Ⅷ 合唱Ⅷ 室内楽Ⅵ 古楽器合奏Ⅱ	3 1 1 1	40
	音楽文化に関する分野		音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽史（古典派） 音楽美学 民族の音楽 音楽教育史Ａ ポピュラーミュージックＡ 映画・舞台音楽	2 2 2 2 2 2		音楽史（ロマン派） 音楽史学 日本の音楽 音楽教育史Ｂ ポピュラーミュージックＢ	2 2 2 2 2		音楽史（中世からバロック） ジャズミュージック	2 2		音楽史（近・現代） ロックミュージック	2 2							
	音楽理論に関する分野														アナリーゼⅠ 和声法Ⅶ 対位法Ⅰ 通奏低音理論	2 1 1 2		アナリーゼⅡ 和声法Ⅷ 対位法Ⅱ	2 1 1		管弦楽法Ⅰ 対位法Ⅲ	1 1		管弦楽法Ⅱ 対位法Ⅳ 作曲法（編曲法を含む）	1 1 1	
	音楽教育に関する分野								和楽器実習 リコーダー演習 コンピュータ音楽演習	1 1 2		[リコーダー演習] [コンピュータ音楽演習]			ソルフェージュⅤ（指導法を含む） 指揮法基礎 ピアノ指導法 ギター演習 音楽科教科教育法Ａ 音楽科教科教育法基礎	1 2 2 1 2 2		ソルフェージュⅥ（指導法を含む） 合唱指導法 [ギター演習] 音楽科教科教育法Ｂ 中学音楽科教科教育法	1 2 2 2							
	キャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2					音楽マネージメント	2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅠ	2 2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅡ	通年 2		音楽によるアウトリーチⅢ	2		音楽によるアウトリーチⅣ	2	
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				12
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目		● ●	Comprehensive English Ⅰ Communication in English Ⅰ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅱ Communication in English Ⅱ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅲ Communication in English Ⅲ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅳ Communication in English Ⅳ	1 1													12
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							42
合計																										124

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

＊当該楽器を専攻する学生は履修不可

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　3単位 選択必修　2単位				5単位
入門・概論科目		必修　5単位				5単位
応用・各論科目		必修　12単位	必修　10単位	必修　10単位 選択必修　2単位	必修　6単位	40単位
学部統合科目						0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						82単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						42単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低42単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
リサイタル	1	春1	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽演奏基礎演習	1	春1	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低40単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンスに関する分野	**必修**					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	必修	
	副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	必修	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	古典舞踏Ⅰ	2	春2	2	必修	
	古典舞踏Ⅱ	2	秋2	2	必修	
	通奏低音奏法研究	2	秋2	3	必修	
	選択必修					
	オルガン奏法研究	2	春2	3	選択必修	
	チェンバロ奏法研究	2	春2	3	2単位	
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	リトミックⅠ	2	春2	1	選択	
	リトミックⅡ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	2	選択	
	副科声楽Ⅱ	1	半1/2	2	選択	
	副科オルガン	1	半1/2	3	選択	
	副科チェンバロ	1	半1/2	3	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	春2	3	選択	
	古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	秋2	3	選択	
	古楽器合奏Ⅰ	1	春2	4	選択	
	古楽器合奏Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	現代音楽ピアノ演奏法	2	秋2	3	選択	
	指揮法応用	2	秋2	3	選択	
音楽文化に関する分野	**選択**					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	秋2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	1	選択	
	音楽心理学	2	秋2	1	選択	
	音楽美学	2	春2	2	選択	
	音楽史学	2	秋2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽理論に関する分野	**必修**					
	通奏低音理論	2	春2	3	必修	
	選択					
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	管弦楽法Ⅰ	1	春2	4	選択	
	管弦楽法Ⅱ	1	秋2	4	選択	
音楽教育に関する分野	**選択**					
	ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1	秋2	3	選択	
	指揮法基礎	2	春2	3	選択	
	合唱指導法	2	秋2	3	選択	
	リコーダー演習	1	半2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
キャリアデザインに関する分野	**必修**					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	音楽マネージメント	2	秋2	2	選択	
	音楽によるアウトリーチⅠ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅡ	2	秋2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅢ	2	春2	4	選択	
	音楽によるアウトリーチⅣ	2	秋2	4	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1．「副科チェンバロ」はチェンバロを専攻している学生は履修不可
　「副科オルガン」はオルガンを専攻している学生は履修不可
2．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	専門実技Ⅰを修得済のこと。
専門実技Ⅲ	専門実技Ⅱを修得済のこと。
専門実技Ⅳ	専門実技Ⅲを修得済のこと。
専門実技Ⅴ	専門実技Ⅳを修得済のこと。
専門実技Ⅵ	専門実技Ⅴを修得済のこと。
専門実技Ⅶ	専門実技Ⅵを修得済のこと。
専門実技Ⅷ	専門実技Ⅶを修得済のこと。
副科ピアノⅡ	副科ピアノⅠを修得済のこと。
副科声楽Ⅱ	副科声楽Ⅰを修得済のこと。
通奏低音奏法研究	通奏低音理論を修得済のこと。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		◎ ◎ ● ●	楽典 和声法Ⅰ [和声法Ⅱ] 和声法Ⅲ ソルフェージュⅠ リサイタル	2 1 1 1 1	◎ ◎ ●	[和声法Ⅰ] 和声法Ⅱ [和声法Ⅲ] 和声法Ⅳ ソルフェージュⅡ	 1 1 1		[和声法Ⅱ] [和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅴ ソルフェージュⅢ	 1 1		[和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅵ ソルフェージュⅣ	 1 1		[和声法Ⅳ] [和声法Ⅴ]	 		[和声法Ⅵ]							5
入門・概論科目		● ●	音楽通史Ａ 音楽演奏基礎演習	2 1	●	音楽通史Ｂ 音楽療法概論	2 2																			5
応用・各論科目	パフォーマンスに関する分野	● ● ● ◎ ◎	専門実技Ⅰ 副科ピアノⅠ 合唱Ⅰ オーケストラⅠ 吹奏楽Ⅰ 舞台表現基礎Ⅰ リトミックⅠ	3 1 1 3 3 2 2	● ● ● ◎ ◎	専門実技Ⅱ 副科ピアノⅡ 合唱Ⅱ オーケストラⅡ 吹奏楽Ⅱ 舞台表現基礎Ⅱ リトミックⅡ	3 1 1 3 3 2 2	● ◎ ◎	専門実技Ⅲ 副科声楽Ⅰ 合唱Ⅲ オーケストラⅢ 吹奏楽Ⅲ 室内楽Ⅰ ドイツ語声楽曲研究Ⅰ ヴィオラ演習Ⅰ 古典舞踏Ⅰ	3 1 1 3 3 1 2 1 2	● ◎ ◎	専門実技Ⅳ 副科声楽Ⅱ 合唱Ⅳ オーケストラⅣ 吹奏楽Ⅳ 室内楽Ⅱ ドイツ語声楽曲研究Ⅱ ヴィオラ演習Ⅱ 古典舞踏Ⅱ	3 1 1 3 3 1 2 1 2	● ◎ ◎	専門実技Ⅴ 合唱Ⅴ オーケストラⅤ 吹奏楽Ⅴ 室内楽Ⅲ フランス語声楽曲研究Ⅰ 古楽器演習（ブロックフレーテ）	3 1 3 3 1 2 1	● ◎ ◎	専門実技Ⅵ 合唱Ⅵ オーケストラⅥ 吹奏楽Ⅵ 室内楽Ⅳ フランス語声楽曲研究Ⅱ 通奏低音奏法研究 古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ） 指揮法応用	3 1 3 3 1 2 2 1 2	● ◎ ◎	専門実技Ⅶ 合唱Ⅶ オーケストラⅦ 吹奏楽Ⅶ 室内楽Ⅴ 古楽器合奏Ⅰ	3 1 3 3 1 1	● ◎ ◎	専門実技Ⅷ 合唱Ⅷ オーケストラⅧ 吹奏楽Ⅷ 室内楽Ⅵ 古楽器合奏Ⅱ	3 1 3 3 1 1	54
	音楽文化に関する分野		音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽史（古典派） 音楽美学 民族の音楽 音楽教育史Ａ ポピュラーミュージックＡ 映画・舞台音楽	2 2 2 2 2 2		音楽史（ロマン派） 音楽史学 日本の音楽 音楽教育史Ｂ ポピュラーミュージックＢ	2 2 2 2 2		音楽史（中世からバロック） ジャズミュージック	2 2		音楽史（近・現代） ロックミュージック	2 2							
	音楽理論に関する分野														アナリーゼⅠ 和声法Ⅶ 対位法Ⅰ 通奏低音理論	2 1 1 2		アナリーゼⅡ 和声法Ⅷ 対位法Ⅱ	2 1 1		管弦楽法Ⅰ 対位法Ⅲ	1 1		管弦楽法Ⅱ 対位法Ⅳ 作曲法（編曲法を含む）	1 1 1	
	音楽教育に関する分野								教職ピアノⅠ 和楽器実習 リコーダー演習 コンピュータ音楽演習	2 1 1 2		教職ピアノⅡ [リコーダー演習] [コンピュータ音楽演習]	2		ソルフェージュⅤ（指導法を含む） 指揮法基礎 ピアノ指導法 ギター演習 音楽科教科教育法Ａ 音楽科教科教育法基礎	1 2 2 1 2 2		ソルフェージュⅥ（指導法を含む） 合唱指導法 [ギター演習] 音楽科教科教育法Ｂ 中学音楽科教科教育法	1 2 2 2							
	キャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2					音楽マネージメント	2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅠ	2 2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅡ	通年 2		音楽によるアウトリーチⅢ	2		音楽によるアウトリーチⅣ	2	
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				12
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目		● ●	Comprehensive English Ⅰ Communication in English Ⅰ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅱ Communication in English Ⅱ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅲ Communication in English Ⅲ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅳ Communication in English Ⅳ	1 1														12
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							28
合計																										124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　3単位 選択必修　2単位				5単位
入門・概論科目		必修　5単位				5単位
応用・各論科目		必修　12単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	54単位
学部統合科目						0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						96単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						28単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低28単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
リサイタル	1	春1	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 5 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽演奏基礎演習	1	春1	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低54単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンスに関する分野	**必修**					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	必修	
	副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	必修	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	選択必修					
	オーケストラⅠ	3	春8	1	選択必修24単位	
	オーケストラⅡ	3	秋8	1		
	オーケストラⅢ	3	春8	2		
	オーケストラⅣ	3	秋8	2		
	オーケストラⅤ	3	春8	3		
	オーケストラⅥ	3	秋8	3		
	オーケストラⅦ	3	春8	4		
	オーケストラⅧ	3	秋8	4		
	吹奏楽Ⅰ	3	春8	1		
	吹奏楽Ⅱ	3	秋8	1		
	吹奏楽Ⅲ	3	春8	2		
	吹奏楽Ⅳ	3	秋8	2		
	吹奏楽Ⅴ	3	春8	3		
	吹奏楽Ⅵ	3	秋8	3		
	吹奏楽Ⅶ	3	春8	4		
	吹奏楽Ⅷ	3	秋8	4		
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	リトミックⅠ	2	春2	1	選択	
	リトミックⅡ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	2	選択	
	副科声楽Ⅱ	1	半1/2	2	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	
	古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	春2	3	選択	
	古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	秋2	3	選択	
	古楽器合奏Ⅰ	1	春2	4	選択	
	古楽器合奏Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ⅰ	2	春2	2	選択	
	古典舞踏Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	指揮法応用	2	秋2	3	選択	
	ヴィオラ演習Ⅰ	1	春2	2	選択	
	ヴィオラ演習Ⅱ	1	秋2	2	選択	
音楽文化に関する分野	**選択**					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	秋2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	1	選択	
	音楽心理学	2	秋2	1	選択	
	音楽美学	2	春2	2	選択	
	音楽史学	2	秋2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽理論に関する分野	**選択**					
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	管弦楽法Ⅰ	1	春2	4	選択	
	管弦楽法Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	通奏低音理論	2	春2	3	選択	
音楽教育に関する分野	**選択**					
	ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1	秋2	3	選択	
	指揮法基礎	2	春2	3	選択	
	合唱指導法	2	秋2	3	選択	
	リコーダー演習	1	半2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
キャリアデザインに関する分野	**必修**					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	音楽マネージメント	2	秋2	2	選択	
	音楽によるアウトリーチⅠ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅡ	2	秋2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅢ	2	春2	4	選択	
	音楽によるアウトリーチⅣ	2	秋2	4	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	専門実技Ⅰを修得済のこと。
専門実技Ⅲ	専門実技Ⅱを修得済のこと。
専門実技Ⅳ	専門実技Ⅲを修得済のこと。
専門実技Ⅴ	専門実技Ⅳを修得済のこと。
専門実技Ⅵ	専門実技Ⅴを修得済のこと。
専門実技Ⅶ	専門実技Ⅵを修得済のこと。
専門実技Ⅷ	専門実技Ⅶを修得済のこと。
副科ピアノⅡ	副科ピアノⅠを修得済のこと。
副科声楽Ⅱ	副科声楽Ⅰを修得済のこと。
通奏低音奏法研究	通奏低音理論を修得済のこと。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

2021～OE管弦打

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		◎ ◎ ● ● ●	楽典 和声法Ⅰ [和声法Ⅱ] 和声法Ⅲ ソルフェージュⅠ リサイタル 音楽文献講読Ⅰ	2 1 1 1 1 2	◎ ◎ ●	[和声法Ⅰ] 和声法Ⅱ [和声法Ⅲ] 和声法Ⅳ ソルフェージュⅡ 音楽文献講読Ⅱ	 1 1 1 2		[和声法Ⅱ] [和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅴ ソルフェージュⅢ 音楽文献講読Ⅲ	 1 1 2		[和声法Ⅲ] [和声法Ⅳ] 和声法Ⅵ ソルフェージュⅣ 音楽文献講読Ⅳ	 1 1 2		[和声法Ⅳ] [和声法Ⅴ]			[和声法Ⅵ]							7
入門・概論科目		●	音楽通史Ａ	2	● ●	音楽通史Ｂ 音楽文化基礎演習 音楽療法概論	2 2 2																			6
応用・各論科目	音楽文化に関する分野　音楽学科目群		音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽史（古典派） 音楽美学 民族の音楽 音楽教育史Ａ ポピュラーミュージックＡ 映画・舞台音楽	2 2 2 2 2 2		音楽史（ロマン派） 音楽史学 日本の音楽 音楽教育史Ｂ ポピュラーミュージックＢ	2 2 2 2 2		音楽史（中世からバロック） ジャズミュージック	2 2		音楽史（近・現代） ロックミュージック	2 2						
	音楽療法科目群					音楽療法（グループ体験）	2		音楽療法基礎Ⅰ 医学概論 特別支援教育	2 2 2		音楽療法基礎Ⅱ 音楽療法技能演習	2 2		音楽療法各論Ａ 音楽療法実習Ⅰ	2 2		音楽療法各論Ｂ 音楽療法実習Ⅱ	2 2		音楽療法実習Ⅲ 臨床医学Ａ 臨床心理学Ａ	2 2 2		臨床医学Ｂ 臨床心理学Ｂ	2 2	
	音楽創作科目群		アニメ音楽	2		ゲーム音楽	2		音楽創作Ａ コンピュータミュージッククリエイションⅠ	2 2		音楽創作Ｂ コンピュータミュージッククリエイションⅡ	2 2		メディアクリエイションⅠ	2		メディアクリエイションⅡ	2							
	パフォーマンスに関する分野	● ●	副科声楽Ⅰ 副科ピアノⅠ 合唱Ⅰ 舞台表現基礎Ⅰ 合奏Ⅰ リトミックⅠ	1 1 1 2 1 2	● ●	副科声楽Ⅱ 副科ピアノⅡ 合唱Ⅱ 舞台表現基礎Ⅱ 合奏Ⅱ リトミックⅡ	1 1 1 2 1 2		副科声楽Ⅲ 副科ピアノⅢ 副科管弦打楽器Ⅰ 合唱Ⅲ 合奏Ⅲ ドイツ語声楽曲研究Ⅰ 古典舞踏Ⅰ	1 1 1 1 1 2 2		副科声楽Ⅳ 副科ピアノⅣ 副科管弦打楽器Ⅱ 合唱Ⅳ 合奏Ⅳ ドイツ語声楽曲研究Ⅱ 古典舞踏Ⅱ	1 1 1 1 1 2 2		副科声楽Ⅴ 副科ピアノⅤ 副科管弦打楽器Ⅲ 合唱Ⅴ 合奏Ⅴ フランス語声楽曲研究Ⅰ 古楽器演習（ブロックフレーテ）	1 1 1 1 1 2 1		副科声楽Ⅵ 副科ピアノⅥ 副科管弦打楽器Ⅳ 合唱Ⅵ 合奏Ⅵ フランス語声楽曲研究Ⅱ 通奏低音奏法研究 古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ） 指揮法応用	1 1 1 1 1 2 2 1 2		副科声楽Ⅶ 副科ピアノⅦ 副科管弦打楽器Ⅴ 合唱Ⅶ 合奏Ⅶ 古楽器合奏Ⅰ	1 1 1 1 1 1		副科声楽Ⅷ 副科ピアノⅧ 副科管弦打楽器Ⅵ 合唱Ⅷ 合奏Ⅷ 古楽器合奏Ⅱ	1 1 1 1 1 1	26
	音楽理論に関する分野								キーボードハーモニー	2		[キーボードハーモニー]			アナリーゼⅠ 和声法Ⅶ 対位法Ⅰ 通奏低音理論	2 1 1 2		アナリーゼⅡ 和声法Ⅷ 対位法Ⅱ	2 1 1		管弦楽法Ⅰ 対位法Ⅲ	1 1		管弦楽法Ⅱ 対位法Ⅳ 作曲法（編曲法を含む）	1 1 1	
	音楽教育に関する分野								教職ピアノⅠ 和楽器実習 リコーダー演習 コンピュータ音楽演習	2 1 1 2		教職ピアノⅡ [リコーダー演習] [コンピュータ音楽演習]	2		ソルフェージュⅤ（指揮法を含む） 指揮法基礎 ピアノ指導法 ギター演習 音楽科教科教育法Ａ 音楽科教科教育法基礎	1 2 2 1 2 2		ソルフェージュⅥ（指揮法を含む） 合唱指導法 [ギター演習] 音楽科教科教育法Ｂ 中学音楽科教科教育法	1 2 2 2						
	キャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2					音楽マネージメント	2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅠ	2 2		インターンシップⅡ 音楽によるアウトリーチⅡ	通年 2		音楽によるアウトリーチⅢ	2		音楽によるアウトリーチⅣ	2	
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				10
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目		● ●	Comprehensive English Ⅰ Communication in English Ⅰ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅱ Communication in English Ⅱ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅲ Communication in English Ⅲ	1 1	● ●	Comprehensive English Ⅳ Communication in English Ⅳ	1 1													12
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			【スポーツ・健康選択必修科目】																				2
ゼミナール科目														◎ ◎ ◎ ◎	音楽学演習Ⅰ 音楽療法演習ＡⅠ 音楽療法演習ＢⅠ 音楽創作演習Ⅰ	2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎	音楽学演習Ⅱ 音楽療法演習ＡⅡ 音楽療法演習ＢⅡ 音楽創作演習Ⅱ	2 2 2 2	●	音楽文化卒業研究Ⅰ	2	●	音楽文化卒業研究Ⅱ	2	8
区分外			上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位																							47
合計																										124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　5単位 選択必修　2単位				7単位
入門・概論科目		必修　6単位				6単位
応用・各論科目		必修　6単位				26単位
学部統合科目						0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
各コース共通	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
各コース共通	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
各コース共通	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目				選択必修　4単位	必修　4単位	8単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						77単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						47単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低47単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目，応用・各論科目に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 7 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
リサイタル	1	春1	1	必修	
音楽文献講読Ⅰ	2	春2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修2単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
音楽文献講読Ⅱ	2	秋2	1	選択	
音楽文献講読Ⅲ	2	春2	2	選択	
音楽文献講読Ⅳ	2	秋2	2	選択	
和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」と「和声法」は同時履修できない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽文化基礎演習	2	秋2	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

応用・各論科目（最低26単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	選択					
	音楽社会学	2	春2	1	選択	
	音楽心理学	2	秋2	1	選択	
	音楽美学	2	春2	2	選択	
	音楽史学	2	秋2	2	選択	
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	秋2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	音楽療法基礎Ⅰ	2	春2	2	選択	
	音楽療法基礎Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	音楽療法各論A	2	春2	3	選択	
	音楽療法各論B	2	秋2	3	選択	
	音楽療法（グループ体験）	2	秋2	1	選択	
	音楽療法技能演習	2	秋2	2	選択	
	音楽療法実習Ⅰ	2	春2	3	選択	
	音楽療法実習Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	音楽療法実習Ⅲ	2	春2	4	選択	
	特別支援教育	2	春2	2	選択	
	医学概論	2	春2	2	選択	
	臨床医学A	2	春2	4	選択	
	臨床医学B	2	秋2	4	選択	
	臨床心理学A	2	春2	4	選択	
	臨床心理学B	2	秋2	4	選択	
	アニメ音楽	2	春2	1	選択	
	ゲーム音楽	2	秋2	1	選択	
	音楽創作A	2	春2	2	選択	
	音楽創作B	2	秋2	2	選択	
	コンピュータミュージッククリエイションⅠ	2	春2	2	選択	
	コンピュータミュージッククリエイションⅡ	2	秋2	2	選択	
	メディアクリエイションⅠ	2	春2	3	選択	
	メディアクリエイションⅡ	2	秋2	3	選択	
パフォーマンスに関する分野	必修					
	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	1	必修	
	副科声楽Ⅱ	1	半1/2	1	必修	
	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	必修	
	副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	必修	
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	副科声楽Ⅲ	1	半1/2	2	選択	
	副科声楽Ⅳ	1	半1/2	2	選択	
	副科声楽Ⅴ	1	半1/2	3	選択	
	副科声楽Ⅵ	1	半1/2	3	選択	
	副科声楽Ⅶ	1	半1/2	4	選択	
	副科声楽Ⅷ	1	半1/2	4	選択	
	副科ピアノⅢ	1	半1/2	2	選択	
	副科ピアノⅣ	1	半1/2	2	選択	
	副科ピアノⅤ	1	半1/2	3	選択	
	副科ピアノⅥ	1	半1/2	3	選択	
	副科ピアノⅦ	1	半1/2	4	選択	
	副科ピアノⅧ	1	半1/2	4	選択	
	副科管弦打楽器Ⅰ	1	半1/2	2	選択	
	副科管弦打楽器Ⅱ	1	半1/2	2	選択	
	副科管弦打楽器Ⅲ	1	半1/2	3	選択	
	副科管弦打楽器Ⅳ	1	半1/2	3	選択	
	副科管弦打楽器Ⅴ	1	半1/2	4	選択	
	副科管弦打楽器Ⅵ	1	半1/2	4	選択	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	選択	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	合奏Ⅰ	1	春2	1	選択	
	合奏Ⅱ	1	秋2	1	選択	
	合奏Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合奏Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合奏Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合奏Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合奏Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合奏Ⅷ	1	秋2	4	選択	
パフォーマンスに関する分野	選択					
	リトミックⅠ	2	春2	1	選択	
	リトミックⅡ	2	秋2	1	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	
	古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	春2	3	選択	
	古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	秋2	3	選択	
	古楽器合奏Ⅰ	1	春2	4	選択	
	古楽器合奏Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ⅰ	2	春2	2	選択	
	古典舞踏Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	指揮法応用	2	秋2	3	選択	
音楽理論に関する分野	選択					
	キーボードハーモニー	2	半2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	管弦楽法Ⅰ	1	春2	4	選択	
	管弦楽法Ⅱ	1	秋2	4	選択	
	通奏低音理論	2	春2	3	選択	
音楽教育に関する分野	選択					
	ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1	秋2	3	選択	
	指揮法基礎	2	春2	3	選択	
	合唱指導法	2	秋2	3	選択	
	リコーダー演習	1	半2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
キャリアデザインに関する分野	必修					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	音楽マネージメント	2	秋2	2	選択	
	音楽によるアウトリーチⅠ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅡ	2	秋2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチⅢ	2	春2	4	選択	
	音楽によるアウトリーチⅣ	2	秋2	4	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
副科管弦打楽器Ⅱ	副科管弦打楽器Ⅰを修得済のこと。
副科管弦打楽器Ⅲ	副科管弦打楽器Ⅱを修得済のこと。
副科管弦打楽器Ⅳ	副科管弦打楽器Ⅲを修得済のこと。
副科管弦打楽器Ⅴ	副科管弦打楽器Ⅳを修得済のこと。
副科管弦打楽器Ⅵ	副科管弦打楽器Ⅴを修得済のこと。
副科ピアノⅡ	副科ピアノⅠを修得済のこと。
副科ピアノⅢ	副科ピアノⅡを修得済のこと。
副科ピアノⅣ	副科ピアノⅢを修得済のこと。
副科ピアノⅤ	副科ピアノⅣを修得済のこと。
副科ピアノⅥ	副科ピアノⅤを修得済のこと。
副科ピアノⅦ	副科ピアノⅥを修得済のこと。
副科ピアノⅧ	副科ピアノⅦを修得済のこと。
副科声楽Ⅱ	副科声楽Ⅰを修得済のこと。
副科声楽Ⅲ	副科声楽Ⅱを修得済のこと。
副科声楽Ⅳ	副科声楽Ⅲを修得済のこと。
副科声楽Ⅴ	副科声楽Ⅳを修得済のこと。
副科声楽Ⅵ	副科声楽Ⅴを修得済のこと。
副科声楽Ⅶ	副科声楽Ⅵを修得済のこと。
副科声楽Ⅷ	副科声楽Ⅶを修得済のこと。
通奏低音奏法研究	通奏低音理論を修得済のこと。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

ゼミナール科目（８単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽文化卒業研究Ⅰ	2	春2	4	必修	
音楽文化卒業研究Ⅱ	2	秋2	4	必修	
選択必修					
音楽学演習Ⅰ	2	春2	3	選択必修４単位	
音楽学演習Ⅱ	2	秋2	3		
音楽療法演習ＡⅠ	2	春2	3		
音楽療法演習ＢⅠ	2	春2	3		
音楽療法演習ＡⅡ	2	秋2	3		
音楽療法演習ＢⅡ	2	秋2	3		
音楽創作演習Ⅰ	2	春2	3		
音楽創作演習Ⅱ	2	秋2	3		

音楽学科各コース共通

（2021年度以降入学生適用）

共通学芸科目

外国語科目

キリスト教・同志社関係科目

スポーツ・健康科目

共通学芸科目（最低12単位［音楽文化専攻は10単位］以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ(大学コンソーシアム京都)	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月(夏期)，10月(春期)に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Comprehensive English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Comprehensive English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
Communication in English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Communication in English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択	
初級中国語演習	2	秋4	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法
　a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得することをいう。
　b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
　　1年次では1つの言語のみ履修することができる。
　　1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
　　1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
　c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

2．選択の履修方法
　a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。
　b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。
　c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
　d．今出川キャンパスで開講される上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。
　e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
　f．ラピートプログラム
　　フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
　　これは，2，3年次に原則として同一言語の授業を週4回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので注意すること。（適性検査が実施される。）

3．全般事項
　a．1，2年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。
　b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。
　c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
　d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
　ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する8単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域の単位は，次のとおり修得しなければならない。

演奏専攻	声楽コース	32単位＋8単位＝46単位
	鍵盤楽器コース（ピアノ）	42単位＋8単位＝56単位
	鍵盤楽器コース（オルガン）	42単位＋8単位＝50単位
	鍵盤楽器コース（チェンバロ）	42単位＋8単位＝50単位
	管弦打楽器コース	28単位＋8単位＝36単位
音楽文化専攻		47単位＋8単位＝60単位

4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
　1年次に指定されたクラスで履修すること。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
コンピュータ活用	2	半2	2	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

学芸学部　音楽学科

（2016～2020年度入学生適用）

学芸学部　音楽学科　教育理念・目標

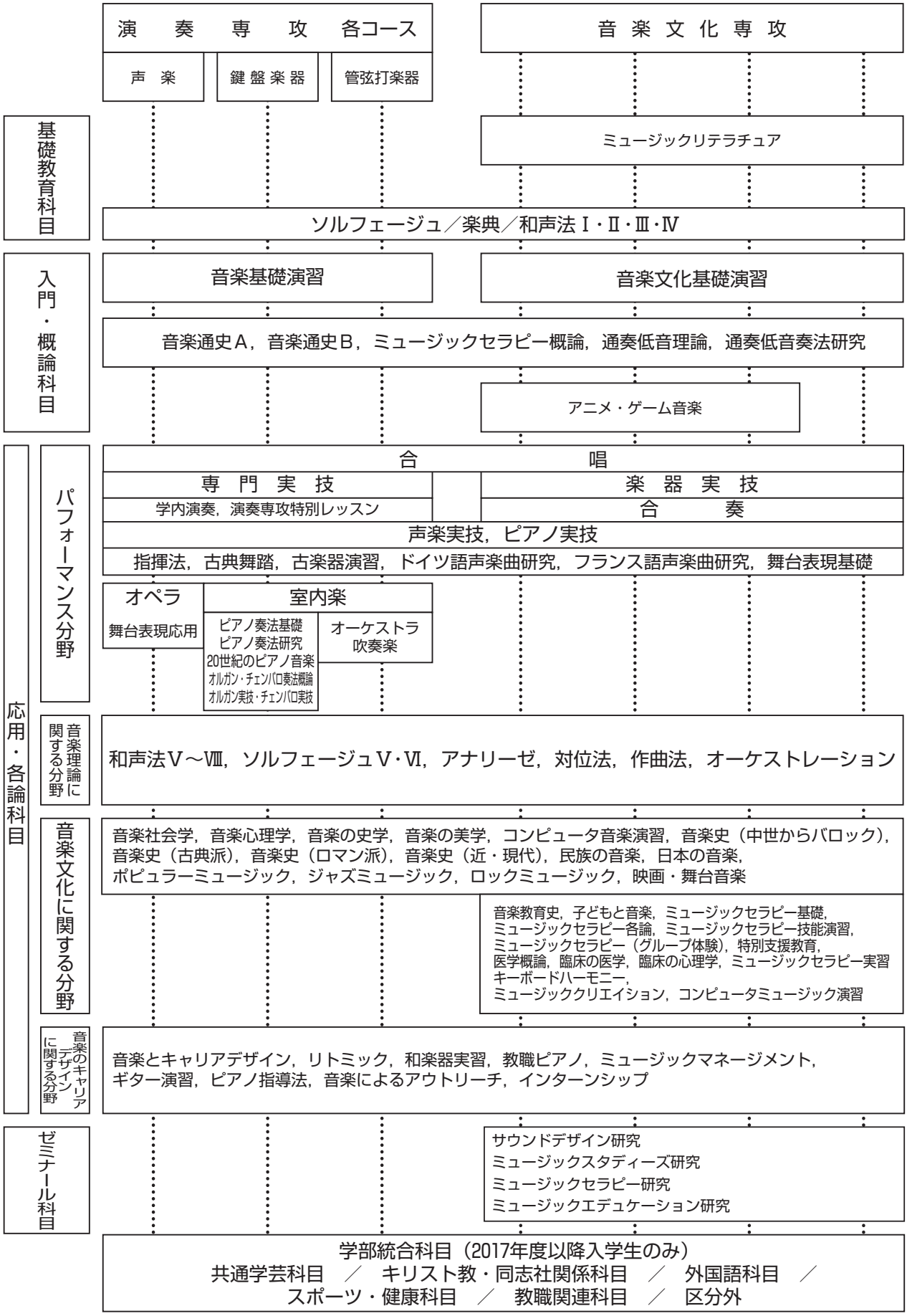
学芸学部音楽学科は「演奏専攻」〔声楽コース･鍵盤楽器コース･管弦打楽器コース〕と「音楽文化専攻」の 2 専攻 3 コースを置いている。演奏専攻は実技の練磨と芸術作品の研究を主眼とし，音楽文化専攻は人間の文化に組み込まれた音楽文化についての専門的研究を目標とする。両専攻とも，西洋音楽を基軸として西洋の音楽史や和声理論に精通することを出発点としているが，西洋音楽に偏重することのない多様な芸術的価値観を養い，真の教養人を育成する理念を貫くカリキュラムを編成している。

演奏専攻のおもな特徴は，「専門実技」を通して各自の演奏技術の向上を目指すとともに，オペラ，オーケストラ，アンサンブルの履修により，音を和する重要性を認識し，協働して芸術を創り上げる主体性を培う。また，声楽曲研究及びピアノ・オルガン・チェンバロ奏法研究において，演奏法及び作品解釈について議論しつつ芸術音楽に対する理解を深める。これらの学びのすべては，卒業後にプロフェッショナルな活動を実践するための礎石となる。

音楽文化専攻は，西洋音楽の基礎の上に「ミュージックスタディーズ科目群」「ミュージックエデュケーション科目群」「ミュージックセラピー科目群」「サウンドデザイン科目群」の 4 つの科目群を設定し，音楽に関する幅広い学びと専門性を深める体系的な学習により，柔軟な進路設計に対応する，自由度の高いカリキュラムである。「ミュージックスタディーズ科目群」では，社会学や歴史学・哲学などの学問領域に関する学びとともに社会が必要とする音楽のあり方を追求し，「ミュージックエデュケーション科目群」では教育分野における音楽の役割を理解した上で，教育現場での音楽の実践につなげる。また「ミュージックセラピー科目群」では心理や福祉・医療分野にも精通した上で音楽療法の実践技術を修得し，「サウンドデザイン科目群」は作曲の理論や方法論を修得することにより，多彩なジャンルの音楽を創作する実力を養う。 4 年間で様々な分野を学びながら，その研究成果を卒業研究に集約させる。なお，声楽やピアノ，それ以外の楽器実技や合奏の選択履修も可能であり，演奏技術の向上の機会が多く設けられている。

演奏専攻と音楽文化専攻共通の特徴としては，「基礎教育科目」におけるソルフェージュと和声の徹底した訓練と，「入門･概論科目」「応用・各論科目」における各時代の音楽史の履修により，音楽の専門家としての基礎を磐石なものとする。また，日本音楽，民族音楽，音楽美学，音楽社会学など多様な学問領域に知識の幅を広げる機会は，各自の専門性をより高める手がかりを提供すると同時に，専門領域の狭隘な枠を超えた音楽の統合的理解を促進する。学内演奏や合唱は，学生たちが相互に演奏を評価し合う場として機能し，各々の音楽的技能や感性を活性化する。

学芸学部　音楽学科　カリキュラム概念図



2016～2020OE/OB

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　科目配置表＜2016～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次					
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位
基礎教育科目			楽典	2		[和声法Ⅰ]			[和声法Ⅱ]			[和声法Ⅲ]	
		◎	和声法Ⅰ	1	◎	和声法Ⅱ	1		[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]	
		◎	和声法Ⅲ	1	◎	和声法Ⅳ	1						
		●	ソルフェージュⅠ	1	●	ソルフェージュⅡ	1		ソルフェージュⅢ	1		ソルフェージュⅣ	1
入門・概論科目		●	音楽基礎演習	2									
		●	音楽通史Ａ	2	●	音楽通史Ｂ	2						
						音楽療法概論	2						
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅰ	3	●	専門実技Ⅱ	3	●	専門実技Ⅲ	3	●	専門実技Ⅳ	3
		●	舞台表現基礎Ⅰ	2	●	舞台表現基礎Ⅱ	2		舞台表現応用Ａ	2		舞台表現応用Ｂ	2
									演奏専攻特別レッスンⅠ	1			
		●	ピアノ実技Ⅰ	1	●	ピアノ実技Ⅱ	1						
								●	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	●	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2
		●	合唱Ⅰ	1	●	合唱Ⅱ	1	●	合唱Ⅲ	1	●	合唱Ⅳ	1
	音楽理論に関する分野								和声法Ⅴ	1		和声法Ⅵ	1
	音楽文化に関する分野								音楽史（古典派）	2		音楽史（ロマン派）	2
									音楽社会学	2		音楽心理学	2
									民族の音楽	2			
									日本の音楽	2			
									ポピュラーミュージックＡ	2		ポピュラーミュージックＢ	2
									映画・舞台音楽	2			
									コンピュータ音楽演習	2		[コンピュータ音楽演習]	
	音楽のキャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2		和楽器実習	1			
									教職ピアノⅠ	2		教職ピアノⅡ	2
			リトミックＡ	1		リトミックＢ	1						
									ミュージックマネージメントＡ	2		ミュージックマネージメントＢ	2
学部統合科目（注）													
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]							
キリスト教・同志社関係科目		●	聖書Ａ	2	●	聖書Ｂ	2						
		◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]							
外国語科目		●	英語講読ⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	英語コミュニケーションⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
		●	Communication in English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語										
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]							
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等										
合計													

		3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目			[和声法Ⅳ]											4
入門・概論科目			通奏低音理論	2		通奏低音奏法研究	2							6
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅴ	3	●	専門実技Ⅵ	3	●	専門実技Ⅶ	3	●	専門実技Ⅷ	3	44
			オペラⅠ	1		オペラⅡ	1		オペラⅢ	2		オペラⅣ	2	
			古典舞踏Ａ	2		古典舞踏Ｂ	2							
			指揮法Ⅰ	2		指揮法Ⅱ	2							
			学内演奏Ⅰ	1		学内演奏Ⅱ	1		学内演奏Ⅲ	1		学内演奏Ⅳ	1	
			演奏専攻特別レッスンⅡ	1					演奏専攻特別レッスンⅢ	1				
		●	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	●	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2							
			合唱Ⅴ	1		合唱Ⅵ	1		合唱Ⅶ	1		合唱Ⅷ	1	
			古楽器演習Ⅰ	1		古楽器演習Ⅱ	1		古楽器演習Ⅲ	1		古楽器演習Ⅳ	1	
	音楽理論に関する分野		和声法Ⅶ	1		和声法Ⅷ	1							
			ソルフェージュⅤ	1		ソルフェージュⅥ	1					作曲法（編曲法を含む）	1	
			アナリーゼⅠ	2		アナリーゼⅡ	2		オーケストレーションⅠ	1		オーケストレーションⅡ	1	
			対位法Ⅰ	1		対位法Ⅱ	1		対位法Ⅲ	1		対位法Ⅳ	1	
	音楽文化に関する分野		音楽史（中世からバロック）	2		音楽史（近・現代）	2							
			音楽の美学	2										
			音楽の史学	2										
			ジャズミュージック	2		ロックミュージック	2							
	音楽のキャリアデザインに関する分野		ギター演習	1		[ギター演習]								
			ピアノ指導法	2										
			音楽によるアウトリーチＡ	2		音楽によるアウトリーチＢ	2							
			インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年							
学部統合科目（注）						学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目														12
キリスト教・同志社関係科目														6
外国語科目														12
スポーツ・健康科目														2
区分外														38
合計														124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目				
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

（注）学部統合科目区分は 2017 年度以降入学生にのみ適用。2016 年度入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　卒業必要単位（2016～2020年度入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　2単位 選択必修　2単位				4単位
入門・概論科目		必修　6単位				6単位
応用・各論科目		必修　16単位	必修　12単位	必修　10単位	必修　6単位	44単位
学部統合科目		（注）学部統合科目区分は，2016年度入学生には適用しない。				0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						86単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						38単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低38単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　カリキュラム表（2016～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽基礎演習	2	春2	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	変更
通奏低音理論	2	春2	3	選択	
通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
通奏低音奏法研究	「通奏低音理論」を修得済のこと。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法概論	2	ミュージックセラピー概論

応用・各論科目（最低44単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンス分野	必修					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	ピアノ実技Ⅰ	1	半1/2	1	必修	読替
	ピアノ実技Ⅱ	1	半1/2	1	必修	読替
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	必修	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	必修	
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	必修	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	必修	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	必修	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	必修	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	必修	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	必修	
	選択					
	舞台表現応用Ａ	2	春2	2	選択	
	舞台表現応用Ｂ	2	秋2	2	選択	
	演奏専攻特別レッスンⅠ	1	春2	2	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅡ	1	春2	3	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅢ	1	春2	4	選択	欠講
	学内演奏Ⅰ	1	春2	3	選択	
	学内演奏Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅲ	1	春2	4	選択	
	学内演奏Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	オペラⅠ	1	春2	3	選択	
	オペラⅡ	1	秋2	3	選択	
	オペラⅢ	2	春4	4	選択	
	オペラⅣ	2	秋4	4	選択	
	古楽器演習Ⅰ	1	春2	3	選択	
	古楽器演習Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	古楽器演習Ⅲ	1	春2	4	選択	
	古楽器演習Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ａ	2	春2	3	選択	
	古典舞踏Ｂ	2	秋2	3	選択	
	指揮法Ⅰ	2	春2	3	選択	
	指揮法Ⅱ	2	秋2	3	選択	
音楽理論に関する分野	選択					
	和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
	和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	ソルフェージュⅤ	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	オーケストレーションⅠ	1	春2	4	選択	
	オーケストレーションⅡ	1	秋2	4	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	選択					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	春2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	2	選択	
	音楽心理学	2	秋2	2	選択	
	音楽の美学	2	春2	3	選択	
	音楽の史学	2	春2	3	選択	
	ポピュラーミュージックＡ	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックＢ	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
音楽のキャリアデザインに関する分野	必修					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	リトミックＡ	1	春2	1	選択	
	リトミックＢ	1	秋2	1	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＡ	2	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＢ	2	秋2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＡ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＢ	2	秋2	3	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講
	学芸学部ジョイントプログラム（2016年度入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	「専門実技Ⅰ」を修得済のこと。
専門実技Ⅲ	「専門実技Ⅱ」を修得済のこと。
専門実技Ⅳ	「専門実技Ⅲ」を修得済のこと。
専門実技Ⅴ	「専門実技Ⅳ」を修得済のこと。
専門実技Ⅵ	「専門実技Ⅴ」を修得済のこと。
専門実技Ⅶ	「専門実技Ⅵ」を修得済のこと。
専門実技Ⅷ	「専門実技Ⅶ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅱ	「ピアノ実技Ⅰ」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
ピアノ実技Ⅰ	1	副科ピアノⅠ
ピアノ実技Ⅱ	1	副科ピアノⅡ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生のみ適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　科目配置表＜2016～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次					
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位
基礎教育科目			楽典	2		[和声法Ⅰ]			[和声法Ⅱ]			[和声法Ⅲ]	
		◎	和声法Ⅰ	1	◎	和声法Ⅱ	1		[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]	
		◎	和声法Ⅲ	1	◎	和声法Ⅳ	1						
		●	ソルフェージュⅠ	1	●	ソルフェージュⅡ	1		ソルフェージュⅢ	1		ソルフェージュⅣ	1
入門・概論科目		●	音楽基礎演習	2									
		●	音楽通史Ａ	2	●	音楽通史Ｂ	2						
						音楽療法概論	2						
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅰ	3	●	専門実技Ⅱ	3	●	専門実技Ⅲ	3	●	専門実技Ⅳ	3
			室内楽Ⅰ	1					室内楽Ⅱ	1		室内楽Ⅱ	1
			舞台表現基礎Ⅰ	2		舞台表現基礎Ⅱ	2						
									演奏専攻特別レッスンⅠ	1			
									声楽実技Ⅰ	1		声楽実技Ⅱ	1
		●	合唱Ⅰ	1	●	合唱Ⅱ	1		合唱Ⅲ	1		合唱Ⅳ	1
					●	ピアノ奏法基礎	2	●	ピアノ奏法研究	2	●	オルガン・チェンバロ奏法概論	2
									ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2		ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2
	音楽理論に関する分野								和声法Ⅴ	1		和声法Ⅵ	1
	音楽文化に関する分野								音楽史（古典派）	2		音楽史（ロマン派）	2
									音楽社会学	2		音楽心理学	2
									民族の音楽	2			
									日本の音楽	2			
									ポピュラーミュージックＡ	2		ポピュラーミュージックＢ	2
									映画・舞台音楽	2			
									コンピュータ音楽演習	2		[コンピュータ音楽演習]	
	音楽のキャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2		和楽器実習	1			
			リトミックＡ	1		リトミックＢ	1						
									ミュージックマネージメントＡ	2		ミュージックマネージメントＢ	2
学部統合科目（注）													
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]							
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2						
外国語科目		●	英語講読ⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	英語コミュニケーションⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
		●	Communication in English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語										
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]							
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等										
合計													

		3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目			[和声法Ⅳ]											4
入門・概論科目			通奏低音理論	2		通奏低音奏法研究	2							6
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅴ	3	●	専門実技Ⅵ	3	●	専門実技Ⅶ	3	●	専門実技Ⅷ	3	34
			室内楽Ⅲ	1		室内楽Ⅳ	1		室内楽Ⅴ	1		室内楽Ⅵ	1	
			古典舞踏Ａ	2		古典舞踏Ｂ	2							
			指揮法Ⅰ	2		指揮法Ⅱ	2							
			学内演奏Ⅰ	1		学内演奏Ⅱ	1		学内演奏Ⅲ	1		学内演奏Ⅳ	1	
			演奏専攻特別レッスンⅡ	1					演奏専攻特別レッスンⅢ	1				
			オルガン実技	1		[オルガン実技]								
			チェンバロ実技	1		[チェンバロ実技]								
			合唱Ⅴ	1		合唱Ⅵ	1		合唱Ⅶ	1		合唱Ⅷ	1	
						20世紀のピアノ音楽	2							
			フランス語声楽曲研究Ⅰ	2		フランス語声楽曲研究Ⅱ	2							
			古楽器演習Ⅰ	1		古楽器演習Ⅱ	1		古楽器演習Ⅲ	1		古楽器演習Ⅳ	1	
	音楽理論に関する分野		和声法Ⅶ	1		和声法Ⅷ	1							
			ソルフェージュⅤ	1		ソルフェージュⅥ	1					作曲法（編曲法を含む）	1	
			アナリーゼⅠ	2		アナリーゼⅡ	2		オーケストレーションⅠ	1		オーケストレーションⅡ	1	
			対位法Ⅰ	1		対位法Ⅱ	1		対位法Ⅲ	1		対位法Ⅳ	1	
	音楽文化に関する分野		音楽史（中世からバロック）	2		音楽史（近・現代）	2							
			音楽の美学	2										
			音楽の史学	2										
			ジャズミュージック	2		ロックミュージック	2							
	音楽のキャリアデザインに関する分野		ギター演習	1		[ギター演習]								
			ピアノ指導法	2										
			音楽によるアウトリーチＡ	2		音楽によるアウトリーチＢ	2							
			インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年							
学部統合科目（注）						学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目														12
キリスト教・同志社関係科目														6
外国語科目														12
スポーツ・健康科目														2
区分外														48
合計														124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

	自由選択科目			
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]

（注）学部統合科目区分は 2017 年度以降入学生にのみ適用。2016 年度入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　卒業必要単位（2016～2020年度入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　2単位 選択必修　2単位				4単位
入門・概論科目		必修　6単位				6単位
応用・各論科目		必修　12単位	必修　10単位	必修　6単位	必修　6単位	34単位
学部統合科目		（注）学部統合科目区分は，2016年度入学生には適用しない。				0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
各コース共通	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
各コース共通	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
各コース共通	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						76単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						48単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低48単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　カリキュラム表（2016～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽基礎演習	2	春2	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	変更
通奏低音理論	2	春2	3	選択	
通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
通奏低音奏法研究	「通奏低音理論」を修得済のこと。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法概論	2	ミュージックセラピー概論

応用・各論科目（最低34単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンス分野	必修					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	ピアノ奏法基礎	2	春2	1	必修	読替
	ピアノ奏法研究	2	春2	2	必修	
	オルガン・チェンバロ奏法概論	2	秋2	2	必修	
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	演奏専攻特別レッスンⅠ	1	春2	2	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅡ	1	春2	3	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅢ	1	春2	4	選択	欠講
	声楽実技Ⅰ	1	半1/2	2	選択	読替
	声楽実技Ⅱ	1	半1/2	2	選択	読替
	オルガン実技	1	半1/2	3	選択	
	チェンバロ実技	1	半1/2	3	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	20世紀のピアノ音楽	2	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅰ	1	春2	3	選択	
	学内演奏Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅲ	1	春2	4	選択	
	学内演奏Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古楽器演習Ⅰ	1	春2	3	選択	
	古楽器演習Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	古楽器演習Ⅲ	1	春2	4	選択	
	古楽器演習Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ａ	2	春2	3	選択	
	古典舞踏Ｂ	2	秋2	3	選択	
	指揮法Ⅰ	2	春2	3	選択	
	指揮法Ⅱ	2	秋2	3	選択	
音楽理論に関する分野	選択					
	和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
	和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	ソルフェージュⅤ	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	オーケストレーションⅠ	1	春2	4	選択	
	オーケストレーションⅡ	1	秋2	4	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	選択					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	春2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	2	選択	
	音楽心理学	2	秋2	2	選択	
	音楽の美学	2	春2	3	選択	
	音楽の史学	2	春2	3	選択	
	ポピュラーミュージックＡ	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックＢ	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
音楽のキャリアデザインに関する分野	必修					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	リトミックＡ	1	春2	1	選択	
	リトミックＢ	1	秋2	1	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＡ	2	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＢ	2	秋2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＡ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＢ	2	秋2	3	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講
	学芸学部ジョイントプログラム（2016年度入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	「専門実技Ⅰ」を修得済のこと。
専門実技Ⅲ	「専門実技Ⅱ」を修得済のこと。
専門実技Ⅳ	「専門実技Ⅲ」を修得済のこと。
専門実技Ⅴ	「専門実技Ⅳ」を修得済のこと。
専門実技Ⅵ	「専門実技Ⅴ」を修得済のこと。
専門実技Ⅶ	「専門実技Ⅵ」を修得済のこと。
専門実技Ⅷ	「専門実技Ⅶ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅱ	「声楽実技Ⅰ」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
ピアノ奏法基礎	2	ピアノ奏法基礎Ⅰ
声楽実技Ⅰ	1	副科声楽Ⅰ
声楽実技Ⅱ	1	副科声楽Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生のみ適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　科目配置表＜2016～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次					
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位
基礎教育科目			楽典	2		[和声法Ⅰ]			[和声法Ⅱ]			[和声法Ⅲ]	
		◎	和声法Ⅰ	1	◎	和声法Ⅱ	1		[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]	
		◎	和声法Ⅲ	1	◎	和声法Ⅳ	1						
		●	ソルフェージュⅠ	1	●	ソルフェージュⅡ	1		ソルフェージュⅢ	1		ソルフェージュⅣ	1
入門・概論科目		●	音楽基礎演習	2									
		●	音楽通史Ａ	2	●	音楽通史Ｂ	2						
						音楽療法概論	2						
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅰ	3	●	専門実技Ⅱ	3	●	専門実技Ⅲ	3	●	専門実技Ⅳ	3
			舞台表現基礎Ⅰ	2		舞台表現基礎Ⅱ	2		室内楽Ⅰ	1		室内楽Ⅱ	1
									演奏専攻特別レッスンⅠ	1			
		●	ピアノ実技Ⅰ	1	●	ピアノ実技Ⅱ	1		声楽実技Ⅰ	1		声楽実技Ⅱ	1
		●	合唱Ⅰ	1	●	合唱Ⅱ	1		合唱Ⅲ	1		合唱Ⅳ	1
									ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2		ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2
	音楽理論に関する分野								和声法Ⅴ	1		和声法Ⅵ	1
	音楽文化に関する分野								音楽史（古典派）	2		音楽史（ロマン派）	2
									音楽社会学	2		音楽心理学	2
									民族の音楽	2			
									日本の音楽	2			
									ポピュラーミュージックＡ	2		ポピュラーミュージックＢ	2
									映画・舞台音楽	2			
									コンピュータ音楽演習	2		[コンピュータ音楽演習]	
	音楽のキャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2		和楽器実習	1			
			リトミックＡ	1		リトミックＢ	1						
									ミュージックマネージメントＡ	2		ミュージックマネージメントＢ	2
学部統合科目（注）													
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]							
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2						
外国語科目		●	英語講読ⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	英語コミュニケーションⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
		●	Communication in English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語										
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]							
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等										
合計													

		3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目			[和声法Ⅳ]											4
入門・概論科目		●	通奏低音理論	2	●	通奏低音奏法研究	2							10
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅴ	3	●	専門実技Ⅵ	3	●	専門実技Ⅶ	3	●	専門実技Ⅷ	3	36
			室内楽Ⅲ	1		室内楽Ⅳ	1		室内楽Ⅴ	1		室内楽Ⅵ	1	
			古典舞踏Ａ	2		古典舞踏Ｂ	2							
			指揮法Ⅰ	2		指揮法Ⅱ	2							
			学内演奏Ⅰ	1		学内演奏Ⅱ	1		学内演奏Ⅲ	1		学内演奏Ⅳ	1	
			演奏専攻特別レッスンⅡ	1					演奏専攻特別レッスンⅢ	1				
			オルガン実技＊	1		[オルガン実技]								
			チェンバロ実技＊	1		[チェンバロ実技]								
			合唱Ⅴ	1		合唱Ⅵ	1		合唱Ⅶ	1		合唱Ⅷ	1	
		◎	オルガン奏法研究	2										
		◎	チェンバロ奏法研究	2		20世紀のピアノ音楽	2							
			フランス語声楽曲研究Ⅰ	2		フランス語声楽曲研究Ⅱ	2							
		●	古楽器演習Ⅰ	1	●	古楽器演習Ⅱ	1	●	古楽器演習Ⅲ	1	●	古楽器演習Ⅳ	1	
	音楽理論に関する分野		和声法Ⅶ	1		和声法Ⅷ	1							
			ソルフェージュⅤ	1		ソルフェージュⅥ	1					作曲法（編曲法を含む）	1	
			アナリーゼⅠ	2		アナリーゼⅡ	2		オーケストレーションⅠ	1		オーケストレーションⅡ	1	
			対位法Ⅰ	1		対位法Ⅱ	1		対位法Ⅲ	1		対位法Ⅳ	1	
	音楽文化に関する分野		音楽史（中世からバロック）	2		音楽史（近・現代）	2							
			音楽の美学	2										
			音楽の史学	2										
			ジャズミュージック	2		ロックミュージック	2							
	音楽のキャリアデザインに関する分野		ギター演習	1		[ギター演習]								
			ピアノ指導法	2										
			音楽によるアウトリーチＡ	2		音楽によるアウトリーチＢ	2							
			インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年							
学部統合科目（注）						学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目														12
キリスト教・同志社関係科目														6
外国語科目														12
スポーツ・健康科目														2
区分外														42
合計														124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

	自由選択科目			
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]

＊当該楽器を専攻する学生は履修不可

（注）学部統合科目区分は2017年度以降入学生にのみ適用。2016年度入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　卒業必要単位（2016～2020年度入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　2単位 選択必修　2単位				4単位
入門・概論科目		必修　6単位		必修　4単位		10単位
応用・各論科目		必修　12単位	必修　6単位	必修　8単位 選択必修　2単位	必修　8単位	36単位
学部統合科目		（注）学部統合科目区分は，2016年度入学生には適用しない。				0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						82単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						42単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低42単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　カリキュラム表（2016～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低10単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽基礎演習	2	春2	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
通奏低音理論	2	春2	3	必修	
通奏低音奏法研究	2	秋2	3	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	変更

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
通奏低音奏法研究	「通奏低音理論」を修得済のこと。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法概論	2	ミュージックセラピー概論

応用・各論科目（最低36単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンス分野	**必修**					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	ピアノ実技Ⅰ	1	半1/2	1	必修	読替
	ピアノ実技Ⅱ	1	半1/2	1	必修	読替
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	古楽器演習Ⅰ	1	春2	3	必修	
	古楽器演習Ⅱ	1	秋2	3	必修	
	古楽器演習Ⅲ	1	春2	4	必修	
	古楽器演習Ⅳ	1	秋2	4	必修	
	選択必修					
	オルガン奏法研究	2	春2	3	選択必修	
	チェンバロ奏法研究	2	春2	3	2単位	
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	演奏専攻特別レッスンⅠ	1	春2	2	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅡ	1	春2	3	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅢ	1	春2	4	選択	欠講
	声楽実技Ⅰ	1	半1/2	2	選択	読替
	声楽実技Ⅱ	1	半1/2	2	選択	読替
	オルガン実技	1	半1/2	3	選択	
	チェンバロ実技	1	半1/2	3	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	20世紀のピアノ音楽	2	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅰ	1	春2	3	選択	
	学内演奏Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅲ	1	春2	4	選択	
	学内演奏Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏A	2	春2	3	選択	
	古典舞踏B	2	秋2	3	選択	
	指揮法Ⅰ	2	春2	3	選択	
	指揮法Ⅱ	2	秋2	3	選択	
音楽理論に関する分野	**選択**					
	和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
	和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	ソルフェージュⅤ	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	オーケストレーションⅠ	1	春2	4	選択	
	オーケストレーションⅡ	1	秋2	4	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	**選択**					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	春2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	2	選択	
	音楽心理学	2	秋2	2	選択	
	音楽の美学	2	春2	3	選択	
	音楽の史学	2	春2	3	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
音楽のキャリアデザインに関する分野	**必修**					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	リトミックA	1	春2	1	選択	
	リトミックB	1	秋2	1	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントA	2	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントB	2	秋2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチA	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチB	2	秋2	3	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	欠講
	学芸学部ジョイントプログラム（2016年度入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1．「チェンバロ実技」はチェンバロを専攻している学生は履修不可
　「オルガン実技」はオルガンを専攻している学生は履修不可
2．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	「専門実技Ⅰ」を修得済のこと。
専門実技Ⅲ	「専門実技Ⅱ」を修得済のこと。
専門実技Ⅳ	「専門実技Ⅲ」を修得済のこと。
専門実技Ⅴ	「専門実技Ⅳ」を修得済のこと。
専門実技Ⅵ	「専門実技Ⅴ」を修得済のこと。
専門実技Ⅶ	「専門実技Ⅵ」を修得済のこと。
専門実技Ⅷ	「専門実技Ⅶ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅱ	「ピアノ実技Ⅰ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅱ	「声楽実技Ⅰ」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
ピアノ実技Ⅰ	1	副科ピアノⅠ
ピアノ実技Ⅱ	1	副科ピアノⅡ
声楽実技Ⅰ	1	副科声楽Ⅰ
声楽実技Ⅱ	1	副科声楽Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生のみ適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　科目配置表＜2016～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目			楽典	2		[和声法Ⅰ]			[和声法Ⅱ]			[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]											4
		◎	和声法Ⅰ	1	◎	和声法Ⅱ	1		[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]														
		◎	和声法Ⅲ	1	◎	和声法Ⅳ	1																			
		●	ソルフェージュⅠ	1	●	ソルフェージュⅡ	1		ソルフェージュⅢ	1		ソルフェージュⅣ	1													
入門・概論科目		●	音楽基礎演習	2											通奏低音理論	2		通奏低音奏法研究	2							6
		●	音楽通史Ａ	2	●	音楽通史Ｂ	2																			
						音楽療法概論	2																			
応用・各論科目	パフォーマンス分野	●	専門実技Ⅰ	3	●	専門実技Ⅱ	3	●	専門実技Ⅲ	3	●	専門実技Ⅳ	3	●	専門実技Ⅴ	3	●	専門実技Ⅵ	3	●	専門実技Ⅶ	3	●	専門実技Ⅷ	3	54
			舞台表現基礎Ⅰ	2		舞台表現基礎Ⅱ	2		室内楽Ⅰ	1		室内楽Ⅱ	1		室内楽Ⅲ	1		室内楽Ⅳ	1		室内楽Ⅴ	1		室内楽Ⅵ	1	
															古典舞踏Ａ	2		古典舞踏Ｂ	2							
															指揮法Ⅰ	2		指揮法Ⅱ	2							
															学内演奏Ⅰ	1		学内演奏Ⅱ	1		学内演奏Ⅲ	1		学内演奏Ⅳ	1	
									演奏専攻特別レッスンⅠ	1					演奏専攻特別レッスンⅡ	1					演奏専攻特別レッスンⅢ	1				
		●	ピアノ実技Ⅰ	1	●	ピアノ実技Ⅱ	1		声楽実技Ⅰ	1		声楽実技Ⅱ	1		古楽器演習Ⅰ	1		古楽器演習Ⅱ	1		古楽器演習Ⅲ	1		古楽器演習Ⅳ	1	
		●	合唱Ⅰ	1	●	合唱Ⅱ	1		合唱Ⅲ	1		合唱Ⅳ	1		合唱Ⅴ	1		合唱Ⅵ	1		合唱Ⅶ	1		合唱Ⅷ	1	
									ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2		ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2		フランス語声楽曲研究Ⅰ	2		フランス語声楽曲研究Ⅱ	2							
		◎	オーケストラⅠ	3	◎	オーケストラⅡ	3	◎	オーケストラⅢ	3	◎	オーケストラⅣ	3	◎	オーケストラⅤ	3	◎	オーケストラⅥ	3	◎	オーケストラⅦ	3	◎	オーケストラⅧ	3	
		◎	吹奏楽Ⅰ	3	◎	吹奏楽Ⅱ	3	◎	吹奏楽Ⅲ	3	◎	吹奏楽Ⅳ	3	◎	吹奏楽Ⅴ	3	◎	吹奏楽Ⅵ	3	◎	吹奏楽Ⅶ	3	◎	吹奏楽Ⅷ	3	
	音楽理論に関する分野								和声法Ⅴ	1		和声法Ⅵ	1		和声法Ⅶ	1		和声法Ⅷ	1							
															ソルフェージュⅤ	1		ソルフェージュⅥ	1					作曲法（編曲法を含む）	1	
															アナリーゼⅠ	2		アナリーゼⅡ	2		オーケストレーションⅠ	1		オーケストレーションⅡ	1	
															対位法Ⅰ	1		対位法Ⅱ	1		対位法Ⅲ	1		対位法Ⅳ	1	
	音楽文化に関する分野								音楽史（古典派）	2		音楽史（ロマン派）	2		音楽史（中世からバロック）	2		音楽史（近・現代）	2							
									音楽社会学	2		音楽心理学	2		音楽の美学	2										
									民族の音楽	2					音楽の史学	2										
									日本の音楽	2																
									ポピュラーミュージックＡ	2		ポピュラーミュージックＢ	2		ジャズミュージック	2		ロックミュージック	2							
									映画・舞台音楽	2																
									コンピュータ音楽演習	2		[コンピュータ音楽演習]														
	音楽のキャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2		和楽器実習	1					ギター演習	1		[ギター演習]								
			リトミックＡ	1		リトミックＢ	1		教職ピアノⅠ	2		教職ピアノⅡ	2													
															ピアノ指導法	2										
									ミュージックマネージメントＡ	2		ミュージックマネージメントＢ	2		音楽によるアウトリーチＡ	2		音楽によるアウトリーチＢ	2							
															インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年							
学部統合科目（注）																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目			[共通学芸選択科目]																				12
			他学科科目			[他学科科目]																				
キリスト教・同志社関係科目		●	聖書Ａ	2	●	聖書Ｂ	2																			6
		◎	キリスト教・同志社関係選択必修科目			[キリスト教・同志社関係選択必修科目]																				
外国語科目		●	英語講読ⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1													12
		●	英語コミュニケーションⅠＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠＢ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＡ（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡＢ（2018年度以前入学生に適用）	1													
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1													
		●	Communication in English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1													
			◎フランス語，◎ドイツ語，◎イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語																							
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
区分外			＊上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							28
合計																										124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

	自由選択科目					
	コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]		

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

（注）学部統合科目区分は 2017 年度以降入学生にのみ適用。2016 年度入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　卒業必要単位（2016～2020年度入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　2単位 選択必修　2単位				4単位
入門・概論科目		必修　6単位				6単位
応用・各論科目		必修　12単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	必修　6単位 選択必修　6単位	54単位
学部統合科目		（注）学部統合科目区分は，2016年度入学生には適用しない。				0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						96単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						28単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低28単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　カリキュラム表（2016～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修 2 単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」「和声法」の同時履修はできない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽基礎演習	2	春2	1	必修	
音楽通史Ａ	2	春2	1	必修	
音楽通史Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	変更
通奏低音理論	2	春2	3	選択	
通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
通奏低音奏法研究	「通奏低音理論」を修得済のこと。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法概論	2	ミュージックセラピー概論

応用・各論科目（最低54単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
パフォーマンス分野	**必修**					
	専門実技Ⅰ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅱ	3	半1	1	必修	
	専門実技Ⅲ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅳ	3	半1	2	必修	
	専門実技Ⅴ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅵ	3	半1	3	必修	
	専門実技Ⅶ	3	半1	4	必修	
	専門実技Ⅷ	3	半1	4	必修	
	ピアノ実技Ⅰ	1	半1/2	1	必修	読替
	ピアノ実技Ⅱ	1	半1/2	1	必修	読替
	合唱Ⅰ	1	春2	1	必修	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	必修	
	選択必修					
	オーケストラⅠ	3	春8	1	選択必修24単位	
	オーケストラⅡ	3	秋8	1		
	オーケストラⅢ	3	春8	2		
	オーケストラⅣ	3	秋8	2		
	オーケストラⅤ	3	春8	3		
	オーケストラⅥ	3	秋8	3		
	オーケストラⅦ	3	春8	4		
	オーケストラⅧ	3	秋8	4		
	吹奏楽Ⅰ	3	春8	1		
	吹奏楽Ⅱ	3	秋8	1		
	吹奏楽Ⅲ	3	春8	2		
	吹奏楽Ⅳ	3	秋8	2		
	吹奏楽Ⅴ	3	春8	3		
	吹奏楽Ⅵ	3	秋8	3		
	吹奏楽Ⅶ	3	春8	4		
	吹奏楽Ⅷ	3	秋8	4		
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	室内楽Ⅰ	1	春1/2	2	選択	
	室内楽Ⅱ	1	秋1/2	2	選択	
	室内楽Ⅲ	1	春1/2	3	選択	
	室内楽Ⅳ	1	秋1/2	3	選択	
	室内楽Ⅴ	1	春1/2	4	選択	
	室内楽Ⅵ	1	秋1/2	4	選択	
	演奏専攻特別レッスンⅠ	1	春2	2	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅡ	1	春2	3	選択	欠講
	演奏専攻特別レッスンⅢ	1	春2	4	選択	欠講
	声楽実技Ⅰ	1	半1/2	2	選択	読替
	声楽実技Ⅱ	1	半1/2	2	選択	読替
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅰ	1	春2	3	選択	
	学内演奏Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	学内演奏Ⅲ	1	春2	4	選択	
	学内演奏Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古楽器演習Ⅰ	1	春2	3	選択	
	古楽器演習Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	古楽器演習Ⅲ	1	春2	4	選択	
	古楽器演習Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏Ａ	2	春2	3	選択	
	古典舞踏Ｂ	2	秋2	3	選択	
	指揮法Ⅰ	2	春2	3	選択	
	指揮法Ⅱ	2	秋2	3	選択	
音楽理論に関する分野	**選択**					
	和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
	和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	ソルフェージュⅤ	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	オーケストレーションⅠ	1	春2	4	選択	
	オーケストレーションⅡ	1	秋2	4	選択	

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	**選択**					
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	春2	2	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
	音楽社会学	2	春2	2	選択	
	音楽心理学	2	秋2	2	選択	
	音楽の美学	2	春2	3	選択	
	音楽の史学	2	春2	3	選択	
	ポピュラーミュージックＡ	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックＢ	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
音楽のキャリアデザインに関する分野	**必修**					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	リトミックＡ	1	春2	1	選択	
	リトミックＢ	1	秋2	1	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＡ	2	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントＢ	2	秋2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＡ	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチＢ	2	秋2	3	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	
	学芸学部ジョイントプログラム（2016年度入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
専門実技Ⅱ	「専門実技Ⅰ」を修得済のこと。
専門実技Ⅲ	「専門実技Ⅱ」を修得済のこと。
専門実技Ⅳ	「専門実技Ⅲ」を修得済のこと。
専門実技Ⅴ	「専門実技Ⅳ」を修得済のこと。
専門実技Ⅵ	「専門実技Ⅴ」を修得済のこと。
専門実技Ⅶ	「専門実技Ⅵ」を修得済のこと。
専門実技Ⅷ	「専門実技Ⅶ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅱ	「ピアノ実技Ⅰ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅱ	「声楽実技Ⅰ」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
ピアノ実技Ⅰ	1	副科ピアノⅠ
ピアノ実技Ⅱ	1	副科ピアノⅡ
声楽実技Ⅰ	1	副科声楽Ⅰ
声楽実技Ⅱ	1	副科声楽Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生のみ適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

2016～2020OE管弦打

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　科目配置表＜2016～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次					
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位
基礎教育科目			楽典	2		[和声法Ⅰ]			[和声法Ⅱ]			[和声法Ⅲ]	
		◎	和声法Ⅰ	1	◎	和声法Ⅱ	1		[和声法Ⅲ]			[和声法Ⅳ]	
		◎	和声法Ⅲ	1	◎	和声法Ⅳ	1						
		●	ソルフェージュⅠ	1	●	ソルフェージュⅡ	1		ソルフェージュⅢ	1		ソルフェージュⅣ	1
			音楽文献購読Ⅰ	2		音楽文献購読Ⅱ	2		ミュージックリテラチュアC	2		ミュージックリテラチュアD	2
入門・概論科目		●	音楽文化基礎演習Ⅰ	2	●	音楽文化基礎演習Ⅱ	2						
		●	音楽通史A	2	●	音楽通史B	2						
						音楽療法概論	2						
			アニメ音楽	2		ゲーム音楽	2						
応用・各論科目	音楽文化に関する分野 ミュージックスタディーズ科目群								音楽社会学	2		音楽心理学	2
									音楽史（古典派）	2		音楽史（ロマン派）	2
									民族の音楽	2			
									日本の音楽	2			
									ポピュラーミュージックA	2		ポピュラーミュージックB	2
	ミュージックエデュケーション科目群								音楽教育史A	2		音楽教育史B	2
	ミュージックセラピー科目群								ミュージックセラピー基礎Ⅰ	2		ミュージックセラピー基礎Ⅱ	2
									ミュージックセラピー(グループ体験)	2		ミュージックセラピー技能演習A	2
												音楽療法（グループ体験）	2
									特別支援教育	2			
									医学概論	2			
	サウンドデザイン科目群								映画・舞台音楽	2			
									キーボードハーモニー	2		[キーボードハーモニー]	
									ミュージッククリエイションA	2		ミュージッククリエイションB	2
									コンピュータミュージック演習A	2		コンピュータミュージック演習B	2
									コンピュータ音楽演習	2		[コンピュータ音楽演習]	
	音楽理論に関する分野								和声法Ⅴ	1		和声法Ⅵ	1
	パフォーマンス分野	●	声楽実技Ⅰ	1	●	声楽実技Ⅱ	1		声楽実技Ⅲ	1		声楽実技Ⅳ	1
		●	ピアノ実技Ⅰ	1	●	ピアノ実技Ⅱ	1		ピアノ実技Ⅲ	1		ピアノ実技Ⅳ	1
									楽器実技Ⅰ	1		楽器実技Ⅱ	1
			舞台表現基礎Ⅰ	2		舞台表現基礎Ⅱ	2						
									ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2		ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2
			合唱Ⅰ	1		合唱Ⅱ	1		合唱Ⅲ	1		合唱Ⅳ	1
			合奏Ⅰ	1		合奏Ⅱ	1		合奏Ⅲ	1		合奏Ⅳ	1
	音楽のキャリアデザインに関する分野				●	音楽とキャリアデザイン	2		和楽器実習	1			
									教職ピアノⅠ	2		教職ピアノⅡ	2
			リトミックA	1		リトミックB	1						
									ミュージックマネージメントA	2		ミュージックマネージメントB	2
学部統合科目（注）													
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]							
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書A キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書B [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2						
外国語科目		●	英語講読ⅠA（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅠB（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡA（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語講読ⅡB（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	英語コミュニケーションⅠA（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅠB（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡA（2018年度以前入学生に適用）	1	●	英語コミュニケーションⅡB（2018年度以前入学生に適用）	1
		●	Comprehensive English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Comprehensive English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
		●	Communication in English Ⅰ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅱ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅲ（2019年度以降入学生に適用）	1	●	Communication in English Ⅳ（2019年度以降入学生に適用）	1
			◎フランス語、◎ドイツ語、◎イタリア語、中国語、ハングル、スペイン語										
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			【スポーツ・健康選択必修科目】							
ゼミナール科目													
区分外			上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位										
合計													

		3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目			[和声法Ⅳ]											4
入門・概論科目			通奏低音理論	2		通奏低音奏法研究	2							8
応用・各論科目	音楽文化に関する分野 ミュージックスタディーズ科目群		音楽の美学	2										26
			音楽の史学	2										
			音楽史（中世からバロック）	2		音楽史（近・現代）	2							
			ジャズミュージック	2		ロックミュージック	2							
	ミュージックエデュケーション科目群		子どもと音楽A	2		子どもと音楽B	2							
			音楽科教科教育法A	2		音楽科教科教育法B	2							
			音楽科教科教育法基礎	2		中学音楽科教科教育法	2							
	ミュージックセラピー科目群		ミュージックセラピー各論A	2		ミュージックセラピー各論B	2							
			ミュージックセラピー技能演習B	2		ミュージックセラピー技能演習C	2							
			ミュージックセラピー実習Ⅰ	2		ミュージックセラピー実習Ⅱ	2		ミュージックセラピー実習Ⅲ	2				
									臨床の医学A	2		臨床の医学B	2	
									臨床の心理学A	2		臨床の心理学B	2	
	サウンドデザイン科目群		ミュージッククリエイションC	2		ミュージッククリエイションD	2							
			コンピュータミュージック演習C	2		コンピュータミュージック演習D	2							
	音楽理論に関する分野		和声法Ⅶ	1		和声法Ⅷ	1		オーケストレーションⅠ	1		オーケストレーションⅡ	1	
			アナリーゼⅠ	2		アナリーゼⅡ	2					作曲法（編曲法を含む）	1	
			対位法Ⅰ	1		対位法Ⅱ	1		対位法Ⅲ	1		対位法Ⅳ	1	
			ソルフェージュⅤ	1		ソルフェージュⅥ	1							
	パフォーマンス分野		声楽実技Ⅴ	1		声楽実技Ⅵ	1		声楽実技Ⅶ	1		声楽実技Ⅷ	1	
			ピアノ実技Ⅴ	1		ピアノ実技Ⅵ	1		ピアノ実技Ⅶ	1		ピアノ実技Ⅷ	1	
			楽器実技Ⅲ	1		楽器実技Ⅳ	1		楽器実技Ⅴ	1		楽器実技Ⅵ	1	
			古典舞踏A	2		古典舞踏B	2							
			指揮法Ⅰ	2		指揮法Ⅱ	2							
			古楽器演習Ⅰ	1		古楽器演習Ⅱ	1		古楽器演習Ⅲ	1		古楽器演習Ⅳ	1	
			フランス語声楽曲研究Ⅰ	2		フランス語声楽曲研究Ⅱ	2							
			合唱Ⅴ	1		合唱Ⅵ	1		合唱Ⅶ	1		合唱Ⅷ	1	
			合奏Ⅴ	1		合奏Ⅵ	1		合奏Ⅶ	1		合奏Ⅷ	1	
	音楽のキャリアデザインに関する分野		ギター演習	1		[ギター演習]								
			ピアノ指導法	2										
			音楽によるアウトリーチA	2		音楽によるアウトリーチB	2							
			インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年							
学部統合科目（注）						学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目														10
キリスト教・同志社関係科目														6
外国語科目														12
スポーツ・健康科目														2
ゼミナール科目								◎	サウンドデザイン研究Ⅰ	2	◎	サウンドデザイン研究Ⅱ	2	4
								◎	ミュージックスタディーズ研究Ⅰ	2	◎	ミュージックスタディーズ研究Ⅱ	2	
								◎	ミュージックセラピー研究Ⅰ	2	◎	ミュージックセラピー研究Ⅱ	2	
								◎	ミュージックエデュケーション研究Ⅰ	2	◎	ミュージックエデュケーション研究Ⅱ	2	
区分外														52
合計														124

＜凡例＞
1. 必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．C．などは選択必修グループを表す。
2. 共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3. ［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

自由選択科目				
コンピュータ活用	2		[コンピュータ活用]	

（注）学部統合科目区分は 2017 年度以降入学生にのみ適用。2016 年度入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　卒業必要単位（2016～2020年度入学生適用）

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目		必修　2単位 選択必修　2単位				4単位
入門・概論科目		必修　8単位				8単位
応用・各論科目		必修　6単位				26単位
学部統合科目		（注）学部統合科目区分は，2016年度入学生には適用しない。				0単位
各コース共通	共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				10単位
各コース共通	キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
各コース共通	外国語科目	必修　4単位 選択必修　4単位	必修　4単位			12単位
各コース共通	スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目					選択必修　4単位	4単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計						72単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）						52単位
卒業に必要な単位						124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低52単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目，応用・各論科目に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　カリキュラム表（2016～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
ソルフェージュⅠ	1	春2	1	必修	
ソルフェージュⅡ	1	秋2	1	必修	
選択必修					
和声法Ⅰ	1	半2	1	選択必修2単位以上	
和声法Ⅱ	1	半2	1		
和声法Ⅲ	1	半2	1		
和声法Ⅳ	1	半2	1		
選択					
楽典	2	春2	1	選択	
ソルフェージュⅢ	1	春2	2	選択	
ソルフェージュⅣ	1	秋2	2	選択	
音楽文献講読Ⅰ	2	春2	1	選択	変更
音楽文献講読Ⅱ	2	秋2	1	選択	変更
ミュージックリテラチュアC	2	春2	2	選択	
ミュージックリテラチュアD	2	秋2	2	選択	

履修上の注意

1．「楽典」と「和声法」は同時履修できない。
2．選択必修科目において 2 単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽文献講読Ⅰ	2	ミュージックリテラチュアA
音楽文献講読Ⅱ	2	ミュージックリテラチュアB

入門・概論科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
音楽文化基礎演習Ⅰ	2	春2	1	必修	読替
音楽文化基礎演習Ⅱ	2	秋2	1	必修	
音楽通史A	2	春2	1	必修	
音楽通史B	2	秋2	1	必修	
選択					
音楽療法概論	2	秋2	1	選択	変更
アニメ音楽	2	春2	1	選択	変更
ゲーム音楽	2	秋2	1	選択	変更
通奏低音理論	2	春2	3	選択	
通奏低音奏法研究	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
通奏低音奏法研究	「通奏低音理論」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
音楽文化基礎演習Ⅱ	2	音楽文化基礎演習

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法概論	2	ミュージックセラピー概論
アニメ・ゲーム音楽A	2	アニメ音楽
アニメ・ゲーム音楽B	2	ゲーム音楽

応用・各論科目（最低26単位以上）

	授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
音楽文化に関する分野	選択					
	音楽社会学	2	春2	2	選択	
	音楽心理学	2	秋2	2	選択	
	音楽の美学	2	春2	3	選択	
	音楽の史学	2	春2	3	選択	
	音楽史（古典派）	2	春2	2	選択	
	音楽史（ロマン派）	2	秋2	2	選択	
	音楽史（中世からバロック）	2	春2	3	選択	
	音楽史（近・現代）	2	秋2	3	選択	
	民族の音楽	2	春2	2	選択	
	日本の音楽	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックA	2	春2	2	選択	
	ポピュラーミュージックB	2	秋2	2	選択	
	ジャズミュージック	2	春2	3	選択	
	ロックミュージック	2	秋2	3	選択	
	音楽教育史A	2	春2	2	選択	
	音楽教育史B	2	秋2	2	選択	
	子どもと音楽A	2	春2	3	選択	
	子どもと音楽B	2	秋2	3	選択	
	音楽科教科教育法基礎	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法A	2	春2	3	選択	
	音楽科教科教育法B	2	秋2	3	選択	
	中学音楽科教科教育法	2	秋2	3	選択	
	ミュージックセラピー基礎Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ミュージックセラピー基礎Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	ミュージックセラピー各論A	2	春2	3	選択	
	ミュージックセラピー各論B	2	秋2	3	選択	
	ミュージックセラピー（グループ体験）	2	春2	2	選択	
	音楽療法（グループ体験）	2	秋2	2	選択	変更
	ミュージックセラピー技能演習A	2	秋2	2	選択	
	ミュージックセラピー技能演習B	2	春2	3	選択	
	ミュージックセラピー技能演習C	2	秋2	3	選択	
	ミュージックセラピー実習Ⅰ	2	春2	3	選択	
	ミュージックセラピー実習Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	ミュージックセラピー実習Ⅲ	2	春2	4	選択	
	特別支援教育	2	春2	2	選択	
	医学概論	2	春2	2	選択	
	臨床の医学A	2	春2	4	選択	
	臨床の医学B	2	秋2	4	選択	
	臨床の心理学A	2	春2	4	選択	
	臨床の心理学B	2	秋2	4	選択	
	映画・舞台音楽	2	春2	2	選択	
	キーボードハーモニー	2	半2	2	選択	
	ミュージッククリエイションA	2	春2	2	選択	
	ミュージッククリエイションB	2	秋2	2	選択	
	ミュージッククリエイションC	2	春2	3	選択	
	ミュージッククリエイションD	2	秋2	3	選択	
	コンピュータミュージック演習A	2	春2	2	選択	
	コンピュータミュージック演習B	2	秋2	2	選択	
	コンピュータミュージック演習C	2	春2	3	選択	
	コンピュータミュージック演習D	2	秋2	3	選択	
	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	選択	
音楽理論に関する分野	選択					
	和声法Ⅴ	1	春2	2	選択	
	和声法Ⅵ	1	秋2	2	選択	
	和声法Ⅶ	1	春2	3	選択	
	和声法Ⅷ	1	秋2	3	選択	
	ソルフェージュⅤ	1	春2	3	選択	
	ソルフェージュⅥ	1	秋2	3	選択	
	アナリーゼⅠ	2	春2	3	選択	
	アナリーゼⅡ	2	秋2	3	選択	
	対位法Ⅰ	1	春2	3	選択	
	対位法Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	対位法Ⅲ	1	春2	4	選択	
	対位法Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	作曲法（編曲法を含む）	1	秋2	4	選択	
	オーケストレーションⅠ	1	春2	4	選択	
	オーケストレーションⅡ	1	秋2	4	選択	
パフォーマンス分野	必修					
	声楽実技Ⅰ	1	半1/2	1	必修	読替
	声楽実技Ⅱ	1	半1/2	1	必修	読替
	ピアノ実技Ⅰ	1	半1/2	1	必修	読替
	ピアノ実技Ⅱ	1	半1/2	1	必修	読替
	選択					
	舞台表現基礎Ⅰ	2	春2	1	選択	
	舞台表現基礎Ⅱ	2	秋2	1	選択	
	声楽実技Ⅲ	1	半1/2	2	選択	
	声楽実技Ⅳ	1	半1/2	2	選択	
	声楽実技Ⅴ	1	半1/2	3	選択	
	声楽実技Ⅵ	1	半1/2	3	選択	
	声楽実技Ⅶ	1	半1/2	4	選択	
	声楽実技Ⅷ	1	半1/2	4	選択	
	ピアノ実技Ⅲ	1	半1/2	2	選択	
	ピアノ実技Ⅳ	1	半1/2	2	選択	
	ピアノ実技Ⅴ	1	半1/2	3	選択	
	ピアノ実技Ⅵ	1	半1/2	3	選択	
	ピアノ実技Ⅶ	1	半1/2	4	選択	
	ピアノ実技Ⅷ	1	半1/2	4	選択	
	楽器実技Ⅰ	1	半1/2	2	選択	
	楽器実技Ⅱ	1	半1/2	2	選択	
	楽器実技Ⅲ	1	半1/2	3	選択	
	楽器実技Ⅳ	1	半1/2	3	選択	
	楽器実技Ⅴ	1	半1/2	4	選択	
	楽器実技Ⅵ	1	半1/2	4	選択	
	合唱Ⅰ	1	春2	1	選択	
	合唱Ⅱ	1	秋2	1	選択	
	合唱Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合唱Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合唱Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合唱Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合唱Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合唱Ⅷ	1	秋2	4	選択	
パフォーマンス分野	古楽器演習Ⅰ	1	春2	3	選択	
	古楽器演習Ⅱ	1	秋2	3	選択	
	古楽器演習Ⅲ	1	春2	4	選択	
	古楽器演習Ⅳ	1	秋2	4	選択	
	古典舞踏A	2	春2	3	選択	
	古典舞踏B	2	秋2	3	選択	
	指揮法Ⅰ	2	春2	3	選択	
	指揮法Ⅱ	2	秋2	3	選択	
	合奏Ⅰ	1	春2	1	選択	
	合奏Ⅱ	1	秋2	1	選択	
	合奏Ⅲ	1	春2	2	選択	
	合奏Ⅳ	1	秋2	2	選択	
	合奏Ⅴ	1	春2	3	選択	
	合奏Ⅵ	1	秋2	3	選択	
	合奏Ⅶ	1	春2	4	選択	
	合奏Ⅷ	1	秋2	4	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	2	選択	
	ドイツ語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	2	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅰ	2	春2	3	選択	
	フランス語声楽曲研究Ⅱ	2	秋2	3	選択	
音楽のキャリアデザインに関する分野	必修					
	音楽とキャリアデザイン	2	秋2	1	必修	
	選択					
	リトミックA	1	春2	1	選択	
	リトミックB	1	秋2	1	選択	
	和楽器実習	1	春2	2	選択	
	教職ピアノⅠ	2	春2	2	選択	
	教職ピアノⅡ	2	秋2	2	選択	
	ミュージックマネージメントA	2	春2	2	選択	
	ミュージックマネージメントB	2	秋2	2	選択	
	ギター演習	1	半2	3	選択	
	ピアノ指導法	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチA	2	春2	3	選択	
	音楽によるアウトリーチB	2	秋2	3	選択	
	インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	
	学芸学部ジョイントプログラム（2016年度入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
楽器実技Ⅱ	「楽器実技Ⅰ」を修得済のこと。
楽器実技Ⅲ	「楽器実技Ⅱ」を修得済のこと。
楽器実技Ⅳ	「楽器実技Ⅲ」を修得済のこと。
楽器実技Ⅴ	「楽器実技Ⅳ」を修得済のこと。
楽器実技Ⅵ	「楽器実技Ⅴ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅱ	「ピアノ実技Ⅰ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅲ	「ピアノ実技Ⅱ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅳ	「ピアノ実技Ⅲ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅴ	「ピアノ実技Ⅳ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅵ	「ピアノ実技Ⅴ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅶ	「ピアノ実技Ⅵ」を修得済のこと。
ピアノ実技Ⅷ	「ピアノ実技Ⅶ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅱ	「声楽実技Ⅰ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅲ	「声楽実技Ⅱ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅳ	「声楽実技Ⅲ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅴ	「声楽実技Ⅳ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅵ	「声楽実技Ⅴ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅶ	「声楽実技Ⅵ」を修得済のこと。
声楽実技Ⅷ	「声楽実技Ⅶ」を修得済のこと。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
ピアノ実技Ⅰ	1	副科ピアノⅠ
ピアノ実技Ⅱ	1	副科ピアノⅡ
声楽実技Ⅰ	1	副科声楽Ⅰ
声楽実技Ⅱ	1	副科声楽Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
音楽療法（グループ体験）	2	ミュージックセラピー（グループ体験）

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生のみ適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

ゼミナール科目（４単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
サウンドデザイン研究Ⅰ	2	春2	4	選択必修４単位	
サウンドデザイン研究Ⅱ	2	秋2	4		
ミュージックスタディーズ研究Ⅰ	2	春2	4		
ミュージックスタディーズ研究Ⅱ	2	秋2	4		
ミュージックセラピー研究Ⅰ	2	春2	4		
ミュージックセラピー研究Ⅱ	2	秋2	4		
ミュージックエデュケーション研究Ⅰ	2	春2	4		
ミュージックエデュケーション研究Ⅱ	2	秋2	4		

音楽学科各コース共通

（2016～2020年度入学生適用）

共通学芸科目

外国語科目

キリスト教・同志社関係科目

スポーツ・健康科目

共通学芸科目（最低12単位［音楽文化専攻は10単位］以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan StudiesＡ	2	秋2	1		
Japan StudiesＢ	2	秋2	1		
Japan StudiesＣ	2	秋2	1		
Japan StudiesＤ	2	秋2	1		
Japan StudiesＥ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップⅠ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan StudiesＡ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語（2018年度以前入学生適用）					
英語講読ⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語講読ⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語講読ⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語講読ⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
英語（2019年度以降入学生適用）					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Comprehensive English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Comprehensive English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
Communication in English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Communication in English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択	
初級中国語演習	2	秋4	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法
　a．指定された選択必修の言語の中より，1つの言語4単位を選択必修。「1つの言語4単位」とは，1種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得することをいう。
　b．選択必修としての外国語は，1年次に指定されたクラスで履修すること。
　　1年次では1つの言語のみ履修することができる。
　　1年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
　　1年次で不合格科目があった場合は，2年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。
　c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれか1つの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

2．選択の履修方法
　a．2年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。2年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。
　b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。
　c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，1つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。
　d．今出川キャンパスで開講される上級科目（3年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。
　e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
　f．ラピートプログラム
　　フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
　　これは，2，3年次に原則として同一言語の授業を週4回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので注意すること。（適性検査が実施される。）

3．全般事項
　a．1，2年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。
　b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。
　c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
　d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」4単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の4単位とし，英語の必修8単位及び外国語科目の選択必修4単位を適用しない。
　ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する8単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域の単位は，次のとおり修得しなければならない。

演奏専攻	声楽コース	38単位＋8単位＝46単位
	鍵盤楽器コース（ピアノ）	48単位＋8単位＝56単位
	鍵盤楽器コース（オルガン）	42単位＋8単位＝50単位
	鍵盤楽器コース（チェンバロ）	42単位＋8単位＝50単位
	管弦打楽器コース	28単位＋8単位＝36単位
音楽文化専攻		52単位＋8単位＝60単位

4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低2単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
　1年次に指定されたクラスで履修すること。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
コンピュータ活用	2	半2	2	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

学芸学部　メディア創造学科

（2018年度以降入学生適用）

学芸学部　メディア創造学科　教育理念・目標

急速に進化する情報通信技術は，現代社会のあらゆる分野に影響を与え，かつてないほどの急速な社会の変化をもたらしつつある。先端の情報技術は，社会の多様な分野に構造的変革をもたらす存在であるとともに，私たちの日常生活の中にまで浸透し，人の行動や思考・精神に影響を及ぼす重大な存在となっている。そのような情報技術の飛躍的な進歩とその普及が加速する現代において，メディアに関わる幅広い知識や技術を有し，多様なメディアを自在に活用・応用する創造的能力を持った人材が求められている。

また，メディアの進歩がもたらした革命性は，これまでの職能的専門性の壁を取り払った。コンピュータならびに周辺機器の普及によるデザイン活動のパーソナル化がその例である。結果として，芸術と情報工学が融合したメディアアート，ヒューマンインタフェース研究や，心理学と情報工学が融合した感性工学など，多様な学問や芸術分野を横断した新しい融合領域が切り開かれている。

本学科は，そのような現代の情報技術がもたらす状況や可能性をふまえて，「アートとデザイン」「マスメディアとカルチャー」「エンターテインメントとビジネス」「メディアとテクノロジー」をテーマとするメディア系 4 分野を配置し，これまで芸術系・社会学系・工学系など個別に分類されていた領域を越えて，学際的・横断的に学ぶためのプログラムを展開する。そしてそのような学びを通じて，次のように多様な能力の育成を目標とする。

・メディア分野全般における基本的な知識や技術，及び各人が必要とする専門分野における高度な知識･技術や，関連した他の多様な学問･芸術分野を横断する知識

・基礎的技術と専門的技術を組み合わせ，分野横断的な視点による独自の技術を生み出そうとする能力

・情報技術及びメディアの発達が社会全般に与える影響を理解し，その変化を予見する能力，及び常に社会情勢に関心を持ちながら，自らの考えに基づき創造的な指針を持って生きていく姿勢

・社会の多様な問題に対して主体的に関わり，創造的な問題解決へと導こうとする意欲，及び他者と共生するための積極的かつ柔軟な態度

・メディアを取り扱う者として，情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力

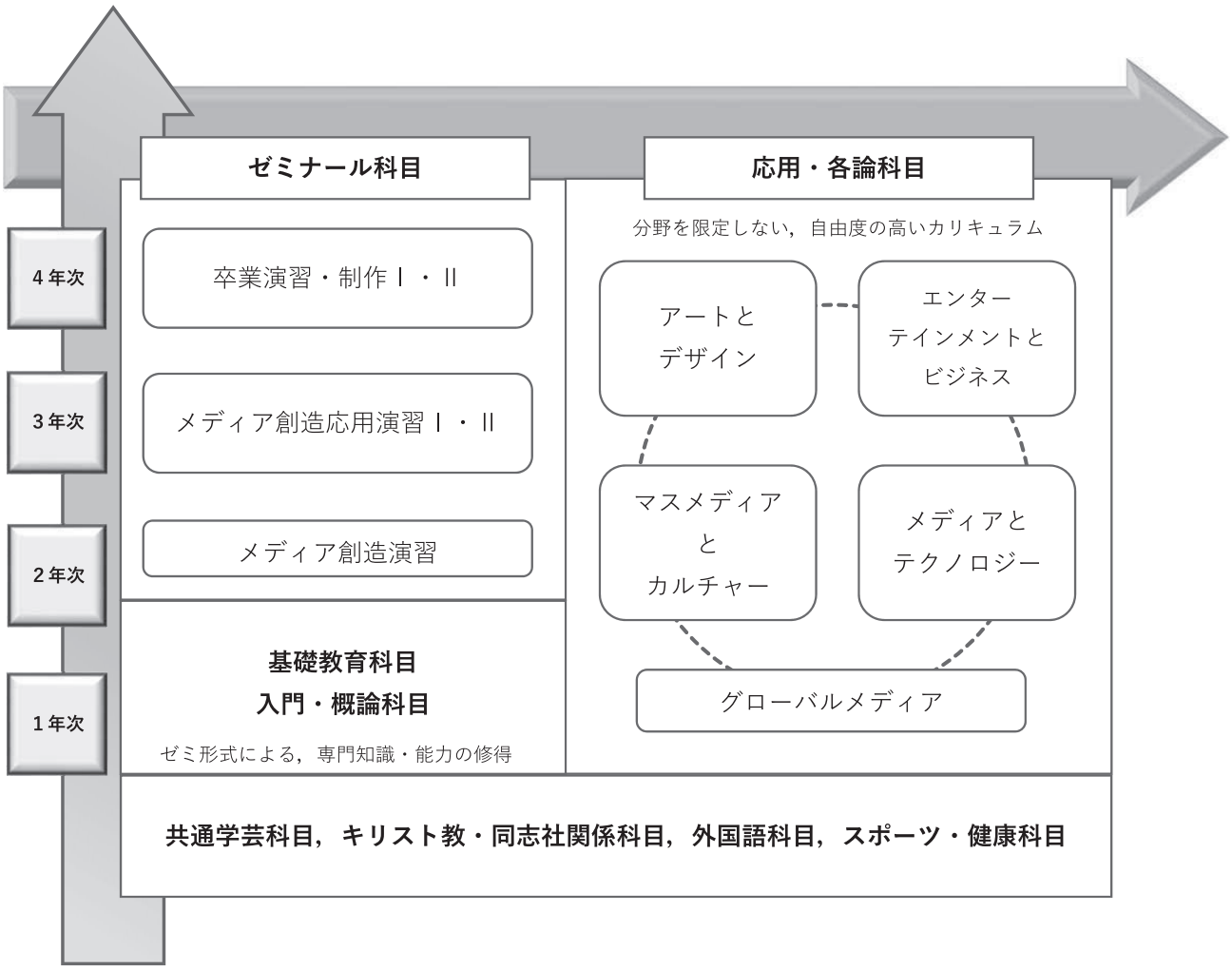
・メディアに関わる技術を用いてユニークな発想を生み出すこと，自己を表現すること，創造的に問題を解決することができる能力

これらの諸能力を総合的に身につけることで，新しい時代に柔軟に対応できる人材，そして多様な問題に対して主体的かつ積極的に関わり，創造的な問題解決へと導くことのできる人材の育成を目指す。

学芸学部　メディア創造学科　カリキュラム概念図

豊かな表現力と創造力を身につけ，

時代の最先端で活躍する女性へ



学芸学部　メディア創造学科　科目配置表＜2018年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		● ●	メディア創造基礎演習Ａ コンピュータ活用基礎	2 2	●	メディア創造基礎演習Ｂ プレゼンテーション技法 キャリアプランニング演習	2 2 2	●	メディア創造基礎演習Ｃ	2																8
入門・概論科目					●	メディア創造概論	2	●	女性の人生設計	2																4
応用・各論科目	アートとデザイン	●	グラフィック・WEB 基礎演習 イラスト表現演習	2 2	●	写真・動画基礎演習 [イラスト表現演習] アニメーション表現演習	2 2		写真表現演習 グラフィックデザイン論 グラフィックデザイン演習 エディトリアル・ブックデザイン演習 WEB デザイン演習 情報デザイン演習 3DCG 演習 現代美術演習 メディアアート論 メディアアート表現演習 演劇表現演習 音楽制作演習 サウンドデザイン演習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		写真表現論 [写真表現演習] ゲームデザイン演習 [グラフィックデザイン演習] [エディトリアル･ブックデザイン演習] [WEB デザイン演習] エクスペリエンスデザイン演習 3DCG アニメーション演習 パフォーマンス論 [音楽制作演習] [サウンドデザイン演習] 音楽表現論	2 2 2 2 2 2													60
	マスメディアとカルチャー	●	情報倫理 マルチメディア論 アニメーション表現論 都市メディア論	2 2 2 2		知覚メディアの心理学 ソーシャルメディア論 映像表現論 メディア社会学 メディア論	2 2 2 2 2	●	メディア文化史 マンガ文化論Ａ 情報サービス論 図書館サービス概論 現代美術論 ドラマ制作演習 放送番組制作 ジャーナリズム論 広告プランニング コミュニケーション論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		マンガ文化論Ｂ [情報サービス論] [図書館サービス概論] 現代哲学・メディア思想 ゲームデザイン論 [ドラマ制作演習] ドキュメンタリー制作演習 西洋美術表現論 デジタルアーカイブス	2 2 2 2 2 2		情報サービス演習Ａ 情報サービス演習Ｂ アナウンス技術 コーパス演習	2 2 2 2		[情報サービス演習Ａ] [情報サービス演習Ｂ] 宗教とメディア	 2										
	エンターテインメントとビジネス				●	メディアエンターテインメント論	2	●	マネージメント研究 プロデュース論Ａ プロジェクトプランニング演習Ⅰ プランニング演習 IT ビジネス研究 グローバルエンターテインメント論 調査統計法 音楽エンターテインメント産業論	2 2 2 2 2 2 2 2		プロデュース論Ｂ プロジェクトプランニング演習Ⅱ 情報ビジネス起業論 エンターテインメント産業論 ストラテジー研究Ａ ストラテジー研究Ｂ ステージビジネス演習 [調査統計法]	2 2 2 2 2 2 2		インターンシップⅡ	2		インターンシップⅡ	通年									
	メディアとテクノロジー	● ●	ネットワーク概論 ソフトウエア概論	2 2		情報ネットワーク WEB 技術演習 コンピュータ科学 テクノロジーと社会	2 2 2 2		情報ネットワーク応用Ⅰ プログラミングＡⅠ プログラミングＡⅡ データベース論 情報数学	2 2 2 2 2		情報ネットワーク応用Ⅱ プログラミングＡⅢ プログラミングＡⅣ ヒューマンインタフェース論	2 2 2 2		WEB プログラミング プログラミングＢⅠ 情報セキュリティ	2 2 2		プログラミングＢⅡ フィジカルコンピューティング	2 2								
	グローバルメディア	◎ ◎	メディア創造系海外事情Ａ メディア創造系海外事情Ｂ	2 2				◎ ◎ ◎ ◎	English Communication in Information and Media A Media and Cross-cultural Communication Writing for the Internet in English A Beginner's Reading	2 2 2 2	◎	English Communication in Information and Media B Writing for the Internet in English B アジアメディアスタディー 欧米メディアスタディー	 2 2 2 2	◎	Media Culture Reading	2										
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				12
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目		● ● ● ● ● ● ● ●	英語講読ⅠＡ (2018 年度入学生のみ適用) 英語コミュニケーションⅠＡ (2018 年度入学生のみ適用) Comprehensive English Ⅰ (2019 年度以降入学生に適用) Communication in English Ⅰ (2019 年度以降入学生に適用) フランス語，ドイツ語，イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語	1 1 1 1	● ● ● ● ● ● ● ●	英語講読ⅠＢ (2018 年度入学生のみ適用) 英語コミュニケーションⅠＢ (2018 年度入学生のみ適用) Comprehensive English Ⅱ (2019 年度以降入学生に適用) Communication in English Ⅱ (2019 年度以降入学生に適用) フランス語，ドイツ語，イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語	1 1 1 1	● ● ● ● ● ● ● ●	英語講読ⅡＡ (2018 年度入学生のみ適用) 英語コミュニケーションⅡＡ (2018 年度入学生のみ適用) Comprehensive English Ⅲ (2019 年度以降入学生に適用) Communication in English Ⅲ (2019 年度以降入学生に適用) フランス語，ドイツ語，イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語	1 1 1 1	● ● ● ● ● ● ● ●	英語講読ⅡＢ (2018 年度入学生のみ適用) 英語コミュニケーションⅡＢ (2018 年度入学生のみ適用) Comprehensive English Ⅳ (2019 年度以降入学生に適用) Communication in English Ⅳ (2019 年度以降入学生に適用) フランス語，ドイツ語，イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語	1 1 1 1																		8
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
ゼミナール科目											●	メディア創造演習	2	●	メディア創造応用演習Ⅰ	2	●	メディア創造応用演習Ⅱ	2	●	卒業演習・制作Ⅰ	2	●	卒業演習・制作Ⅱ	2	10
区分外			※上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えた単位，他学科科目の単位，他大学単位互換科目の単位等																							14
合計																										124
自由選択科目（図書館司書科目）						図書館概論 図書館情報技術論	2 2		図書館情報資源概論 図書・図書館史 図書館施設論	2 1 1		[図書館情報資源概論]			情報資源組織論 図書館制度・経営論	2 2		[情報資源組織論]			情報資源組織演習 図書館実習	4 1		情報資源組織演習 図書館実習	通年 通年	

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは，選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

学芸学部　メディア創造学科　卒業必要単位（2018年度以降入学生適用）

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目	必修　6単位	必修　2単位			8単位
入門・概論科目	必修　2単位	必修　2単位			4単位
応用・各論科目	必修　12単位 選択必修　4単位	必修　4単位			60単位
学部統合科目					0単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位 選択必修　2単位				6単位
外国語科目	必修　4単位	必修　4単位			8単位
スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目		必修　2単位	必修　4単位	必修　4単位	10単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					110単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位を超えた単位，他大学単位互換科目の単位等）					14単位
卒業に必要な単位					124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い履修すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低14単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次の通り。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。1学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情(アメリカ)	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情(イギリス)	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情(ニュージーランド)	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情(中国)	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情(カナダ)	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　メディア創造学科　カリキュラム表（2018年度以降入学生適用）

基礎教育科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
メディア創造基礎演習Ａ	2	春2	1	必修	
メディア創造基礎演習Ｂ	2	秋2	1	必修	
メディア創造基礎演習Ｃ	2	春2	2	必修	
コンピュータ活用基礎	2	春2	1	必修	
選択					
キャリアプランニング演習	2	半2	1	選択	
プレゼンテーション技法	2	半2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

入門・概論科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
メディア創造概論	2	半2	1	必修	
女性の人生設計	2	半2	2	必修	

履修上の注意

入門・概論科目はすべて必修である。

応用・各論科目（最低60単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
アートとデザイン					
必修					
グラフィック・WEB基礎演習	2	春2	1	必修	
写真・動画基礎演習	2	秋2	1	必修	
選択					
イラスト表現演習	2	半2	1	選択	
アニメーション表現演習	2	半2	1	選択	
写真表現論	2	半2	2	選択	
写真表現演習	2	半2	2	選択	
グラフィックデザイン論	2	半2	2	選択	
グラフィックデザイン演習	2	半2	2	選択	
ゲームデザイン演習	2	半2	2	選択	
エディトリアル・ブックデザイン演習	2	半2	2	選択	
エクスペリエンスデザイン演習	2	半2	2	選択	
WEBデザイン演習	2	半2	2	選択	
情報デザイン演習	2	半2	2	選択	
3DCG演習	2	半2	2	選択	
3DCGアニメーション演習	2	半2	2	選択	
メディアアート論	2	半2	2	選択	
メディアアート表現演習	2	半2	2	選択	
現代美術演習	2	半2	2	選択	
演劇表現演習	2	半2	2	選択	
パフォーマンス論	2	半2	2	選択	
音楽制作演習	2	半2	2	選択	
サウンドデザイン演習	2	半2	2	選択	
音楽表現論	2	半2	2	選択	
マスメディアとカルチャー					
必修					
情報倫理	2	半2	1	必修	
メディア文化史	2	半2	2	必修	
選択					
マルチメディア論	2	半2	1	選択	
知覚メディアの心理学	2	半2	1	選択	
アニメーション表現論	2	半2	1	選択	
都市メディア論	2	半2	1	選択	
メディア社会学	2	半2	1	選択	
ソーシャルメディア論	2	半2	1	選択	
メディア論	2	半2	1	選択	
映像表現論	2	半2	1	選択	
マンガ文化論Ａ	2	半2	2	選択	
マンガ文化論Ｂ	2	半2	2	選択	
ゲームデザイン論	2	半2	2	選択	
情報サービス論	2	半2	2	選択	
図書館サービス概論	2	半2	2	選択	
西洋美術表現論	2	半2	2	選択	
現代美術論	2	半2	2	選択	
現代哲学・メディア思想	2	半2	2	選択	
ドキュメンタリー制作演習	2	半2	2	選択	
ドラマ制作演習	2	半2	2	選択	
放送番組制作	2	半2	2	選択	
ジャーナリズム論	2	半2	2	選択	
広告プランニング	2	半2	2	選択	
コミュニケーション論	2	半2	2	選択	
デジタルアーカイブス	2	半2	2	選択	
情報サービス演習A	2	半2	3	選択	
情報サービス演習B	2	半2	3	選択	
コーパス演習	2	半2	3	選択	
宗教とメディア	2	半2	3	選択	
アナウンス技術	2	半2	3	選択	

履修上の注意

必修16単位，選択必修 4 単位を含め，最低60単位以上修得すること。
グローバルメディア科目において 4 単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

1．**「インターンシップⅡ」**
　選考は 4 月～ 6 月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。
2．**「メディア創造系海外事情Ａ」「メディア創造系海外事情Ｂ」**
　選考は開講年度の 4 月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。
　Ａ，Ｂはそれぞれ隔年開講される。

3．以下の授業科目について，履修登録の際セットで登録すること（P.27「セット登録」参照）。
　・「プログラミングＡⅠ」と「プログラミングＡⅡ」
　・「プログラミングＡⅢ」と「プログラミングＡⅣ」
　・「プロジェクトプランニング演習Ⅰ」と「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」

4．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
情報ネットワーク応用Ⅰ	「情報ネットワーク」を履修中又は履修済のこと。
情報ネットワーク応用Ⅱ	「情報ネットワーク応用Ⅰ」を履修中又は履修済のこと。
プログラミングＡⅢ	・「プログラミングＡⅠ」及び「プログラミングＡⅡ」を　履修中又は履修済のこと。
プログラミングＡⅣ	
プロジェクトプランニング演習Ⅰ	「プロジェクトプランニング演習Ⅰ」と「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」はセット登録すること。
プロジェクトプランニング演習Ⅱ	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
エンターテインメントとビジネス						
必修						
メディアエンターテインメント論	2	半2	1	必修		
マネージメント研究	2	半2	2	必修		
選択						
プロデュース論Ａ	2	半2	2	選択		
プロデュース論Ｂ	2	半2	2	選択		
プランニング演習	2	半2	2	選択		
プロジェクトプランニング演習Ⅰ	2	春2	2	選択		
プロジェクトプランニング演習Ⅱ	2	秋2	2	選択		
情報ビジネス起業論	2	半2	2	選択		
エンターテインメント産業論	2	半2	2	選択		
ストラテジー研究Ａ	2	半2	2	選択		
ストラテジー研究Ｂ	2	半2	2	選択	欠講	
ITビジネス研究	2	半2	2	選択		
調査統計法	2	半2	2	選択		
グローバルエンターテインメント論	2	半2	2	選択		
ステージビジネス演習	2	半2	2	選択		
音楽エンターテインメント産業論	2	半2	2	選択		
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択		
メディアとテクノロジー						
必修						
ネットワーク概論	2	半2	1	必修		
ソフトウエア概論	2	半2	1	必修		
選択						
情報ネットワーク	2	半2	1	選択		
WEB技術演習	2	半2	1	選択		
コンピュータ科学	2	半2	1	選択		
テクノロジーと社会	2	半2	1	選択	履修年次変更	
情報ネットワーク応用Ⅰ	2	春2	2	選択		
情報ネットワーク応用Ⅱ	2	秋2	2	選択		
プログラミングＡⅠ	2	春2	2	選択		
プログラミングＡⅡ	2	春2	2	選択		
プログラミングＡⅢ	2	秋2	2	選択		
プログラミングＡⅣ	2	秋2	2	選択		
データベース論	2	半2	2	選択		
ヒューマンインタフェース論	2	半2	2	選択		
情報数学	2	半2	2	選択		
WEBプログラミング	2	半2	3	選択		
プログラミングＢⅠ	2	半2	3	選択		
プログラミングＢⅡ	2	半2	3	選択		
情報セキュリティ	2	半2	3	選択		
フィジカルコンピューティング	2	半2	3	選択		
グローバルメディア						
選択必修						
メディア創造系海外事情Ａ	2	春2	1	選択必修4単位以上	欠講	
メディア創造系海外事情Ｂ	2	春2	1		変更	メディア創造系海外事情
English Communication in Information and Media A	2	半2	2			
English Communication in Information and Media B	2	半2	2			
Media and Cross-cultural Communication	2	半2	2			
Writing for the Internet in English A	2	半2	2			
Writing for the Internet in English B	2	半2	2			
Beginner's Reading	2	半2	2			
アジアメディアスタディー	2	半2	2			
欧米メディアスタディー	2	半2	2			
Media Culture Reading	2	半2	3			

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

共通学芸科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1		
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち，左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップＩ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
集中講義の登録方法は別紙参照。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，科目により開講期・開講キャンパスは異なる。開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語（2018年度入学生適用）					
英語講読ⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語講読ⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語講読ⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語講読ⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
英語（2019年度以降入学生適用）					
Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Communication in English Ⅰ	1	春2	1	必修	
Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Comprehensive English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Comprehensive English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
Communication in English Ⅲ	1	春2	2	必修	
Communication in English Ⅳ	1	秋2	2	必修	
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択	
初級中国語演習	2	秋4	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFL Ⅰ	2			選択	
TOEFL Ⅱ	2			選択	
TOEFL Ⅲ	2			選択	
TOEIC Ⅰ	2			選択	
TOEIC Ⅱ	2			選択	
TOEIC Ⅲ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTS Ⅰ	2			選択	
IELTS Ⅱ	2			選択	
IELTS Ⅲ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：English Ⅰ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅱ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅲ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅳ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅴ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅵ	2		1	選択	
Study Abroad：English Ⅶ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1. 必修科目としての英語を除く選択科目の履修方法
   a．１年次では同時に複数の外国語を履修することはできない。
   b．２年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。その際クラスの指定はない。
   c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。
   d．今出川キャンパスで開講される上級科目（３年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。
   e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
   f．ラピートプログラム
   フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
   これは，２，３年次に原則として同一言語の授業を週４回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので注意すること。（適性検査が実施される。）

※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週２回授業）を履修すること。

2. 全般事項
   a．１，２年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。
   b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。
   c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
   d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」４単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の４単位とし，英語の必修８単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する４単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，14単位＋４単位＝18単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低２単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
１年次に指定されたクラスで履修すること。

ゼミナール科目（10単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
メディア創造演習	2	秋2	2	必修	
メディア創造応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	
メディア創造応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	
卒業演習・制作Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業演習・制作Ⅱ	2	秋2	4	必修	

履修上の注意

ゼミナール科目はすべて必修である。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
自由選択					
図書館概論	2	秋2	1	自由選択	
図書館情報技術論	2	秋2	1	自由選択	
図書館情報資源概論	2	半2	2	自由選択	
図書・図書館史	1	半1	2	自由選択	
図書館施設論	1	半1	2	自由選択	
図書館制度・経営論	2	半2	3	自由選択	
情報資源組織論	2	半2	3	自由選択	
情報資源組織演習	4	通2	4	自由選択	
図書館実習	1	通1	4	自由選択	

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

カリキュラム

学芸学部　情報メディア学科

（2009～2017年度入学生適用）

学芸学部　情報メディア学科　教育理念・目標

急速に進化する情報技術革命は，現代社会のあらゆる分野に影響を与え，かつてないほどの急速な社会の変化をもたらしつつある。先端の情報技術は，多様な産業分野に構造的変革をもたらす存在であるとともに，私たちの日常生活の中にまで浸透し，人の行動や思考・精神に影響を及ぼす重大な存在となっている。そのような情報技術の飛躍的な進歩とその普及が加速する現代において，情報メディアに関わる幅広い知識や技術を有し，多様なメディアを自在に活用・応用する能力を持った人材が求められている。

また，情報メディアの進歩がもたらした革命性は，これまでの職能的専門性の壁を取り払った。コンピュータならびに周辺機器の普及によるデザイン活動のパーソナル化がその例である。結果として，芸術と情報工学が融合したメディアアート，ヒューマンインターフェース研究や心理学と情報工学が融合した感性工学など多様な学問や芸術分野を横断した新しい融合領域が切り開かれている。

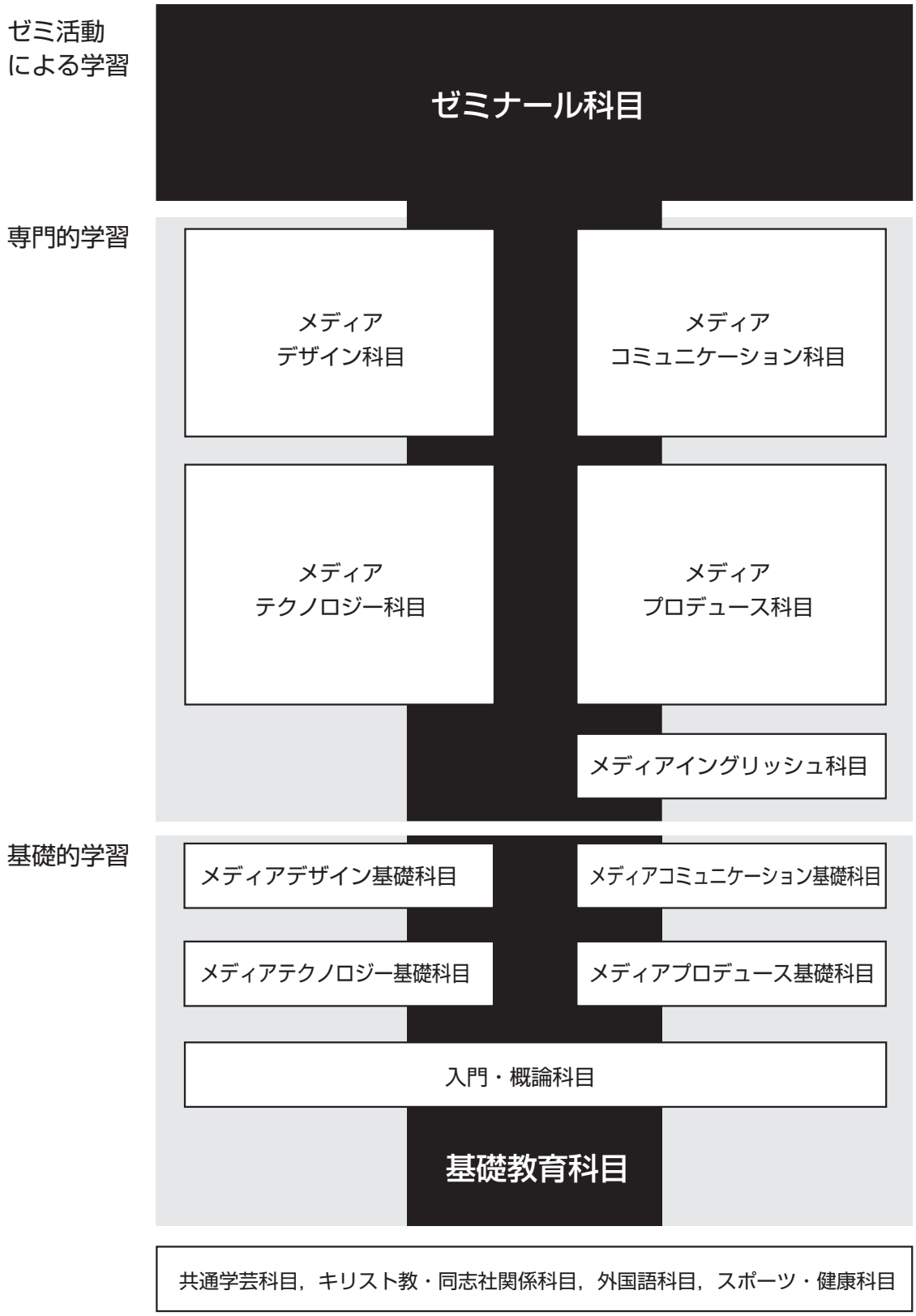
本学科は，そのような現代の情報技術がもたらす状況や可能性をふまえて，「メディアデザイン」「メディアコミュニケーション」「メディアテクノロジー」「メディアプロデュース」をテーマとする情報メディア系の専門分野を配置し，これまでは芸術系・社会学系・工学系などに個別に分類されていた領域を越えて，学際的・横断的に学ぶためのプログラムを展開する。そしてそのような学びを通じて，次のように多様な能力の育成を目標とする。

・情報メディア全般に関わる幅広い知識や技術
・各専門分野における高度な知識と技術
・多様なメディアを自在に活用・応用する能力
・情報を収集・編集・発信・表現・評価する能力
・発想力・マネジメント力・行動力・創造力

これらの諸能力を総合的に身につけることで，新しい時代に柔軟に対応できる人材，そして多様な問題に対して主体的かつ積極的に関わり，創造的な問題解決へと導くことのできる人材の育成を目指す。

学芸学部　情報メディア学科　カリキュラム概念図

急速に進化する現代の情報社会に柔軟に対応し，
高度なメディア活用能力と豊かな知性と感性を十全に発揮して，
多様な問題を創造的に解決することのできる人材の育成を目指す。



2009～2017J

学芸学部　情報メディア学科　科目配置表＜2009 ～ 2017年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次 必・選	1年次 春学期	1年次 単位	1年次 必・選	1年次 秋学期	1年次 単位	2年次 必・選	2年次 春学期	2年次 単位	2年次 必・選	2年次 秋学期	2年次 単位	3年次 必・選	3年次 春学期	3年次 単位	3年次 必・選	3年次 秋学期	3年次 単位	4年次 必・選	4年次 春学期	4年次 単位	4年次 必・選	4年次 秋学期	4年次 単位	卒業必要最低単位（2009~2012年度入学生）	卒業必要最低単位（2013~2017年度入学生）
基礎教育科目		● ●	情報メディア基礎演習 女性の人生設計とキャリア（2013～2017 年度入学生適用）	2 2		キャリアプランニング演習	2																			2	4
入門・概論科目		●	コンピュータ活用基礎Ⅰ	2	● ●	コンピュータ活用基礎Ⅱ ライティングスキル（廃止）	2 2																			6	6
応用・各論科目	メディアデザイン科目	●	メディアデザインⅠ アニメーション表現論 現代美術演習 イラスト表現演習	2 2 2 2	●	メディアデザインⅡ アニメーション表現演習 ［イラスト表現演習］ 映像表現論	2 2 2		音楽制作演習 サウンドデザイン演習 3DCG 演習 写真表現演習 演劇表現演習 現代美術論 WEB デザイン演習 エディトリアル・ブックデザイン演習 グラフィックデザイン論 グラフィックデザイン演習 メディアアート論 マルチメディア技術（廃止） メディアアート表現演習 情報デザイン演習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		［音楽制作演習］ ［サウンドデザイン演習］ 3DCG アニメーション演習 ［写真表現演習］ ドキュメンタリー制作演習 ゲームデザイン演習 ［WEB デザイン演習］ ［エディトリアル・ブックデザイン演習］ パフォーマンス論 ［グラフィックデザイン演習］ エクスペリエンスデザイン演習	2 2 2 2 2 2																60	60
	メディアコミュニケーション科目	●	情報倫理 マルチメディア論 都市メディア論	2 2 2		知覚メディアの心理学 メディア社会学 メディア論 ソーシャルメディア論	2 2 2 2	●	メディア文化史 コミュニケーション論 ジャーナリズム論 マンガ文化論Ａ 広告プランニング 情報産業研究 情報サービス論 図書館サービス概論	2 2 2 2 2 2 2 2		オーディエンス論（廃止） メディア教育論（廃止） 写真表現論 マンガ文化論Ｂ デジタルアーカイブス 現代哲学・メディア思想 西洋美術表現論 ゲームデザイン論 ［情報サービス論］ ［図書館サービス概論］	2 2 2 2 2 2 2 2		現代マスコミュニケーション論（廃止） アナウンス技術 コーパス演習 情報メディア心理学（廃止） 情報サービス演習Ａ 情報サービス演習Ｂ	2 2 2 2 2 2		宗教とメディア ［情報サービス演習Ａ］ ［情報サービス演習Ｂ］	2													
	メディアテクノロジー科目	● ●	ネットワーク概論 ソフトウエア概論	2 2		WEB 技術演習 情報ネットワーク コンピュータ科学 テクノロジーと社会	2 2 2 2		データベース概論 情報ネットワーク応用Ⅰ プログラミングＡⅠ プログラミングＡⅡ Web プログラミングⅠ（廃止） WEB プログラミング 情報数学	2 2 2 2 2 2 2		情報ネットワーク応用Ⅱ プログラミングＡⅢ プログラミングＡⅣ デジタル画像処理論（廃止） 音楽表現論 ヒューマンインタフェース論	2 2 2 2 2 2		情報セキュリティ プログラミングＢⅠ	2 2		プログラミングＢⅡ フィジカルコンピューティング	2 2													
	メディアプロデュース科目				●	メディアエンターテイメント論 プレゼンテーション技法	2 2		プロデュース論Ａ プランニング演習Ａ（廃止） プランニング演習 プロジェクトプランニング演習Ⅰ ドラマ制作演習 ● マネージメント研究 放送番組制作 グローバルエンターテインメント論 音楽エンターテインメント産業論	2 2 2 2 2 2 2 2 2		プロデュース論Ｂ 情報ビジネス起業論 プロジェクトプランニング演習Ⅱ ［ドラマ制作演習］ エンターテインメント産業論 ストラテジー研究Ａ ストラテジー研究Ｂ ステージビジネス演習	2 2 2 2 2 2 2		調査統計法 インターンシップⅡ	2 2		［調査統計法］ インターンシップⅡ	通年												
	メディアイングリッシュ科目	◎ ◎	メディア創造系海外事情Ａ メディア創造系海外事情Ｂ	2 2				◎ ◎ ◎ ◎ ◎	English Communication in Information and Media A Beginner's Reading Writing for the Internet in English A Media and Cross-cultural Communication 現代メディア英語（廃止）	2 2 2 2 2	◎ ◎ ◎ ◎	English Communication in Information and Media B Writing for the Internet in English B アジアメディアスタディー 欧米メディアスタディー	2 2 2 2	◎	Media Culture Reading	2	◎	Media Culture Reading B（廃止）	2																	
学部統合科目（注）																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0	0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			［共通学芸選択科目］ ［他学科科目］																				12	12
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ ［キリスト教・同志社関係選択必修科目］	2																			6	6
外国語科目		● ●	英語講読ⅠＡ 英語コミュニケーションⅠＡ フランス語，ドイツ語，イタリア語，中国語，ハングル，スペイン語	1 1	● ●	英語講読ⅠＢ 英語コミュニケーションⅠＢ	1 1	● ●	英語講読ⅡＡ 英語コミュニケーションⅡＡ	1 1	● ●	英語講読ⅡＢ 英語コミュニケーションⅡＢ	1 1		＜凡例＞ 1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは，選択必修グループを表す。 2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。 3．［　］内の科目は，再掲。														8	8
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			［スポーツ・健康選択必修科目］																				2	2
ゼミナール科目											●	情報メディア演習	2	●	情報メディア応用演習Ⅰ	2	●	情報メディア応用演習Ⅱ	2	●	卒業演習・制作Ⅰ	2	●	卒業演習・制作Ⅱ	2	10	10
区分外			※上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							18	16
合計																										124	124

自由選択科目（図書館司書科目）						図書館概論 図書館情報技術論 （2012 年度以降入学生適用）	2 2		図書館情報資源概論 図書・図書館史 図書館施設論	2 1 1		［図書館情報資源概論］			情報資源組織論 図書館制度・経営論 専門資料論 （2011 年度以前入学生適用）	2 2 2		［情報資源組織論］ 児童サービス論（廃止）	2		情報資源組織演習 図書館実習	4 1		情報資源組織演習 図書館実習	通年 通年		

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

（注）学部統合科目区分は 2017 年度以降入学生にのみ適用。2016 年度以前入学生が「学芸学部ジョイントプログラム」の単位を修得した場合は，応用・各論科目区分の単位となる。

学芸学部　情報メディア学科　卒業必要単位（2009～2017年度入学生適用）

科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業必要最低単位
基礎教育科目	必修　2単位（2009～2012年度入学生） 必修　4単位（2013～2017年度入学生）				2単位（2009～2012年度入学生） 4単位（2013～2017年度入学生）
入門・概論科目	必修　6単位				6単位
応用・各論科目	必修　12単位	必修　4単位			60単位
	メディアイングリッシュ　選択必修　4単位				
学部統合科目	（注）学部統合科目区分は，2016年度以前入学生には適用しない。				0単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。				12単位
キリスト教・同志社関係科目	必修　4単位				6単位
	選択必修　2単位				
外国語科目	必修　4単位	必修　4単位			8単位
スポーツ・健康科目	選択必修　2単位				2単位
ゼミナール科目		必修　2単位	必修　4単位	必修　4単位	10単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計					106単位（2009～2012年度入学生） 108単位（2013～2017年度入学生）
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）					18単位（2009～2012年度入学生） 16単位（2013～2017年度入学生）
卒業に必要な単位					124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　2009～2012年度入学生は最低18単位以上，2013～2017年度入学生は最低16単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）　自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　1・2年次は各学期24単位，3・4年次は各学期28単位
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．教職に関する科目（共通学芸科目区分に置かれている科目を除く）
4．自由選択科目
5．次の科目

京都の文化に触れるA	海外事情（アメリカ）	メディア創造系海外事情A	インターンシップ
京都の文化に触れるB	海外事情（イギリス）	メディア創造系海外事情B	インターンシップⅠA
京都の文化に触れるC	海外事情（ニュージーランド）	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠB
京都の文化に触れるD	海外事情（中国）	海外こども事情A	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるE	海外事情（カナダ）	海外こども事情B	
近代日本と同志社D			

学芸学部　情報メディア学科　カリキュラム表（2009～2017年度入学生適用）

基礎教育科目（2009～2012年度入学生　2 単位，2013～2017年度入学生　4 単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
情報メディア基礎演習	2	春2	1	必修	読替
女性の人生設計とキャリア（2013～2017年度入学生適用）	2	春2	1	必修	読替
選択					
キャリアプランニング演習	2	半2	1	選択	

履修上の注意

選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「女性の人生設計とキャリア」
2013～2017年度入学生のみ，必修。2012年度以前入学生は履修できない。

読替措置について

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
情報メディア基礎演習	2	メディア創造基礎演習Ａ
女性の人生設計とキャリア	2	女性の人生設計

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

入門・概論科目（ 6 単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
コンピュータ活用基礎Ⅰ	2	春2	1	必修	読替
コンピュータ活用基礎Ⅱ	2	秋2	1	必修	
ライティングスキル	2	半2	1	必修	廃止

履修上の注意

入門・概論科目はすべて必修である。

読替措置について

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
コンピュータ活用基礎Ⅰ	2	コンピュータ活用基礎

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

応用・各論科目（最低60単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
メディアデザイン科目						
必修						
メディアデザインⅠ	2	春2	1	必修	読替	
メディアデザインⅡ	2	秋2	1	必修	読替	
選択						
アニメーション表現論	2	半2	1	選択	変更	アニメ・ゲーム研究
アニメーション表現演習	2	半2	1	選択	変更	アニメーション演習
現代美術演習	2	半2	1	選択	変更	造形論
イラスト表現演習	2	半2	1	選択	変更	造形演習
映像表現論	2	半2	1	選択	変更	映像論
音楽制作演習	2	半2	2	選択	変更	サウンドデザインA
サウンドデザイン演習	2	半2	2	選択	変更	サウンドデザインB
3DCG演習	2	半2	2	選択	変更	CGデザインⅠ
3DCGアニメーション演習	2	半2	2	選択	変更	CGデザインⅡ
グラフィックデザイン論	2	半2	2	選択	変更	グラフィックデザインⅠ
グラフィックデザイン演習	2	半2	2	選択	変更	グラフィックデザインⅡ
写真表現演習	2	半2	2	選択	変更	写真演習
ドキュメンタリー制作演習	2	半2	2	選択	変更	映像演習
情報デザイン演習	2	半2	2	選択	変更	ヴィジュアルコミュニケーション
WEBデザイン演習	2	半2	2	選択	変更	Webデザイン
マルチメディア技術	2	半2	2	選択	廃止	
メディアアート表現演習	2	半2	2	選択	変更	メディアアート演習
ゲームデザイン演習	2	半2	2	選択	変更	ゲームデザイン
現代美術論	2	半2	2	選択		
エクスペリエンスデザイン演習	2	半2	2	選択	変更	プロダクトデザイン論
メディアアート論	2	半2	2	選択	変更	メディア・アート論
エディトリアル・ブックデザイン演習	2	半2	2	選択		
演劇表現演習	2	半2	2	選択		
パフォーマンス論	2	半2	2	選択		
メディアコミュニケーション科目						
必修						
情報倫理	2	半2	1	必修		
メディア文化史	2	半2	2	必修		
選択						
知覚メディアの心理学	2	半2	1	選択		
マルチメディア論	2	半2	1	選択		
メディア論	2	半2	1	選択		
都市メディア論	2	半2	1	選択		
メディア社会学	2	半2	1	選択		
ソーシャルメディア論	2	半2	1	選択		
コミュニケーション論	2	半2	2	選択		
オーディエンス論	2	半2	2	選択	廃止	
メディア教育論	2	半2	2	選択	廃止	
デジタルアーカイブス	2	半2	2	選択		
写真表現論	2	半2	2	選択	変更	写真文化論
ジャーナリズム論	2	半2	2	選択		
マンガ文化論A	2	半2	2	選択		
マンガ文化論B	2	半2	2	選択		
情報産業研究	2	半2	2	選択	読替	
広告プランニング	2	半2	2	選択		
情報サービス論	2	半2	2	選択	変更	情報サービス概説
図書館サービス概論	2	半2	2	選択	変更	図書館サービス論
ゲームデザイン論	2	半2	2	選択		
西洋美術表現論	2	半2	2	選択		
現代哲学・メディア思想	2	半2	2	選択		
現代マスコミュニケーション論	2	半2	3	選択	廃止	
コーパス演習	2	半2	3	選択	変更	テクスト・データベース論
アナウンス技術	2	半2	3	選択		
情報メディア心理学	2	半2	3	選択	廃止	
宗教とメディア	2	半2	3	選択		
情報サービス演習A	2	半2	3	選択	変更	レファレンスサービス演習
情報サービス演習B	2	半2	3	選択	変更	情報検索演習

履修上の注意

必修16単位，選択必修４単位を含め，最低60単位以上修得すること。メディアイングリッシュ科目において４単位を超えて修得した科目の単位は，応用・各論科目として卒業に必要な単位に算入される。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

読替措置について

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目(授業実態・休講等の掲示)
メディアデザインⅠ	2	グラフィック・WEB基礎演習
メディアデザインⅡ	2	写真・動画基礎演習
情報産業研究	2	ITビジネス研究
データベース概論	2	データベース論
メディアエンターテイメント論	2	メディアエンターテインメント論

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

1．**「メディアアート表現演習」**
「マルチメディア技術」又は「メディアアート演習」の単位を修得済の場合は履修できない。
2．**「インターンシップⅡ」**
選考は４月～ ６月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。
3．**「メディア創造系海外事情A」「メディア創造系海外事情B」**
選考は開講年度の４月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。A，Bはそれぞれ隔年開講される。
4．以下の授業科目について，履修登録の際セットで登録すること（P.27「セット登録」参照）。
・「プログラミングＡⅠ」と「プログラミングＡⅡ」
・「プログラミングＡⅢ」と「プログラミングＡⅣ」
・「プロジェクトプランニング演習Ⅰ」と「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」
5．以下の授業科目について，履修前提条件を設けている。

授業科目	履修前提条件
情報ネットワーク応用Ⅰ	「情報ネットワーク」を履修中又は履修済のこと。
情報ネットワーク応用Ⅱ	「情報ネットワーク応用Ⅰ」を履修中又は履修済のこと。
プログラミングAⅢ	「プログラミングAⅠ」及び「プログラミングAⅡ」を履修中又は履修済のこと。
プログラミングAⅣ	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
メディアテクノロジー科目						
必修						
ネットワーク概論	2	半2	1	必修		
ソフトウエア概論	2	半2	1	必修		
選択						
コンピュータ科学	2	半2	1	選択		
WEB技術演習	2	半2	1	選択	変更	インターネット技術演習
情報ネットワーク	2	半2	1	選択		
テクノロジーと社会	2	半2	1	選択	廃統廃	
データベース概論	2	半2	2	選択	読替	
情報ネットワーク応用Ⅰ	2	春2	2	選択		
情報ネットワーク応用Ⅱ	2	秋2	2	選択		
プログラミングＡⅠ	2	春2	2	選択		
プログラミングＡⅡ	2	春2	2	選択		
プログラミングＡⅢ	2	秋2	2	選択		
プログラミングＡⅣ	2	秋2	2	選択		
Webプログラミング Ⅰ	2	半2	2	選択	廃止	
WEBプログラミング	2	半2	2	選択	変更	WebプログラミングⅡ
音楽表現論	2	半2	2	選択	変更	音響処理論
デジタル画像処理論	2	半2	2	選択	廃止	
情報数学	2	半2	2	選択		
ヒューマンインタフェース論	2	半2	2	選択		
情報セキュリティ	2	半2	3	選択	変更	セキュリティ論
プログラミングＢⅠ	2	半2	3	選択		
プログラミングＢⅡ	2	半2	3	選択		
フィジカルコンピューティング	2	半2	3	選択		
メディアプロデュース科目						
必修						
メディアエンターテイメント論	2	半2	1	必修	読替	
マネージメント研究	2	半2	2	必修		
選択						
プレゼンテーション技法	2	半2	1	選択		
プロデュース論Ａ	2	半2	2	選択		
プロデュース論Ｂ	2	半2	2	選択		
プランニング演習Ａ	2	半2	2	選択	廃止	
プランニング演習	2	半2	2	選択	変更	プランニング演習Ｂ
プロジェクトプランニング演習Ⅰ	2	春2	2	選択	変更	ｅコマース研究Ⅰ
プロジェクトプランニング演習Ⅱ	2	秋2	2	選択	変更	ｅコマース研究Ⅱ
情報ビジネス起業論	2	半2	2	選択		
ドラマ制作演習	2	半2	2	選択	変更	映画・放送番組制作論
放送番組制作	2	半2	2	選択		
エンターテインメント産業論	2	半2	2	選択	変更	エンターテイメント産業論
ストラテジー研究Ａ	2	半2	2	選択		
ストラテジー研究Ｂ	2	半2	2	選択	欠講	
グローバルエンターテインメント論	2	半2	2	選択		
ステージビジネス演習	2	半2	2	選択		
音楽エンターテインメント産業論	2	半2	2	選択		
調査統計法	2	半2	3	選択		
インターンシップⅡ	2	通2	3	選択		
メディアイングリッシュ科目						
選択必修						
メディア創造系海外事情Ａ	2	春2	1	選択必修4単位以上	欠講	
メディア創造系海外事情Ｂ	2	春2	1		変更	メディア創造系海外事情／情報メディア系海外事情
English Communication in Information and Media A	2	半2	2			
English Communication in Information and Media B	2	半2	2			
Writing for the Internet in English A	2	半2	2			
Writing for the Internet in English B	2	半2	2			
Media and Cross-cultural Communication	2	半2	2			
現代メディア英語	2	半2	2		廃止	
Beginner's Reading	2	半2	2			
アジアメディアスタディー	2	半2	2			
欧米メディアスタディー	2	半2	2			
Media Culture Reading	2	半2	3		変更	Media Culture Reading A
Media Culture Reading B	2	半2	3		廃止	
選択						
学芸学部ジョイントプログラム（2016年度以前入学生のみ適用）	2	秋2	3	選択		

学部統合科目（最低単位数設定なし）※2017年度以降入学生より適用

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

共通学芸科目（最低12単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2	「教職に関する科目」のうち，左記科目は共通学芸科目として卒業に必要な単位に算入できる。	
発達と学習の心理学	2	半2	2		
学校教育論	2	半2	2	廃止	
教育の制度と経営	2	半2	2		
総合演習（2009年度入学生適用）	2	半2	3		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザイン	2	半2	1	廃止	
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップＩ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（３月下旬発表）で確認すること。
「京都の文化Ａ～Ｄ」の集中講義クラスの単位を2012年度以前に修得済の場合，対応する「京都の文化に触れるＡ～Ｄ」は履修できない。
また，「京都の文化Ｄ（大学コンソーシアム）」は2014年度より「京都の文化に触れるＥ」に変更している。「京都の文化Ｄ（大学コンソーシアム）」の単位を修得済の場合，修得した単位は有効だが，「京都の文化に触れるＥ」は履修できない。

「教育の制度と経営」
「学校教育論」の単位を修得済の場合は履修できない。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。
「大学生活とキャリアデザイン」の単位を修得済の場合は，開講科目表備考欄に注意すること。

「総合演習」
2010年度以降入学生は履修できない。

2009～2017J

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，科目により開講期・開講キャンパスは異なる。開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
英語					
英語講読ⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語講読ⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＡ	1	春2	1	必修	読替
英語コミュニケーションⅠＢ	1	秋2	1	必修	読替
英語講読ⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語講読ⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＡ	1	春2	2	必修	読替
英語コミュニケーションⅡＢ	1	秋2	2	必修	読替
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
中国語（2009年度入学生適用）					
初級中国語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級中国語基礎Ⅱ	1	春2	1	選択	
初級中国語演習Ⅰ	1	秋2	1	選択	
初級中国語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
中国語（2010年度以降入学生適用）					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択	
初級中国語演習	2	秋4	1	選択	
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1. 必修科目としての英語を除く選択科目の履修方法
   a．１年次では同時に複数の外国語を履修することはできない。
   b．２年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。その際クラスの指定はない。
   c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。
   d．今出川キャンパスで開講される上級科目（３年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。
   e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
   f．ラピートプログラム
   フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
   これは，２，３年次に原則として同一言語の授業を週４回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので注意すること。（適性検査が実施される。）

※初級中国語の履修方法について
   a．2010年度以降入学生は初級中国語基礎Ⅰ，Ⅱ，初級中国語演習Ⅰ，Ⅱは履修できない。
   b．2009年度入学生は，初級中国語を履修する場合，「基礎Ⅰ，Ⅱ」「演習Ⅰ，Ⅱ」はそれぞれ同一科目担当者のクラスをセットにして履修すること。
   ただし，「Ⅰ，Ⅱ」のいずれかのみを再履修する場合に限り，再履修者のクラスを履修すること。

2. 全般事項
   a．１，２年次の英語必修科目は，習熟度別クラス編成になっているので，指定されたクラスを履修すること。なお，再履修となる場合，クラスの指定はない。
   b．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。
   c．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
   d．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

読替措置について（外国語科目）

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
英語講読ⅠA	1	Comprehensive EnglishⅠ
英語講読ⅠB	1	Comprehensive EnglishⅡ
英語コミュニケーションⅠA	1	Communication in EnglishⅠ
英語コミュニケーションⅠB	1	Communication in EnglishⅡ
英語講読ⅡA	1	Comprehensive EnglishⅢ
英語講読ⅡB	1	Comprehensive EnglishⅣ
英語コミュニケーションⅡA	1	Communication in EnglishⅢ
英語コミュニケーションⅡB	1	Communication in EnglishⅣ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語･日本事情Ⅰ，Ⅱ」４単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の４単位とし，英語の必修８単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。不足する４単位分については，区分外領域で充足しなければならない。したがって，区分外領域は，2009～2012年度入学生は18単位＋４単位＝22単位，2013～2017年度入学生は16単位＋４単位＝20単位修得しなければならない。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低２単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技A	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技B	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習A	1	春2	2	選択	
スポーツ実習B	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技A，B」
１年次に指定されたクラスで履修すること。

ゼミナール科目（10単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
情報メディア演習	2	秋2	2	必修	読替
情報メディア応用演習Ⅰ	2	春2	3	必修	読替
情報メディア応用演習Ⅱ	2	秋2	3	必修	読替
卒業演習・制作Ⅰ	2	春2	4	必修	
卒業演習・制作Ⅱ	2	秋2	4	必修	

履修上の注意

ゼミナール科目はすべて必修である。

読替措置について

以下の科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
情報メディア演習	2	メディア創造演習
情報メディア応用演習Ⅰ	2	メディア創造応用演習Ⅰ
情報メディア応用演習Ⅱ	2	メディア創造応用演習Ⅱ

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

自由選択科目（卒業に必要な単位に算入できないので注意すること）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
自由選択						
図書館概論	2	秋2	1	自由選択		
図書館情報技術論（2012年度以降入学生適用）	2	秋2	1	自由選択		
図書館情報資源概論	2	半2	2	自由選択	変更	図書館資料論
図書・図書館史	1	半1	2	自由選択		
図書館施設論	1	半1	2	自由選択		
図書館制度・経営論	2	半2	3	自由選択	変更	図書館経営論
専門資料論（2011年度以前入学生適用）	2	半2	3	自由選択	欠講	
児童サービス論	2	半2	3	自由選択	廃止	
情報資源組織論	2	半2	3	自由選択	変更	資料組織概説
情報資源組織演習	4	通2	4	自由選択	変更	資料組織演習
図書館実習	1	通1	4	自由選択		

履修上の注意

自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できない。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

カリキュラム

学芸学部　国際教養学科

（2021年度以降入学生適用）

学芸学部　国際教養学科　教育理念・目標

学芸学部国際教養学科の設立の目的は，キリスト教主義，国際主義，リベラル・アーツを建学の理念としている本学において，建学の理念に立ち返り，品性と豊かな教養と卓越した国際的センスを持ってグローバル社会で活躍する女性の育成を目指すことにある。この目的を達成するために，本学科では以下の 4 つの教育理念・目標を掲げ，これからの社会に寄与する人材の育成を目指したカリキュラムを編成した。

⑴豊かな教養と鋭い問題意識を持ち続ける能力

教養にはさまざまな定義がある。本学科で言う教養とは，本学科の「国際教養科目」を中心とした科目ばかりでなく，留学先大学で学んだ科目の中で身につけた知識と技能，及び本学在学中に得られた貴重な体験，又は在学以前に得られた体験を振り返ることで得られる物事の本質を見抜く力のことである。その教養と「鋭い問題意識」は， 4 年間で学ぶすべての科目を通して身につけられるようにカリキュラムの中に位置づけられている。特に一連の「演習科目」や「留学科目」がその中心的な役割を果たす。留学前の「Seminar in International Studies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/国際教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で論理的な表現能力と（物事を）批判的に捉える能力を養いながら，基礎的な研究方法・技能及び留学への心構えを身につけ，留学中は，自ら設定したテーマについて研究を進め，「Tutorial Ⅰ・Ⅱ/実地研究指導Ⅰ・Ⅱ」を通して適宜アドバイザーの指導を仰ぎながらその成果をまとめ，最終的に「Senior Seminar Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で，留学中に得られた成果を踏まえながら新たな学びを加えて， 4 年間の総合的な学習の成果をまとめていく。

⑵総合的なコミュニケーション能力とグローバルな視点をもって国際的な舞台で活躍できる能力

国際的な舞台で活躍していくためには，日英両言語による高度なコミュニケーション能力が必要である。日本語表現能力に関しては，特に「演習科目」の中で，論理的かつ説得力のある表現能力を身につけることを目指している。英語運用能力に関しては，ほとんどの授業が英語で行われる本学科の場合，様々な科目の履修を通して英語の総合的な力を身につけられるよう配慮されている。その中で，根幹となる科目群が「基礎教育科目（英語スキル科目)」である。この科目群は，単に英語で日常会話ができるといったレベルではなく，学問的な内容を英語母語話者と対等に議論できる英語コミュニケーション能力の育成を目指す。論理的で説得力のある日本語表現力を身に付け，本学での英語学習と1年間の留学をとおして体得した英語能力とグローバルな視点をもって、国際的な舞台で活躍することのできる総合的なコミュニケーション能力を育成する。

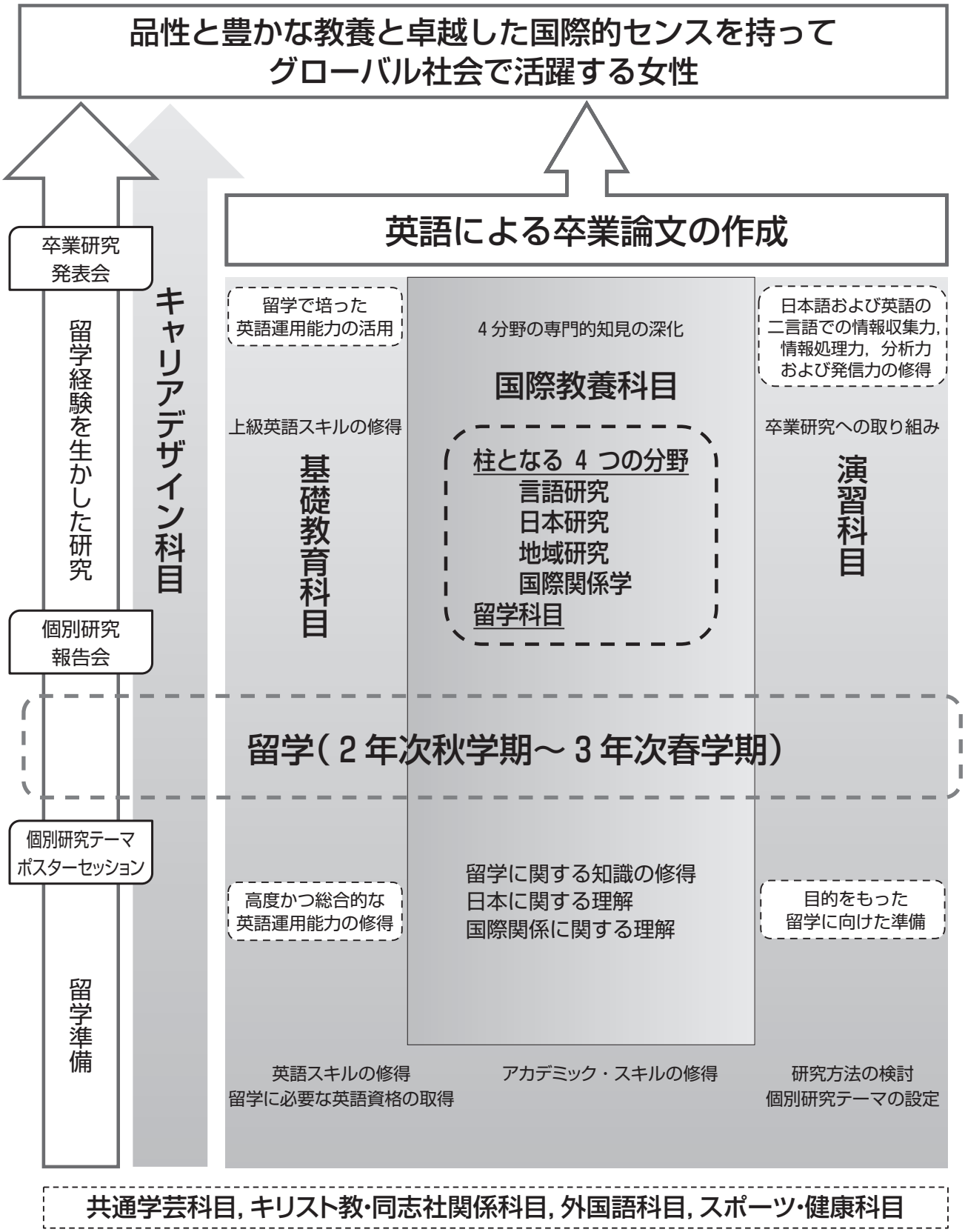
⑶キリスト教精神の視点から行動する能力

キリスト教精神は本学の教育理念の一つであり，また本学及び本学科の根底を支える重要な柱である。「キリスト教・同志社関係科目」だけでなく，本学科の科目のすべてにこの精神が貫かれ，またこれが本学科で実施される諸行事の根幹を成している。本学科のあらゆる学習や体験を通して，キリスト教精神の視点から行動する能力を育成する。

⑷ビジョンを実現させる能力

「ビジョン」とは，「未来」「理想」「展望」を意味する。本学科の場合，留学がカリキュラムの中に位置づけられているため， 2 年次秋学期から始まる一年間の留学について，入学時から具体的なビジョンを描き，これを実現させる必要がある。そのためには，心構え，英語運用能力の向上，適切な事務処理，そして，何のために留学するのかという各自の具体的な目標設定が必要である。このような事前の準備や細かな手続き等を通して，留学に必要な能力と知識を身に付け，協定校へと旅立ち，留学を成功裏に完遂する。このビジョンを実現させる過程はまた，各自の卒業後の将来への展望にもつながる。各自の留学達成という道のりを，ビジョン実現のために必要な過程として捉えると同時に，ひいてはこれを各自が将来へのビジョンを築いていく礎としていく。

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム概念図



学芸学部　国際教養学科　科目配置表＜2021年度以降入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		● ● ● ●	Integrated English Ⅰ Intensive Reading Ⅰ Intensive Listening Ⅰ IELTS Speaking and Writing Ⅰ	4 2 2 2	● ● ● ●	Integrated English Ⅱ Intensive Reading Ⅱ Intensive Listening Ⅱ IELTS Speaking and Writing Ⅱ	4 2 2 2	● ●	English for Academic Purpose Extensive Reading	4 2							A A A A A A	Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門 Reading and Discussion A Reading and Discussion B Reading and Discussion C Reading and Discussion D Reading and Discussion E	2 2 2 2 2 2		Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門 Discussion and Debate A Discussion and Debate B	2 2 2				28
国際教養科目	言語研究							C C	Introduction to Linguistics／言語学概論 English Phonetics／英語音声学	2 2							D D D	Sociolinguistics／社会言語学 Language Teaching Methodology／言語教育方法論 Bilingualism／バイリンガリズム論	2 2 2							40
	日本研究	●	Introduction to Japanese Studies／日本研究入門	2		［Introduction to Japanese Studies／日本研究入門］		● C C C	Contemporary Japanese Society／現代の日本社会 Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学 Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2 2 2							D D D D D D D	Political Issues in Japan／日本の政治 Cultural Issues in Japan／日本の文化 Social Issues in Japan／日本の社会 Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美 Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会 Inbound Tourism／インバウンド観光論 Japanese Film Studies／日本映画研究	2 2 2 2 2 2 2							
	地域研究	● ●	Introduction to British and Oceania Studies／イギリス・オセアニア研究入門 Introduction to North American Studies／北米研究入門	2 2		［Introduction to British and Oceania Studies／イギリス・オセアニア研究入門］ ［Introduction to North American Studies／北米研究入門］		B B C	Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史 History of North America／北米史 Christianity in the World／キリスト教と世界	2 2 2							D D D D D D	English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学 Asian Culture／アジア文化論 Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義 Advanced British Studies／イギリス研究 Advanced North American Studies／北米研究 Comparative Religious Studies／比較宗教論	2 2 2 2 2 2							
	国際関係学	●	Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門	2		［Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門］		● C C	Introduction to International Relations／国際関係論入門 Global Education／国際教育論 International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2 2 2							D D D D D D	International Business／国際ビジネス論 Tourism Studies／国際観光論 International Gender Studies／国際ジェンダー論 Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境 Issues in International Development／国際開発論 International Media Studies／国際メディア論	2 2 2 2 2 2							
	留学科目	●	Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ	1	●	Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ	1	●	Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	●	Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	●	Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ Overseas Study Credit／国際教養留学認定	2 0～30										
キャリアデザイン科目									Global Career Design Ⅰ／グローバルキャリアデザインⅠ	2								Global Career Design Ⅱ／グローバルキャリアデザインⅡ Internship Ⅱ／インターンシップⅡ Global Leadership／グローバルリーダーシップ論	2 2 2							2
演習科目		●	Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ	2	●	Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ	2	●	Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ	2							●	Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ	2	●	Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ	4	●	Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ	4	16
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			［共通学芸選択科目］ ［他学科科目］																				8
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ ［キリスト教・同志社関係選択必修科目］	2																			6
外国語科目			◎フランス語，◎中国語，◎スペイン語，ドイツ語，イタリア語，ハングル																							4
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			［スポーツ・健康選択必修科目］																				2
区分外			※上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							18
合計																										124

留　学

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はA．B．C．などは，選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

学芸学部　国際教養学科　卒業必要単位（2021年度以降入学生適用）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業必要最低単位
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
基礎教育科目	必修10単位	必修10単位	必修６単位			選択必修A群 2単位			28単位
国際教養科目	必修10単位		必修６単位 選択必修Ｂ群 2単位 選択必修Ｃ群 4単位	留学 留学認定０ ～ 30単位	必修２単位	必修２単位	選択必修Ｄ群８単位 ※ただし，春学期設置科目はない。		40単位
キャリアデザイン科目									２単位
演習科目	必修２単位	必修２単位	必修２単位			必修２単位	必修４単位	必修４単位	16単位
学部統合科目									０単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。								８単位
キリスト教・同志社関係科目	必修２単位 選択必修２単位	必修２単位							６単位
外国語科目	選択必修４単位								４単位
スポーツ・健康科目	選択必修２単位								２単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計									106単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）									18単位
卒業に必要な単位									124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。１学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるＡ	海外事情（アメリカ）	メディア創造系海外事情Ａ	インターンシップ
京都の文化に触れるＢ	海外事情（イギリス）	メディア創造系海外事情Ｂ	インターンシップＩＡ
京都の文化に触れるＣ	海外事情（ニュージーランド）	海外事情（アジアと女性）	インターンシップＩＢ
京都の文化に触れるＤ	海外事情（中国）	海外こども事情Ａ	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるＥ	海外事情（カナダ）	海外こども事情Ｂ	
近代日本と同志社Ｄ			

2021～K

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム表（2021年度以降入学生適用）

基礎教育科目（28単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Integrated English Ⅰ	4	春4	1	必修	
Integrated English Ⅱ	4	秋4	1	必修	
Intensive Reading Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Reading Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Intensive Listening Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Listening Ⅱ	2	秋2	1	必修	
IELTS Speaking and Writing Ⅰ	2	春2	1	必修	
IELTS Speaking and Writing Ⅱ	2	秋2	1	必修	
English for Academic Purpose	4	春4	2	必修	
Extensive Reading	2	春2	2	必修	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修Ａ群					
Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門	2	秋2	3	選択必修2単位以上	
Reading and Discussion A	2	秋2	3		
Reading and Discussion B	2	秋2	3		
Reading and Discussion C	2	秋2	3		
Reading and Discussion D	2	秋2	3		
Reading and Discussion E	2	秋2	3		
選択					
Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate A	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate B	2	春2	4	選択	欠講

履修上の注意

選択必修Ａ群より２単位選択必修。
選択必修Ａ群において２単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

国際教養科目（40単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Introduction to Japanese Studies／日本研究入門	2	半2	1	必修	
Introduction to British and Oceania Studies／イギリス・オセアニア研究入門	2	半2	1	必修	
Introduction to North American Studies／北米研究入門	2	半2	1	必修	
Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門	2	半2	1	必修	
Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ	1	春2	1	必修	
Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Contemporary Japanese Society／現代の日本社会	2	春2	2	必修	
Introduction to International Relations／国際関係論入門	2	春2	2	必修	
Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	春2	2	必修	
Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	秋2	2	必修	
Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ	2	春2	3	必修	
選択必修B群					
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	2	春2	2	選択必修2単位以上	
History of North America／北米史	2	春2	2		
選択必修Ｃ群					
Introduction to Linguistics／言語学概論	2	春2	2	選択必修4単位以上	
English Phonetics／英語音声学	2	春2	2		
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	2	春2	2		
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2	春2	2		
Christianity in the World／キリスト教と世界	2	春2	2		
Global Education／国際教育論	2	春2	2		
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2	春2	2		
選択必修Ｄ群					
Sociolinguistics／社会言語学	2	秋2	3	選択必修8単位以上	
Language Teaching Methodology／言語教育方法論	2	秋2	3		
Bilingualism／バイリンガリズム論	2	秋2	3		
Political Issues in Japan／日本の政治	2	秋2	3		
Cultural Issues in Japan／日本の文化	2	秋2	3		
Social Issues in Japan／日本の社会	2	秋2	3		
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	2	秋2	3		
Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会	2	秋2	3		
Inbound Tourism／インバウンド観光論	2	秋2	3		
Japanese Film Studies／日本映画研究	2	秋2	3		
English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	2	秋2	3		
Asian Culture／アジア文化論	2	秋2	3		
Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義	2	秋2	3		
Advanced British Studies／イギリス研究	2	秋2	3		
Advanced North American Studies／北米研究	2	秋2	3		
Comparative Religious Studies／比較宗教論	2	秋2	3		
International Business／国際ビジネス論	2	秋2	3		
Tourism Studies／国際観光論	2	秋2	3		
International Gender Studies／国際ジェンダー論	2	秋2	3		
Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境	2	秋2	3		
Issues in International Development／国際開発論	2	秋2	3		
International Media Studies／国際メディア論	2	秋2	3		
Overseas Study Credit／国際教養留学認定	0~30		3		

履修上の注意

選択必修Ｂ群より２単位選択必修。
選択必修Ｃ群より４単位選択必修。
選択必修Ｄ群より８単位選択必修。
選択必修Ｂ群において２単位，選択必修Ｃ群において４単位，選択必修Ｄ群において８単位を超えて修得した科目の単位は，国際教養科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
留学先で修得した単位は，帰国後所定の手続を取った上で，留学科目の「Overseas Study Credit ／国際教養留学認定」として30単位を上限に認定される。

キャリアデザイン科目（2単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
Global Career DesignⅠ／グローバルキャリアデザインⅠ	2	春2	2	選択	
Global Career DesignⅡ／グローバルキャリアデザインⅡ	2	秋2	3	選択	
Global Leadership ／グローバルリーダーシップ論	2	秋2	3	選択	
InternshipⅡ／インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「InternshipⅡ／インターンシップⅡ」
　選考は９月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

演習科目（16単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Seminar in International StudiesⅠ／国際教養演習Ⅰ	2	春2	1	必修	
Seminar in International StudiesⅡ／国際教養演習Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Seminar in International StudiesⅢ／国際教養演習Ⅲ	2	春2	2	必修	
Senior SeminarⅠ／卒業研究Ⅰ	2	秋2	3	必修	
Senior SeminarⅡ／卒業研究Ⅱ	4	春4	4	必修	
Senior SeminarⅢ／卒業研究Ⅲ	4	秋4	4	必修	

履修上の注意

演習科目はすべて必修である。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学前提条件

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学（以下，国際教養留学という。）に係る学業成績に関する前提条件を以下のとおり定める。この前提条件をすべて満たさなければ，国際教養留学を認めない。

1．国際教養留学開始年度の前年度末までに，「Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ」及び「Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ」の単位を含め，40単位以上を修得済であること。この40単位には，自由選択科目の単位及び入学前並びに入学後の学修等に基づく単位認定科目の単位を含めることができる。

2．国際教養留学開始までに「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」２単位を修得済であること。ただし，「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」は集中講義とし，成績確定は国際教養留学開始年度の６月末日とする。

なお，上記の前提条件は，休学等理由の如何にかかわらず適用する。

共通学芸科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2		
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3		
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2		
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（３月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修4単位	
初級中国語演習	2	秋4	1		
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．フランス語，中国語，スペイン語より，１つの言語４単位を選択必修。
「１つの言語４単位」とは，１種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，１年次に指定されたクラスで履修すること。
１年次では１つの言語のみ履修することができる。
１年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
１年次で不合格科目があった場合は，２年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれかの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週２回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．２年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。２年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，１つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．今出川キャンパスで開講される上級科目（３年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

f．ラピートプログラム
フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
これは，２，３年次に原則として同一言語の授業を週４回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので掲示に注意すること。
（適性検査が実施される。）

3．全般事項

a．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

b．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

c．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」４単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の４単位とし，外国語科目の選択必修４単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低２単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技Ａ	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技Ｂ	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習Ａ	1	春2	2	選択	
スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技Ａ，Ｂ」
１年次に指定されたクラスで履修すること。

カリキュラム

学芸学部　国際教養学科

（2017～2020年度入学生適用）

学芸学部　国際教養学科　教育理念・目標

学芸学部国際教養学科の設立の目的は，キリスト教主義，国際主義，リベラル・アーツを建学の理念としている本学において，建学の理念に立ち返り，品性と豊かな教養と卓越した国際的センスを持ってグローバル社会で活躍する女性の育成を目指すことにある。この目的を達成するために，本学科では以下の 4 つの教育理念・目標を掲げ，これからの社会に寄与する人材の育成を目指したカリキュラムを編成した。

⑴豊かな教養と鋭い問題意識を持ち続ける能力

教養にはさまざまな定義がある。本学科で言う教養とは，本学科の「国際教養科目」を中心とした科目ばかりでなく，留学先大学で学んだ科目の中で身につけた知識と技能，及び本学在学中に得られた貴重な体験，又は在学以前に得られた体験を振り返ることで得られる物事の本質を見抜く力のことである。その教養と「鋭い問題意識」は， 4 年間で学ぶすべての科目を通して身につけられるようにカリキュラムの中に位置づけられている。特に一連の「演習科目」や「留学科目」がその中心的な役割を果たす。留学前の「Seminar in International Studies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/国際教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で論理的な表現能力と（物事を）批判的に捉える能力を養いながら，基礎的な研究方法・技能及び留学への心構えを身につけ，留学中は，自ら設定したテーマについて研究を進め，「Tutorial Ⅰ・Ⅱ/実地研究指導Ⅰ・Ⅱ」を通して適宜アドバイザーの指導を仰ぎながらその成果をまとめ，最終的に「Senior Seminar Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で，留学中に得られた成果を踏まえながら新たな学びを加えて， 4 年間の総合的な学習の成果をまとめていく。

⑵総合的なコミュニケーション能力とグローバルな視点をもって国際的な舞台で活躍できる能力

国際的な舞台で活躍していくためには，日英両言語による高度なコミュニケーション能力が必要である。日本語表現能力に関しては，特に「演習科目」の中で，論理的かつ説得力のある表現能力を身につけることを目指している。英語運用能力に関しては，ほとんどの授業が英語で行われる本学科の場合，様々な科目の履修を通して英語の総合的な力を身につけられるよう配慮されている。その中で，根幹となる科目群が「基礎教育科目（英語スキル科目)」である。この科目群は，単に英語で日常会話ができるといったレベルではなく，学問的な内容を英語母語話者と対等に議論できる英語コミュニケーション能力の育成を目指す。論理的で説得力のある日本語表現力を身に付け，本学での英語学習と1年間の留学をとおして体得した英語能力とグローバルな視点をもって、国際的な舞台で活躍することのできる総合的なコミュニケーション能力を育成する。

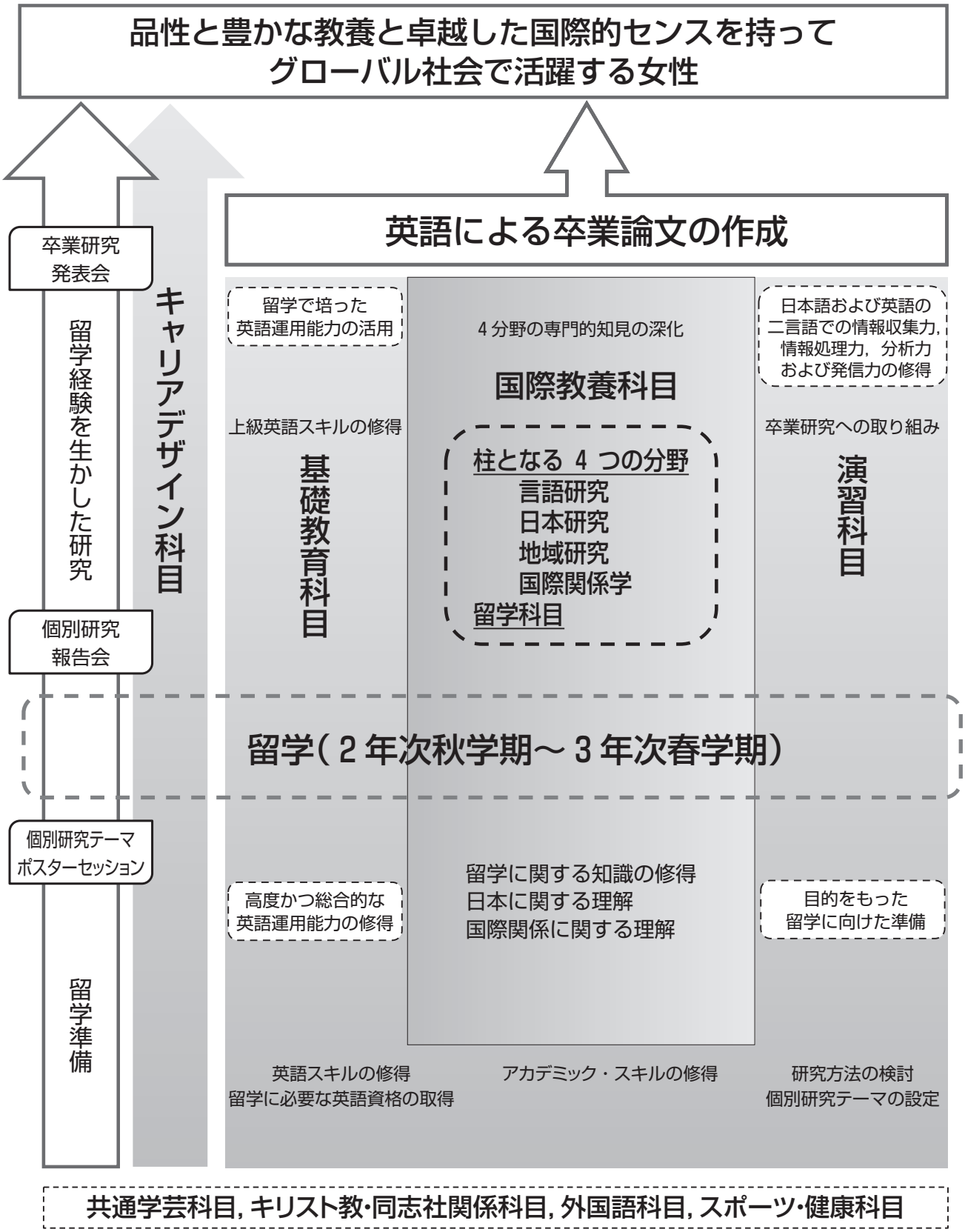
⑶キリスト教精神の視点から行動する能力

キリスト教精神は本学の教育理念の一つであり，また本学及び本学科の根底を支える重要な柱である。「キリスト教・同志社関係科目」だけでなく，本学科の科目のすべてにこの精神が貫かれ，またこれが本学科で実施される諸行事の根幹を成している。本学科のあらゆる学習や体験を通して，キリスト教精神の視点から行動する能力を育成する。

⑷ビジョンを実現させる能力

「ビジョン」とは，「未来」「理想」「展望」を意味する。本学科の場合，留学がカリキュラムの中に位置づけられているため， 2 年次秋学期から始まる一年間の留学について，入学時から具体的なビジョンを描き，これを実現させる必要がある。そのためには，心構え，英語運用能力（とりわけTOEFL®について）の向上，適切な事務処理，そして，何のために留学するのかという各自の具体的な目標設定が必要である。このような事前の準備や細かな手続き等を通して，留学に必要な能力と知識を身に付け，協定校へと旅立ち，留学を成功裏に完遂する。このビジョンを実現させる過程はまた，各自の卒業後の将来への展望にもつながる。各自の留学達成という道のりを，ビジョン実現のために必要な過程として捉えると同時に，ひいてはこれを各自が将来へのビジョンを築いていく礎としていく。

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム概念図



学芸学部　国際教養学科　科目配置表＜2017～2020年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		● ● ● ● ● ●	Academic Speaking Ⅰ（廃止） Academic Writing Ⅰ（廃止） Intensive Reading Ⅰ Intensive Listening Ⅰ Integrative Skills Ⅰ（廃止） Pronunciation & Presentation Ⅰ（廃止）	2 2 2 2 1 1	● ● ● ● ● ●	Academic Speaking Ⅱ Academic Writing Ⅱ Intensive Reading Ⅱ Intensive Listening Ⅱ Integrative Skills Ⅱ Pronunciation & Presentation Ⅱ	2 2 2 2 1 1	● ● ●	Academic Speaking Ⅲ Academic Writing Ⅲ Extensive Reading	2 2 2							A A A A A A	Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門 Reading and Discussion A Reading and Discussion B Reading and Discussion C Reading and Discussion D Reading and Discussion E	2 2 2 2 2 2		Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門 Discussion and Debate A Discussion and Debate B	2 2 2				28
国際教養科目	言語研究							C C	Introduction to Linguistics／言語学概論 English Phonetics／英語音声学	2 2							D D D	Sociolinguistics／社会言語学 Language Teaching Methodology／言語教育方法論 Bilingualism／バイリンガリズム論	2 2 2							40
	日本研究	●	Introduction to Japanese Studies／日本研究入門	2		［Introduction to Japanese Studies／日本研究入門］		● C C	Contemporary Japanese Society／現代の日本社会 Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学 Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2 2 2				留　学			D D D D D D D	Political Issues in Japan／日本の政治 Cultural Issues in Japan／日本の文化 Social Issues in Japan／日本の社会 Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美 Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会 Inbound Tourism／インバウンド観光論 Japanese Film Studies／日本映画研究	2 2 2 2 2 2 2						
	地域研究	● ●	Introduction to British Studies／イギリス研究入門 Introduction to North American Studies／北米研究入門	2 2		［Introduction to British Studies／イギリス研究入門］ ［Introduction to North American Studies／北米研究入門］		B B C	Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史 History of North America／北米史 Christianity in the World／キリスト教と世界	2 2 2							D D D D D D D	English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学 Asian Culture／アジア文化論 Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義 Advanced British Studies／イギリス研究 Advanced North American Studies／北米研究 Comparative Religious Studies／比較宗教論	2 2 2 2 2 2						
	国際関係学	●	Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門	2		［Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門］		● C C	Introduction to International Relations／国際関係論入門 Global Education／国際教育論 International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2 2 2							D D D D D D D	International Business／国際ビジネス論 Tourism Studies／国際観光論 International Gender Studies／国際ジェンダー論 Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境 Issues in International Development／国際開発論 International Journalism／国際ジャーナリズム論（廃止） International Media Studies／国際メディア論	2 2 2 2 2 2 2						
	留学科目	●	Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ	1	●	Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ	1	●	Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	●	Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	●	Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ Overseas Study Credit／国際教養留学認定	2 0～30										
キャリアデザイン科目									Global Career Design Ⅰ／グローバルキャリアデザインⅠ	2								Global Career Design Ⅱ／グローバルキャリアデザインⅡ Internship Ⅱ／インターンシップⅡ Global Leadership／グローバルリーダーシップ論	2 2 2							2
演習科目		●	Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ	2	●	Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ	2	●	Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ	2							●	Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ	2	●	Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ	4	●	Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ	4	16
学部統合科目																		学芸学部ジョイントプログラム	2							0
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			［共通学芸選択科目］ ［他学科科目］																				8
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ ［キリスト教・同志社関係選択必修科目］	2																			6
外国語科目			◎フランス語，◎中国語，◎スペイン語，ドイツ語，イタリア語，ハングル																							4
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			［スポーツ・健康選択必修科目］																				2
区分外			※上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							18
合計																										124

＜凡例＞
1．必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは，選択必修グループを表す。
2．共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3．［　］内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

学芸学部　国際教養学科　卒業必要単位（2017～2020年度入学生適用）

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業必要最低単位
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
基礎教育科目	必修10単位	必修10単位	必修６単位			選択必修A群 2単位			28単位
国際教養科目	必修10単位		必修６単位 選択必修Ｂ群 2単位 選択必修Ｃ群 4単位	留学 留学認定０ ～ 30単位	必修２単位	必修２単位	選択必修Ｄ群８単位 ※ただし，春学期設置科目はない。		40単位
キャリアデザイン科目									２単位
演習科目	必修２単位	必修２単位	必修２単位				必修２単位	必修４単位	必修４単位	16単位
学部統合科目									０単位
共通学芸科目	※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。								８単位
キリスト教・同志社関係科目	必修２単位 選択必修２単位	必修２単位							６単位
外国語科目	選択必修４単位								４単位
スポーツ・健康科目	選択必修２単位								２単位
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計									106単位
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）									18単位
卒業に必要な単位									124単位

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低18単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　年間49単位。１学期間の上限は28単位。
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるＡ	海外事情（アメリカ）	メディア創造系海外事情Ａ	インターンシップ
京都の文化に触れるＢ	海外事情（イギリス）	メディア創造系海外事情Ｂ	インターンシップＩＡ
京都の文化に触れるＣ	海外事情（ニュージーランド）	海外事情（アジアと女性）	インターンシップＩＢ
京都の文化に触れるＤ	海外事情（中国）	海外こども事情Ａ	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるＥ	海外事情（カナダ）	海外こども事情Ｂ	
近代日本と同志社Ｄ			

2017～2020K

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム表（2017～2020年度入学生適用）

基礎教育科目（28単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Academic Speaking Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Academic Speaking Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Academic Speaking Ⅲ	2	春2	2	必修	
Academic Writing Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Academic Writing Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Academic Writing Ⅲ	2	春2	2	必修	
Intensive Reading Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Reading Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Intensive Listening Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Listening Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Integrative Skills Ⅰ	1	春2	1	必修	廃止
Integrative Skills Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Pronunciation & Presentation Ⅰ	1	春2	1	必修	廃止
Pronunciation & Presentation Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Extensive Reading	2	春2	2	必修	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修Ａ群					
Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門	2	秋2	3	選択必修2単位以上	
Reading and Discussion A	2	秋2	3		
Reading and Discussion B	2	秋2	3		
Reading and Discussion C	2	秋2	3		
Reading and Discussion D	2	秋2	3		
Reading and Discussion E	2	秋2	3		
選択					
Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate A	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate B	2	春2	4	選択	欠講

履修上の注意

選択必修Ａ群より２単位選択必修。
選択必修Ａ群において２単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

国際教養科目（40単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Introduction to Japanese Studies／日本研究入門	2	半2	1	必修	
Introduction to British Studies／イギリス研究入門	2	半2	1	必修	読替
Introduction to North American Studies／北米研究入門	2	半2	1	必修	
Introduction to Intercultural Communication／異文化間コミュニケーション入門	2	半2	1	必修	
Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ	1	春2	1	必修	
Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Contemporary Japanese Society／現代の日本社会	2	春2	2	必修	
Introduction to International Relations／国際関係論入門	2	春2	2	必修	
Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	春2	2	必修	
Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	秋2	2	必修	
Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ	2	春2	3	必修	
選択必修Ｂ群					
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	2	春2	2	選択必修2単位以上	変更
History of North America／北米史	2	春2	2		変更
選択必修Ｃ群					
Introduction to Linguistics／言語学概論	2	春2	2	選択必修4単位以上	
English Phonetics／英語音声学	2	春2	2		
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	2	春2	2		変更
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2	春2	2		
Christianity in the World／キリスト教と世界	2	春2	2		
Global Education／国際教育論	2	春2	2		
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2	春2	2		
選択必修Ｄ群					
Sociolinguistics／社会言語学	2	秋2	3	選択必修8単位以上	
Language Teaching Methodology／言語教育方法論	2	秋2	3		
Bilingualism／バイリンガリズム論	2	秋2	3		
Political Issues in Japan／日本の政治	2	秋2	3		
Cultural Issues in Japan／日本の文化	2	秋2	3		
Social Issues in Japan／日本の社会	2	秋2	3		
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	2	秋2	3		変更
Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会	2	秋2	3		
Inbound Tourism／インバウンド観光論	2	秋2	3		
Japanese Film Studies／日本映画研究	2	秋2	3		
English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	2	秋2	3		変更
Asian Culture／アジア文化論	2	秋2	3		
Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義	2	秋2	3		
Advanced British Studies／イギリス研究	2	秋2	3		
Advanced North American Studies／北米研究	2	秋2	3		
Comparative Religious Studies／比較宗教論	2	秋2	3		
International Business／国際ビジネス論	2	秋2	3		
Tourism Studies／国際観光論	2	秋2	3		
International Gender Studies／国際ジェンダー論	2	秋2	3		
Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境	2	秋2	3		
Issues in International Development／国際開発論	2	秋2	3		
International Journalism／国際ジャーナリズム論	2	秋2	3		廃止
International Media Studies／国際メディア論	2	秋2	3		
Overseas Study Credit／国際教養留学認定	0~30		3		

履修上の注意

選択必修Ｂ群より２単位選択必修。
選択必修Ｃ群より４単位選択必修。
選択必修Ｄ群より８単位選択必修。
選択必修Ｂ群において２単位，選択必修Ｃ群において４単位，選択必修Ｄ群において８単位を超えて修得した科目の単位は，国際教養科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
留学先で修得した単位は，帰国後所定の手続を取った上で，留学科目の「Overseas Study Credit ／国際教養留学認定」として30単位を上限に認定される。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
Introduction to British Studies/イギリス研究入門	2	Introduction to British and Oceania Studies/イギリス・オセアニア研究入門

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。
成績は旧科目で記録される。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

新科目	単位	旧科目
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	2	Historical View of Britain／イギリス史
History of North America／北米史	2	Historical View of North America／北米史
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	2	Japanese & Comparative Literature／日本文学と外国文学
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	2	Japanese Traditional Arts/日本の伝統芸能
English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	2	English and American Literature/英米文学論

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

キャリアデザイン科目（2単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
Global Career Design Ⅰ／グローバルキャリアデザインⅠ	2	春2	2	選択	
Global Career Design Ⅱ／グローバルキャリアデザインⅡ	2	秋2	3	選択	
Global Leadership ／グローバルリーダーシップ論	2	秋2	3	選択	
Internship Ⅱ／インターンシップⅡ	2	通2	3	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「Internship Ⅱ／インターンシップⅡ」
　選考は 9 月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

演習科目（16単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ	2	春2	1	必修	
Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ	2	春2	2	必修	
Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ	2	秋2	3	必修	
Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ	4	春4	4	必修	
Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ	4	秋4	4	必修	

履修上の注意

演習科目はすべて必修である。

学部統合科目（最低単位数設定なし）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択	

履修上の注意

最低単位数の設定はないが，修得単位は区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学前提条件

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学（以下，国際教養留学という。）に係る学業成績に関する前提条件を以下のとおり定める。この前提条件をすべて満たさなければ，国際教養留学を認めない。

1．国際教養留学開始年度の前年度末までに，「Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ」及び「Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ」の単位を含め，40単位以上を修得済であること。この40単位には，自由選択科目の単位及び入学前並びに入学後の学修等に基づく単位認定科目の単位を含めることができる。

2．国際教養留学開始までに「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」2 単位を修得済であること。ただし，「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」は集中講義とし，成績確定は国際教養留学開始年度の 6 月末日とする。
　なお，上記の前提条件は，休学等理由の如何にかかわらず適用する。

2020年度秋学期～ 2021年度春学期　国際教養留学　特例措置について

2018年度入学生および2019年度入学生のうち、2020年度秋学期～ 2021年度春学期国際教養留学の前提条件を満たす者に以下の特例措置を適用する。（ただし、以下科目は2020年度秋学期および2021年度春学期に限り開講予定である。）

基礎教育科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
Simultaneous Interpretation/日英同時通訳入門	2	春2	3	選択	履修年次変更
Discussion and Debate A	2	春2	3	選択	履修年次変更
Discussion and Debate B	2	春2	3	選択	履修年次変更

国際教養科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修D群					
Sociolinguistics ／社会言語学	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Language Teaching Methodology ／言語教育方法論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Bilingualism ／バイリンガリズム論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Political Issues in Japan ／日本の政治	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Cultural Issues in Japan ／日本の文化	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Social Issues in Japan ／日本の社会	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Japanese Traditional Arts ／日本の伝統芸能	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Minority and Japanese Society ／マイノリティーと日本社会	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Inbound Tourism ／インバウンド観光論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Japanese Film Studies ／日本映画研究	2	秋2	2	選択	履修年次変更
English and American Literature ／英米文学論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Asian Culture ／アジア文化論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Advanced British Studies ／イギリス研究	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Advanced North American Studies ／北米研究	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Comparative Religious Studies ／比較宗教論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
International Business ／国際ビジネス論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Tourism Studies ／国際観光論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
International Gender Studies ／国際ジェンダー論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Environmental Issues in Modern Society ／現代社会と環境	2	秋2	2	選択	履修年次変更
Issues in International Development ／国際開発論	2	秋2	2	選択	履修年次変更
International Media Studies ／国際メディア論	2	秋2	2	選択	履修年次変更

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択					
Academic Skills A	2	秋2	2	選択	新設
Academic Skills B	2	秋2	2	選択	新設
Topics in International Studies A	2	秋2	2	選択	新設
Topics in International Studies B	2	秋2	2	選択	新設

共通学芸科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップＩ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は 4 月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（ 3 月下旬発表）で確認すること。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約 3 ～ 4 週間の海外での研修が含まれる。
選考は 5 月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（ 5 月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は 1 年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は 2 年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修4単位	
初級中国語演習	2	秋4	1		
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．フランス語，中国語，スペイン語より，１つの言語４単位を選択必修。
「１つの言語４単位」とは，１種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，１年次に指定されたクラスで履修すること。
１年次では１つの言語のみ履修することができる。
１年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
１年次で不合格科目があった場合は，２年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれかの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週２回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．２年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。２年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，１つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．今出川キャンパスで開講される上級科目（３年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

f．ラピートプログラム
フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
これは，２，３年次に原則として同一言語の授業を週４回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので掲示に注意すること。
（適性検査が実施される。）

3．全般事項

a．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

b．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

c．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」４単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の４単位とし，外国語科目の選択必修４単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低２単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技Ａ	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技Ｂ	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習Ａ	1	春2	2	選択	
スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技Ａ，Ｂ」
１年次に指定されたクラスで履修すること。

カリキュラム

学芸学部　国際教養学科

（2014 ～ 2016年度入学生適用）

学芸学部　国際教養学科　教育理念・目標

学芸学部国際教養学科の設立の目的は「キリスト教主義，国際主義，リベラル・アーツを建学の理念としている本学において，創立130年を機にいま一度建学の理念に立ち返り，品性と豊かな教養と卓越した国際センスを持って世界舞台で活躍する女性の育成を目指す」ことにある。この目的を達成するために，本学科では以下の４つの教育理念・目標を掲げ，これからの社会に寄与する人材の育成を目指したカリキュラムを編成した。

⑴豊かな教養と鋭い問題意識を持ち続ける能力

教養にはさまざまな定義がある。本学科で言う教養とは，本学科の「国際教養科目」を中心とした科目ばかりでなく，留学先大学で学んだ科目の中で身につけた知識と技能，及び本学在学中に得られた貴重な体験，又は在学以前に得られた体験を振り返ることで得られる物事の本質を見抜く力のことである。その教養と「鋭い問題意識」は，４年間で学ぶすべての科目を通して身につけられるようにカリキュラムの中に位置づけられている。特に一連の「演習科目」や「留学科目」がその中心的な役割を果たす。留学前の「Seminar in International Studies Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/国際教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で論理的な表現能力と（物事を）批判的に捉える能力を養いながら，基礎的な研究方法・技能及び留学への心構えを身につけ，留学中は，自ら設定したテーマについて研究を進め，「Tutorial Ⅰ・Ⅱ/実地研究指導Ⅰ・Ⅱ」を通して適宜アドバイザーの指導を仰ぎながらその成果をまとめ，最終的に「Senior Seminar Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で，留学中に得られた成果を踏まえながら新たな学びを加えて，４年間の総合的な学習の成果をまとめていく。

⑵高度な英語力と国際感覚をもって国際舞台で活躍できる能力

国際的な舞台で活躍していくためには，日英両言語による高度なコミュニケーション能力が必要である。特に日本語表現能力に関しては，「演習科目」の中で，論理的かつ説得力のある表現能力を身につけることを目指している。英語運用能力に関しては，ほとんどの授業が英語で行われる本学科の場合，様々な科目の履修を通して英語の総合的な力を身につけられるよう配慮されている。その中で，根幹となる科目群が「基礎教育科目（英語スキル科目）」である。この科目群は，単に英語で日常会話ができるといったレベルではなく，学問的な内容を英語母語話者と対等に議論できる英語コミュニケーション能力の育成を目指す。高校までに習得した英語運用能力の基礎の上に立って，論理的で説得力のある日本語表現力を身に付け，更に本学での英語学習と留学先での英語使用を通して，国際的な舞台で活躍することのできる総合的なコミュニケーション能力を育成する。

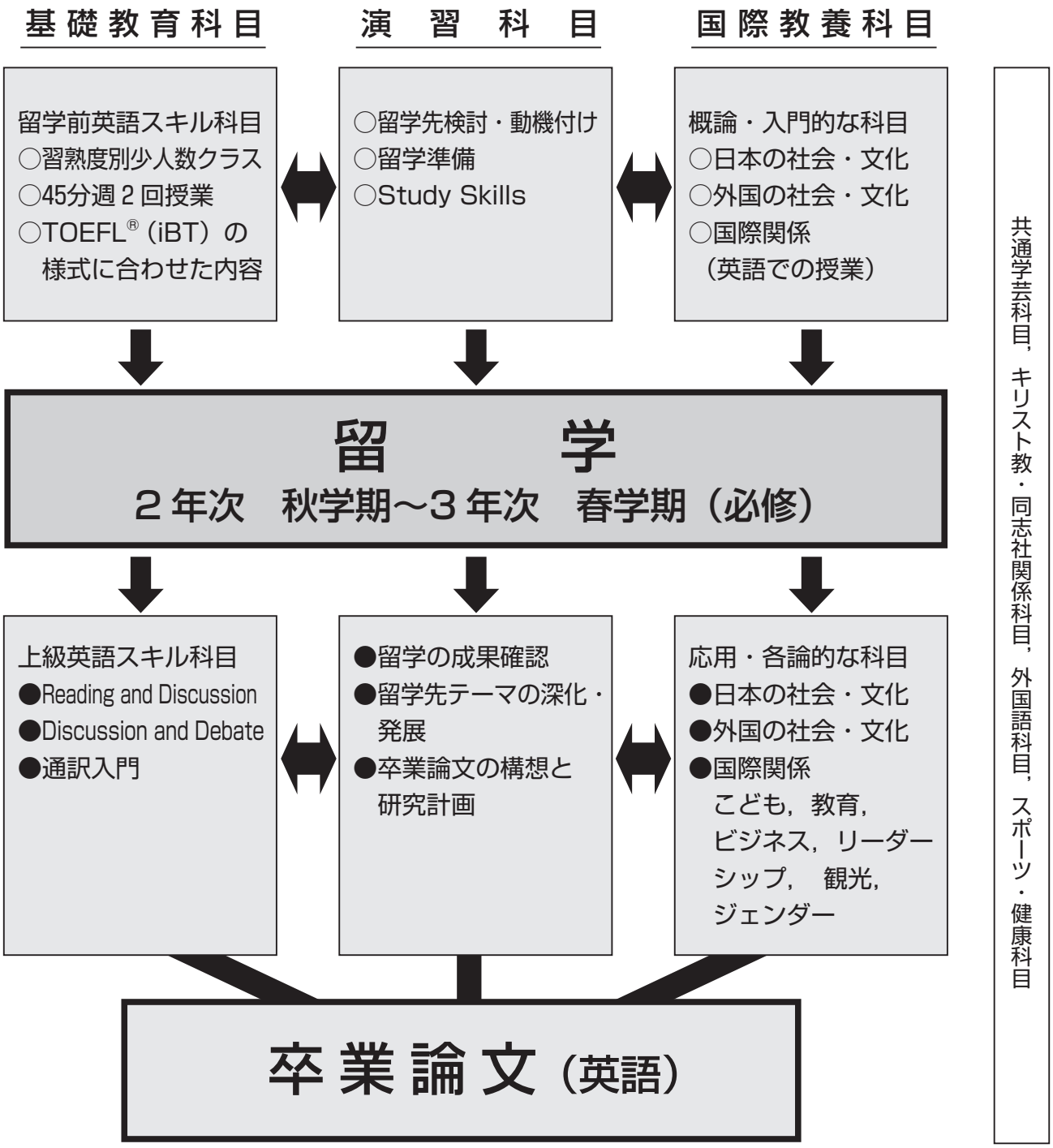
⑶キリスト教精神の視点から行動する能力

キリスト教精神は本学の教育理念の一つであり，また本学及び本学科の根底を支える重要な柱である。「キリスト教・同志社関係科目」だけでなく，本学科の科目のすべてにこの精神が貫かれ，またこれが本学科で実施される諸行事の根幹を成している。本学科のあらゆる学習や体験を通して，キリスト教精神の視点から行動する能力を育成する。

⑷ビジョンを実現させる能力

「ビジョン（vision）」とは，「未来像」「理想像」「展望」という日本語に相当する。本学科の場合，留学がカリキュラムの中に位置づけられているため，２年次秋学期から始まる一年間の留学について，入学時から具体的なビジョンを描き，これを実現させる必要がある。そのためには，心構え，英語運用能力（とりわけTOEFL®についての）の向上，適切な事務処理，そして，何のために留学するのかという各自の具体的な目標設定が必要である。このような事前の準備や細かな手続き等を通して，留学に必要な能力と精神力を身に付け，協定校へと旅立ち，留学を成功裏に完遂する。このビジョンを実現させる過程はまた，各自の卒業後の将来への展望にもつながる。各自の留学達成という道のりを，ビジョン実現のために必要な過程として捉えると同時に，ひいてはこれを各自が将来へのビジョンを築いていく礎としていく。

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム概念図



学芸学部　国際教養学科　科目配置表＜2014 ～ 2016年度入学生＞

開講期は年度によって異なることがあります。

		1年次						2年次						3年次						4年次						卒業必要最低単位
		必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	必・選	春学期	単位	必・選	秋学期	単位	
基礎教育科目		●	Public Speaking Ⅰ（廃止）	2	●	Public Speaking Ⅱ（廃止）	2										A	Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門	2		Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門	2				34
		●	Academic Writing Ⅰ（廃止）	2	●	Academic Writing Ⅱ	2										A	Reading and Discussion(廃止)	2		Discussion and Debate(廃止)	2				
		●	Intensive Reading Ⅰ	2	●	Intensive Reading Ⅱ	2										A	Reading and Discussion A	2		Discussion and Debate A	2				
		●	Intensive Listening Ⅰ	2	●	Intensive Listening Ⅱ	2										A	Reading and Discussion B	2		Discussion and Debate B	2				
		●	Integrative Speaking Ⅰ（廃止）	2	●	Integrative Speaking Ⅱ（廃止）	2	●	Integrative Speaking Ⅲ（廃止）	2							A	Reading and Discussion C	2							
		●	Integrative Writing Ⅰ（廃止）	2	●	Integrative Writing Ⅱ（廃止）	2	●	Integrative Writing Ⅲ（廃止）	2							A	Reading and Discussion D	2							
		●	Pronunciation & Presentation Ⅰ（廃止）	1	●	Pronunciation & Presentation Ⅱ	1	●	Extensive Reading	2							A	Reading and Discussion E	2							
国際教養科目	日本の社会・文化に関する科目	●	Japanese History／日本の歴史（廃止）	2	●	Japanese Culture／日本の文化（廃止）	2		Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	2																4
									Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2																
									Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	2																
	外国の社会・文化に関する科目	●	Introduction to British Studies／イギリス研究入門	2		[Introduction to British Studies／イギリス研究入門]		B	Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	2																6
		●	Introduction to North American Studies／北米研究入門	2		[Introduction to North American Studies／北米研究入門]		B	History of North America／北米史	2																
	国際関係に関する科目							●	Introduction to International Relations／国際関係論入門	2																2
									International Business／国際ビジネス論	2																
									Global Education／国際教育論	2																
									Intercultural Communication and Language Education／異文化間コミュニケーションと外国語教育（廃止）	2																
	国際教養各論科目							C	International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2							C	Childhood in Japan／日本のこども文化（廃止）	2	C	Applied Linguistics and Language Education／応用言語学と言語教育（廃止）	2	C	Asian Culture／アジア文化論	2	6
								C	Introduction to Linguistics／言語学概論	2							C	Christianity in the World／キリスト教と世界	2				C	International Gender Studies／国際ジェンダー論	2	
								C	English Phonetics／英語音声学	2							C	English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	2							
																	C	Tourism Studies／国際観光論	2				C	Global Leadership／グローバルリーダーシップ論	2	
																	C	Internship Ⅱ／インターンシップⅡ	2				C	Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境	2	
																	C	Japanese Film Studies／日本映画研究	2				C	Issues in International Development／国際開発論	2	
																	C	Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義	2							
																	C	Minority and Traditional Arts／マイノリティーと伝統芸能（廃止）	2							
																	C	Business Theories and Practice／ビジネス理論と実践（廃止）	2							
																	C	Advanced North American Studies／北米研究	2							
																	C	Comparative Religious Studies／比較宗教論	2							
																	C	Advanced British Studies／イギリス研究	2							
																	C	Cultural Issues in Japan／日本の文化	2							
																	C	Political Issues in Japan／日本の政治	2							
																	C	Social Issues in Japan／日本の社会	2							
																	C	Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会	2							
																	C	Inbound Tourism／インバウンド観光論	2							
																	C	International Journalism／国際ジャーナリズム論（廃止）	2							
																	C	International Media Studies／国際メディア論	2							
																	C	Sociolinguistics／社会言語学	2							
																	C	Language Teaching Methodology／言語教育方法論	2							
																	C	Bilingualism／バイリンガリズム論	2							
																		学芸学部ジョイントプログラム	2							
	留学科目	●	Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ（廃止）	2	●	Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ（廃止）	2	●	Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	●	Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	●	Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ	2										10
															Overseas Study Credit／国際教養留学認定	0～30										
演習科目		●	Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ	2	●	Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ	2	●	Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ	2							●	Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ	2	●	Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ	4	●	Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ	4	16
共通学芸科目			共通学芸選択科目 他学科科目			[共通学芸選択科目] [他学科科目]																				8
キリスト教・同志社関係科目		● ◎	聖書Ａ キリスト教・同志社関係選択必修科目	2	●	聖書Ｂ [キリスト教・同志社関係選択必修科目]	2																			6
外国語科目			◎フランス語，◎中国語，◎スペイン語，ドイツ語，イタリア語，ハングル																							4
スポーツ・健康科目		◎	スポーツ・健康選択必修科目			[スポーツ・健康選択必修科目]																				2
区分外			※上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等																							20
合計																										124

留　学

＜凡例＞
1. 必・選欄の●は必修を，◎又はＡ．Ｂ．Ｃ．などは，選択必修グループを表す。
2. 共通学芸科目，キリスト教・同志社関係科目，外国語科目，スポーツ・健康科目については，カリキュラム表を参照。
3. [　] 内の科目は，再掲。

※網かけした科目はカリキュラム改正により変更している。詳しくはカリキュラム表を参照すること。

学芸学部　国際教養学科　卒業必要単位（2014～2016年度入学生適用）

科目区分		1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期	3年次 春学期	3年次 秋学期	4年次 春学期	4年次 秋学期	卒業必要最低単位	
基礎教育科目		必修13単位	必修13単位	必修６単位	留学	留学	選択必修A群 2単位			34単位	
国際教養科目	日本の社会・文化に関する科目	必修２単位	必修２単位		留学	留学				４単位	34単位
国際教養科目	外国の社会・文化に関する科目	必修４単位		選択必修Ｂ群 2単位	留学	留学				６単位	34単位
国際教養科目	国際関係に関する科目			必修２単位	留学	留学				２単位	34単位
国際教養科目	国際教養各論科目			選択必修C群	留学	留学	選択必修Ｃ群６単位			６単位	34単位
国際教養科目	留学科目	必修２単位	必修２単位	必修２単位	必修２単位 留学認定０～30単位	必修２単位				10単位	34単位
演習科目		必修２単位	必修２単位	必修２単位	留学	留学	必修２単位	必修４単位	必修４単位	16単位	
共通学芸科目		※他学科科目も共通学芸科目に含まれる。			留学	留学				８単位	
キリスト教・同志社関係科目		必修２単位	必修２単位	選択必修２単位	留学	留学				６単位	
外国語科目		選択必修４単位			留学	留学				４単位	
スポーツ・健康科目		選択必修２単位			留学	留学				２単位	
上記各科目区分ごとの卒業必要最低単位数合計										104単位	
区分外領域（上記各科目区分の卒業必要最低単位数を超えて修得した単位，他大学単位互換科目の単位等）										20単位	
卒業に必要な単位										124単位	

卒業に必要な単位の修得要件

＜科目区分領域＞　各科目区分ごとに，上記の要件に従い単位を修得すること。
必修・選択必修の単位数に留意すること。
また，科目区分ごとに定められた最低修得単位を修得しただけでは卒業要件を満たさないので注意すること。
いずれの科目区分においても，選択科目の単位は卒業必要単位に算入される。

＜区分外領域＞　最低20単位以上修得すること。
区分外領域の単位として卒業必要単位に算入される単位は次のとおり。
1．各科目区分の最低必要単位数を超えて修得した単位（オーバー単位）
2．同志社大学互換科目の履修により修得した単位
3．金城学院大学互換科目の履修により修得した単位
4．大学コンソーシアム京都互換科目の履修により修得した単位
5．奈良県立医科大学互換科目の履修により修得した単位
6．放送大学科目の履修により修得した単位

＜卒業に必要な単位＞　総計124単位以上
注）自由選択科目は，卒業に必要な単位に算入できないので注意すること。

＜登録単位数の上限＞　各学期28単位
ただし，以下の科目は含まない。
1．他大学等の単位互換科目
2．文部科学大臣が定める学修による単位認定科目
3．自由選択科目
4．次の科目

京都の文化に触れるＡ	海外事情（アメリカ）	メディア創造系海外事情Ａ	インターンシップ
京都の文化に触れるＢ	海外事情（イギリス）	メディア創造系海外事情Ｂ	インターンシップⅠＡ
京都の文化に触れるＣ	海外事情（ニュージーランド）	海外事情（アジアと女性）	インターンシップⅠＢ
京都の文化に触れるＤ	海外事情（中国）	海外こども事情Ａ	インターンシップⅡ
京都の文化に触れるＥ	海外事情（カナダ）	海外こども事情Ｂ	
近代日本と同志社Ｄ			

学芸学部　国際教養学科　カリキュラム表（2014 ～ 2016年度入学生適用）

基礎教育科目（34単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Public Speaking Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Public Speaking Ⅱ	2	秋2	1	必修	廃止
Academic Writing Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Academic Writing Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Intensive Reading Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Reading Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Intensive Listening Ⅰ	2	春2	1	必修	
Intensive Listening Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Integrative Speaking Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Integrative Speaking Ⅱ	2	秋2	1	必修	廃止
Integrative Speaking Ⅲ	2	春2	2	必修	廃止
Integrative Writing Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Integrative Writing Ⅱ	2	秋2	1	必修	廃止
Integrative Writing Ⅲ	2	春2	2	必修	廃止
Pronunciation & Presentation Ⅰ	1	春2	1	必修	廃止
Pronunciation & Presentation Ⅱ	1	秋2	1	必修	
Extensive Reading	2	春2	2	必修	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修Ａ群					
Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門	2	秋2	3	選択必修2単位以上	
Reading and Discussion	2	秋2	3		廃止
Reading and Discussion A	2	秋2	3		
Reading and Discussion B	2	秋2	3		
Reading and Discussion C	2	秋2	3		
Reading and Discussion D	2	秋2	3		
Reading and Discussion E	2	秋2	3		
選択					
Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate	2	春2	4	選択	廃止
Discussion and Debate A	2	春2	4	選択	
Discussion and Debate B	2	春2	4	選択	欠講

履修上の注意

選択必修Ａ群より２単位選択必修。
選択必修Ａ群において２単位を超えて修得した科目の単位及び選択科目の修得単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

国際教養科目（34単位以上）

日本の社会・文化に関する科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
必修（４単位）						
Japanese History／日本の歴史	2	春2	1	必修	廃止	
Japanese Culture／日本の文化	2	秋2	1	必修	廃止	
選択						
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	2	春2	2	選択	変更	Japanese & Comparative Literature/日本文学と外国文学
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語	2	春2	2	選択		
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	2	秋2	2	選択	変更	Japanese Traditional Arts/日本の伝統芸能

外国の社会・文化に関する科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
必修（４単位）						
Introduction to British Studies／イギリス研究入門	2	半2	1	必修	読替	
Introduction to North American Studies／北米研究入門	2	半2	1	必修		
選択必修Ｂ群（２単位選択必修）						
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	2	春2	2	選択必修	変更	Historical View of Britain/イギリス史
History of North America／北米史	2	春2	2	2単位以上	変更	Historical View of North America/北米史

国際関係に関する科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
必修（２単位）						
Introduction to International Relations／国際関係論入門	2	春2	2	必修		
選択						
International Business／国際ビジネス論	2	秋2	2	選択	変更	International Business／国際ビジネス概論
Global Education／国際教育論	2	春2	2	選択	変更	Global Education／国際教育概論
Intercultural Communication and Language Education／異文化間コミュニケーションと外国語教育	2	春2	2	選択	廃止	

履修上の注意（国際教養科目）

選択必修Ｂ群より２単位選択必修。
選択必修Ｃ群より６単位選択必修。
選択必修Ｂ群において２単位，選択必修Ｃ群において６単位を超えて修得した科目の単位は，国際教養科目として卒業に必要な単位に算入される。
最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
留学先で修得した単位は，帰国後所定の手続を取った上で，留学科目の「Overseas Study Credit ／国際教養留学認定」として30単位を上限に認定される。

廃止科目について

廃止された科目の単位を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

読替措置について

以下の授業科目については，カリキュラム変更に伴い読替措置を行っているので注意すること。

登録科目名（旧科目）	単位	新科目（授業実態・休講等の掲示）
Introduction to British Studies/ イギリス研究入門	2	Introduction to British and Oceania Studies/ イギリス・オセアニア研究入門

読替措置は，カリキュラム変更により廃止された旧科目を登録し，対応する新科目の授業に出席することにより，旧科目の単位を修得するための措置である。
登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。成績は旧科目で記録される。

個別の授業科目に関する注意

「InternshipⅡ／インターンシップⅡ」
　選考は９月に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

国際教養各論科目						
授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考	旧科目
選択必修C群（6単位選択必修）						
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論	2	春2	2	選択必修6単位以上		
Introduction to Linguistics ／言語学概論	2	春2	2			
English Phonetics ／英語音声学	2	春2	2			
Childhood in Japan ／日本のこども文化	2	秋2	3		廃止	
Christianity in the World ／キリスト教と世界	2	春2	3			
English Literatures in the Modern World ／英語圏の現代文学	2	秋2	3		変更	English and American Literature/英米文学論
Tourism Studies ／国際観光論	2	秋2	3		変更	Tourism Studies ／国際観光概論
Japanese Film Studies ／日本映画研究	2	秋2	3		変更	Theory and History of Film ／映画の理論と歴史
Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	秋2	3			
Minority and Traditional Arts ／マイノリティーと伝統芸能	2	秋2	3		廃止	
Business Theories and Practice ／ビジネス理論と実践	2	秋2	3		廃止	
Internship Ⅱ／インターンシップⅡ	2	通2	3			
Advanced North American Studies ／北米研究	2	秋2	3			
Comparative Religious Studies ／比較宗教論	2	秋2	3			
Advanced British Studies ／イギリス研究	2	秋2	3			
Cultural Issues in Japan ／日本の文化	2	秋2	3			
Political Issues in Japan ／日本の政治	2	秋2	3			
Social Issues in Japan ／日本の社会	2	秋2	3			
Minority and Japanese Society ／マイノリティーと日本社会	2	秋2	3			
Inbound Tourism ／インバウンド観光論	2	秋2	3			
International Journalism ／国際ジャーナリズム論	2	秋2	3		廃止	
International Media Studies ／国際メディア論	2	秋2	3			
Sociolinguistics ／社会言語学	2	秋2	3			
Language Teaching Methodology ／言語教育方法論	2	秋2	3			
Bilingualism ／バイリンガリズム論	2	秋2	3			
Asian Culture ／アジア文化論	2	秋2	4			
International Gender Studies ／国際ジェンダー論	2	秋2	4			
Global Leadership ／グローバルリーダーシップ論	2	秋2	4		変更	Leadership Theories and Practics ／リーダーシップ理論と実践
Applied Linguistics and Language Education ／応用言語学と言語教育	2	春2	4		廃止	
Environmental Issues in Modern Society ／現代社会と環境	2	秋2	4			
Issues in International Development ／国際開発論	2	秋2	4			
選択						
学芸学部ジョイントプログラム	2	秋2	3	選択		

留学科目					
授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修（10単位）					
Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ	2	春2	1	必修	廃止
Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ	2	秋2	1	必修	廃止
Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ	2	春2	2	必修	
Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ	2	秋2	2	必修	
Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ	2	春2	3	必修	
Overseas Study Credit／国際教養留学認定	0～30		3		

演習科目（16単位）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ	2	春2	1	必修	
Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ	2	秋2	1	必修	
Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ	2	春2	2	必修	
Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ	2	秋2	3	必修	
Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ	4	春4	4	必修	
Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ	4	秋4	4	必修	

履修上の注意

演習科目はすべて必修である。

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学前提条件

学芸学部国際教養学科学生の外国大学への留学（以下，国際教養留学という。）に係る学業成績に関する前提条件を以下のとおり定める。この前提条件をすべて満たさなければ，国際教養留学を認めない。

1．国際教養留学開始年度の前年度末までに，「Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ」及び「Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ」の単位を含め，40単位以上を修得済であること。この40単位には，自由選択科目の単位及び入学前並びに入学後の学修等に基づく単位認定科目の単位を含めることができる。

2．国際教養留学開始までに「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」2単位を修得済であること。ただし，「Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ」は集中講義とし，成績確定は国際教養留学開始年度の6月末日とする。

なお，上記の前提条件は，休学等理由の如何にかかわらず適用する。

共通学芸科目（最低 8 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
人間と思想					
哲学Ａ	2	半2	1		
哲学Ｂ	2	半2	1		
西洋の思想Ａ	2	半2	1		
西洋の思想Ｂ	2	半2	1		
日本の思想Ａ	2	半2	1		
日本の思想Ｂ	2	半2	1		
人間と環境					
宇宙の科学	2	半2	1		
地球の科学	2	半2	1		
生命の科学	2	半2	1		
自然人類学	2	半2	1		
物質の科学	2	半2	1		
生活環境の科学	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
自然科学史	2	半2	1		
科学技術と人間	2	半2	1		
環境社会論	2	半2	1		
心理学Ａ	2	半2	1		
心理学Ｂ	2	半2	1		
人格心理学	2	半2	1		
臨床心理学	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1		
薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1		
女性のための医学	2	半2	1		
人間と社会					
日本国憲法	2	半2	1		
国際社会と法	2	半2	1		
法と市民生活	2	半2	1		
国際関係論Ａ	2	半2	1		
国際関係論Ｂ	2	半2	1		
国際社会と経済Ａ	2	半2	1		
国際社会と経済Ｂ	2	半2	1		
日本経済のしくみ	2	半2	1		
人間と社会Ａ	2	半2	1		
人間と社会Ｂ	2	半2	1		
異文化間コミュニケーション論	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ａ	2	半2	1		
マスコミュニケーション論Ｂ	2	半2	1		
情報と社会	2	半2	1		
社会保障と福祉	2	半2	1		
介護概説	2	半2	1	L,S,SK履修不可	
女性と社会					
女性と社会	2	半2	1		
日本女性史	2	半2	1		
外国文学と女性Ａ	2	半2	1		
外国文学と女性Ｂ	2	半2	1		
日本文学と女性	2	半2	1		
文化と歴史					
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	2	半2	1		
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
中国文化研究Ａ	2	半2	1	欠講	
中国文化研究Ｂ	2	半2	1	欠講	
日本の歴史と文化Ａ	2	半2	1		
日本の歴史と文化Ｂ	2	半2	1		
日本文化論	2	半2	1		
文化交流史	2	半2	1		
文化人類学	2	半2	1	変更	文化人類学Ａ
文化人類学Ｂ	2	半2	1	廃止	
アメリカ地域研究Ａ	2	半2	1		
アメリカ地域研究Ｂ	2	半2	1		
アジア地域研究Ａ	2	半2	1		
アジア地域研究Ｂ	2	半2	1		
日本古典芸能Ａ	2	半2	1		
日本古典芸能Ｂ	2	半2	1		
美術史	2	半2	1		
音楽と諸芸術	2	半2	1		
音楽と社会	2	半2	1		
現代の音楽	2	半2	1		
映像文化論	2	半2	1		
京都の文化と歴史					
京都の文化Ａ	2	半2	1		
京都の文化Ｂ	2	半2	1		
京都の文化Ｃ	2	半2	1		
京都の文化Ｄ	2	半2	1	欠講	
京都の文化に触れるＡ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＢ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＣ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＤ	2	半2	2		
京都の文化に触れるＥ	2	半2	2		
京都の歴史Ａ	2	半2	1		
京都の歴史Ｂ	2	半2	1		

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	備考	旧科目
教育と人間					
教育の原理	2	半2	2		
発達と学習の心理学	2	半2	2		
学校教育論	2	半2	2	廃止	
教育の制度と経営	2	半2	2		
異文化体験					
海外事情（アメリカ）	4	春2	1		
海外事情（イギリス）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（ニュージーランド）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可	
海外事情（中国）	4	秋2	1	卒業年次生履修不可・欠講	
海外事情（カナダ）	4	春2	1		
交換留学生と学ぶ日本文化					
Japan Studies Ａ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｂ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｃ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｄ	2	秋2	1		
Japan Studies Ｅ	2	秋2	1	欠講	
現代の諸問題					
テーマ別講義	2	半2	1	欠講	
寄付講座	2	半2	1	欠講	
キャリア教育科目					
大学生活とキャリアデザインⅠ	2	半2	1		
大学生活とキャリアデザインⅡ	2	半2	2		
大学生活とキャリアデザインⅢ	2	半2	2		
キャリアのための自己表現演習	1	半1	2	廃止	
キャリアのためのプロジェクト演習	2	春2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	2	秋2	2	新設	
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	2	春2	3	新設	
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	2	通2	2		
インターンシップＩＡ	1	通1	2		
インターンシップＩＢ	2	通2	2	変更	インターンシップＩ
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
日本語教育能力検定	2				

履修上の注意

共通学芸科目はすべて選択科目である。学部・学科・専攻により履修可能な科目が異なるので注意すること。
このカリキュラム表記載の科目のほか，他学科科目も共通学芸科目として履修することができる（「他学科科目一覧表」のページを参照すること）。
科目により開講期・開講キャンパスが異なるため，登録の際は必ず確認すること。なお，他キャンパス開講クラスも履修可能であるが，移動時間等に注意すること。
修得単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入できる。最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
廃止科目の修得済単位は当該区分において有効。

開講科目の変更

備考欄に「変更」と表示している科目については，開講科目名が変更されている。
対応する旧科目の単位を修得済の場合は履修できないので注意すること。

個別の授業科目に関する注意

「インターンシップ（大学コンソーシアム京都）」
大学コンソーシアム京都で許可された学生のみ後日登録を行う。

「インターンシップＩＡ，ＩＢ」
選考は４月下旬に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。

「京都の文化に触れるＡ～Ｅ」
集中講義で実施する。
日程等は登録配付資料（３月下旬発表）で確認すること。

「教育の制度と経営」
「学校教育論」の単位を修得済の場合は履修できない。

「海外事情」
海外研修プログラムに基づく科目で，夏期又は春期休暇中約３～４週間の海外での研修が含まれる。
選考は５月（夏期），10月（春期）に行われ，選考に合格した学生のみ履修できる。ただし，春期休暇中に実施されるプログラム（秋学期開講科目）は，卒業年次生は履修できない。詳細は募集要項を参照。
「海外事情（中国）」を履修する学生は，中国語を履修することが望ましい。

「Japan Studies Ａ～Ｅ」
交換留学生対象の「Japanese Studies Program」における日本文化，日本事情に関する科目。今出川・秋学期のみ開講。
英語力により選考を行う。詳細は掲示（５月頃）で確認すること。

「テーマ別講義」「寄付講座」
開講テーマが異なれば同一名称の科目を重複して履修することができる。

「大学生活とキャリアデザインⅠ，Ⅱ，Ⅲ」
「Ⅰ」は１年次生を，「Ⅱ」「Ⅲ」は２年次生を主たる対象とする。

キリスト教・同志社関係科目（最低 6 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
必修					
聖書Ａ	2	春2	1	必修	
聖書Ｂ	2	秋2	1	必修	
選択必修					
キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	選択必修2単位以上	
キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1		
キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ａ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1		
キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1		
キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ａ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1		
近代日本と同志社Ｄ	2	秋2	1		卒業年次生履修不可

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。
他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。
選択必修科目については，年度により開講期・開講キャンパスは異なることがある。
開講科目表を参照し確認すること。

外国語科目（最低 4 単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
フランス語					
初級フランス語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級フランス語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級フランス語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級フランス語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級フランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級フランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートフランス語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートフランス語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
中国語					
初級中国語基礎	2	春4	1	選択必修4単位	
初級中国語演習	2	秋4	1		
中級中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピート中国語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピート中国語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピート中国語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
スペイン語					
初級スペイン語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択必修4単位	
初級スペイン語基礎Ⅱ	1	秋2	1		
初級スペイン語演習Ⅰ	1	春2	1		
初級スペイン語演習Ⅱ	1	秋2	1		
中級スペイン語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級スペイン語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ドイツ語					
初級ドイツ語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ドイツ語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級ドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅰ	1	春2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ラピートドイツ語Ⅲ	1	春2	3	選択	
ラピートドイツ語Ⅳ	1	秋2	3	選択	
イタリア語					
初級イタリア語基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級イタリア語演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級イタリア語Ⅰ	1	春2	2	選択	
中級イタリア語Ⅱ	1	秋2	2	選択	
ハングル					
初級ハングル基礎Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル基礎Ⅱ	1	秋2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅰ	1	春2	1	選択	
初級ハングル演習Ⅱ	1	秋2	1	選択	
中級ハングルⅠ	1	春2	2	選択	
中級ハングルⅡ	1	秋2	2	選択	

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
文部科学大臣が定める学修による単位認定科目（単位認定の頁を参照）					
TOEFLⅠ	2			選択	
TOEFLⅡ	2			選択	
TOEFLⅢ	2			選択	
TOEICⅠ	2			選択	
TOEICⅡ	2			選択	
TOEICⅢ	2			選択	
英語検定Ⅰ	2			選択	
英語検定Ⅱ	4			選択	
IELTSⅠ	2			選択	
IELTSⅡ	2			選択	
IELTSⅢ	2			選択	
フランス語学修Ⅰ	2			選択	
フランス語学修Ⅱ	2			選択	
フランス語学修Ⅲ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅰ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅱ	2			選択	
ドイツ語学修Ⅲ	2			選択	
イタリア語学修Ⅰ	2			選択	
イタリア語学修Ⅱ	2			選択	
イタリア語学修Ⅲ	2			選択	
中国語学修Ⅰ	2			選択	
中国語学修Ⅱ	2			選択	
中国語学修Ⅲ	2			選択	
ハングル学修Ⅰ	2			選択	
ハングル学修Ⅱ	2			選択	
ハングル学修Ⅲ	2			選択	
スペイン語学修Ⅰ	2			選択	
スペイン語学修Ⅱ	2			選択	
スペイン語学修Ⅲ	2			選択	
セメスター語学留学のための単位授与科目					
Study Abroad：EnglishⅠ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅡ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅢ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅣ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅤ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅥ	2		1	選択	
Study Abroad：EnglishⅦ	2		1	選択	

履修上の注意（外国語科目）

次頁参照。

履修上の注意（外国語科目）

1．選択必修の履修方法

a．フランス語，中国語，スペイン語より，１つの言語４単位を選択必修。
「１つの言語４単位」とは，１種類の言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得することをいう。

b．選択必修としての外国語は，１年次に指定されたクラスで履修すること。
１年次では１つの言語のみ履修することができる。
１年次では同時に複数の言語を履修することはできない。
１年次で不合格科目があった場合は，２年次以上で当該不合格科目のみ履修すればよい。

c．選択必修としての外国語は，卒業までの間に変更することができるが，この場合でもいずれかの言語で初級基礎Ⅰ，Ⅱ，初級演習Ⅰ，Ⅱの計４単位を修得しなければならない。

※初級中国語の履修方法について
「初級中国語基礎」「初級中国語演習」（各週２回授業）を履修すること。

2．選択の履修方法

a．２年次以上では同時に複数の外国語を履修することができる。２年次以上で外国語を履修する場合，クラスの指定はない。

b．選択必修として修得した言語以外の言語の「初級」の単位は選択科目の単位として取り扱う。

c．選択科目は中級から履修を始めることもできる。また，１つの言語で修得しなければならない単位数に制約はない。

d．今出川キャンパスで開講される上級科目（３年次・フランス語，ドイツ語，中国語）を選択科目として履修することができる。

e．選択科目として修得した単位は，外国語科目のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

f．ラピートプログラム
フランス語，ドイツ語，中国語に限りラピートプログラムが開設される。
これは，２，３年次に原則として同一言語の授業を週４回受講するものである。予備登録は前年度秋学期に行われるので掲示に注意すること。
（適性検査が実施される。）

3．全般事項

a．特定の言語に履修希望者が集中した場合，希望する言語を履修できないことがある。

b．他キャンパスで開講されるクラスを履修することができるが，クラスが指定されている場合はこの限りでない。

c．「Study Abroad：English Ⅰ～Ⅶ」は，国際課が実施するセメスター語学留学制度のプログラム参加者のための科目である。セメスター語学留学制度の詳細は国際課まで問い合わせること。

外国人留学生科目

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
総合日本語・日本事情Ⅰ	2	半2	1	外国人留学生必修	
総合日本語・日本事情Ⅱ	2	半2	1		

履修上の注意

1．ここにいう「外国人留学生」とは，外国人留学生入学試験を受験して入学した学生をいう。
2．外国人留学生は，「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」４単位を必修とする。
3．外国人留学生の場合は，外国語科目区分の卒業必要最低単位数は上記の４単位とし，外国語科目の選択必修４単位を適用しない。
ただし，他の外国語科目を修得した場合は，外国語科目区分のオーバー単位として，区分外領域で卒業に必要な単位に算入することができる。
4．「総合日本語・日本事情Ⅰ，Ⅱ」は，外国人留学生及び海外の協定大学からの留学生だけが履修できる。

スポーツ・健康科目（最低２単位以上）

授業科目	単位	期間時間	履修可能最低年次	履修方法	備考
選択必修					
体育実技Ａ	1	春2	1	選択必修2単位以上	
体育実技Ｂ	1	秋2	1		
からだの科学	2	半2	1		
ウエルネス健康論	2	半2	1		
食物と健康	2	半2	1		
スポーツ文化論	2	半2	1		
選択					
スポーツ実習Ａ	1	春2	2	選択	
スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	選択	

履修上の注意

最低修得単位数を超えて修得した科目の単位は，区分外領域で卒業に必要な単位に算入される。

個別の授業科目に関する注意

「体育実技Ａ，Ｂ」
１年次に指定されたクラスで履修すること。

他学科科目一覧表

共通学芸科目（他学科科目）

履修上の注意

1. 各学科・専攻より，共通学芸科目として履修可能な科目が多数提供されている。修得した単位は共通学芸科目区分で卒業に必要な単位に算入される。
2. 学生の所属学部・学科・専攻により履修可能な他学科科目は異なる。この表に掲載されている履修可能科目のみ履修することができる。
3. 他学科科目の履修は，科目提供学科等の教育に支障のない範囲において認められるもので，履修登録者が多数となり授業実施に支障が出る場合は，他学科生の履修が認められないことがある。
4. 上級年次の科目は履修できない。
5. 科目の開講期は開講科目表で確認すること。また，科目は欠講になることがある。
6. 廃止科目の修得単位は，共通学芸科目区分の単位として有効。
7. 以下の科目は社会システム学科，人間生活学科より同じ科目が提供されている。重複して履修することはできないので注意すること。
   【重複履修できない科目】 社会心理学概論，社会心理学，現代青年の心理と行動，情報社会心理学，ジェンダーの社会心理学

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
音楽学科科目															
音楽通史A		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽通史B		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミュージックセラピー概論	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽療法概論	「ミュージックセラピー概論」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アニメ・ゲーム音楽A	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アニメ・ゲーム音楽B	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アニメ音楽	「アニメ・ゲーム音楽A」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゲーム音楽	「アニメ・ゲーム音楽B」を修得済みの場合履修不可	2	1	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
音楽心理学		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽社会学		2	1	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史（古典派）		2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史（ロマン派）		2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史学	廃止（2014年度以前に修得した単位は有効）	2	2	—	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
音楽の史学	「音楽史学」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の音楽	「日本音楽」を修得済の場合履修不可	2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ポピュラーミュージックA		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ポピュラーミュージックB		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
映画・舞台音楽		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
民族の音楽	「民族音楽」を修得済の場合履修不可	2	2	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンピュータ音楽演習		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習A		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習B		2	2	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ミュージックマネージメントA	「音楽マネージメント論」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史（中世からバロック）		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽史（近・現代）		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽の美学	「音楽美学」を修得済の場合履修不可	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較音楽文化学Ⅰ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
比較音楽文化学Ⅱ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジャズミュージック		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロックミュージック		2	3	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コンピュータミュージック演習C		2	3	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
コンピュータミュージック演習D		2	3	—	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
メディア創造学科／情報メディア学科科目															
情報倫理		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
知覚メディアの心理学		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映像論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映像表現論	「映像論」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マルチメディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
造形論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代美術演習	「造形論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市メディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアエンターテイメント論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアエンターテインメント論	「メディアエンターテイメント論」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア社会学		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルメディア論		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グラフィックデザイン論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報数学		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報メディア系海外事情	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情A	2021年度欠講	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア創造系海外事情B	「メディア創造系海外事情」「情報メディア系海外事情」を修得済の場合履修不可	2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テクノロジーと社会		2	1	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディアアート論	「メディア・アート論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
プロダクトデザイン論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エクスペリエンスデザイン演習	「プロダクトデザイン論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンターテイメント産業論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンターテインメント産業論	「エンターテイメント産業論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報産業研究	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ITビジネス研究	「情報産業研究」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジャーナリズム論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マンガ文化論A		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マンガ文化論B		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広告プランニング		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア教育論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒューマンインタフェース論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代美術論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コミュニケーション論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
写真文化論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
写真表現論	「写真文化論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メディア文化史		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
映画・放送番組制作論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報ビジネス起業論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
マネージメント研究		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストラテジー研究A		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ストラテジー研究B	2021年度欠講	2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
図書館サービス概論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西洋美術表現論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代哲学・メディア思想		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバルエンターテインメント論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音楽エンターテインメント産業論		2	2	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報メディア心理学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教とメディア		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現代マスコミュニケーション論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス演習A		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
情報サービス演習B		2	3	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際教養学科科目															
Modern Japanese Literature in Translation／英訳で読む近現代日本文学	「Japanese & Comparative Literature／日本文学と外国文学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese Traditional Arts and Aesthetics／日本の伝統芸能と美	「Japanese Traditional Arts／日本の伝統芸能」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Histories of Britain and Oceania／イギリス・オセアニア史	「Historical View of Britain／イギリス史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
History of North America／北米史	「Historical View of North America／北米史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Business／国際ビジネス概論	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Business／国際ビジネス論	「International Business／国際ビジネス概論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Education／国際教育概論	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Education／国際教育論	「Global Education／国際教育概論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Intercultural Communication and Language Education／異文化間コミュニケーションと外国語教育	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Relations in East Asia／東アジア国際関係論		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Introduction to Linguistics／言語学概論		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
English Phonetics／英語音声学		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Childhood in Japan／日本のこども文化	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Christianity in the World／キリスト教と世界		2	2	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
English Literatures in the Modern World／英語圏の現代文学	「English and American Literature／英米文学論」を修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism Studies／国際観光概論	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism Studies／国際観光論	「Tourism Studies／国際観光概論」を修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Theory and History of Film／映画の理論と歴史	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Japanese Film Studies／日本映画研究	「Theory and History of Film／映画の理論と歴史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Minority and Traditional Arts／マイノリティーと伝統芸能	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Business Theories and Practice／ビジネス理論と実践	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Advanced North American Studies／北米研究		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Comparative Religious Studies／比較宗教論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Advanced British Studies／イギリス研究		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Cultural Issues in Japan／日本の文化		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Political Issues in Japan／日本の政治		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Social Issues in Japan／日本の社会		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Inbound Tourism／インバウンド観光論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Journalism／国際ジャーナリズム論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Media Studies／国際メディア論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Sociolinguistics／社会言語学		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Language Teaching Methodology／言語教育方法論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Bilingualism／バイリンガリズム論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Asian Culture／アジア文化論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Gender Studies／国際ジェンダー論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Leadership Theories and Practice／リーダーシップ理論と実践	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	4	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Global Leadership／グローバルリーダーシップ論	「Leadership Theories and Practice／リーダーシップ理論と実践」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Applied Linguistics and Language Education／応用言語学と言語教育	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	4	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Issues in International Development／国際開発論		2	3	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会システム学科科目															
社会学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
倫理学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
法学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
文化人類学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際関係概論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
教育学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
情報学概論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
情報学	「情報学概論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
比較文化概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
政治学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会心理学概論		2	1	○	○	○	—	—	○	○	○	○	×	○	○
地域観光学概論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教学概論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営学概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational English Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	1	1	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational English Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	1	1	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×

他学科科目一覧表
〈○:履修可能な科目，×:履修できない科目，—:自学科科目〉

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
人文地理学概論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館概論		2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
海外事情（アジアと女性）	2021年度欠講	2	1	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法Ⅱ	「財産法Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
金融取引と法	2021年度欠講（「財産法Ⅱ」を修得済の場合履修不可）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際法	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法総論	「刑法Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法各論	「刑法Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
商法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑事訴訟法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際関係史		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際政治学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
安全保障論	「国際政治学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際紛争論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
外交論	「国際紛争論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際教育論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
東洋の歴史Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
東洋の歴史Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
キリスト教文化史	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教と世界史	「キリスト教文化史」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論	「京都文化論Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化論Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都伝統芸能論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古典籍の世界Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都文化資料論	「古典籍の世界Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古典籍の世界Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ホスピタリティマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光交通論	廃止（2014年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○
観光社会論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光文化論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光資源論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光経営論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光地域事業論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光地理論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
余暇スポーツ論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
レジャースポーツ論	「余暇スポーツ論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
ウエルネスライフ論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
生涯学習論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
現代青年の心理と行動		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
生命の倫理		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダー論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
女性史		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性とリーダーシップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
宗教と人間		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代社会と犯罪		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際企業論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際金融論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
環境経済論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
都市経済論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
会計学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
マーケティング論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
広告論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会情報論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパ地域文化論Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパ地域文化論Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論	「京都観光論Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都観光論Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
高齢者心理学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
生涯発達心理学		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
Tourism, Culture, and Technology Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Tourism, Culture, and Technology Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
こどもと法	「こどもと人権」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
情報ネットワーク基礎		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会保障論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
近世京都の美術Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の美術史	「近世京都の美術Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
近世京都の美術Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
証券キャピタルマーケット論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジア太平洋地域発展論	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリカ地域文化論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
英米文化論Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
英米文化論Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパの人と社会	2021年度欠講	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパの人と文化	2021年度欠講	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性と社会保障		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
心理臨床学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
対人関係心理学		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
財政学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
金融論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
保険論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会と公共政策		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
女性企業家論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
流通論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational English Ⅲ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	1	2	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational English Ⅳ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	1	2	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
京都・大阪・奈良の歴史地理	「京都・大阪の歴史地理」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
女性と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダー法	「女性と法」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会福祉論		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
経済学ステップアップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済政策論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
簿記論Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
簿記論Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
原価計算		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際ビジネスコミュニケーション論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法特講Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法Ⅰ	「憲法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法特講Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
憲法Ⅱ	「憲法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民事訴訟法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
行政法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
労働法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家族法		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
オセアニア地域文化論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
史跡・文化財論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の文化財論	「史跡・文化財論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
人的資源論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリア形成論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
コミュニティマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
カルチュラルスタディーズ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
エスニシティ論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代社会と宗教		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ビジネス統計・数学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営学ステップアップ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地方行政論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
World Affairs Ⅰ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
World Affairs Ⅱ		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公共政策		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公共哲学		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
リスクマネジメント論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
AIの社会実装		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際環境政策論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ディスクロージャー論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家庭生活と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
家族法の重要問題	「家族生活と法」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経済と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
税金と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会協力論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際社会協力政策論	「国際社会協力論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際機構論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国連政策論	「国際機構論」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際文化交流史	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際交流史	「国際文化交流史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学	「地理学Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地理学Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
まちづくりの地理学	「地理学Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古代京都の社会Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
京都の社会史	「古代京都の社会Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
古代京都の社会Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
都市政策論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地誌学Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
地誌学Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の歴史Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本の歴史Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光マーケティング論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
観光イノベーション論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際観光論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ホスピタリティ産業論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
情報社会心理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
音楽療法	2021年度欠講	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
障害学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会保障と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ケアの人間学	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
カウンセリング論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代教育学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際流通論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
経営哲学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
財務諸表論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
知的財産権法	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際取引と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解	「異文化理解Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
異文化理解Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジア地域文化論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
アジアとグローバリズム	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバル社会論	「アジアとグローバリズム」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○

他学科科目一覧表
〈○:履修可能な科目，×:履修できない科目，—:自学科科目〉

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
ネットビジネス論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ベンチャービジネス論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ジェンダーの社会心理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	×	○	○
家族臨床心理学		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
国際ビジネス論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Conversational Skills Ⅰ	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	1	3	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Conversational Skills Ⅱ	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	1	3	×	×	×	—	○	×	×	×	×	×	×	×
Academic Studies in English Ⅰ(A)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(A)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(B)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(B)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(C)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(C)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(D)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(D)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(E)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(E)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(F)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(F)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(G)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(G)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(H)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(H)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(I)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(I)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅰ(J)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
Academic Studies in English Ⅱ(J)		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代政治学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代の政治	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会倫理学		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
企業の社会的責任	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法特講Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法の重要問題	「刑法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑法特講Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
刑事司法の重要問題	「刑法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法特講Ⅰ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
物権法の重要問題	2021年度欠講（「民法特講Ⅰ」を修得済の場合履修不可）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
民法特講Ⅱ	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
債権法の重要問題	2021年度欠講（「民法特講Ⅱ」を修得済の場合履修不可）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
公務員と法		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
企業と法	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
国際紛争と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
考古学Ⅰ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
考古学Ⅱ		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
移民難民論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会政策		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
社会安全政策論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
日本経済史		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
ITとベンチャービジネス		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
AI実践演習		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館資料論		2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館展示論	2012年度以降入学生に適用	2	2	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館資料保存論	2012年度以降入学生に適用	2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館経営論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館教育論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
博物館情報・メディア論		2	3	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○
現代こども学科科目															
地球環境論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
異文化体験論		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
こどもと風俗		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
現代アニメ研究		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
遊びの社会学		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
数の社会学		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
児童文化論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
こどもスポーツ論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
幼児・児童教育論		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
教育の歴史		2	1	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
遊びと論理的思考		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
ボランティア活動論		2	1	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
自然環境体験論	2021年度欠講	2	2	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
国際スポーツ文化論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
海外こども事情A		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
海外こども事情B	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
こども福祉論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こども家庭福祉	「こども福祉論」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
地域社会とこども		2	2	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×	×
ユニセフとこども支援		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
多文化共生とこども		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こども英語論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
世界の貧困問題とこども支援		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
教育評価論		2	2	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
世界のこども政策		2	2	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
家族社会論		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
こどもの医療		2	3	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○
児童文学論		2	3	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
現代社会論		2	3	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○
医療薬学科科目															
臨床医学入門		2	1	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
健康科学概論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
医療・薬物治療概論	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
看護学科科目															
体のしくみ		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基盤病理学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
微生物学・免疫学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基礎栄養学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
基礎薬理学		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
看護学概論		2	1	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
外科疾病・治療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
内科疾病・治療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
こころのしくみと保健医療		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
成育医療学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
疫学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
公衆衛生学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
看護と法律		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
健康心理学		2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
成人看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
精神看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
母子保健看護概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
高齢者看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学概論	「看護学概論」を履修済又は履修中であることが望ましい。	2	2	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
家族関係論		2	3	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
保健医療システム論		2	3	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
英語英文学科科目															
TOEIC演習Ⅰ		2	1	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
TOEIC演習Ⅱ		2	1	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
英語音声学Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語音声学Ⅱ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEIC800Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEIC800Ⅱ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL初級Ⅰ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL初級Ⅱ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL中級Ⅰ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL中級Ⅱ	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS初級Ⅰ	「TOEFL初級Ⅰ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS初級Ⅱ	「TOEFL初級Ⅱ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS中級Ⅰ	「TOEFL中級Ⅰ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
TOEFL・IELTS中級Ⅱ	「TOEFL中級Ⅱ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化入門		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化入門		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
言語コミュニケーション入門Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
言語コミュニケーション入門Ⅱ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語で読む日本昔話		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む京都印象記		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
舞台芸術文化論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京ことば		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京都文化概論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
メディアと表象文化		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
Topics in English A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English C	2021年度欠講	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English D		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English E		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English F	2021年度欠講	2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Topics in English G		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文学史		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文学史		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化研究		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化研究		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語学概論Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語学概論Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
外国語教育論Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
外国語教育論Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
アメリカの表象文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリスの表象文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカの社会と文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリスの社会と文化		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法Ⅱ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Presentation Skills Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Presentation Skills Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English C		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English D		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English E		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English F		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English G	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English H	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
Studies in English Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English J		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English K	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English L	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Studies in English M	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ファンタジーの系譜Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ファンタジーの系譜Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ジェンダーとコミュニケーション		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
プラクティカルコミュニケーション		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
コーパス言語学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
教育メディア学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ラテン語Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ラテン語Ⅱ	2021年度欠講	2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
英語で案内する京都Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で案内する京都Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む日本文学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
翻訳法Ⅲ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
翻訳法Ⅳ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
通訳法Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
通訳法Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会と外国語教育A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
CALL English Ⅰ		2	3	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×	×	×
ビジネスイングリッシュⅠ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
ビジネスイングリッシュⅡ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
エアラインイングリッシュ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
セクレタリーイングリッシュ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
メディアイングリッシュⅠ	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
メディアイングリッシュⅡ	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Research in English（Literature・Culture）B	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Research in English（Linguistics）A	廃止（2015年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English C		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English D		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English E	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English F		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English G		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English ⅠH	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English ⅡH	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English H	Advanced Studies in English ⅠH修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English I		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English J		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English K	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Studies in English L	Advanced Studies in English ⅡH修得済みの場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化・文学研究A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
イギリス文化・文学研究B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化・文学研究A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
アメリカ文化・文学研究B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
比較文化・文学研究A		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
比較文化・文学研究B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会言語学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
応用言語学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
児童英語教育法Ⅰ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
児童英語教育法Ⅱ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
第二言語習得論Ⅰ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
第二言語習得論Ⅱ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
社会と外国語教育B		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究A	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究B	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日英対照言語研究	「日英対照言語研究A」を修得済の場合は履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京都の中の外国文化		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
源氏物語と京都		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
プロフェッショナル翻訳法		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
プロフェッショナル通訳法		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Presentation Ⅰ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
Advanced Presentation Ⅱ		2	3	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○
日本語日本文学科科目															
日本語学の世界		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
創作A	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
創作B	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
クリエイティブ・ライティングA	「創作A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
クリエイティブ・ライティングB	「創作B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本近代文学史A	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本近代文学史B	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学史A	「日本近代文学史A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学史B	「日本近代文学史B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本古典文学史A	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本古典文学史B	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学史A	「日本古典文学史A」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学史B	「日本古典文学史B」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典芸能A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典芸能B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
言語学概説A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
言語学概説B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
言語学	「言語学概説A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現Ⅰ	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現	「身体表現Ⅰ」又は「身体表現Ⅱ」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
英語で読む日本昔話		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
英語で読む京都印象記		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文学と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
文化と表象B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
舞台芸術文化論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
京ことば		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
日本文学の世界		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育概説	「日本語教育の世界」を修得済の場合は履修不可	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
京都文化概論		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
メディアと表象文化		2	1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○
演劇と演技Ⅰ		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
演劇と演技Ⅱ	「演劇と演技Ⅰ」を履修中又は履修済であること。	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化史A		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化史B		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学基礎研究A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学基礎研究B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究C	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究D	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究E	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
作家研究F	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義A	「作家研究A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義B	「作家研究B」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義C	「作家研究C」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近現代文学講義D	「作家研究D」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近代文学特論A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近代文学特論B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究C	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
表現研究D	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
上代文献講読A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
上代文献講読B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読A	「上代文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
平安文献講読A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
平安文献講読B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読B	「平安文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
中世文献講読A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
中世文献講読B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読C	「中世文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近世文献講読A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
近世文献講読B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読D	「近世文献講読A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学特講A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
漢文学特講B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
古典文学講読E	「漢文学特講A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の変化A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の変化B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の歴史	「日本語の変化B」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造A（文法Ⅰ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造B（文法Ⅱ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造C（語彙Ⅰ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造D（語彙Ⅱ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造E（音声Ⅰ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造F（音声Ⅱ）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の構造G（表記）	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の文法Ⅰ	「日本語の構造A（文法Ⅰ）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の文法Ⅱ	「日本語の構造B（文法Ⅱ）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の語彙Ⅰ	「日本語の構造C（語彙Ⅰ）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の語彙Ⅱ	「日本語の構造D（語彙Ⅱ）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の音声	「日本語の構造E（音声Ⅰ）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の表記	「日本語の構造G（表記）」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語の運用	「日本語の運用A」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究C		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究D	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究E	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語学テーマ研究F	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育文法A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育文法B		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本語教育史		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本事情と日本語教育Ⅰ	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本事情と日本語教育Ⅱ	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
日本文化と日本語教育	「日本事情と日本語教育Ⅰ」を修得済の場合は履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
身体表現Ⅱ	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○
外国語教育論Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
外国語教育論Ⅱ		2	2	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
英語で案内する京都Ⅰ		2	2	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
英語で案内する京都Ⅱ		2	2	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
英語で読む日本文学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
日本語教材論A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本語教材論B		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
コースデザイン論	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
教室活動論A	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
教室活動論B	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
社会と外国語教育A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
日本語教授法A	「教室活動論A」を修得済の場合は履修不可	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本語教授法B	「教室活動論B」を修得済の場合は履修不可	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本民俗学A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本民俗学B		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化講義A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化講義B		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化講義C		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化講義D		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
出版文化A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
出版文化B		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化研究A		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化研究B		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化研究C		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本文化研究D		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義A（上代文学）	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義B（平安文学）	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義C（中世文学）	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義D（近世文学）	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義E（古典語学）	廃止（2016年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
特殊講義F（漢文学）	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
古典文学研究A	「特殊講義A（上代文学）」を修得済の場合は履修不可	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
古典文学研究B	「特殊講義B（平安文学）」を修得済の場合は履修不可	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
書誌学A	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
書誌学B	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日英対照言語研究A	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
日英対照言語研究B	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
日中対照言語研究A	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日中対照言語研究B	廃止（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日英対照言語研究	「日英対照言語研究A」を修得済の場合は履修不可	2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
日中対照言語研究	「日中対照言語研究A」を修得済の場合は履修不可	2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本語指導A		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
日本語指導B		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
社会と外国語教育B		2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
アナウンス論		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
源氏物語と京都		2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
京都の中の外国文化		2	3	O	O	O	O	O	O	O	—	—	O	O	O
近現代文学研究A		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
近現代文学研究B		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
近現代文学研究C		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
近現代文学研究D		2	3	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O	O
人間生活学科科目															
児童学		2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
住生活学		2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	×	O
食生活学		2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	×	×
社会心理学		2	2	O	O	O	×	×	O	O	O	O	—	O	O
くらしの経済学		2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
社会福祉学A		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	×
生活と環境	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
まちづくり概論	「生活と環境」を修得済の場合履修不可	2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
家庭機械および電気		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	×	O
流通経済と消費	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
消費者問題論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
自然環境論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
経済と環境		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
服装情報論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
被服造形論	「服装情報論」を修得済の場合履修不可	2	1	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
服飾文化史		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
生活文化史		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
インテリアデザイン論		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
生活健康学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
介護概論		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
環境教育論		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
対人関係心理学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	×	×	O	O	O	O	—	O	O
コミュニティ社会心理学	「対人関係心理学」を修得済の場合履修不可	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
現代青年の心理と行動		2	2	O	O	O	×	×	O	O	O	O	—	O	O
居住環境学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
世界の子どもたち		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
いのちと倫理		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
児童文化と伝統		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
児童文化と映像		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
子ども心理学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
親子関係の心理学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
音楽社会心理学		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
くらしのための技術と工芸		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
生活様式と住空間	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
住文化史		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O
世界の社会福祉		2	2	O	O	O	O	O	O	O	O	O	—	O	O

科目	備考	単位	履修年次	O	MS／J	K	GS	GK	Y	KG	E	N	L	S	SK
子ども家庭危機支援論	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
児童福祉論	「子ども家庭危機支援論」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住まいづくりの基礎		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
住まいの安全工学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
安全・安心のまちづくり	「住まいの安全工学」を修得済の場合履修不可	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
被服製作実習（平面構成）	「被服製作実習基礎Ⅰ」を履修済であること。	1	2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	×
ファッションと社会		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
都市空間論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
地域遺産論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ライフプランニング	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のためのライフプランニング	「ライフプランニング」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
環境政策学	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
景観デザイン学	「環境政策学」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
環境生態学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
国際生活文化論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活美術史		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服飾デザイン論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
服飾材料・整理学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活科学実験		1	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	○
家庭看護学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
生活と法	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のための法律入門	2021年度欠講（「生活と法」を修得済の場合履修不可）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
食物栄養学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×	×
消費者教育論	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
情報社会心理学		2	3	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
ジェンダーの社会心理学		2	3	○	○	○	×	×	○	○	○	○	—	○	○
死生学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
青年と社会	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のためのカウンセリング入門	「青年と社会」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ファミリーセラピー		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
こころと生活	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
女性のための生涯発達論	「こころと生活」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
衣生活学実験	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	1	3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—	○	○
ボランティア・NPO活動論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
ユニバーサルデザイン論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
京と女性の住生活史	廃止（2017年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
京と女性の住生活	「京と女性の住生活史」を修得済の場合履修不可	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
空間情報学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○
食物栄養科学科　食物科学専攻科目															
有機化学	廃止（2018年度以前に修得した単位は有効）	2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
基礎統計学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食物学のための数学と物理		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
被服学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	—	○
保育学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
生活経済学		2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品化学Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品化学Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
生化学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
栄養学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品微生物学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品衛生学A		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品物性学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
家庭経営学		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	—	○
運動健康論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
調理科学Ⅰ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
調理科学Ⅱ		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品分析化学	廃止（2019年度以前に修得した単位は有効）	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
京の食材論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
フードシステム開発論		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品加工貯蔵学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食品バイオテクノロジー		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品官能評価論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品流通論	提供取止め（2020年度以前に修得した単位は有効）	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
公衆衛生学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
応用栄養学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	×
食文化論		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食と健康管理		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食品機能学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食の認知行動学		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○
食物栄養科学科　管理栄養士専攻科目															
薬物学	2021年度欠講	2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

音楽専攻科カリキュラム

本学音楽専攻科の目的

本学音楽専攻科は，学部の教育・研究の基礎に立ち，専門技術研究を発展させ実践的な特別の専門課程による教授により，音楽の学問分野に関するより高度な演奏技術と専門知識を備え，音楽を通して社会に貢献することができる人材を養成し，音楽の学術・教育の発展と充実に寄与することを目的とする。

修了証書授与の方針

音楽専攻科は，全学共通の学位授与の方針に準じ，専門分野の知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力に関して，次の基準に達している者に修了証書を授与する。

【知識・理解】
（専門実技の知識）
・西洋音楽を基軸とした演奏技術向上のための研究を深め，より実践的な演奏法を理解している。
・多様な音楽の高度な演奏技術の知識を持っている。
（作品解釈の理解）
・作品をより深く総合的に解釈することができる幅広い専門知識を持っている。
・専門文献を読み解くための外国語の知識を持っている。

【関心・意欲・態度】
（関心）
・音楽に関するより高度な技術と専門知識を備え，いかに社会に貢献できるかに強い関心を持っている。
（意欲）
・プロフェッショナルな活動を実践する高い技術を体得し，音楽の価値観をさらに高める意欲を持っている。
・芸術を創り上げる主体性をもって，音楽の分野に能動的に参画することに強い意欲を持っている。
（態度）
・自らの知識や音楽能力のさらなる高みを目指す意欲と態度を身に付けている。
・音楽を多人数で創り上げることで培った協調することの重要性を認識し，社会の中で調和を保ち，意欲的に社会貢献する態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】
（専門実技の演奏技術）
・専門実技の演奏に必要な高度な技術と表現力を体得している。
・協調して創り上げる音楽の高い技能を体得している。
（音楽探求の技能）
・様々な分野の音楽の専門知識を持ち，作品を深く探求し解釈する分析力を持っている。
・外国語で書かれた音楽文献を読み解くことができる語学力を持っている。
（社会の課題への対処技術）
・社会を豊かにする音楽を発信できる高い表現力と演奏技術を持っている。
・社会が要求するニーズに応えられる多彩なジャンルの音楽創造力やプロデュース能力を持っている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽専攻科のカリキュラムは，修了証書授与の方針に掲げた修了時の到達目標を達成できる編成となっている。実技に重点を置いた実践的な教育により，音楽に関する高度な演奏技術と専門知識を備え，音楽を通して社会に貢献できる人材を育成する科目を用意している。

【体系性】

・個人の研究に対応した専門実技の個人レッスン科目を設置している。
・少人数での実技に重点を置いた実践的な実技演習科目に加え，多人数で音楽を創り上げる実技演習科目を設置している。
・楽曲分析のための専門知識を体得する講義・演習科目を始めとして，様々な音楽に対応するための発展的な講義・演習科目を設置している。

【教育内容】

・１年間を通した専門実技の個人レッスンでは，西洋音楽を基軸とした演奏技術向上のための研究を深め，より実践的な演奏法を理解し，社会を豊かにする音楽を発信できるプロフェッショナルな高い表現力と演奏技術を身に付ける。
・少人数での実技に重点を置いた実践的な実技演習では，多様な音楽の高度な演奏技術の知識を身に付け，芸術を創り上げる主体性をもって，音楽の分野に能動的に参画する意識を養う。
・多人数で音楽を創り上げる実技演習では，協調して創り上げる音楽の高い技能を養う。またその重要性を認識し，社会の中で調和を保ち，意欲的に社会貢献する態度を身に付ける。
・楽曲分析のための専門知識を体得する講義・演習では，作品を深く探求し総合的に解釈することができる幅広い専門知識を身に付ける。また，外国語で書かれた音楽文献を読み解くことができる語学力を身に付ける。
・様々な音楽に対応するための発展的な講義・演習では，社会が要求するニーズに応えられる多彩なジャンルの音楽想像力やプロデュース能力を身に付ける。
・中学校教諭一種免許状（音楽）及び高等学校教諭一種免許状（音楽）の取得に必要な単位を修得している者に限り，中学校教諭専修免許状（音楽）及び高等学校教諭専修免許状（音楽）の取得を可能とする。

【教育方法】

・専門実技については，一貫した個人レッスンによる指導を行う。その他の科目については，それぞれの特質により，講義・演習・実技といった技術・知識の体得にふさわしい形態を取る。
・学部教育との接続にも配慮した科目を設置することにより，専攻科学生と学部学生との交流を促進し，教育上の相乗効果を目指す。

【学修成果の測定方法】

・個人実技科目については，実技試験を行い，複数の教員がその成果を測定する。
・その他の講義・演習・実技科目については，定期試験，レポートによる評価，授業での貢献度，発表内容等，それぞれの科目の到達度を各担当教員が評価する。

課程修了要件

各専攻とも，必修科目を含め合計30単位以上を修得すること。なお，修了要件を満たした者には，修了証書を授与する。

修業年限

修業年限は１年とする。

音楽専攻科 授業科目表

教室情報については，掲示，Web教務システムで確認してください。

専攻	授業コード	科　目　名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	備考
声楽専攻	3M01XX	専門実技（声楽）	XX	通1	6	各実技担当教員		必修	クラスは担当者によって異なる
	3M0200	歌曲研究Ａ	00	春2	2	井原秀人	月4	選択必修 4単位	
	3M0300	歌曲研究Ｂ	00	秋2	2	井原秀人	月4		
	3M0400	オラトリオ研究Ａ	00	春2	2	松下悦子	金4		
	3M0500	オラトリオ研究Ｂ	00	秋2	2	松下悦子	金4		
	3M0600	オペラ研究Ⅰ	00	春2	2	井上敏典	木3		
	3M0700	オペラ研究Ⅱ	00	秋2	2	井上敏典	木3		
鍵盤楽器専攻	3M08XX	専門実技（鍵盤楽器）	XX	通1	6	各実技担当教員		必修	クラスは担当者によって異なる
(ピアノ・オルガン・チェンバロ)	3M0900	伴奏法Ａ	00	春2	2	右近恭子	火4	選択必修 4単位	
	3M1000	伴奏法Ｂ	00	秋2	2	船橋美穂	水1		
	3M1100	鍵盤楽器奏法研究Ａ	00	春2	2	河江　優・三橋桜子	火2		
	3M1200	鍵盤楽器奏法研究Ｂ	00	秋2	2	河江　優・中山幾美子	木3		
管弦打楽器専攻	3M13XX	専門実技（管弦打楽器）	XX	通1	6	各実技担当教員		必修	クラスは担当者によって異なる
	3M1401	オーケストラⅠ	01	春8	3	牛渡克之	月5,木2,木3,集中	選択	学部と合同
	3M1402	オーケストラⅠ	02	春8	3	牛渡克之	月5,金4,金5,集中	選択	学部と合同
	3M1501	オーケストラⅡ	01	秋8	3	牛渡克之	月5,木2,木3,集中	選択	学部と合同
	3M1502	オーケストラⅡ	02	秋8	3	牛渡克之	月5,金4,金5,集中	選択	学部と合同
各専攻共通	3M1600	楽曲分析Ⅰ	00	春2	2	成田和子	月2	必修	
	3M1700	楽曲分析Ⅱ	00	秋2	2	成田和子	月2	必修	
	3M1800	楽書講読Ⅰ	00	春2	2	竹内　直	水3	必修	
	3M1900	楽書講読Ⅱ	00	秋2	2	竹内　直	水3	必修	
	3M2000	音楽外国語Ⅰ	00	春2	2	椎名亮輔	木4	必修	
	3M2100	音楽外国語Ⅱ	00	秋2	2	椎名亮輔	木4	必修	「音楽外国語Ⅰ」を履修済であること
	3M2200	アンサンブルⅠ	00	春1/2	1	担当者未定		選択	学部と合同
	3M2300	アンサンブルⅡ	00	秋1/2	1	担当者未定		選択	学部と合同
	3M2400	指揮法研究Ⅰ	00	春2	2	森　香織	木1	選択	
	3M2500	指揮法研究Ⅱ	00	秋2	2	森　香織	木1	選択	「指揮法研究Ⅰ」を履修済であること
	3M2600	京都の音・音楽Ⅰ	00	春2	2	山中恵美子	火5	選択	
	3M2700	京都の音・音楽Ⅱ	00	秋2	2	椎名亮輔・筒井はる香	火5	選択	「京都の音・音楽Ⅰ」を履修済であること
	3M2800	宗教音楽Ⅰ	00	春2	2	中山幾美子	金3	選択	
	3M2900	宗教音楽Ⅱ	00	秋2	2	中山幾美子	金3	選択	
	3M3000	音楽作品研究Ａ	00	春2	2	葛西聖憲	金2	選択	
	3M3100	音楽作品研究Ｂ	00	秋2	2	葛西聖憲	金2	選択	
	3M3200	音楽史特講Ⅰ	00	春2	2	椎名亮輔	木2	選択	
	3M3300	音楽史特講Ⅱ	00	秋2	2	椎名亮輔	木2	選択	

※全専攻とも必修科目を含め，合計30単位以上を修得すること。

※教員免許状（中高専修音楽）取得には，免許・資格関係履修要項を参照すること。

同志社女子大学音楽専攻科規程

（目的）

第１条　同志社女子大学学則第４条の２第３項に定める同志社女子大学音楽専攻科（以下「専攻科」という。）の取扱いは，この規程の定めるところによる。

第２条　専攻科は，より高度な演奏技術と専門的な知識をもつ音楽専門家，演奏家，音楽教育者などを目指す女性を育成することを目的とする。

第３条　専攻科に専攻科長を置き，専攻科長は学芸学部音楽学科主任が兼任する。

（定員）

第４条　専攻科に次の専攻を置く。

声楽専攻

鍵盤楽器専攻

管弦打楽器専攻

２　入学定員は，20名とする。

（学年，学期及び休業日）

第５条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

第６条　学年を春学期，秋学期の２学期に分ける。なお，期間については，別に定める本学の学年暦による。

２　１年間の授業は原則として35週にわたり行うものとする。ただし，定期試験等の期間を含む。

第７条　休業日は，同志社女子大学学則第８条の規定を準用する。

（入学）

第８条　入学の時期は学年の始めとする。

第９条　専攻科に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者

⑵　専攻科への入学に関し，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，学校教育法施行規則第155条第１項に規定された者

第10条　入学を志願する者は，入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて出願しなければならない。

第11条　前条の入学志願者に対しては，別に定めるところにより選考を行い，教授会の議を経て学長が合格者を決定する。

第12条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，保証書その他本学所定の書類を提出するとともに，所定の学費を納入しなければならない。

２　学長は，前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（休学・復学・退学・除籍）

第13条　疾病その他やむを得ない事由により，休学しようとする者は，保証人連署の上，所定の期日までに学長に願い出て，その許可を得なければならない。

２　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については，学長は休学を命ずることができる。

第14条　休学期間は半年又は１年とする。

２　休学期間は，通算して２年を超えることができない。

３　休学期間は，第17条の在学年限に算入しない。

４　休学期間中にその事由が消滅した場合は，保証人連署の上，学長に願い出て，その許可を得て学期始めより復学することができる。

第15条　退学しようとする者は，保証人連署の上，学長に願い出て，その許可を受けなければならない。

第16条　次の各号のいずれかに該当する者は，教授会の議を経て学長が除籍する。

⑴　第17条に定める在学年限を超えた者

⑵　学費の納入を怠り，督促してもなお納入しない者

⑶　第14条第２項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

（修業年限，在学年限，教育課程及び履修方法）

第17条　修業年限は１年とする。ただし，２年を超えて在学することができない。

第18条　専攻科に設置する授業科目及びその単位数は，〔別表１〕においてこれを定める。

第19条　専攻科に１年以上在学し，〔別表１〕の授業科目を履修し，必修科目を含め30単位以上修得しなければならない。

第20条　前条の要件を満たした者には修了証書を授与する。

第21条　単位計算方法は，同志社女子大学学則第27条の規定を準用する。

第22条　学習評価は，原則として各科目につき試験により行う。

２　学習の評価は100点法とし，60点以上を合格とする。また，秀，優，良，可等の評語をもって表わす。

第23条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

２　専攻科において，当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は次のとおりとする。

中学校教諭専修免許状（音楽）

高等学校教諭専修免許状（音楽）

ただし，本条はすでに中学校教諭一種免許状（音楽），高等学校教諭一種免許状（音楽）の取得に必要な単位を修得している者に適用する。

（賞罰）

第24条　本学の学生として表彰に価する行為があった者は，教授会の議を経て，学長が表彰することができる。

第25条　本学の規則に違反し，又は学生としての本分に反する行為をした者は，教授会の議を経て学長が懲戒する。

２　前項の懲戒の種類は，退学，停学及び訓告とする。

３　前項の退学は，次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　学力が極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者

⑶　正当な理由がなくて出席が常でない者

⑷　本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者

（学費及び入学検定料）

第26条　学生は，〔別表２〕に定める学費を指定期日までに納入しなければならない。ただし，別に定めるところにより分納することができる。

２　休学期間中は，休学在籍料のみを納入するものとする。

３　すでに納入した学費は返還しない。ただし，指定期日までに入学手続の取消を願い出た者については，入学金を除く学費を返還することがある。

第27条　正当な事由により，学費を延納しなければならなくなった場合は，ただちにその旨を届け出て許可を得なければならない。

第28条　所定の学費を完納しなければ，修了することができない。

第29条　学期の中途で退学する者の当該学期分の学費は全額徴収する。

２　停学期間中の学費は全額徴収する。

第30条　入学検定料は，〔別表３〕のとおりとする。

（細則）

第31条　専攻科に関してこの規程に定める以外のことについては，同志社女子大学学則の各条項による。

（改廃手続）

第32条　この規程の改廃は，常任委員会，評議会及び教授会の議を経て，学長が決定する。

附　則

この規程は，2013年４月１日から施行する。

研究教育活動

教職課程センター

全学レベルで教職を目指す学生への様々なサポートをするため，京田辺・今出川両キャンパスに教職課程センター事務室・資料室を設置しています。

本センターでは，実践力のある教員養成を支援するとともに，教員採用試験合格に向けた指導をも実施しています。具体的なサポート内容は，次のとおりです。真剣に教職に就くことを考えている学生は，是非とも教職課程センターを訪ねてください。

①教職に就くための各種相談受付と対応・指導
②最新の教員採用選考試験情報の提供
③関西を中心に過去の教員採用選考試験及び関連資料の提供
④小・中・高等学校での学校ボランティア，幼稚園・保育所（園）でのボランティアの活動申込
⑤教職課程研究会の開催

夏期休暇期間中及び春期休暇期間中に１～２日間の集中講座（教職教養，一般教養，集団討論など）を実施しています。その他，各学期期間中は，教員採用試験合格を目指す３・４年次生を対象に授業科目として「教職特別演習Ⅰ，Ⅱ」を開講しています。

学　　会

音楽学会

音楽学科専任教員・学生・卒業生で構成され，会員の研究のサポートと相互の親睦をはかることを目的とする。企画・運営は，教員役員・卒業生・学生スタッフによって行われる。

主な活動は下記のとおり。

1．総会（年１回）の開催
2．演奏会・講演会・講座の開催
3．演奏会・研究会の後援
4．会報の発行

メディア創造学会

本学会は，文学研究科情報文化専攻及びメディア創造学科／情報メディア学科に所属する教員・在学生・卒業生で構成され，会員相互の研究と親睦を主な目的としている。主な活動は下記のとおり。

1．総会（年１回）の開催
2．講演会の開催
3．会員企画によるイベントの後援
4．学生委員による，学会誌『iM（アイム）』の発行（年１回）
5．ワークショップの開催

国際教養学会

本学会は，国際教養学科に所属する教員，在学生及び卒業生で構成され，会員の教育研究活動の支援と会員相互の親睦を図ることを目的とする。主な活動は下記のとおり。

1．総会（年１回）の開催
2．講演会の開催
3．会報『CHAMOMILE』（年１回）の発行
4．会員による企画の後援
5．その他会員の親睦を図る行事等

諸規程

同志社女子大学学則

第１章　総　　則

（目　的）

第１条　本学は，教育基本法に基づき，学校教育法の定める大学として学術の教授研究を行うとともに，キリスト教の精神にしたがい，円満な人格を涵養し，国際的視野に立って建設的に，かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。

（自己点検・評価等）

第２条　本学は，その教育研究水準の向上を図り，前条の目的及び社会的使命を達成するため，文部科学大臣の定めるところにより，教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表する。

２　前項の点検及び評価に関する規程は，別に定める。

３　本学は，第１項の点検及び評価の結果について，政令で定める期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

（情報の公表）

第２条の２　本学は教育研究活動等の状況について，適切な体制を整えたうえで，刊行物への掲載，インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって，公表するものとする。

（教育研究上の目的）

第２条の３　本学は，人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部，学科又は専攻ごとに〔別表１〕のとおり定めるものとする。

（本学の性格）

第３条　本学の性格は，リベラル・アーツ（Liberal　Arts）の大学として規定する。

第２章　学部学科等の組織及び学生定員

（学部学科等の組織及び学生定員）

第４条　本学に次の学部を置く。

学芸学部，現代社会学部，薬学部，看護学部，表象文化学部，生活科学部

２　前項の各学部に置く学科，専攻及びその学生定員は次の表のとおりとする。

学　　部	学　科　等	入学定員	編入学定員（第３年次）	収容定員
学芸学部	音楽学科演奏専攻	75名	—	300名
	音楽学科音楽文化専攻	40名	—	160名
	メディア創造学科	125名	—	500名
	国際教養学科	85名	—	340名
現代社会学部	社会システム学科	310名	—	1,240名
	現代こども学科	100名	—	400名
薬学部	医療薬学科	125名	—	750名
看護学部	看護学科	90名	—	360名
表象文化学部	英語英文学科	150名	—	600名
	日本語日本文学科	120名	—	480名
生活科学部	人間生活学科	90名	—	360名
	食物栄養科学科 食物科学専攻	60名	—	240名
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	80名	—	320名

（専攻科）

第４条の２　本学に音楽専攻科を置く。

２　音楽専攻科の学生定員は次のとおりとする。

音楽専攻科　入学定員　20名
　　収容定員　20名

３　音楽専攻科に関して必要な事項については，別に定める。

（大学院）

第５条　本学に大学院を置く。

2　大学院の学則は，別に定める。

第３章　学年，学期及び休業日

（学　年）

第６条　学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終る。

（学　期）

第７条　学年を春学期，秋学期の２学期に分ける。なお，期間については，別に定める本学の学年暦による。

2　１年間の授業は原則として35週にわたり行うものとする。ただし，定期試験等の期間を含む。

（休業日）

第８条　休業日は，次のとおりとする。

⑴　日曜日

⑵　「国民の祝日に関する法律」に定める日

⑶　創立記念日　11月29日

⑷　キリスト降誕日（クリスマス）12月25日

⑸　春期，夏期及び冬期休業に関しては，別に定める本学の学年暦による。

2　前項に規定する休業日において，必要ある場合は授業その他を行うことがある。また，休業日は臨時に定めることができる。

第４章　修業年限及び在学年限

（修業年限）

第９条　学部の修業年限は４年とする。

ただし，薬学部の修業年限は６年とする。

（在学年限）

第10条　学芸学部，現代社会学部，看護学部，表象文化学部及び生活科学部の在学年限は８年を超えることができない。

ただし，第17条の規定により編入学した学生は，４年を超えて在学することができない。

また，第17条の２の規定により転入学した学生は，６年を超えて在学することができない。

2　薬学部の在学年限は12年を超えることができない。

第５章　入　　学

（入学の時期）

第11条　入学の時期は学年の始めとする。

ただし，再入学については，学期の始めとすることができる。

（入学の資格）

第12条　本学に入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　高等学校卒業者

⑵　中等教育学校卒業者

⑶　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により，これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

⑷　高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって，本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めたもの

⑸　大学への入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として，学校教育法施行規則第150条に規定された者

（入学の出願）

第13条　入学を志願する者は，入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて出願しなければならない。

（入学者の選考）

第14条　前条の入学志願者に対しては，別に定めるところにより選考を行い，教授会の議を経て学長が合格者を決定する。

（入学手続及び入学許可）

第15条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は，所定の期日までに，保証書その他本学所定の書類を提出するとともに，所定の学費を納入しなければならない。

2　学長は，前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（保証人）

第16条　保証人は親権者（親権者のない者はこれに代わる者）とする。保証人は，当該学生在学中，本人にかかわる一切の件につき責任を負う。

2　保証人が転籍，転居したときは，直ちにその旨を届け出なければならない。保証人が死亡した時又はその資格を失った時は，新たに保証人を定めて保証書を提出しなければならない。

第６章　編入学・転入学・再入学及び転学部転学科等

（編入学）

第17条　編入学志願者に対しては，選考の上，教授会の議を経て学長が第３年次に編入学を許可する。

2　前項の規定により入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　大学に２年以上在学し，所定の単位を修得した者

⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者

⑶　専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

⑷　高等学校の専攻科の課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3　第１項により編入学した場合の単位の認定については，既修単位の一部又は全部について行う。

（転入学）

第17条の２　転入学志願者に対しては，選考の上，教授会の議を経て学長が第２年次に転入学を許可することがある。

2　前項の規定により入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　大学又は短期大学に１年以上在学し，所定の単位を修得した者

⑵　専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし，学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3　第１項により転入学した場合の単位の認定については，既修単位の一部又は全部について行う。

（再入学）

第18条　再入学を志願する者に対しては，選考の上，教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することがある。ただし，通算して所定の在学年限を超える場合は，志願することができない。

2　前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い等については，教授会の議を経て学長が決定する。

（編入学・転入学及び再入学の入学手続等）

第19条　編入学・転入学及び再入学の入学手続等については，第13条，第15条第１項及び第16条を適用する。

（転学部・転学科等）

第20条　所属する学部学科等から他の学部学科等に転じることを志願する者に対しては，選考の上，教授会の議を経て学長がこれを許可することがある。

2　転学部・転学科等に関する必要事項は，別に定める。

第７章　休学・復学・退学・除籍及び留学

（休　学）

第21条　疾病その他やむを得ない事由により，休学しようとする者は，保証人連署の上，所定の期日までに学長に願い出て，その許可を得なければならない。

2　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については，学長は休学を命ずることができる。

（休学期間及び復学）

第22条　休学期間は半年又は１年とする。

2　休学期間は，通算して２年を超えることができない。

3　休学期間は，第10条の在学年限に算入しない。

4　休学期間中にその事由が消滅した場合は，保証人連署の上，学長に願い出て，その許可を得て学期始めから復学することができる。

（退　学）

第23条　退学しようとする者は，保証人連署の上，学長に願い出て，その許可を受けなければならない。

（除　籍）

第24条　次の各号の一に該当する者は，教授会の議を経て学長が除籍する。

⑴　第10条に定める在学年限を超えた者

⑵　学費の納入を怠り，督促してもなお納入しない者

⑶　第22条第２項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

（留　学）

第25条　本学が定める他の大学又は短期大学で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

２　前項の許可を得て留学した期間は，第９条及び第10条の定める修業年限及び在学年限に含めることができる。

留学に関する取扱いは，別に定める。

第８章　教育課程及び履修方法等

（授業科目）

第26条　各学部の教育課程は，〔別表１〕のとおりとする。

２　授業科目は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

３　本学は，文部科学大臣が別に定めるところにより，前項の授業を，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

４　本学は，第２項の授業を，外国において履修させることができる。前項の規定により，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても，同様とする。

（単位計算方法）

第27条　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の基準により計算するものとする。

⑴　講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験，実習，実技については，30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。ただし，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　第１号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は，前２号に規定する基準を考慮して本学が定める。

２　前項の規定にかかわらず，卒業研究等の学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる授業科目については，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

（学習の評価）

第28条　学習評価は，原則として各科目につき試験により行う。

２　学習の評価は100点法とし，60点以上を合格とする。また，秀，優，良，可等の評語をもって表わす。

（成績評価基準等の明示等）

第28条の２　本学は，学生に対して，授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

２　本学は，学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては，客観性及び厳格性を確保するため，学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに，当該基準にしたがって適切に行う。

（単位の授与）

第29条　授業科目を履修し，合格した者には，所定の単位を与える。

２　第26条第３項の授業の方法により修得することができる単位は60単位を超えないものとする。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修）

第30条　本学は，教育上有益と認めるときは，学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

２　前項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。

３　前２項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

第30条の２　外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を，第30条第１項及び第２項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

２　前項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（大学以外の教育施設等における学修）

第31条　本学は，教育上有益と認めるときは，他の短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修，その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし，第30条第１項及び第２項並びに前条第１項により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えない範囲で，単位を認定することができる。

２　前項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（入学前の既修得単位等の認定）

第32条　本学は，教育上有益と認めるときは，学生が本学入学以前に大学又は短期大学において修得した単位，及び短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修，その他文部科学大臣が別に定める学修については，本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2　前項により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，編入学・転入学の場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，第30条第１項及び第２項，第30条の２第１項並びに前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3　前２項の規定は，学生が外国の大学又は短期大学で修得した単位の場合にも準用する。

4　前３項の実施に関して必要な事項については，別に定める。

（教育職員免許状の授与の所要資格取得）

第33条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める科目，及び〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

2　本学の学部の学科において，当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は次の表のとおりとする。

学　　部	学　　科　　等	教　員　の　免　許　状　の　種　類
学芸学部	音楽学科 演奏専攻	中学校教諭一種免許状　（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	音楽学科 音楽文化専攻	中学校教諭一種免許状　（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
	メディア創造学科	高等学校教諭一種免許状（情報）
現代社会学部	社会システム学科	中学校教諭一種免許状　（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（公民）
	現代こども学科	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状
表象文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状　（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状　（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状　（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 食物科学専攻	中学校教諭一種免許状　（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	栄養教諭一種免許状

（学校図書館司書教諭の資格取得）

第33条の２　司書教諭の資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める小学校，中学校若しくは高等学校の教諭の教育職員免許状授与の所要資格を取得するために必要な単位を修得するとともに，〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（司書の所要資格取得）

第33条の３　司書の所要資格を取得しようとする者は，図書館法及び図書館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（博物館学芸員の資格取得）

第33条の４　博物館学芸員の資格を取得しようとする者は，博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

（栄養士免許状の授与の所要資格及び管理栄養士国家試験受験資格の取得）

第34条　栄養士の免許授与の所要資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，栄養士法及び栄養士法施行規則に定める科目の単位を修得しなければならない。

2　管理栄養士国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得）

第35条　食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単

位を修得しなければならない。

（保育士の資格取得）

第35条の２　保育士の資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお，保育士養成課程の履修については別に定める。

（看護師国家試験受験資格取得）

第35条の３　看護師国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表１〕に定める科目の単位を修得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格取得）

第35条の４　保健師国家試験受験資格を取得しようとする者は，第36条の規定によるほか，〔別表２〕に定める科目の単位を修得しなければならない。なお，保健師国家試験受験資格を取得するために必要な事項は，別に定める。

第９章　卒業及び学位

（卒業の要件）

第36条　本学学芸学部，現代社会学部，看護学部，表象文化学部，生活科学部を卒業するためには，４年以上在学し，〔別表１〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。

２　本学薬学部を卒業するためには６年以上在学し，〔別表１〕の教育課程及び履修方法に従って授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。なお，進級制限に関する基準は別に定める。

３　他学部，他学科，他専攻科目及び他の大学又は短期大学との単位互換により修得した科目の単位は，卒業必要単位に算入することができる。必要な事項については，別に定める。

（学位の授与）

第37条　本学を卒業した者には，次の区分により，学士の学位を授与する。

学　　部	学　科　等	学　　位
学芸学部	音楽学科演奏専攻	学士（音楽）
	音楽学科音楽文化専攻	学士（音楽）
	メディア創造学科	学士（メディア創造）
	国際教養学科	学士（国際教養学）
現代社会学部	社会システム学科	学士（社会システム）
	現代こども学科	学士（現代社会）
薬学部	医療薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
表象文化学部	英語英文学科	学士（文学）
	日本語日本文学科	学士（文学）
生活科学部	人間生活学科	学士（生活科学）
	食物栄養科学科　食物科学専攻	学士（生活科学）
	食物栄養科学科　管理栄養士専攻	学士（生活科学）

第10章　教職員組織

（教職員組織）

第38条　本学に学長を置く。

２　学長は校務をつかさどり，所属教職員を統督する。

第38条の２　本学に学部長を置く。

２　学部長は学部に関する校務をつかさどる。

第38条の３　本学に教授，准教授，講師，助教及び助手を置く。

第38条の４　本学にその事務を遂行するため職員を置く。

第38条の５　本学は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため，教職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

（教員の職務）

第39条　教授，准教授，講師及び助教は，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する。

２　教授，准教授，専任講師，助教は，授業科目の選択等に関し，アドバイザーとして学生の指導に当たるほか，課外活動の各分野に対し指導助言の責任を分担する。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第39条の２　本学は，授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

第11章　教授会及び評議会

（教授会）
第40条　本学に教授会を置く。
２　教授会は教授をもって構成する。ただし，必要に応じて准教授，専任講師及び助教を加えることができる。
３　教授会は次に定める事項について審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
⑴　学生の入学及び卒業に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
４　教授会は前項に規定するもののほか，学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し，及び学長の求めに応じ，意見を述べることができる。
（評議会）
第41条　本学に評議会を置く。
２　評議会は次の各号に掲げる評議員をもって構成する。
⑴　学長
⑵　部長，研究科長，学科主任
⑶　教授会から選出された教授６名（各学部１名）
３　評議会は学長の諮問に応じて次の事項を審議する。
⑴　重要な制度及び規則の制定改廃に関する事項
⑵　予算に関する事項
⑶　重要な施設の設置廃止に関する事項
⑷　人事に関する事項
⑸　各学部その他の連絡調整に関する事項
⑹　その他，大学の運営に関する重要事項

第12章　名誉教授

（名誉教授）
第42条　本学において多年勤務し，教育上又は学術上功績のあった者には名誉教授の称号を授与することができる。
名誉教授に関する規程は，別に定める。

第13章　賞　罰

（表　彰）
第43条　本学の学生として表彰に価する行為があった者は，教授会の議を経て，学長が表彰することができる。
（懲　戒）
第44条　本学の規則に違反し，又は学生としての本分に反する行為をした者は，教授会の議を経て学長が懲戒する。
２　前項の懲戒の種類は，退学，停学及び訓告とする。
３　前項の退学は，次の各号の一に該当する者に対して行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学力が極めて劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当な理由がなくて出席が常でない者
⑷　本学の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者

第14章　科目等履修生・聴講生及び外国人留学生

（科目等履修生）
第45条　本学学生以外の者で，１又は複数の授業科目を履修することを志願する者に対しては，本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上，科目開設学部の学部長，教務部長の承認を経て科目等履修生として学長が履修を許可することができる。
２　科目等履修生には，合格した科目については当該科目の単位を授与する。

3　科目等履修生に関し必要な事項は，別に定める。

（聴講生）

第46条　本学学生以外の者で，１又は複数の授業科目を聴講することを志願する者に対しては，本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上，科目開設学部の学部長，教務部長の承認を経て学長が聴講を許可することができる。

2　聴講生に関し必要な事項は，別に定める。

（外国人留学生）

第47条　外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者に対しては，選考の上，教授会の議を経て学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2　外国人留学生に関し必要な事項は，別に定める。

第15章　学費及び入学検定料

（学費の納入）

第48条　学生は，〔別表３〕に定める学費を指定期日までに納入しなければならない。ただし，別に定めるところにより分納することができる。

2　休学期間中は，休学在籍料のみを納入するものとする。

3　既に納入した学費は返還しない。ただし，指定期日までに入学手続の取消を願い出た者については，入学金を除く学費を返還することがある。

（学費の延納）

第49条　正当な事由により，学費を延納しなければならなくなった場合は，直ちにその旨を届け出て許可を得なければならない。

（学費の完納）

第50条　所定の学費を完納しなければ，卒業することができない。

（退学・停学の場合の学費）

第51条　学期の中途で退学する者の当該学期分の学費は全額徴収する。

2　停学期間中の学費は全額徴収する。

（入学検定料）

第52条　本学の入学検定料は，〔別表４〕のとおりとする。

第16章　附属施設

（研究教育施設）

第53条　本学は，図書館等必要な研究教育施設を置く。

2　各研究教育施設の規則は，別に定める。

（学　寮）

第54条　本学に学寮を置く。

2　学寮に関する規則は，別に定める。

（厚生施設）

第55条　本学は，保健室等必要な厚生施設を置く。

第17章　公開講座

（公開講座）

第56条　学生及び社会人の教養を高め，文化の向上に資するため，本学に公開講座を開設することができる。

附　　則

本学則は2002（平成14）年４月１日からこれを適用する。

本学学芸学部英文学科は，改正後の学則第４条の規定にかかわらず1994（平成６）年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

本学家政学部家政学科，食物学科食物学専攻及び食物学科管理栄養士専攻は，改正後の学則第４条の規定にかかわらず1995（平成７）年3月31日に当該学部等に在学する者が当該学部等に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１―2〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2000（平成12）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１―２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

第４条の規定にかかわらず，1992（平成４）年度から1999（平成11）年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学　　部	学　科　等	入学定員 （1992（平成４）年度～ 1997（平成９）年度）	入学定員 （1998（平成10）年度～ 1999（平成11）年度）
学芸学部	英語英文学科	300名	300名
	日本語日本文学科	150	150
	音楽学科演奏専攻	85	85
	音楽学科音楽文化専攻	45	45
生活科学部	人間生活学科	100	100
	食物栄養科学科食物科学専攻	90	70
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	60	80
計		830	830

第４条の規定にかかわらず，2000（平成12）年度から2004（平成16）年度までの間の入学定員は，次のとおりとする。

学　　部	学　科　等	入　学　定　員				
		2000 （平成12）年度	2001 （平成13）年度	2002 （平成14）年度	2003 （平成15）年度	2004 （平成16）年度
学芸学部	英語英文学科	295名	290名	210名	205名	200名
	日本語日本文学科	187	184	136	133	130
	音楽学科演奏専攻	89	85	82	78	75
	音楽学科音楽文化専攻	46	45	43	42	40
現代社会学部	社会システム学科	400	400	400	400	400
生活科学部	人間生活学科	96	92	88	84	80
	食物栄養科学科食物科学専攻	67	64	61	58	55
	食物栄養科学科管理栄養士専攻	80	80	80	80	80

第７条第１項の規定にかかわらず，2002（平成14）年度については，次のとおりとする。

春学期　４月１日から９月29日まで

秋学期　９月30日から翌年３月31日まで

附　　則

本学則は2003（平成15）年４月１日からこれを適用する。

第７条第１項の規定にかかわらず，2003（平成15）年度については，次のとおりとする。

春学期　４月１日から９月28日まで

秋学期　９月29日から翌年３月31日まで

〔別表１〕の規定にかかわらず，生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻に2001（平成13）年度以前に入学した学生の教育課程及び履修方法は，従前の学則によるものとする。

2003（平成15）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。ただし，休学在籍料については，2003（平成15）年度以降在学の学生に適用する。

附　　則

本学則は2004（平成16）年４月１日からこれを適用する。

2004（平成16）年３月31日において，本学に在籍する者の学習の評価に関しては，改正後の学則第28条第２項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2005（平成17）年４月１日からこれを適用する。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第1項のほか，従前の学則によるものとする。

2005（平成17）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第1項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2006（平成18）年４月１日からこれを適用する。

2006（平成18）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2006（平成18）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2007（平成19）年４月１日からこれを適用する。

2007（平成19）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

2007（平成19）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2008（平成20）年４月１日からこれを適用する。

2008（平成20）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2009（平成21）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2009（平成21）年度入学生から適用し，2008（平成20）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2010（平成22）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2010（平成22）年度入学生から適用し，2009（平成21）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2011（平成23）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2011（平成23）年度入学生から適用し，2010（平成22）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2012（平成24）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2012（平成24）年度入学生から適用し，2011（平成23）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2013（平成25）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2013（平成25）年度入学生から適用し，2012（平成24）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2014（平成26）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2014（平成26）年度入学生から適用し，2013（平成25）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2015（平成27）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2015（平成27）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2016（平成28）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2016（平成28）年度入学生から適用する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2017（平成29）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2017（平成29）年度入学生から適用し，2016（平成28）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2018（平成30）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2018（平成30）年度入学生から適用し，2017（平成29）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

第４条第２項，第33条第２項及び第37条は，学芸学部情報メディア学科の学芸学部メディア創造学科への名称変更により改正・施行する。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教育課程の取扱いに関しては，改正後の学則第26条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

2015（平成27）年３月31日において，本学に在籍する者の教員の免許状授与の所要資格取得の取扱いに関しては，改正後の学則第33条第１項のほか，〔別表１－２〕に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2019（平成31）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2019（平成31）年度入学生から適用し，2018（平成30）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

2019（平成31）年３月31日において，本学に在籍する者の学費の取扱いに関しては，改正後の学則第48条第１項の規定にかかわらず，従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2020（令和２）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2020（令和２）年度入学生から適用し，2019（令和元）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2020（令和２）年９月１日からこれを適用する。

2018（平成30）年度及び2019（令和元）年度入学生のうち，2020（令和２）年度において，別に定める国際教養留学の前提条件を満たす者の教育課程の取扱いに関しては，学則第26条第１項のほか，[別表１－３] に規定する授業科目及び従前の学則によるものとする。

附　　則

本学則は2021（令和３）年４月１日からこれを適用する。

学則第26条第１項及び第33条第１項に定める教育課程の取扱いについては，2021（令和３）年度入学生から適用し，2020（令和２）年度以前の入学生は，別に定めるもののほか従前の学則によるものとする。

1949（昭和24）年２月21日　文部省認可

同志社女子大学学位規則

（目　的）

第１条　この規則は，学校教育法第104条及び学位規則（昭和28年文部省令第９号）の定めるところにより同志社女子大学（以下「本学」という。）が，授与する学位についての必要事項を定めるものとする。

（学　位）

第２条　本学において授与する学位は学士，修士及び博士とする。学士の学位は次の区分による。

学士の学位……学士（音楽，メディア創造，国際教養学，社会システム，現代社会，薬学，看護学，文学，生活科学）

２　前項に定める修士及び博士の学位は，次の区分による。

修士の学位……修士（英語英文学，日本語日本文化，情報文化，国際社会システム，看護学，生活デザイン，食物栄養科学）

博士の学位……博士（英語英文学，日本語日本文化，薬学，看護学）

（学位授与の要件）

第３条　学士の学位は本学学部を卒業した者に授与する。

第４条　修士の学位は本大学院の修士課程又は博士課程（前期）を修了した者に授与する。

第５条　博士の学位は本大学院の博士課程（後期）及び博士課程を修了した者に授与する。

２　本大学院学則第14条第２項の定めるところにより，博士の学位は前項に規定する者のほか，本学に博士論文を提出してその審査に合格し，かつ本大学院の博士課程（後期）及び博士課程修了者と同等以上の学力があると認められたときは授与することができる。

（学位論文の提出）

第６条　修士又は博士論文（以下「学位論文」という）を提出しようとする者は，学位論文の研究課題を各研究科によって定められた期日までに所定の様式により研究科長に提出し，その承認を得なければならない。

２　所定の学費が未納の場合は，学位論文を提出することができない。

３　修士論文は，在学中に提出しなければならない。

４　博士論文は，退学後も提出できるものとする。

第７条　学位論文は，各研究科所定の用紙を用い，学年暦に示された期日までに研究科長に提出しなければならない。ただし，第５条第２項による博士論文提出者はこの限りではない。

２　学位論文は３部提出し，それぞれに要旨及び提出者の写真を添付しなければならない。

３　第５条第２項により博士の学位を申請する者は，学位申請書に博士論文３部，博士論文の要旨，参考文献，履歴書と別表に定める審査手数料を添えて審査にあたる研究科委員会を通じて学長に提出するものとする。

４　本大学院学則第11条第３項，第４項に定める期間以上（前期２年の課程又は修士課程を含む）本大学院に在学し所定の単位を修め，必要な研究指導をうけた上で退学した者が博士の学位を申請した場合は前項の規定による。

（学位論文の審査及び最終試験）

第８条　修士論文の審査及び最終試験は在学中に終了するものとする。

２　博士論文の審査は，論文を受理してから原則として１年以内に終了するものとする。

第９条　学位論文の審査は，研究科委員会の定める審査委員会がこれを行う。

２　審査委員会は，修士論文審査の場合は主査１名及び副査１名をもって構成する。

３　審査委員会は，博士論文審査の場合は主査１名及び副査２名をもって構成する。

４　研究科委員会は，審査のため必要と認めたときは，当該研究科教員以外の教員又は学外の大学院・研究所等の教員等を審査委員とすることができる。

第10条　審査委員会は学位論文審査及び最終試験を行う。

２　修士の学位の授与に係る最終試験は修士論文を中心とし，これに関連する科目について行う。この試験は口頭試問とする。ただし筆答試験を併せ行うことができる。

３　博士の学位の授与に係る最終試験は博士論文を中心とし，これに関連する科目［外国語（英，仏，独，又は羅）を含めることができる］について行う。

第11条　研究科委員会は，審査委員の報告に基づき，本大学院学則の定めるところにより課程修了の可否，学位論文及び最終試験の合否について議決する。

2　前項の議決は，研究科教授の3分の2以上の出席を必要とし，出席者の4分の3以上の賛成がなければならない。

第12条　研究科委員会が前条の議決をしたときは，研究科長は，学位論文の内容，最終試験の結果，学位授与の可否についての意見を添えて，学長に報告しなければならない。

（学位論文の審査の協力）

第13条　前条の学位の授与に係る学位論文の審査に当っては，他の大学院又は、研究所等の教員の協力を得ることができる。

（学位授与の決定）

第14条　修士又は博士の学位の授与については，学長は，第12条の報告に基づいて大学院委員会を招集し，その審議を経て可否を決定する。

2　学士の学位の授与については，学長は，教授会の議を経て可否を決定する。

（学位授与式）

第15条　学位授与の時期は3月と9月とする。

（博士論文要旨等の公表）

第16条　本学は，博士の学位を授与したときは，当該博士の学位を授与した日から3月以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を，インターネットの利用により公表するものとする。

（博士論文の公表）

第17条　博士の学位を授与された者は，当該博士の学位を授与された日から1年以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の全文を，インターネットの利用により公表するものとする。ただし，当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは，この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむを得ない事由がある場合には，大学院委員会の承認を受けて，当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において，本学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　博士の学位を授与された者が行う前条及び前2項の規定によるインターネットの利用による公表は，同志社女子大学学術リポジトリにより行うものとする。

（博士論文の報告）

第18条　博士の学位を授与したときは，学位を授与した日から3月以内に別記様式により文部科学大臣に報告するものとする。

（学位論文の保管）

第19条　審査に合格した学位論文は，本大学院において製本・保管する。

2　これにかかる費用は，学位論文提出者において負担する。

（学位の取消）

第20条　不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは，既に授与した学位を取消すものとする。

学位の授与を受けた者が，その名誉を汚辱する行為があったときは，その学位を取消すことができる。

（その他）

第21条　この規則以外のことは，各研究科の定めるところによる。

附　　則

本規則は，2004（平成16）年4月1日からこれを適用する。

修士・博士の学位……修士（英文学）・博士（英文学）は改正後の学位規則第2条第2項の規定にかかわらず1998（平成10）年3月31日文学研究科英文学専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

学士の学位……学士（家政学）は改正後の学位規則第2条第1項の規定にかかわらず1995（平成7）年3月31日家政学部に在学する者が当該学部に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

附　　則

本規則は，2005（平成17）年4月1日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2007（平成19）年4月1日からこれを適用する。

第6条に関する取扱いに関しては，2007年度第1年次入学生から適用し，2006年度以前の入学生については，従前の学位規則による。

附　　則

本規則は，2008（平成20）年4月1日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2009（平成21）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2012（平成24）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2013（平成25）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2015（平成27）年４月１日からこれを適用する。

附　　則

本規則は，2018（平成30）年４月１日からこれを適用する。

学士の学位……学士（情報メディア）は改正後の学位規則第２条第１項の規定にかかわらず2018（平成30）年３月31日学芸学部情報メディア学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

附　　則

本規則は，2020（令和２）年４月１日からこれを適用する。

〈別　表〉博士の学位審査手数料

１．博士課程(後期)に３年以上在学又は博士課程に４年以上在学し，所定の研究指導を受けた者で退学後３年未満の期間内に博士論文を提出する者 …… 25,000円

１．博士課程(後期)に３年以上在学又は博士課程に４年以上在学し，所定の研究指導を受けた者で退学後３年以上経過した後博士論文を提出する者 …… 50,000円

１．論文提出による者 …… 50,000円

博士課程（後期）又は博士課程在籍者及び在籍中に博士論文を提出し退学した者は審査料不要

その他

同志社女子大学組織

- 学長
  - 大学院
    - 文学研究科
      - 英語英文学専攻（博士課程（前期）・博士課程（後期））
      - 日本語日本文化専攻（博士課程（前期）・博士課程（後期））
      - 情報文化専攻（修士課程）
    - 国際社会システム研究科
      - 国際社会システム専攻（修士課程）
    - 薬学研究科
      - 医療薬学専攻（博士課程）
    - 看護学研究科
      - 看護学専攻（博士課程（前期）・博士課程（後期））
    - 生活科学研究科
      - 生活デザイン専攻（修士課程）
      - 食物栄養科学専攻（修士課程）
  - 専攻科
    - 音楽専攻科
      - 声楽専攻
      - 鍵盤楽器専攻
      - 管弦打楽器専攻
  - 大学
    - 学芸学部
      - 音楽学科
        - 演奏専攻
        - 音楽文化専攻
      - メディア創造学科／情報メディア学科
      - 国際教養学科
    - 現代社会学部
      - 社会システム学科
      - 現代こども学科
    - 薬学部
      - 医療薬学科
    - 看護学部
      - 看護学科
    - 表象文化学部
      - 英語英文学科
      - 日本語日本文学科
    - 生活科学部
      - 人間生活学科
      - 食物栄養科学科
        - 食物科学専攻
        - 管理栄養士専攻

同志社女子大学事務機構

- 宗教部
  - 事務室（京田辺・今出川）
  - ボランティア活動支援センター
- 教務部
  - 教務課
    - 教務係（京田辺・今出川）
  - 免許・資格課
    - 免許・資格係（京田辺・今出川）
  - 教職課程センター
  - 教育開発支援センター
- 学生支援部
  - 学生支援課
    - 学生支援係（京田辺・今出川）
  - 障がい学生サポートセンター
- キャリア支援部
  - キャリア支援課
    - キャリア支援係（京田辺・今出川）
- 企画部
  - 企画課
    - 企画係（京田辺・今出川）
- 広報部 ― 広報室
  - 入学課
    - 入学係（京田辺・今出川）
  - 高大連携課
    - 高大連携係（京田辺・今出川）
  - 広報課
    - 広報係（京田辺・今出川）
- 総務部
  - 総務課
    - 総務係（京田辺・今出川）
    - 社会連携係（京田辺・今出川）
- 経理部
  - 経理課
    - 経理係（京田辺・今出川）
  - 施設課
    - 施設・調度係（京田辺・今出川）
  - ネットワークインフラ課
    - ネットワークインフラ係（京田辺・今出川）
- 学術情報部
  - ライブラリーサービス課
    - ライブラリーサービス係（京田辺・今出川）
  - 学術研究支援課
    - 学術研究支援係（京田辺・今出川）
  - 総合文化研究所
  - 女性アクティベーションセンター
  - 史料センター
- 国際部
  - 国際課
    - 国際係（京田辺・今出川）
- 学芸学部・文学研究科事務室
  - 事務室（京田辺）
- 現代社会学部・国際社会システム研究科事務室
  - 事務室（京田辺）
- 薬学部・薬学研究科事務室
  - 事務室（京田辺）
  - 臨床薬学教育研究センター
- 看護学部・看護学研究科事務室
  - 事務室（京田辺）
- 表象文化学部・文学研究科事務室
  - 事務室（今出川）
- 生活科学部・生活科学研究科事務室
  - 事務室（今出川）

事　務　室　一　覧

場所					窓口受付時間
京田辺キャンパス	宗教部		新島記念講堂	1階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
	教務部	教務課	友和館	2階	
		体育事務室	恵真館	1階	
		免許・資格課	友和館	2階	
		教職課程センター	聡恵館	5階	
		教育開発支援センター	友和館	2階	
	学生支援部	学生支援課	友和館	1階	
		保健室※	友和館	1階	
		障がい学生サポートセンター	友和館	1階	
	キャリア支援部	キャリア支援課	知徳館8号棟	1階	
	企画部	企画課	知徳館1号棟	1階	
	広報部	入学課	知徳館2号棟	1階	
		高大連携課	知徳館2号棟	1階	
		広報課	知徳館2号棟	1階	
	総務部	総務課	知徳館1号棟	1階	
	経理部	経理課	知徳館5号棟	1階	
		施設課	知徳館5号棟	1階	
		ネットワークインフラ課	知徳館2号棟	3階	
	学術情報部	ライブラリーサービス課	聡恵館	1・2階	平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		図書館			
		音楽文献室			平日　8:50～19:00，土曜日は休務 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00）
		ＡＶライブラリー			
		学術研究支援課	知徳館5号棟	2階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
	国際部	国際課	聡恵館	2階	
	学部・研究科事務室	学芸学部　音楽学科	頌啓館	1階	
		学芸学部　メディア創造学科	知徳館1号棟	2階	
		学芸学部　国際教養学科	知徳館1号棟	2階	
		現代社会学部	知徳館1号棟	2階	
		薬学部	憩水館	1階	
		看護学部	蒼苑館	2階	
		文学研究科	知徳館1号棟	2階	
		国際社会システム研究科	知徳館1号棟	2階	
		薬学研究科	憩水館	1階	
		看護学研究科	蒼苑館	2階	
今出川キャンパス	宗教部		栄光館	1階	
	教務部	教務課	頌美館	2階	
		体育事務室	純正館	地下1階	
		免許・資格課	頌美館	2階	
		教職課程センター	楽真館	1階	
		教育開発支援センター	頌美館	2階	
	学生支援部	学生支援課	頌美館	1階	
		保健室※	心和館	1階	
		障がい学生サポートセンター	心和館	1階	
	キャリア支援部	キャリア支援課	頌美館	1階	
	企画部	企画課	心和館	1階	
	広報部	入学課	ジェームズ館	1階	
		高大連携課	ジェームズ館	1階	
		広報課	ジェームズ館	1階	
	総務部	総務課	栄光館	1階	
	経理部	経理課	心和館	1階	
		施設課	心和館	1階	
		ネットワークインフラ課	純正館	2階	
	学術情報部	ライブラリーサービス課	図書館		平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～17:00 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		図書館			
		AV ライブラリー			平日　8:50～20:00，土曜日　9:50～16:30 （授業・定期試験期間以外の平日は8:50～17:00，土曜日は閉館）
		学術研究支援課	デントン館	1階	平日　9:00～17:00 （休憩　11:30～12:30） 土曜日は休務
	国際部	国際課	楽真館	1階	
	学部・研究科事務室	表象文化学部	デントン館	1階	
		生活科学部	新心館	1階	
		文学研究科	デントン館	1階	
		生活科学研究科	新心館	1階	

注）休暇期間中や，特別の事情がある場合には時間が変更されることがありますので，注意してください。
土曜日は年間を通じて一部の事務室を除き休務となります。また，日曜日・国民の祝日のほか，創立記念日（11月29日），クリスマス（12月25日）も休務となります。

同志社女子大学 京田辺キャンパス

友和館（ゆうわかん）……Y
創立125周年記念事業の一環として建設。地上4階、地下1階建の建物で、大時計を備えた尖塔を有します。ゆったりとした格調高いラウンジ、眺望の良い食堂、多目的スペース、課外活動のための諸施設、キャンパスストア、ブックストア、事務室等があります。

知徳館（ちとくかん）……C
キャンパスの中央に位置する、4階建7棟続きの本学でもっとも大きな建物。講義、演習室を中心に、研究室、ラウンジ、事務室等があります。

頌啓館（しょうけいかん）……K
4階建の音楽棟。34室のレッスン室、55室の練習室をはじめ演習室、分奏室、アンサンブル室などがあります。東京のサントリーホールを手がけた建築事務所の設計によるホールでは、素晴らしい音響効果のなか、演奏会等が行われています。

聡恵館（そうけいかん）……T
1階と2階は東館と西館がつながった形の図書館とラーニング・コモンズ、国際交流施設。学生の能動的学修の拠点。東館2～4階が講義室・事務室、5階は研究室・ラウンジ、6階は研究室・演習室が配置されています。西館の3階・4階は講義室および演習室がならび、5階には教職課程センターや演習室、実習室があります。

恵愛館（けいあいかん）……A
ウインクルムの庭中央に位置し、緑に囲まれ、多様な家具が配置された風格ある食堂。

恵真館（体育館）（けいしんかん）……G
3階建、一部地下式の体育館。メインアリーナを中心に卓球室、格技ダンス室、トレーニング室、測定室、リハビリテーション室等があります。また、体育系・文化系のクラブボックスも設けられています。

新島記念講堂（にいじまきねんこうどう）……M
同志社創立111周年寄付により1988年秋に建設された、法人全体の共通施設。カリヨンベルを備えた尖塔には十字架がそびえ、象徴的な建物となっています。内部には、パイプオルガンが設置された約900名収容の大ホール、小礼拝堂、瞑想室、宗教部事務室等があり、毎日の礼拝をはじめ各種行事が催されます。

◉アルファベットは各館の略号を表します。

AED設置場所（2箇所）

憩水館（けいすいかん）……W
薬学部の実験実習棟。地上6階、地下1階建の建物で、地階には動物実験室、共同機器室、地上階には実習室、研究室を中心にラウンジ、事務室等があります。

オリーブ館……V
薬用植物園管理棟

蒼苑館（そうえんかん）……H
5階建の看護学部棟。基礎看護学、成人看護学、ウイメンズヘルス・小児・精神看護学、高齢者・在宅・公衆衛生看護学の各実習室を設置し、医療現場での臨地実習と直結した学びが可能となります。また、ラーニングラウンジなども設け、ゆとりを持った学修が可能です。さらには、看護学部と既設の薬学部との連携を視野に入れて、薬学部関連の設備や、看護学部と薬学部との教育・研究の連携促進のための共同研究室なども設置しています。

京田辺別館（きょうたなべべっかん）……P
教職課程ピアノ練習室・工作室が配置されています。

京田辺北別館（きょうたなべきたべっかん）……Q
メディア創造学科のプロジェクトルーム・工作室が配置されています。

京田辺 きょうたなべ キャンパス

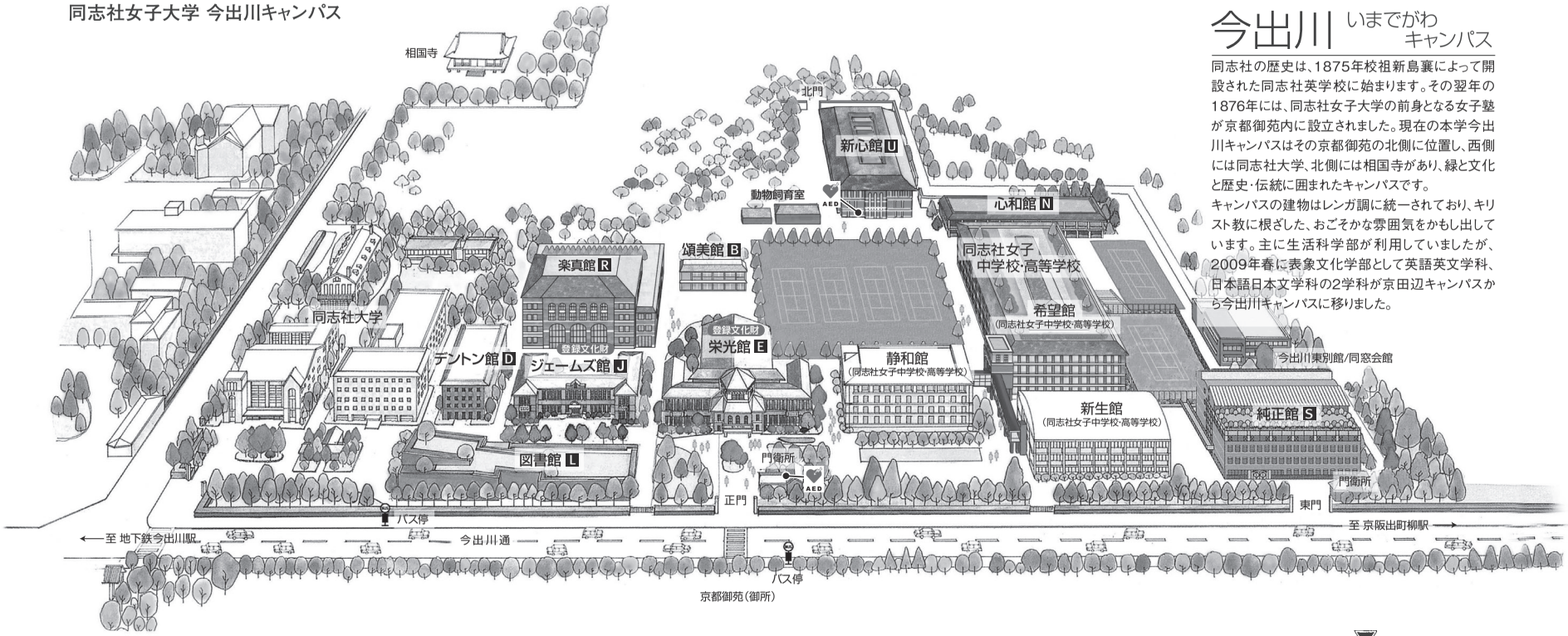
京田辺キャンパスは、京都・大阪・奈良の中間点に位置する関西文化学術研究都市の北端に広大な敷地（約13万㎡）を構えています。
このキャンパスは、歴史と伝統に培われた風格のある今出川キャンパスの継承と自然環境の保全に留意し、1986年、豊かな緑に囲まれた小高い丘陵地に開設されました。
西側には同志社大学、南側には同志社国際中学校・高等学校が隣接し、これらの敷地を合わせると100万㎡にも及びます。共に最新の研究設備や施設を備え、関西文化学術研究都市にふさわしい壮大な未来型のキャンパスを形成しています。

DWCLA
Doshisha Women's College of Liberal Arts

KYOTANABE CAMPUS
GUIDE MAP

（2020年4月現在）

同志社女子大学 今出川キャンパス



今出川 いまでがわ キャンパス

同志社の歴史は、1875年校祖新島襄によって開設された同志社英学校に始まります。その翌年の1876年には、同志社女子大学の前身となる女子塾が京都御苑内に設立されました。現在の本学今出川キャンパスはその京都御苑の北側に位置し、西側には同志社大学、北側には相国寺があり、緑と文化と歴史・伝統に囲まれたキャンパスです。

キャンパスの建物はレンガ調に統一されており、キリスト教に根ざした、おごそかな雰囲気をかもし出しています。主に生活科学部が利用していましたが、2009年春に表象文化学部として英語英文学科、日本語日本文学科の2学科が京田辺キャンパスから今出川キャンパスに移りました。

栄光館(えいこうかん) 登録文化財 …… E

1932年(昭和7年)デントン先生と知友のファウラー家の寄付を基金に同窓会の醵金、同志社の三者によって建てられた本学の象徴的な建物。著名な建築家、武田五一の設計。約1,600人収容できるファウラーチャペル(講堂)、瞑想室、事務室等があり、講堂には カナダ・カサバン社製のパイプオルガンが設置されています。毎日の礼拝をはじめ、入学式、卒業式、創立記念行事、キャンドルライトサービス等が行われます。

ジェームズ館 登録文化財 …… J

1914年(大正3年)デントン先生の知人であるジェームズ家の財政的援助をうけて建てられたレンガ造2階建の本学で最も古い建物。栄光館同様、武田五一の設計。事務室や講義演習室が配置されており、在学生のラウンジ等も備えるコミュニティセンターとなっています。

図書館(としょかん) …… L

わが国でも珍しい地下式図書館。屋上には芝生が一面に張り巡らされていて、キャンパス全体の景観を損なわないよう配慮されています。座席数180席、蔵書数約19万3千冊を有します。

デントン館 …… D

永年にわたり本学に多大なる貢献をされたメアリー・フローレンス・デントン先生を記念し、デントン先生と友好関係にあったジェームズ財団の援助をうけ建設された建物。表象文化学部関連の施設、事務室等があります。

楽真館(らくしんかん) …… R

4階建、地下1階の建物。ラーニング・コモンズ、国際交流関連の施設に加えて、講義室、演習室、人間生活学科関連の施設、事務室等が設けられており、学生の能動的な学修の拠点となっています。

頌美館(しょうびかん) …… B

2階建、地下1階の建物。事務棟として機能しています。

純正館(じゅんせいかん) …… S

南側に地上5階、地下1階建の教室棟(講義室、情報処理室、演習室、事務室等)、北側に地下通路でつながる半地下の多目的施設(アリーナ、ホール、トレーニングルーム等)が配置され、最上階には屋上庭園やアカデミックラウンジ、パソコンカフェを設置しています。

心和館(しんわかん) …… N

2階建、地下1階の建物。地階に食堂、キャンパスストア、地上階にラウンジ、課外活動関連施設、保健室、事務室等があります。

新心館(しんしんかん) …… U

3階建、地下1階の建物。食物栄養科学科関連の施設が配置されています。

◉アルファベットは各館の略号を表します。

AED設置場所(2箇所)

DWCLA

Doshisha Women's College of Liberal Arts

IMADEGAWA CAMPUS

GUIDE MAP

(2021年4月現在)

交通機関不通・気象警報等発令による全学一斉休講について

◎交通機関不通による休講

対象となる交通機関（イ）が，（ロ）の状況の場合は，（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる交通機関	（ロ）状況
・近鉄電車（京都～奈良間，西大寺～難波間） ・阪急電車（河原町～梅田間） ・京阪電車（出町柳～淀屋橋間） ・ＪＲ東海道線（米原～神戸間） ・ＪＲ学研都市線（京橋～木津間）	左記の２以上の交通機関が全面・部分を問わず同時に不通の場合。
・京都市営バス及び地下鉄 ・近鉄電車（京都～奈良間，西大寺～難波間）	左記の２系統の交通機関のどちらかが単独で全面不通の場合。

＊事故等による一時的な運転見合せは，２系統で重なっても平常通り授業・試験を実施します。

（ハ）

午前６時30分現在不通の場合	Ⅰ，Ⅱ講時休講　※１
午前６時30分以降に不通になった場合	不通になった時刻以降休講　※１

※１ただし，いずれの場合も，午前10時30分までに開通した場合は，Ⅲ講時以降授業を行います。

◎気象警報等発令による休講

対象となる気象警報等（イ）が，（ロ）に発令された場合は，（ハ）の通り休講となります。

（イ）対象となる警報	（ロ）発令地域
暴風警報（暴風を含む警報は，すべて対象とする。） 特別警報（すべてを対象とする。）※２	京都府南部 （「京都･亀岡」「山城中部」「山城南部」「南丹・京丹波」のいずれかに発令された場合を含む） 大阪府 （「大阪市」「北大阪」「東部大阪」「南河内」「泉州」のいずれかに発令された場合を含む）

※２特別警報には，気象（大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪）に関する特別警報と津波・火山・地震（地震動）に関する特別警報がありますが，これらすべてを対象とします。

（ハ）

午前６時30分現在発令中の場合	全日休講　※３
午前６時30分以降に発令の場合	発令時刻以降休講　※３

※３ただし，上記にかかわらず，午前９時30分以前に発令が解除された場合は，Ⅲ講時以降授業を行います。

◎特別警報が出た場合，該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。
該当地域にいる学生は，各自，直ちに命を守る行動をとってください。

◎その他の場合

授業を行うことが困難あるいは危険であると学長が判断した場合，休講とすることがあります。

◎定期試験期間中も上記の措置が適用されます。

なお，中止となった試験の振替実施日は，本学ホームページにて連絡します。

◎本ページに記載の事由により，全学一斉休講となる場合は「同志社女子大学教務課（緊急連絡用）Twitter」（アカウント名＠dwcla_kyomu）でお知らせします。

同志社女子大学
教務課
（緊急連絡用）
@dwcla_kyomu

学芸学部履修要項

2021年４月１日発行

発　行　同　志　社　女　子　大　学
京都府京田辺市興戸
京都市上京区今出川通寺町西入

編　集　同志社女子大学教務部

印　刷　大平印刷株式会社

DWCLA